浦添市文化財調査報告書　第33集

# 当山東原遺跡

## 市道48号線道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

２００３年　３月
沖縄県浦添市教育委員会



巻頭図版１　遺跡周辺空中写真



巻頭図版２　当山東原遺跡Ⅰ地区 全景（南東より）



巻頭図版３　当山東原遺跡Ⅱ-A 地区　全景（北西より）



巻頭図版４　当山東原遺跡Ⅱ−Ｂ地区　全景（南東より）

# 序

本報告書は市道路課から業務委託を受けて実施した市道48号線道路改良事業に伴う当山東原遺跡の緊急発掘調査の成果をまとめたものです。

当山東原遺跡は浦添グスクの北側崖下を通り字西原と字仲間を結ぶ市道48号線の道路改良工事に伴って発見されました。

平成９年から平成13年にかけて行われた３次にわたる発掘調査によって、旧道路の直下には14世紀から18世紀に至る遺物包含層の堆積が見られ、グスク時代から近世までの複合遺跡であることがわかりました。

遺跡からは、いくつもの掘立柱建物とそれらに伴う平地造成跡や溝、グスク時代の農耕関連の遺構と考えられるピット列遺構など、多くの遺構が検出されました。また、中国、日本、タイなどの東アジアの国々の陶磁器、鍍金飾金具、硯、灯明具、祭祀に用いたと考えられる華南彩釉陶などの多彩な遺物が出土しています。これらの遺構や多彩な出土品からは、地域有力者と思われる人々の生活の一端が窺えます。また、本遺跡は浦添グスクや浦添ようどれに接する位置にあり、グスクを中心とする周辺地域の理解に新しい知見が得られました。

今後、グスクをはじめ更なる調査により、歴史の事実が明らかとなっていくことを切に願います。

本報告書が文化財に対する認識と理解を深めるとともに、文化財保護思想の普及に寄与し、地域の歴史研究などの学術研究の一助として多方面に活用願えれば幸いに存じます。

最後に発掘調査及び資料整理にあたり、多大なるご指導、ご協力を頂きました関係各位に対して深く感謝申し上げます。

平成15年３月

浦添市教育委員会

教育長　大盛 永意

# 例　言

1．本書は、浦添市教育委員会が本市字当山の市道48号線道路改良事業に伴い、1997（平成９）、1998（平成10）、1999（平成11）、2001（平成13）年度に実施した当山東原遺跡の緊急発掘調査の成果を収録したものである。

2．発掘調査は、浦添市役所建設部道路課からの委託を受け、浦添市教育委員会文化課が実施した。要する経費は、国庫補助を受けた。

3．現地調査はⅠ地区（平成９年11月３日～平成11年１月29日）、Ⅱ-A地区（平成11年６月22日～平成11年10月22日）、Ⅱ-B地区（平成13年９月２日～平成14年１月31日）の期間で順次、実施した。調査と並行して遺物整理を行い、平成15年３月本書の刊行をもって調査を完了した。

4．本書の編集にあたっては、各地区毎に本文、遺跡および遺構の実測図・表などを記した。出土遺物の掲載にあたっては種別に大分類し、出土地区名、グリッド名、層名を付与したうえで一括して掲載することとした。

5．発掘調査及び整理作業にあたり多くの方々からご助言・ご教示を賜った。記して感謝申し上げます。（五十音順）

網　伸也（京都市埋蔵文化財研究所）　家田 淳一（佐賀県立九州陶磁文化館）　大澤 正己（株式会社九州テクノリサーチ・TACセンター）　大城 逸朗（県立石川高校）　金武 正紀（那覇市教育委員会）　島　弘（那覇市教育委員会）　嶋谷 和彦（大阪府堺市立埋蔵文化財センター）　白木原 和美（熊本大学文学部名誉教授）　手塚 直樹（鎌倉考古学研究所）　仲宗根 啓（那覇市教育委員会）　中野 益男（帯広畜産大学生物資源科学科）　向井 亙（金沢大学大学院）　力武 卓治（福岡市教育委員会）

6．骨類の同定については琉球大学農学部　川島 由次教授にお願いした。記して感謝申し上げます。

7．蛍光X線分析については福岡県埋蔵文化財センターのご厚意により、設備を使用させていただいた。調査結果についても下記の玉稿を頂いた。記して感謝申し上げます。

「当山東原遺跡出土資料の材質調査について」　比佐陽一郎（福岡市埋蔵文化財センター）

8．出土遺物のうち、理科学分析については、株式会社パリノ・サーヴェイと株式会社ズコーシャ・総合科学研究所の２社に委託した。これらの成果については附章に収録した。

「当山東原遺跡の自然科学分析(1)」　㈱パリノ・サーヴェイ
「当山東原遺跡の自然科学分析(2)」　㈱パリノ・サーヴェイ
「当山東原遺跡におけるピット列遺構の自然科学分析」　㈱パリノ・サーヴェイ

「当山東原遺跡から出土した遺構に残存する脂肪の分析」　㈱ズコーシャ・総合科学研究所
「当山東原遺跡出土銅釘と鉄滓の金属学的調査」　㈱パリノ・サーヴェイ

9．本書の執筆、編集は渡久地政嗣・國吉咲子で行った。

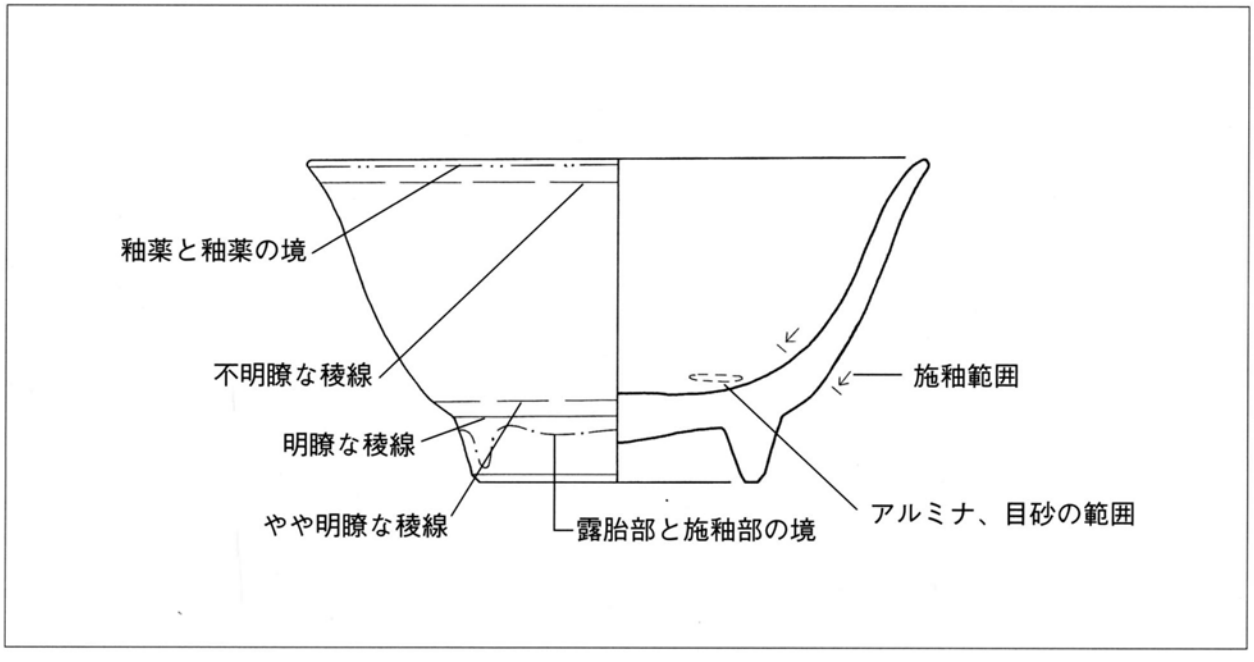
10．本調査に係わる写真、実測図など一切の調査記録は、浦添市教育委員会に保管される。

# 凡　例

・本書に表示した基準高はすべて海抜高を用い、メートル単位で表した。
・遺構平面図に記した方位針は座標北を示す。
・遺構断面図を作成した位置については、遺構平面図に軸線で示した。
・遺構番号については、現地調査において遺構の種類に関係なく、検出順に番号を付与した。よって遺構別に序列したものではない。但し、建物、溝の両遺構については別に一連番号を付与した。
・出土遺構の長軸方向については、座標北からの最短角度で表す。
・出土遺物の注記は下記の通りに行った。

| | 遺跡名 | 発掘年 | グリッド名 | 層位 | 遺構名 |
|---|---|---|---|---|---|
| (例) | TA | 98 | か-16 | Ⅲ | 名 |

・掲載遺物は、原則として遺物の種別に応じて一連番号を付し、遺物番号とした。これに従い図版・実測図・観察表の番号は完全に一致する。
・遺物実測図の縮尺については、2分の1を基本とし、遺物の大きさに応じて3分の1から原寸大までを使い分けた。
・本書に掲載する遺物実測図の表現は、原則として下記の通りに統一した。




遺物実測図の表現

# 目　次


巻頭図版

序　　浦添市教育委員会　教育長　大盛 永意

例　　言

凡　　例

目　　次

**第Ⅰ章　調査の経過と方法** …… 1

**第Ⅱ章　位置と環境** …… 5

**第Ⅲ章　調査成果** …… 10

第1節　Ⅰ地区 …… 10

(1) 層　序 …… 10

(2) 遺　構 …… 13

第2節　Ⅱ-A地区 …… 38

(1) 層　序 …… 38

(2) 遺　構 …… 41

第3節　Ⅱ-B地区 …… 48

(1) 層　序 …… 48

(2) 遺　構 …… 51

**第Ⅳ章　出土遺物** …… 63

第1節　土器 …… 65

第2節　陶磁器 …… 65

(1)　青磁 …… 65

(2)　白磁 …… 78

(3)　青花 …… 82

(4)　褐釉陶器 …… 92

(5)　天目 …… 94

(6)　三彩 …… 95

(7)　翡翠釉 …… 95

(8)　瑠璃釉 …… 96

(9)　高麗青磁 …… 97

(10) タイ産陶器 …… 98

(11) タイ産半練 …… 100

(12) 本土産陶磁器 …… 102
(13) 類須恵器 …… 104
(14) 沖縄産施釉陶器 …… 104
(15) 沖縄産無釉陶器 …… 108
(16) 円盤状製品 …… 112
(17) 煙管 …… 114
(18) 土製品：(錘・洪武通寶土型) …… 116
(19) 瓦 …… 117

第3節 石製品 …… 117
(20) 硯 …… 117

第4節 金属製品 …… 119
(21) 青銅製品 …… 119
(22) 鍍金青銅製品 …… 119
(23) 銭貨 …… 122

第5節 自然遺物 …… 125
(24) 獣骨 …… 125

**第Ⅴ章 まとめ** …… 130

**附 章** 当山東原遺跡の自然科学分析結果について

報告書抄録

# 挿図目次


第１図　調査地区割図 …… 4
第２図　当山東原遺跡の位置 …… 5
第３図　遺跡の立地・周辺地形 …… 8
第４図　市内の遺跡分布図 …… 9
第５図　Ⅰ地区　層序 …… 11
第６図　Ⅰ地区　遺構全体図 …… 13
第７図　Ⅰ地区　遺構配置図(1) …… 14
第８図　Ⅰ地区　遺構配置図(2) …… 16
第９図　Ⅰ地区　遺構配置図(3) …… 18
第10図　建物１　平断面図 …… 19
第11図　建物２　平断面図 …… 20
第12図　平地造成跡　平面図 …… 21
第13図　平地造成跡　断面図 …… 22
第14図　平地造成跡　出土遺物(1) …… 22
第15図　平地造成跡　出土遺物(2) …… 23
第16図　建物３　平断面図 …… 23
第17図　土坑304　平断面図 …… 24
第18図　建物４　平断面図 …… 25
第19図　ピット348　出土遺物 …… 26
第20図　建物５　平断面図 …… 27
第21図　建物５　柱穴内出土遺物 …… 28
第22図　建物６　平断面図 …… 30
第23図　柱穴444　出土遺物 …… 29
第24図　土坑13　平断面図 …… 31
第25図　土坑318　平断面図 …… 31
第26図　土坑86・87・88　平断面図 …… 32
第27図　溝10　平断面図 …… 33
第28図　溝11　平断面図 …… 33
第29図　溝11　出土遺物 …… 33
第30図　溝２・３・４　平断面図 …… 34
第31図　溝２・３・４　出土遺物 …… 35
第32図　溝９　断面図 …… 36
第33図　耕具痕　平断面図 …… 37
第34図　Ⅱ-A 地区　遺構全体図 …… 38
第35図　Ⅱ-A 地区　層序 …… 39
第36図　ピット列遺構　平断面図 …… 42
第37図　土坑11　出土遺物 …… 43
第38図　建物７　平断面図 …… 44
第39図　溝15　平断面図 …… 44
第40図　溝12・13　平断面図 …… 45
第41図　溝16　平断面図 …… 46
第42図　耕具痕　断面図 …… 46
第43図　耕具痕　平面図 …… 47
第44図　Ⅱ-B 地区　遺構全体図 …… 48
第45図　Ⅱ-B 地区　層序 …… 49
第46図　建物８　平断面図 …… 51
第47図　柱穴531　出土遺物 …… 51
第48図　小ピット群　平断面図 …… 53
第49図　土坑532　平断面図 …… 52
第50図　土坑532　出土遺物 …… 52
第51図　土坑538　平断面図 …… 52
第52図　土坑538　出土遺物 …… 52
第53図　土坑539　平断面図 …… 54
第54図　土坑543　平断面図 …… 54
第55図　土坑549　平断面図 …… 54
第56図　土坑559　平断面図 …… 55
第57図　土坑569　平断面図 …… 55
第58図　土坑569　出土遺物 …… 55
第59図　溝17・18　平断面図 …… 56
第60図　溝19　平断面図 …… 57
第61図　溝20　平断面図 …… 57
第62図　土器 …… 65
第63図　青磁：碗 …… 72
第64図　青磁：碗・皿 …… 73
第65図　青磁：皿 …… 74
第66図　青磁：盤・杯・香炉・瓶・底部 …… 75
第67図　青磁：底部 …… 76
第68図　青磁：産地不明 …… 77
第69図　白磁：碗 …… 80
第70図　白磁：碗・鉢・皿・杯・蓋 …… 81
第71図　青花：碗 …… 87
第72図　青花：碗 …… 88

第73図　青花：碗底部 …… 89
第74図　青花：皿 …… 90
第75図　青花：皿・角皿・杯・小杯・蓋・合子（身）・馬上杯 …… 91
第76図　褐釉陶器：壷 …… 93
第77図　褐釉陶器：壷・擂鉢 …… 94
第78図　天目：茶碗 …… 95
第79図　三彩：水滴　翡翠釉：瓶 …… 96
第80図　瑠璃釉：杯・瓶 …… 97
第81図　高麗青磁 …… 97
第82図　タイ産陶器：鉄絵合子・壷 …… 99
第83図　タイ産半練：蓋・身 …… 101
第84図　本土産陶磁器：碗・皿・油壷・瓶 … 103
第85図　類須恵器 …… 104
第86図　沖縄産施釉陶器：碗 …… 106
第87図　沖縄産施釉陶器：小碗・鉢・皿 …… 107
第88図　沖縄産無釉陶器：瓶・小壷・水鉢・火入れ …… 109
第89図　沖縄産無釉陶器：擂鉢 …… 110
第90図　沖縄産無釉陶器：擂鉢 …… 111
第91図　円盤状製品 …… 113
第92図　煙管 …… 115
第93図　土製品：錘・洪武通寶土型 …… 116
第94図　瓦：高麗系・明朝系 …… 118
第95図　石製品：硯 …… 117
第96図　青銅製品：簪・指輪 …… 120
第97図　青銅製品：鋲・釘・用途不明・緒締鐶
鍍金青銅製品：切籠頭の鐶台・菊座
…… 121
第98図　銭貨(1) …… 123
第99図　銭貨(2) …… 124

## 挿表目次

第１表　ピット観察一覧(1) …… 58
第２表　ピット観察一覧(2) …… 59
第３表　ピット観察一覧(3) …… 60
第４表　ピット観察一覧(4) …… 61
第５表　ピット観察一覧(5) …… 62
第６表　Ⅰ地区　出土遺物一覧 …… 63
第７表　Ⅱ-A 地区　出土遺物一覧 …… 64
第８表　Ⅱ-B 地区　出土遺物一覧 …… 64
第９表　土器観察一覧 …… 65
第10表　青磁観察一覧(1) …… 68
第11表　青磁観察一覧(2) …… 69
第12表　青磁観察一覧(3) …… 70
第13表　青磁観察一覧(4) …… 71
第14表　白磁観察一覧(1) …… 78
第15表　白磁観察一覧(2) …… 79
第16表　青花観察一覧(1) …… 83
第17表　青花観察一覧(2) …… 84
第18表　青花観察一覧(3) …… 85
第19表　青花観察一覧(4) …… 86
第20表　褐釉陶器観察一覧 …… 92
第21表　天目観察一覧 …… 95
第22表　三彩・翡翠釉観察一覧 …… 96
第23表　瑠璃釉観察一覧 …… 97
第24表　タイ産陶器観察一覧 …… 98
第25表　タイ産半練観察一覧 …… 100
第26表　本土産陶磁器観察一覧 …… 102
第27表　沖縄産施釉陶器観察一覧(1) …… 104
第28表　沖縄産施釉陶器観察一覧(2) …… 105
第29表　沖縄産無釉陶器観察一覧 …… 108
第30表　円盤状製品計測一覧 …… 112
第31表　煙管観察一覧 …… 114
第32表　瓦計測一覧 …… 117
第33表　青銅製品計測一覧(1) …… 119
第34表　青銅製品計測一覧(2) …… 119
第35表　銭貨計測一覧 …… 122
第36表　Ⅰ地区　ウシ出土一覧 …… 125
第37表　Ⅰ地区　イノシシ出土一覧 …… 126
第38表　Ⅰ地区　ウマ出土一覧 …… 127

第39表　Ⅰ地区　その他獣骨出土一覧 …… 127
第40表　Ⅰ地区　幼獣骨出土一覧 …… 128
第41表　Ⅰ地区　歯牙出土一覧 …… 128
第42表　Ⅰ地区　種別不明骨 …… 129
第43表　Ⅱ-A地区　獣骨歯牙出土一覧 …… 129

# 図版目録

巻頭図版1　遺跡周辺空中写真
巻頭図版2　当山東原遺跡Ⅰ地区　全景（南東より）
巻頭図版3　当山東原遺跡Ⅱ-A地区　全景（北西より）
巻頭図版4　当山東原遺跡Ⅱ-B地区　全景（南東より）
図版1　Ⅰ地区全景　空中写真
図版2　調査地遠景～Ⅰ地区掘削前
　調査地遠景（南東より）
　Ⅰ地区遠景（北西より）
　掘削前の状況（南東より）
図版3　Ⅰ地区　層序
　お－2～9　層序（東より）
　お－7　層序（北西より）
　お－10・11　層序（北より）
図版4　Ⅰ地区　層序～遺構検出
　お－18　層序（北東より）
　え－10・11　遺構検出状況（北西より）
　え・お－17・18　遺構検出状況（南東より）
図版5　Ⅰ地区　遺構検出
　え・お－17～20　遺構検出状況（南より）
　え・お－17～20　遺構検出状況（南東より）
　え・お－8・9　遺構検出状況（北東より）
図版6　Ⅰ地区　遺構(1)
　え－7付近　遺構掘削状況（南東より）
　え－7付近　遺構掘削状況（北東より）
　平地造成跡　全景（南東より）
図版7　Ⅰ地区　遺構(2)
　う・え・お－19～24付近（南より）
　溝10　検出状況（北東より）
　溝11　完掘状況（北より）
図版8　Ⅰ地区　遺構(3)
　土坑318（北より）
　ピット239
　ピット51
図版9　Ⅰ地区　遺構(4)
　ピット301
　ピット56
　ピット444
図版10　Ⅰ地区　遺構(5)
　ピット67
　土坑86・87・88（北より）
　土坑87（北東より）
図版11　Ⅰ地区　遺構(6)
　ピット82
　溝9　検出状況（北西より）
　溝9　蓋石除去後（北より）
図版12　Ⅰ地区　遺構・遺物の出土状況、見学会等
　耕具痕（北西より）
　青銅製品（鋲）
　現地見学会
図版13　Ⅱ-A地区　全景～層序
　作業風景（北西より）
　層序（南より）
　D・E・F－22　層序（北西より）
図版14　Ⅱ-A地区　遺構検出
　D・E・F－16～18付近（北西より）
　E・F－16～18付近（南より）

ピット列遺構（北より）
図版15　Ⅱ-A地区　遺構検出
ピット471
ピット493
ピット496
図版16　Ⅱ-A地区　遺構検出～半裁状況
ピット493
半裁状況（南東より）
ピット492
図版17　Ⅱ-A地区　遺構半裁状況
ピット471
ピット493
ピット500
図版18　Ⅱ-A地区　遺構半裁～完掘状況
ピット485
ピット494
建物7
図版19　Ⅱ-A地区　遺構
溝16（北西より）
耕具痕（東より）
耕具痕断面
図版20　Ⅱ-B地区　全景～層序
全景（南東より）
D・E－13　層序（東より）
南壁層序（東より）
図版21　Ⅱ-B地区　遺構(1)
小ピット群（北東より）
ピット510
ピット576
図版22　Ⅱ-B地区　遺構(2)
ピット513・514
ピット510
ピット511
図版23　Ⅱ-B地区　遺構(3)
ピット577
土坑538
土坑543
図版24　Ⅱ-B地区　遺構(4)
溝17・18（北東より）
ピット529
柱穴531
図版25　遺構内出土遺物　上段左：平地造成跡内
上段右：柱穴444　中下段：建物5柱穴内
図版26　遺構内出土遺物　上段左上：溝11
上段左下：土坑11　上段右：ピット348
中下段：溝2・3・4
図版27　遺構内出土遺物　上1段：柱穴531
上2段左：土坑538　上2段右：土坑532
中段：土坑569
遺物包含層出土遺物　下段：土器
図版28　青磁(1)
図版29　青磁(2)
図版30　青磁(3)
図版31　青磁(4)
図版32　青磁(5)
図版33　青磁(6)
図版34　白磁(1)
図版35　白磁(2)
図版36　青花(1)
図版37　青花(2)
図版38　青花(3)
図版39　青花(4)
図版40　青花(5)
図版41　褐釉陶器(1)
図版42　褐釉陶器(2)
図版43　上段：三彩・翡翠釉　中段左：天目
下段左：瑠璃釉　下段右：高麗青磁
図版44　上段：タイ産鉄絵　中下段：タイ産陶器壷
図版45　タイ産半練
図版46　本土産陶磁器
図版47　上段：類須恵器
中下段：沖縄産施釉陶器(1)
図版48　沖縄産施釉陶器(2)
図版49　沖縄産無釉陶器(1)
図版50　沖縄産無釉陶器(2)
図版51　沖縄産無釉陶器(3)

図版52　円盤状製品
図版53　上段：煙管　中段：土製品（左・錘　右・洪武通寶土型）下段：石製品（硯）
図版54　瓦
図版55　青銅製品・鍍金青銅製品
図版56　銭貨(1)
図版57　銭貨(2)
図版58　獣骨（刃物痕）

# 第Ⅰ章　調査の経過と方法

**調査経緯**　当山東原遺跡の発掘調査は、市道路課の市道48号線改良事業に伴い実施された。市道48号線は市北東地域と市中心部を結ぶ重要な生活道路として、また、浦添グスクや浦添大公園へのアクセス道路の機能も合わせ持つ。計画された事業延長1,235m、幅員11.5mである。

市道48号線一帯は「ようどれ北方散布地」と呼ばれ、埋蔵文化財の予想される地域として以前より認知されてきた（註１）。当該事業を実施するにあたり範囲確認発掘調査の必要性が生じることとなった。

**事前調査**　本計画路線内における埋蔵文化財範囲確認調査は市建設部の依頼（事務連絡　平成７年９月19日付）を受け、市教育委員会が平成７年９月23日～12月22日にかけて３地区合計12カ所のトレンチ調査を行った。続く平成８年度も同様の調査依頼（浦建土第41号　平成８年11月21日付）により平成８年11月25日～26日の期間で１地区合計２ヶ所のトレンチ調査を実施した。いずれも長さ数m×幅２m前後のトレンチが設定された。その結果、グスク時代から近世に至る遺物包含層の堆積と各時代の遺構などが確認された。平成８～９年には同調査成果に基づき、本格的な発掘調査の範囲と期間、費用等が協議された。

**調査経過**　前述の協議を踏まえて平成９年10月３日付で市建設部と市教育委員会との間で発掘調査の実施にかかる委託契約が締結（浦教文第５号　平成９年10月３日付）された。

平成９年11月３日からⅠ地区の機械掘削を開始し、調査に着手した。Ⅰ地区（～平成11年１月29日）の調査では途中、当事業地内における遺跡の東限が確認されたことから以東の調査を中止した。結果として、その後の調査は、Ⅱ-A地区（平成11年６月22日～平成11年10月22日）Ⅱ-B地区（平成13年９月２日～平成14年１月31日）と順次、西側へ展開することとなった。最終調査となったⅡ-b地区の調査では北行する石灰岩丘陵によって堆積土層が終息することが判明した。確認の為、丘陵および反対斜面も調査を行ったが旧地形が深い谷間であることや遺構、遺物などが未発見であったため、同丘陵手前までを遺跡の西限と判断した。これによりⅡ-B地区の調査をもって当該路線における全調査を完了した。

調査の結果、本書で後述するようにグスク時代から近世のピット群や土坑、溝、グスク時代の農耕関連の遺構と目されるピット列遺構など多くの遺構が出土した。なお、各地区では調査終盤に市民を対象とした現場説明会を開催し、その都度、調査成果を公開した。

**調査方法**　前段で既に示されているが、本遺跡は調査順にローマ数字Ⅰ、Ⅱの地区番号が与えられる。更にⅡ地区では調査年度別にアルファベットA、Bによる枝番号が与えられている。

Ⅰ、Ⅱ地区の区分けは遺跡を略東西に遮断する石灰岩丘陵を軸になされており、後述するように当遺跡はこの丘陵によって土地利用の制限を受けるものと当面において判断されることから遺跡の空間利用を示す単位区分としてそのまま当てはまる。

発掘調査は、旧道路のアスファルト、路盤及び盛土を重機によって掘削した後は、全て人力による掘削を行い、地山である橙褐色粘質土層（方言名：マージ）までを調査対象としている。

調査地の区割り（第１図）は道路線形に沿って４m×４mの区画（グリッド）を設定している。道路並行線に片仮名（Ⅰ地区）およびアルファベット（Ⅱ地区）、直交線に算用数字の各線名を与えた。これにより各区画はエ-8、F-19といった呼称で表される。

遺物の取り上げについては、基本的にこの４m四方の区画毎に行っており、遺物ラベルには出土した遺構名や層位名、出土年月日の他、区画名が記入される。但し、区割り以前に採集された遺物について

は区画名を記さず、一括資料とした。また、標高については全て海抜高を基準として示している。

遺構図の作成についてはⅠ地区の遺構面で航空測量を行った。その他の地区については1/20スケールの手書き実測と遺跡調査システムSITEによる機械実測を併用した。また、遺構面の撮影は高所作業車や組立足場を用いて全景を撮影し、各遺構、遺物については適時、撮影を行った。

**調査体制**　以下の体制の下、調査を実施した。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 調査主体 | 浦添市教育委員会 | 教育長 | 福山朝秀（平成９～10年） |
| | | 〃 | 宮城　清（平成11～13年度） |
| | | 〃 | 大盛永意（平成14年） |
| 事業所管 | 教育部 | 部　長 | 宮里良一（平成９～10年度） |
| | | | 銘苅紹夫（平成11～13年度） |
| | | | 与座盛一（平成14年度） |
| 事業総括 | 教育部文化課 | 主　幹 | 安里　進（平成９～10年度） |
| | | 課　長 | 安里　進（平成11～14年度） |
| 事業調整 | | 文化財係長 | 下地安広（平成９～13年度） |
| | | 〃 | 松川　章（平成14年度） |
| 事業事務 | | 文化財係主任 | 島袋博一（平成９～10年度） |
| | | 〃 | 村山みき（平成11～13年度） |
| | | 〃 | 宮城増美（平成14年度） |
| 調査員 | | 文化財係主事 | 渡久地政嗣 |
| 調査協力 | | 〃　主任 | 松川　章（平成９～10年度） |
| | | 〃　主事 | 安和良則 |
| | | 〃　〃 | 佐伯信之（平成11～14年度） |
| | | 〃　〃 | 仁王浩司（平成14年度） |
| | | グスク整備係主任 | 宮里信勇 |
| | | 〃　主事 | 仁王浩司（平成11～13年度） |
| | | 〃　〃 | 仲宗根久里子（平成14年度） |
| | | 嘱託職員 | 北條真子（　〃　） |
| | | | 山本正昭（平成11年度・現沖縄県立埋蔵文化財センター） |
| | | 臨時職員 | 金城礼子 |
| 調査補助員 | | 臨時職員 | 大城竜也（平成９～10年度・現豊見城市役所） |
| | | | 山之端嘉史　山里栄作（平成11年度） |
| | | | 國吉咲子（平成12～14年度） |
| | | 臨時職員 | 隈元宣浩　久志博隆（平成13年度） |

整理作業員　平成９年度　楚南清美

平成10年度　山本正昭　石嶺寿真子　翁長由紀　宮崎典子　金田いぶき　黒島俊明

平成11年度　則松文子　岸本卓巳　仲宗根泰子　砂川仁美

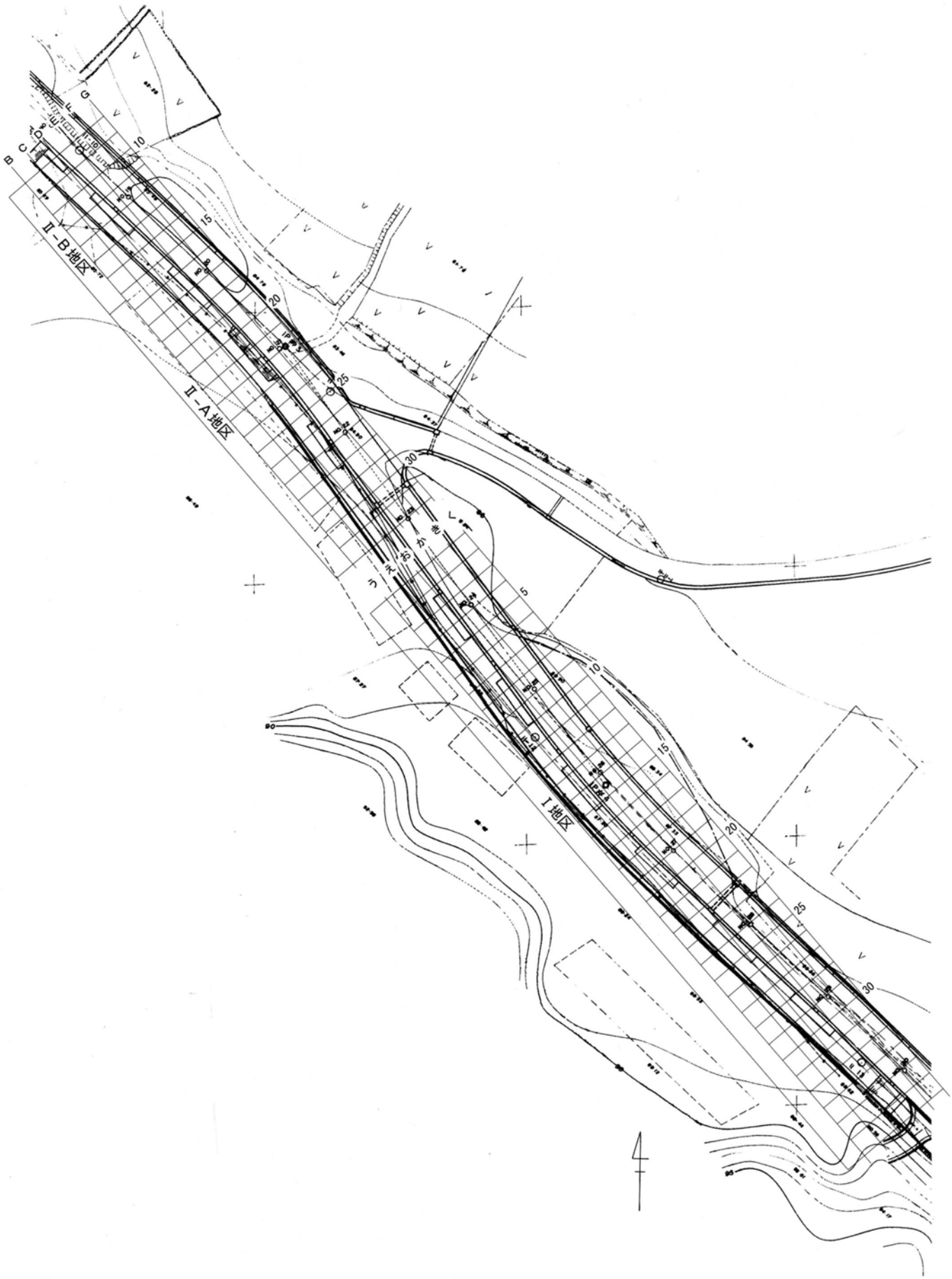
平成12年度　國吉咲子　宮城裕子　島尻かおり　濱川寿志

平成13年度　与那嶺綾子

平成14年度　澤岻永子　吉嶺末子　我那覇育子

発掘作業員　浦添市シルバー人材センターから派遣

註1　岸本義彦・島袋友道　1980　浦添市文化財調査報告書　第1集『うらそえの文化財 - 遺跡分布調査報告 - 』浦添市教育委員会




**第１図　調査地区割図**

# 第Ⅱ章　位置と環境

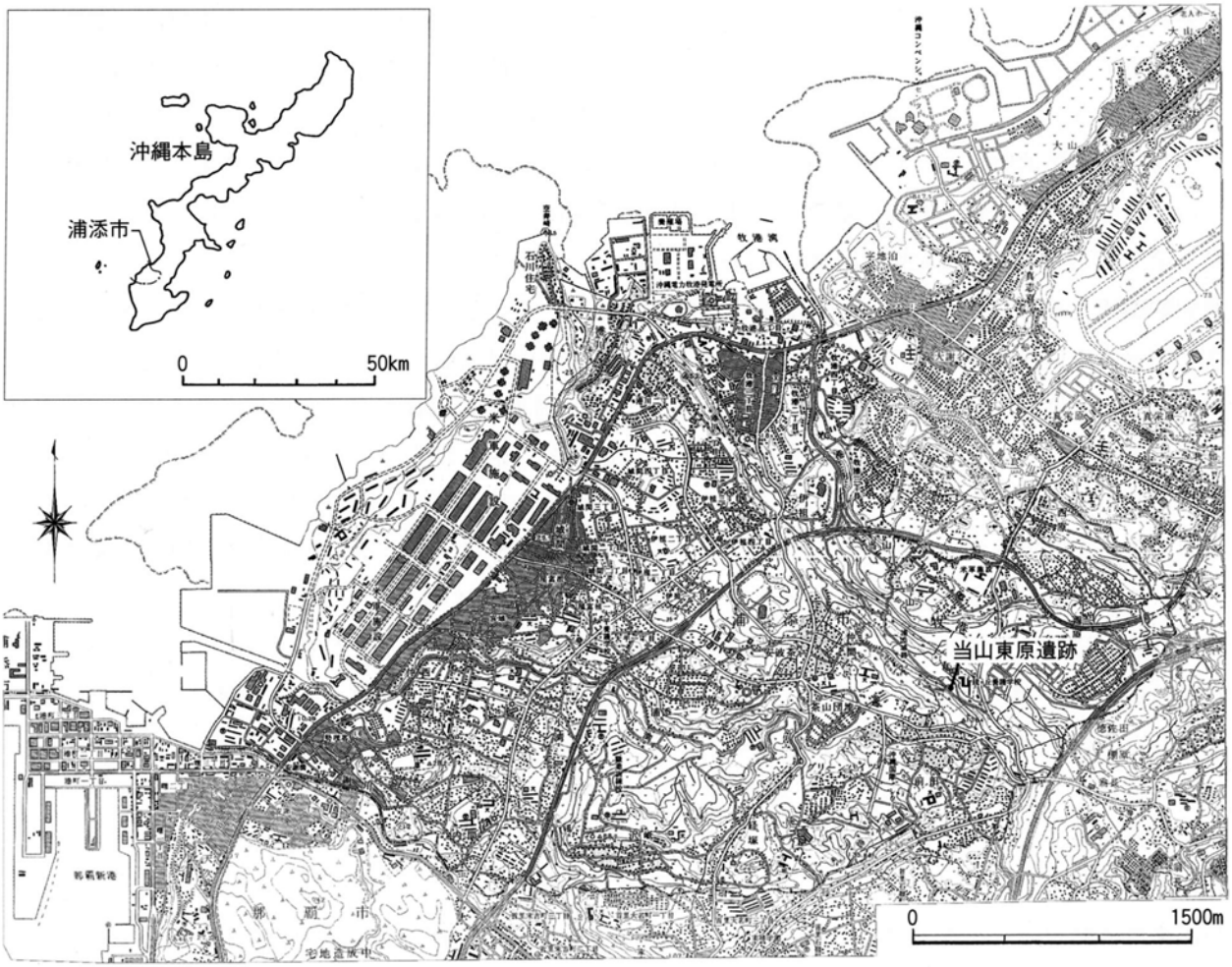
**地理的位置**　当山東原（とうやまあがりばる）遺跡は沖縄県浦添市大字当山小字東原に位置する。平成４年３月発行の『浦添市文化財分布地図』では「ようどれ北方散布地」として東西約400m、南北約100m、総面積約40,000㎡が埋蔵文化財の予想される範囲として把握されている。

遺跡が所在する浦添市は、沖縄本島中部の西海岸にあって次のような位置にある。市の極東、東経127°45′17″（字西原）・極西、東経127°40′15″（字勢理客）・極南、北緯26°13′46″（字沢岷）・極北、北緯26°16′15″（字牧港）。南は那覇市、北は宜野湾市、東は東シナ海に面する。

市域は総面積18.27Ｋ㎡を計る。（註１）人口約105,485人（平成14年12月末日現在）を擁する県下第三の市である（註２）。海浜部に国道58号線、市中央部に県道330号線、東部には沖縄自動車道がそれぞれ南北に通っており、島の南北を結ぶ主要交通路上に位置している。

註１　建設省国土地理院「平成11年全国都道府県市区町村面積調」

註２　浦添市役所「広報うらそえ」2003.2.1




**第２図　当山東原遺跡の位置**

**自然環境**　市の地形は標高40m前後をもってほぼ２分され、東部は最高地点138.4mを計る波浪状の丘陵地、西部は東中国海に続く東高西低の地盤にある。地層は新生代第三期中新世後期から鮮新世末期に堆積した島尻層群とこれを不整合に覆う新生代第四期更新世に形成された琉球石灰岩層及び海浜堆積物、沖積層から成る。これらの分布状況を概観すると、基盤層である島尻層群は主に市の中央部から南東地域に分布し、その地形は浅い谷と起伏の小さな丘が連なる波浪状の地形を形成している。丘頂には薄く琉球石灰岩が残っている場合が多い。琉球石灰岩層は北部と西部の広い地域に分布域があり、国道58号線一帯には標高10～20mの低位段丘が発達する。海浜堆積物及び沖積層は海浜部に狭小な分布域がある。

市の沿岸部には遠浅のイノーが発達する。海浜部は、大部分を米軍牧港補給基地で占められている。

植生については、本市全域が去る大戦の激戦地であったために、ほとんど焼け野原の状態になり、現在残っている植被は二次林となっている。気象は隣接する那覇市において年平均気温22.3度、降水量2,107.8ミリ㍉で、冬は北東のそして夏は南東の季節風が卓越する。気温的には亜熱帯で、降雨量は多く特に梅雨期、台風期に多い。風は東アジア季節風帯に属している。

**当山東原遺跡周辺**　当山東原遺跡は市の中央部よりやや北側にある。字牧港から字仲間にかけて延びる石灰岩断層「浦添断層崖」に由来する標高110～120mの石灰岩提の中腹、標高82m前後に位置する。一帯は段丘地形となっている。この段丘を南－北に概観すると、南側には最高部の石灰岩提（浦添岩提）があり、比高差約30m程の崖面を経て緩傾斜の段丘面が帯状に取り付いている。この平場面は基盤層となる橙褐色粘質土（方言名：マージ）によって被覆され、本遺跡が立地している。さらに突端では再び崖面が形成され、崖下を二級河川牧港川が西流する。この崖の中腹では湧水が点在する。

一帯は市街化調整区域として都市化を免れている地域でもある。現在、畑作地、墓地等の土地利用がある。一方、背後の石灰岩提～崖下にかけては国指定史跡浦添城跡があり、平成12年度より浦添ようどれを第一期工事とする復元整備事業が進行中である。

**歴史的環境**　本市では鹿化石の出土地が数カ所知られているが旧石器時代の遺跡は未発見である。現在までのところ最古の資料は、沖縄暫定編年前Ⅰ期（縄文時代早期並行）の爪形文土器に比定できる資料で、城間古墓群から100点余り得られている。その後は、前Ⅲ期の面縄前庭式に比定される資料が浦添貝塚（県指定史跡）と当山洞穴遺跡、嘉門貝塚Ｂの三遺跡から得られている程度で、本市で遺跡数の増加が認められるのは前Ⅳ期以降である。当期の遺跡は、前述の浦添貝塚、港川遺跡群、越地原遺跡、第二下港川遺跡など数カ所の遺跡が知られている。この前Ⅳ期以降は、後Ⅰ期に相当する遺跡が未発見であるが、それ以外の時期は途切れることなくグスク時代まで続いている。

これらの遺跡の立地を見ると、字勢理客から字港川に至る標高40m程度までの石灰岩台地には、仲西貝塚（前Ⅳ期）、親富祖遺跡（グスク）、第二親富祖遺跡（グスク）、城間第二、第三遺跡（グスク）などがあり、主に台地の淵および周辺に立地している。字港川から字前田までの石灰岩提上には浦添貝塚を始め、後述する伊祖城跡（グスク）、浦添城跡（グスク）、浦添原遺跡（グスク）などが立地している。海岸砂丘地域には嘉門貝塚（後期）が立地している。嘉門貝塚を除くと、ほぼ琉球石灰岩の台地上および洞窟内において発見されている。

**当山東原遺跡周辺**　本遺跡の北西約1.2㎞の地点には浦添貝塚があり、奄美系土器が主に出土する。九州とのかかわりを物語る市来式土器が県内で初めて出土した遺跡として知られている。

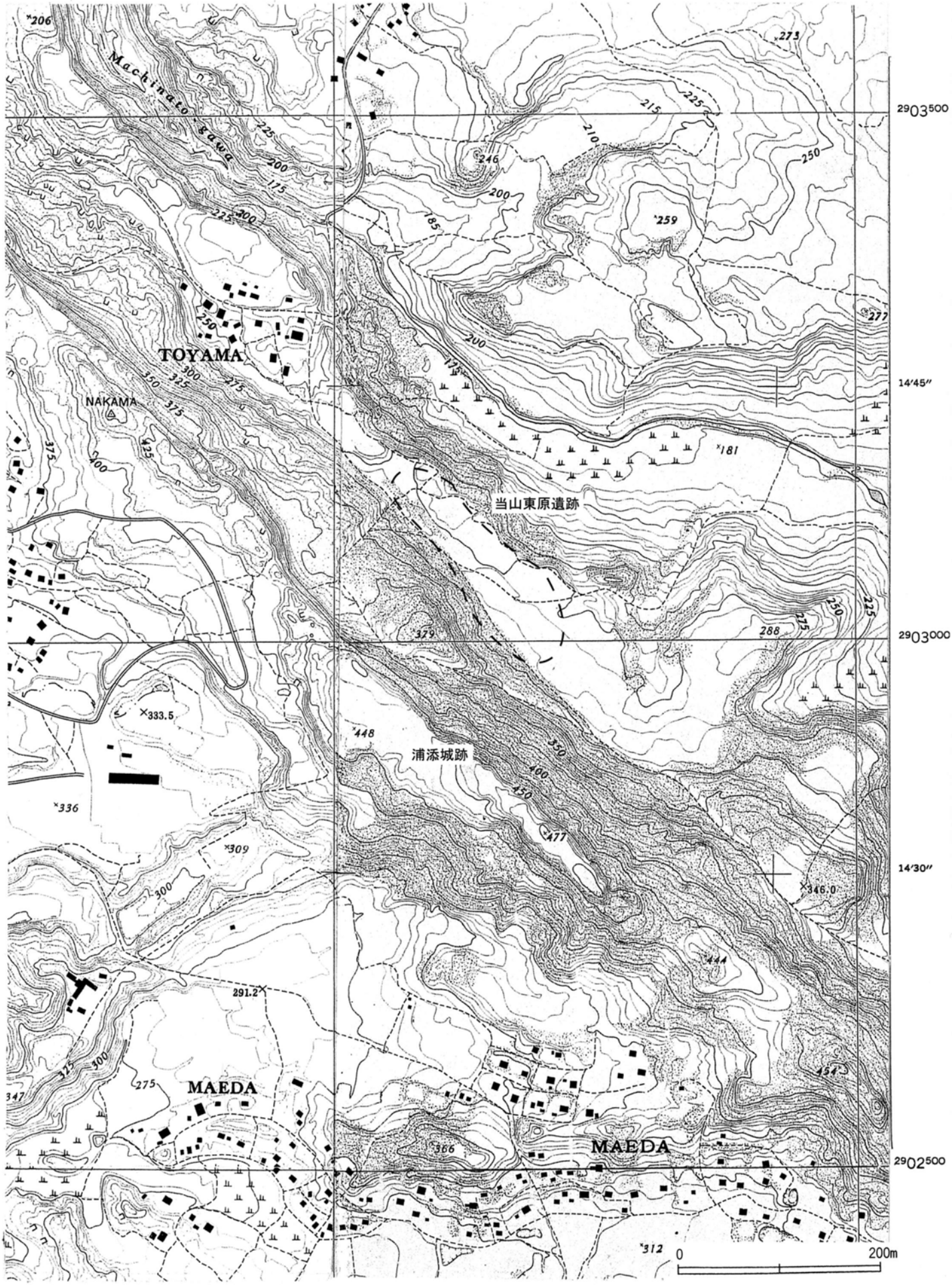
急峻な地形はグスク時代に至って政治、軍事上の要地として利用された。一帯は三山鼎立期には中山

の中心地域であった。本遺跡に接して浦添城跡（国指定史跡）、浦添ようどれ（国指定史跡）の両史跡がある。その他にもグスク周辺には伊祖城跡（県指定史跡）、仲間後原遺跡、浦添原遺跡などのグスク時代の遺跡が立地している。グスク北縁には首里ー浦添ー普天間を結ぶ道路が整備され一部が当山の石畳道（市指定文化財）として現存し、往時の面影を伝えている。

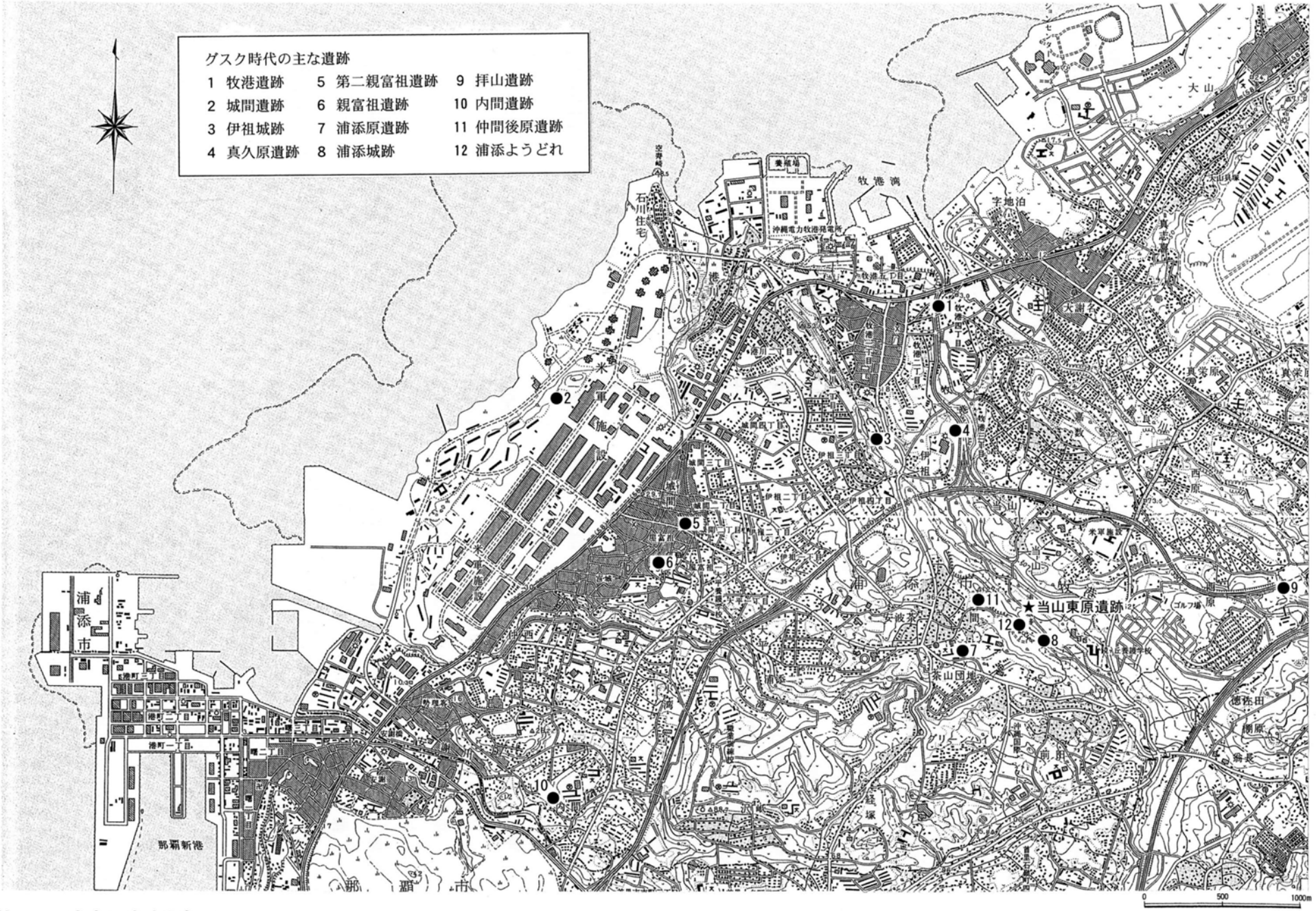
太平洋戦争末期の沖縄戦では米軍の侵攻を阻止する有力な防衛陣地帯が構築され、日米両軍の戦闘が展開された。一帯は地下壕が巡らされる戦争遺跡でもある。

【参考・引用文献】

知念勇・下地安広 1986 「第二編 考古」『浦添市史』第六巻資料編5 自然・考古・産業・歌謡




第3図　遺跡の立地・周辺地形




第4図　市内の遺跡分布図

# 第Ⅲ章　調査成果

## 第１節　Ⅰ地区

### (1)層　序（第５図　図版３・４）

**層序の概要**　1944年頃撮影されたと思われる米軍航空写真によると調査地域は当時、現在のような道路ではなく、耕地として利用されていたことがわかる。現在の市道48号線は、戦後、隣接する石灰岩丘陵に採石場が出来たことに伴う積み出し用道路として建設されたと伝わっている。この採石場の操業時期は比較的短く、1950年代には操業を終えていた（註１）。その積み出し用道路が残り生活道路として現在に至ったようである。第１層はこの道路および採石場建設を起点とする堆積層を指している。同層には石灰岩盤にいたる削平面が見られ、窪地には大量の客土が盛られるなど、地形の攪乱と平坦化が進行した。現在の土地景観は概ねこの時期に形成されたものと言える。地区内でこれらの攪乱を免れた箇所は旧道路直下の幅約５～６mの範囲に限られていた。

第２層は米軍航空写真でも撮影されている概ね戦前までの耕作土層である。出土遺物から早くとも近世後半には耕地化したものと推測される。第３層は近世期の遺物包含層で各種の遺構が検出されている。第４層及び第５層は14世紀を上限とするグスク時代の遺物包含層である。分布は調査区西半部に集中し、遺構もその範囲内で検出される。両層は調査区中央付近で近世の平地造成行為により寸断されており、更に以東においては層としては存在していない。続く下層は地山の橙褐色土層である。地山上面では一部に石灰岩盤が露頭する。確認された層序は概ね以下のような堆積を示していた。

１層：現代の盛土層で機械掘削により、除去対象となった層である。複数層に細分でき、旧市道内では市道建設に伴うアスファルト、琉球石灰岩粒の路盤層及び客土までを範疇とした。旧市道外はほぼ大半が石灰岩盤に至る現代の盛土層であったため、同じくその範疇とした。

２層：焼土粒、炭粒を含む黄灰褐色土層である。ほぼ調査区全域に分布し、水平的、平均的な堆積を見せる。上半部では砲弾片が多く出土するなど層状は荒れている。下半部は黄灰褐色の均質土で東半部では地山に至っている。最下部では農耕具による耕作痕を伴う。近代までの耕作土と思われる。

３層：淡褐色土層。調査区中央を中心に分布域があり、複数層に細分できる。西側へは４層の一部を覆い、東側へは地山直上層を覆っている。近世の遺物包含層である。

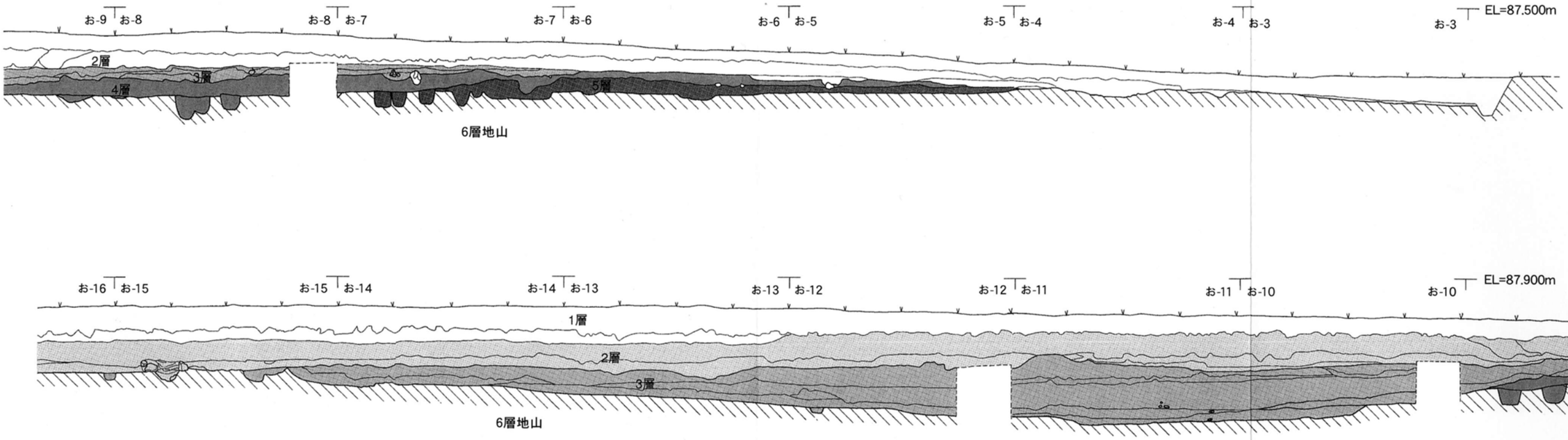
４層：暗褐色土層。調査区西半部に分布域がある。本層および５層は調査区のほぼ中央を境に東側では確認されていない。この堆積層からは14世紀頃を上限とする遺物が検出された。

５層：橙褐色土を多く含む暗褐色土層である。調査区西半部に分布域がある。

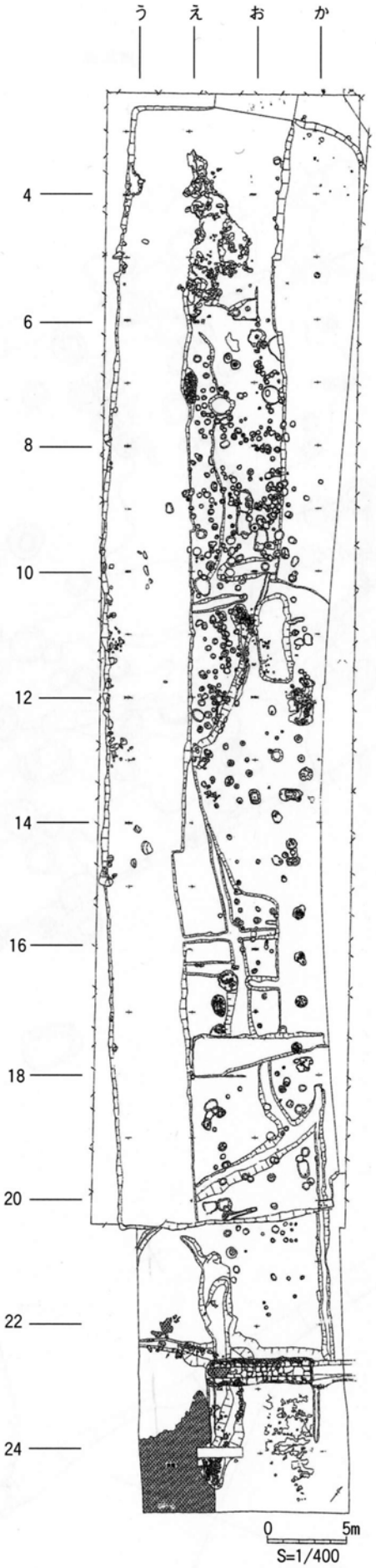
６層：橙褐色土層。方言名：マージ。地山である。

７層：琉球石灰岩。一部が調査区西端に露頭している。

註１　『史跡浦添城跡整備基本計画書』　浦添市教育委員会　1996年２月


お-9
お-8
お-7
お-6
お-5
お-4
お-3
EL=87.500m
2層
3層
4層
5層
6層地山
お-16
お-15
お-14
お-13
お-12
お-11
お-10
EL=87.900m
1層
2層
3層
4層
6層地山
お-20
お-19
お-18
お-17
EL=88.100m
1層
2層
3層
3層
6層地山
い-12
う-12
え-12
お-12
EL=87.000m
2層
3層
7層石灰岩盤
中央アゼ（12ライン）
6層地山
0
S=1/80
4m

第５図　Ｉ地区　層序




**第６図　Ｉ地区　遺構全体図**

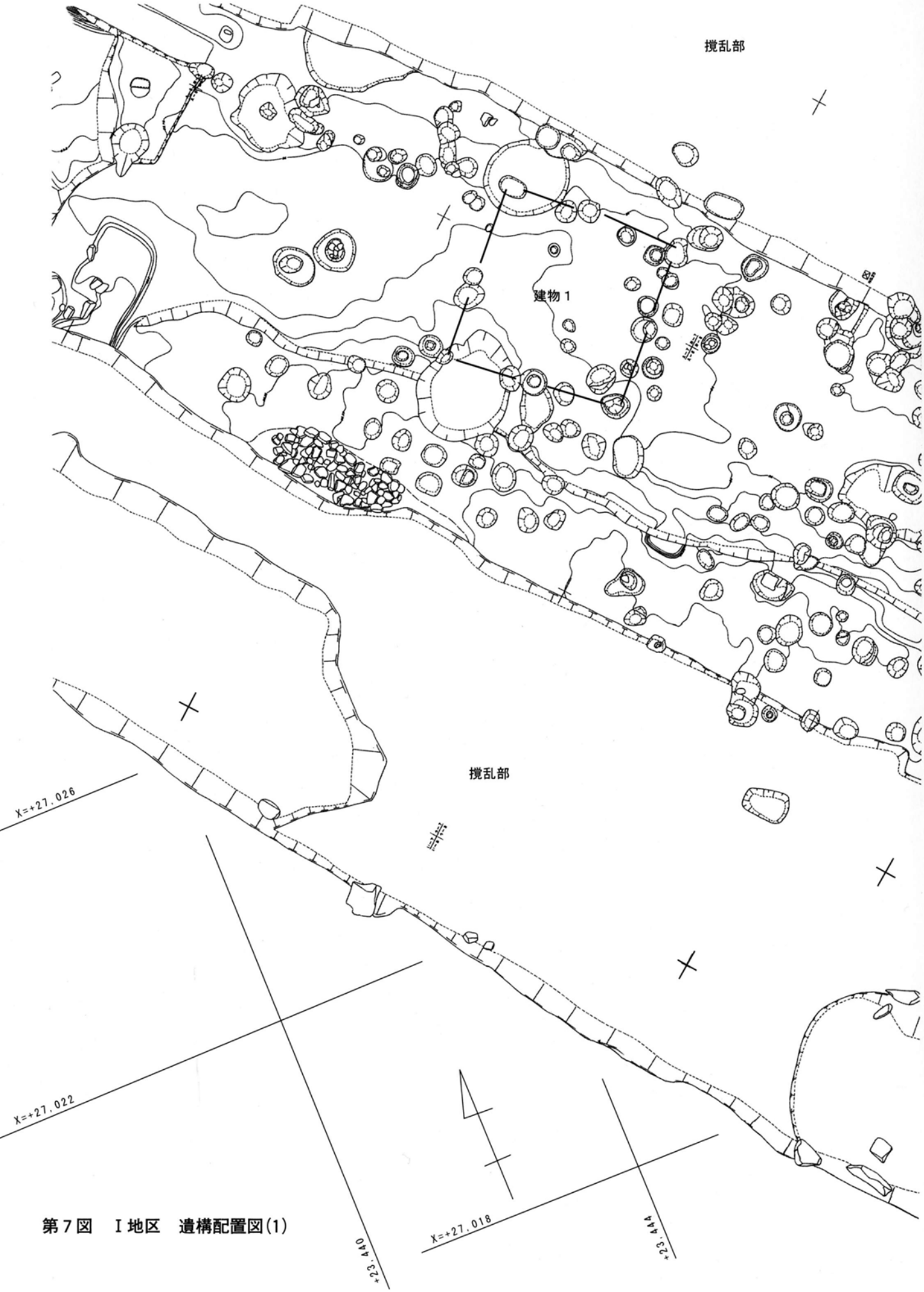
**(2)遺　構**（第６図　巻頭図版２　図版１）

**遺構の概要**　Ｉ地区の主な遺構としてはピット464基が検出されている。その中から建物６棟が想定された。その他には平地造成跡や溝などを検出した。それらの分布傾向としてはグスク時代の遺構は調査区の西半部に偏在する一方、近世に比定される遺構分布は調査区全域に認められる。よって西半部はグスク時代と近世の遺構が混在する複雑な様相を示しており、一様には理解し難い。時期の把握にあたっては遺構埋土及び遺構内からの出土遺物、切り合い関係等を検討材料として、各時期への帰属を求めていった。以下、検出された主要な遺構について、各個に記す。

**ピット群**（第７・８・９図　図版１・４～11）　合計464基のピットが検出されている。これらはすべて地山直上で確認されたものである。

ピットは直径30～40cmを測り、深さは20cm前後を測るものが多い。掘方の形態は不整円形を基本とし、断面形は逆台形のものや、「U」字形を呈するものなどがある。なかには柱痕が観察できるものや、基底部又は内側面に石灰岩礫を配置したピットも見られた。これらに充填される埋土は、主に三種類に分けられた。西半部に主に分布する「暗褐色土に橙褐色土ブロックが混入するもの」や「暗褐色土のみ」のもの、全域で確認された「淡褐色土のみ」のものなどである。さらに前記の埋土に炭化物、焼土粒などが加わるものなどが確認できる。

数多く検出されたピット群であるが、建造物の想定にあたっては東西で対照的な成果が得られた。最も密度の高かった西半部では建造物の規模が掴めるものは僅かであった。ここでは建物２棟が想定されるに留まった。これは西半部において現代の攪乱の規模が大きく、建物を想定するに足る一定程度の面の確保が困難であったことが大きい。このように限定された調査面であってもなお複数のピット列が確認出来る点は残念である。対して東半部では攪乱は軽度であったため、建物４棟が想定出来た。



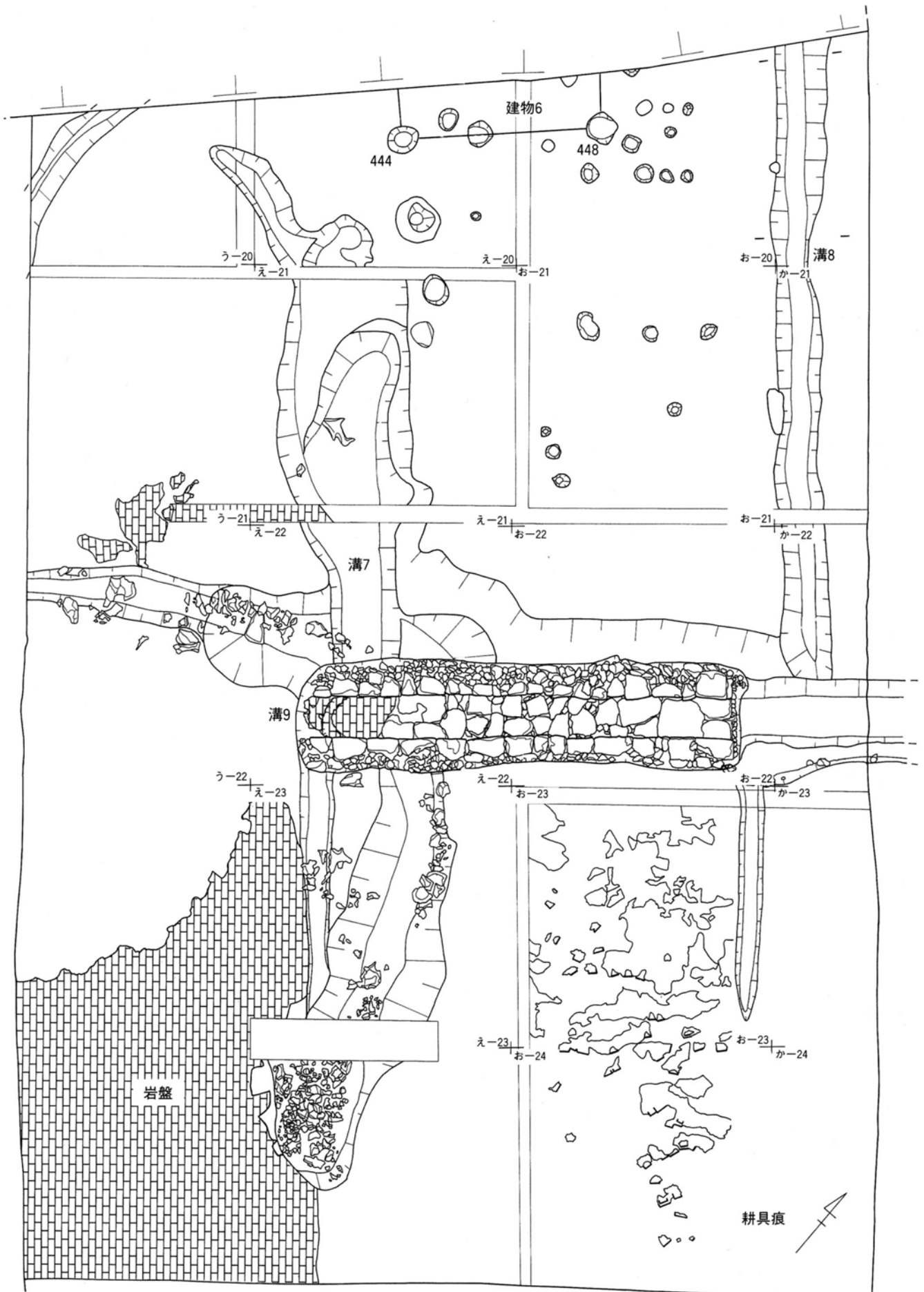

**第７図　Ｉ地区　遺構配置図(1)**


Y=+23,459
+27.026
+27.022
+27.018
Y=+23,490
3
建物2
溝
11
溝
10
318
1:70
0
1
2
3
4m




**第8図　Ⅰ地区　遺構配置図(2)**


Y=+23.480
+27.090
Y=+23.484
+27.006
Y=+23.488
+27.002
Y=+23.476
+26.998
建物4
88
87
86
建物5
建物6
X=+26.990
+23.468
+23.472
0
S=1/100
5m



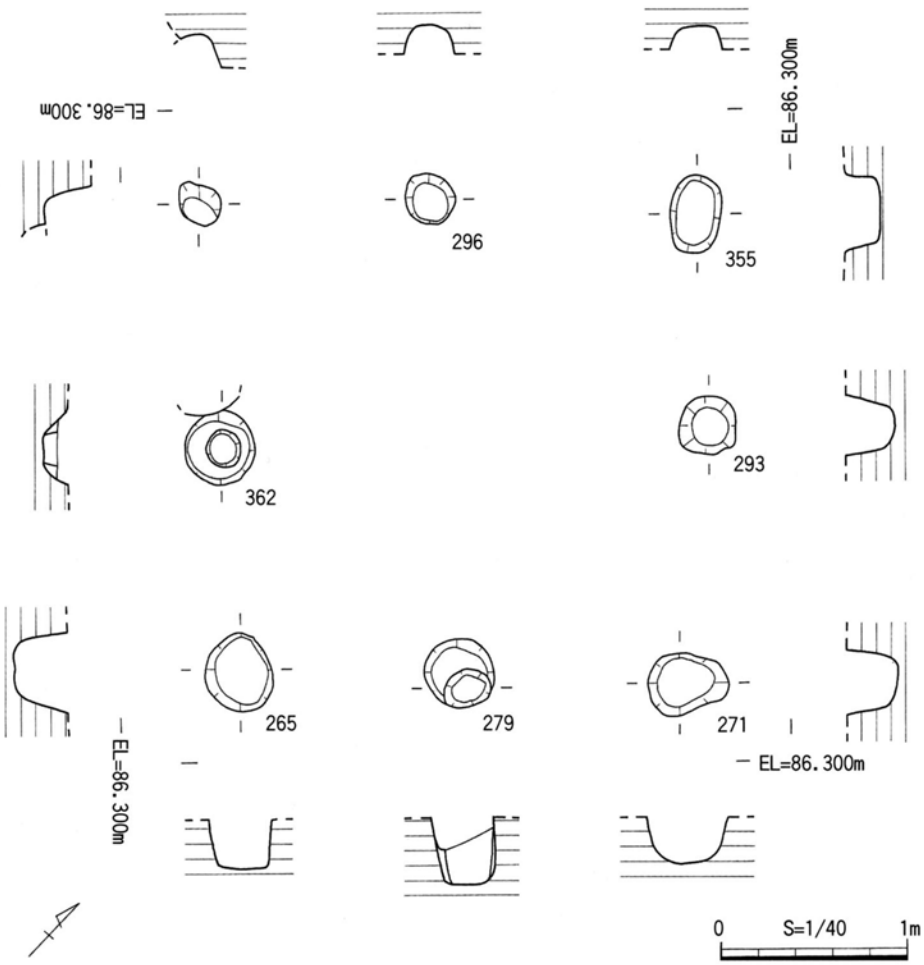

第９図　Ｉ地区　遺構配置図(3)

**建物1**（第10図　図版1）　調査区北西側にあたるえ・お-7グリットの第6層地山面から検出された掘建柱建物である。合計8基の柱穴で構成される。

建物の規模は長軸2.6m、短軸2.5mを測る概ね正方形の建物である。柱間寸法は長軸、短軸ともに1.2m前後の等間隔である。長軸の方位はN－43°－Wを示す。

柱穴の平面形は直径40～30cm程の不定円形、ないしは楕円形で、断面形は下方が隅丸となる逆台形を基本とする。

底面の深さはEL＝85.600m～85.900mの範囲にあり、建物の東半部に位置する柱穴は比較的深く掘り下げられており、西半部のそれはやや浅い。但し、建物の一辺を単位として各柱穴の深さを比較する限り、おおむね一定のようである。




**第10図　建物1　平断面図**

柱穴内部に充填される埋土は暗褐色の粘質土に基盤層の橙褐色土ブロックを交える。この様相からは掘削によって生じた土砂と当時の表層土が混ざり合った状態で再び埋め込まれた状況を想定することができる。なお、柱穴362の埋土断面からは直径18cm程を測る柱痕を確認することができた。これは掘り方埋土に比べて、土色がやや淡味を帯びることに加え、前述の橙褐色土ブロックを含まないことから識別されたものである。

**出土遺物**　柱穴355から青磁1片、焼土1個が出土している。柱穴293からはグスク土器1片が出土したが、いづれも小破片であるため図化は省略した。

**時期**　柱穴内の出土遺物および埋土の様相からグスク時代となる可能性が最も高い。

**建物２**（第11図　図版１）　調査区北西側にあたるえ・お−９グリットの第６層地山面から検出された掘建柱建物である。合計４基の柱穴を検出した。建物はおおよそ南北方向に棟をもち、主軸はＮ−19°−Ｗと西にやや振れる。建物規模は長軸2.6m、短軸2.1mを測る。柱間寸法は長軸で約2.2m等間、短軸で約1.6mの等間となる。

柱穴の平面形は概ね円形を基本とするが、柱穴225ではいびつな楕円形を呈している。断面形は下方が隅丸となる逆台形を基本とする。各柱穴は附近の柱穴に比べて大きなもので、直径は検出面での短径、長径の計測値でそれぞれ柱穴30(50−53cm)、柱穴225(42−70cm)、柱穴165(60−65cm)、柱穴160(50−54cm)を測る。

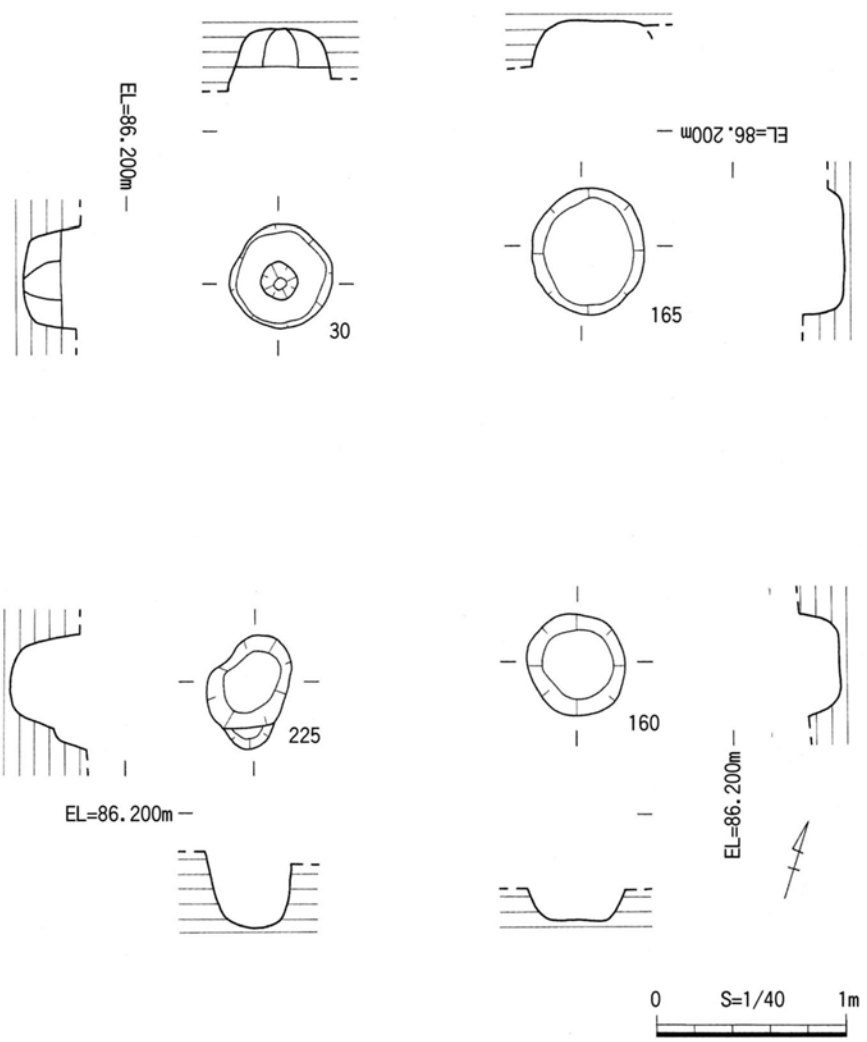
底面の計測値は北側に位置する柱穴166と柱穴30がEL＝85,670m前後を測り、南側に位置する柱穴160と柱穴225がEL＝85,770m前後を測る。傾向として対応する柱穴どうしでは、ほぼ一定した値を示しているといえる。

柱穴内部に充填される埋土は暗褐色の粘質土に基盤層の橙褐色土ブロックを交える。なお、柱穴30の埋土断面からは直径20cm程を測る柱痕を確認することができた。

一方で考慮すべき点として、建物２の延伸方向には現代の攪乱が帯状に展開している点があげられる。その攪乱の深さは、前述の柱穴４基から推定される基底部の計測値以下に及んでいる。この攪乱によって残りの柱穴が消滅した可能性があり、検出された建物２の規模は建物の一部を示すものである可能性も残している。

**出土遺物**　柱穴30から金属片１点、貝片１点が出土したが、いづれも小片であるため図化を省略した。

**時期**　埋土内からは時期決定の判断材料となる遺物は得られていない。埋土の様相からは




**第11図　建物２　平断面図**

グスク時代となる可能性が最も高い。

**平地造成跡**（第12・13図　図版1・6）　調査区のほぼ中央、え・お－11～14グリットの範囲で検出された。

遺構は6層地山の緩斜面を「L」字状に削平し、底面に平場を一面造成している。切土のラインは旧地形上にあるグスク期のピット群を断ち切っており、平場の底面においてはグスク期の遺構と断定できるものは未検出である。なお、平場内の覆土は3層土が占める。

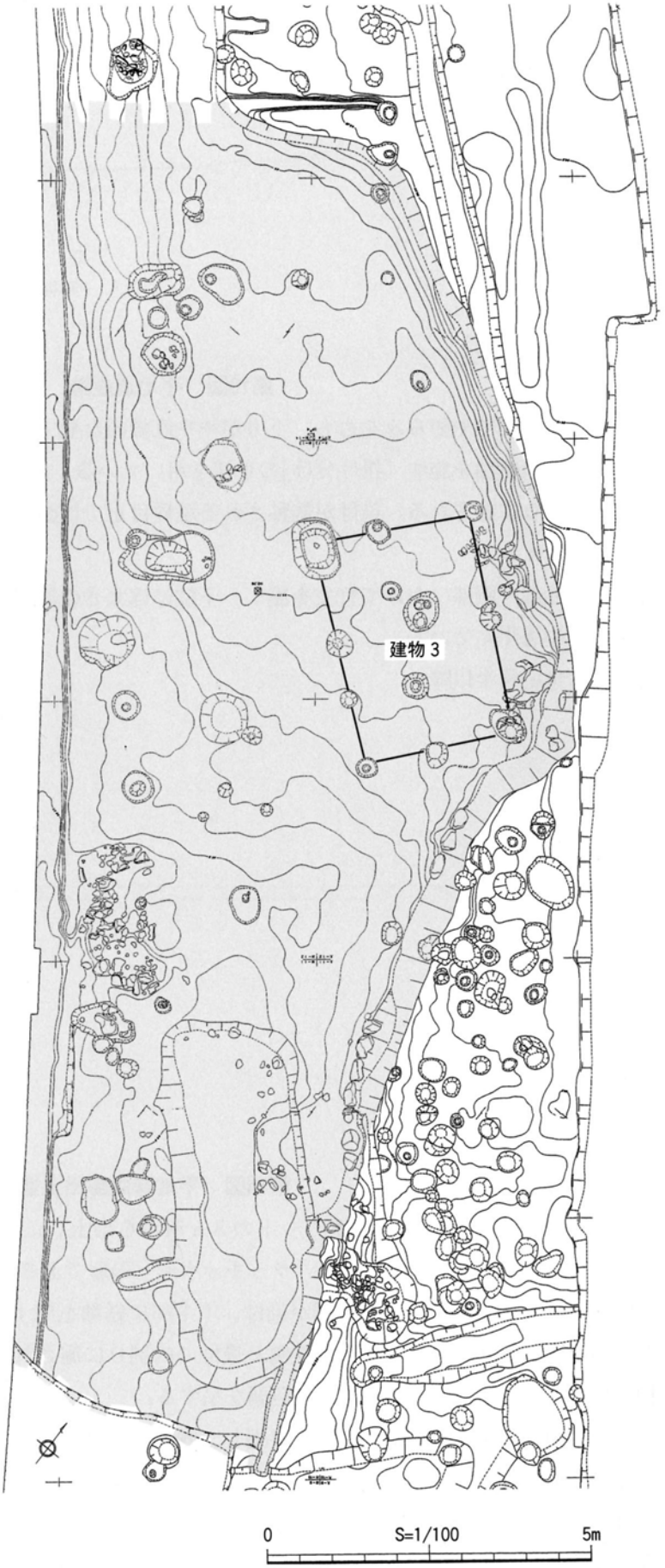
確認された削平規模は北西－南東方向に約20m、北東－南西方向に約8mを測る。面積は約93㎡を測る。北東方向へはさらに調査区外へ平場面が延びている。

旧地形と平場面との比高差は0.55～0.65mあり、法面下には法裾に添って人頭大の石灰岩石列が散発的に遺存している。土留め的な機能を意図したものと推察されるが、前述のように遺存状況は悪く、範囲、形状などは不明である。

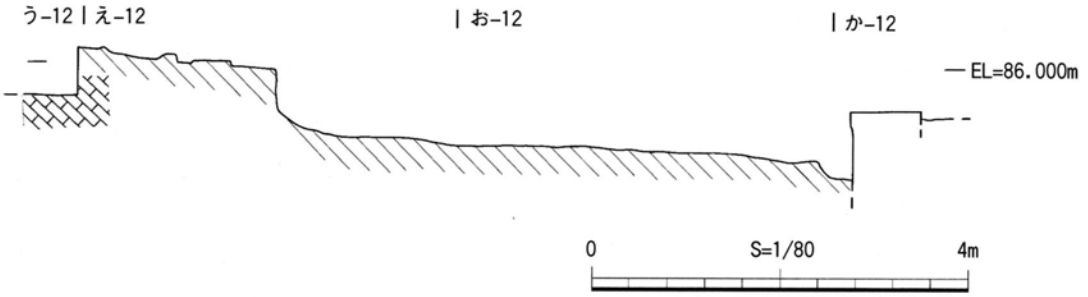
本遺構内の主要な遺構としては、堀立柱建物1棟及び大型の土坑1基が検出されている。後述する建物3及び土坑304がそれで、法面はそれぞれと並行関係にあることが明らかである。本遺構は建物3を中心施設とする「屋敷地」であったことが想定される。

**出土遺物**（第14・15図　図版25）

(1)は、平地造成跡内のえ－13グリットの3a層から出土した肥前産錆釉染付瓶である。後述する(2)と共に一箇所に廃棄された状態でまとまって出土した。




**第12図　平地造成跡　平面図**

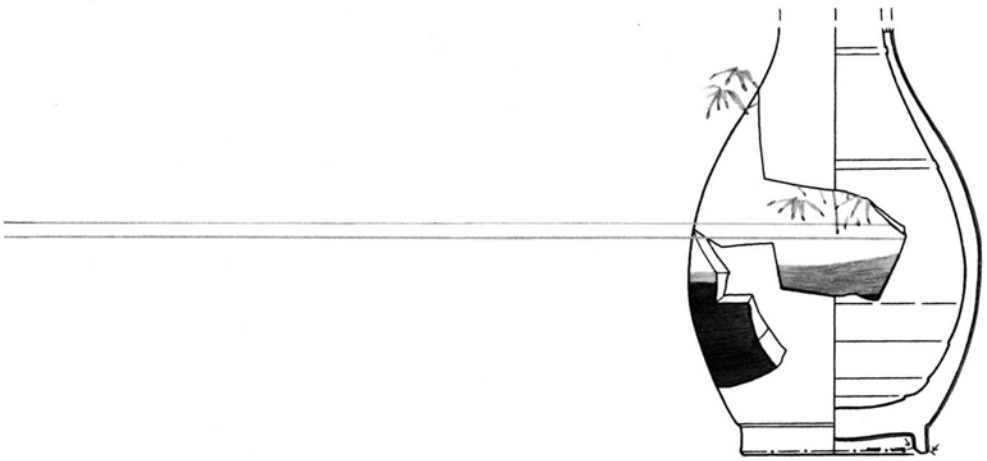



**第13図　平地造成跡　断面図**

器形は肩部がやや膨らみをもち、下方がやや直線的な瓶である。胴部の最大径付近を境に上半部が染付、下半部に錆釉を施す「掛け分け」の手法を用いている。錆釉の施釉範囲は胴部中央から畳付の外側と畳付の内刳りに施される。染付が施釉される境界付近では錆釉に透明釉が掛かるため、混合して黄褐色の色調を呈する。

絵付は頸部～胴部にかけて竹文を施し、下位には太さの異なる圏線を一本ずつ巡らせている。呉須の発色はやや黒ずんでいる。

**時期**　17世紀後半以降




**第14図　平地造成跡出土遺物(1)**

(2)は平地造成跡内のえ－13グリットの３ａ層から出土した肥前産錆釉染付瓶である。前述の(1)に比べ肩がなだらかに落ちたいわゆる「ラッキョウ形」の瓶である。

胴部の最大径付近を境に上半部が染付、下半部に錆釉を施す「掛け分け」の手法を用いている。錆釉の施釉範囲は胴部中央から畳付の外側と畳付の内刳りに施される。染付部との境界付近では錆釉に透明釉が掛かるため、混合して黄褐色の色調を呈する。

絵付は頸部に２本の圏線と鋸歯文が巡り、胴部にはダミ技法を用いて草花文を施している。呉須の発色はやや黒ずんでいる。

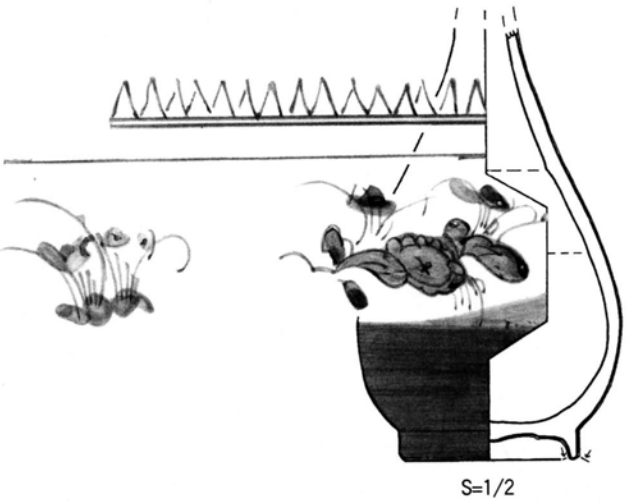
(1)、(2)は相似の瓶であり、一対で使用され、同時に廃棄されたものと考えられる。仏前あるいは神棚などに置かれた仏花器であろうか。

**時期**　17世紀後半以降

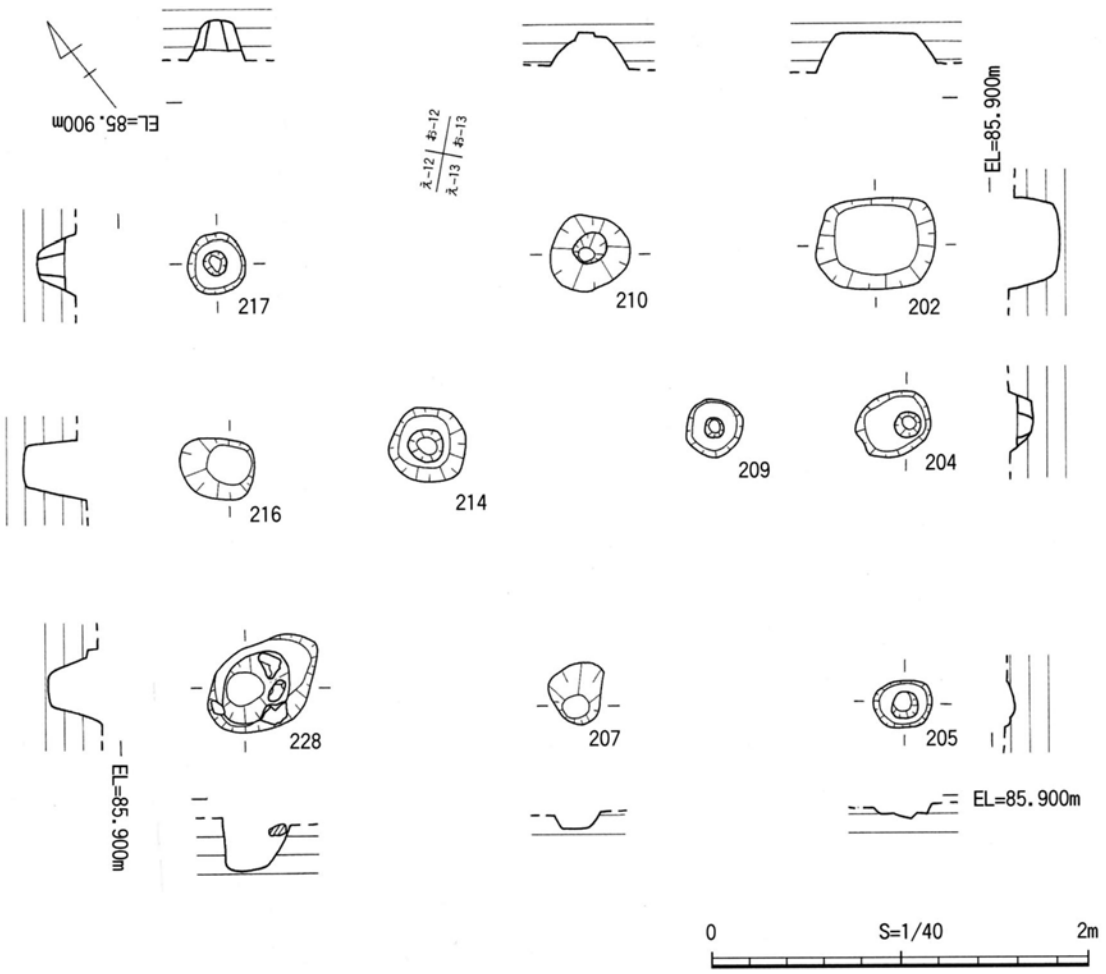
**建物３**（第16図　図版１）　平地造成跡内のえ-12・13グリット第６層地山面から検出された掘建柱建物である。10基の柱穴で構成される。

建物は北西－南東方向に棟をもち、主軸はN－54°－Wと西へ振れる。

建物の規模は長軸3.6m、短軸2.4mで、導き出せる床面積は約8.64㎡を測る。柱間寸法は長軸東側で北から1.9m、1.7m。西側が同方向から1.8m、1.75mとなる。短軸北側で北から1.0m、1.3m。南側が同方向から1.0m、1.4mとなる。このように対応する柱間寸法どうしはおおよそ合致して




**第15図　平地造成跡出土遺物(2)**




**第16図　建物３　平断面図**

いるが、中央の桁は中心から20cm程度東側にずれるという特徴をもっている。

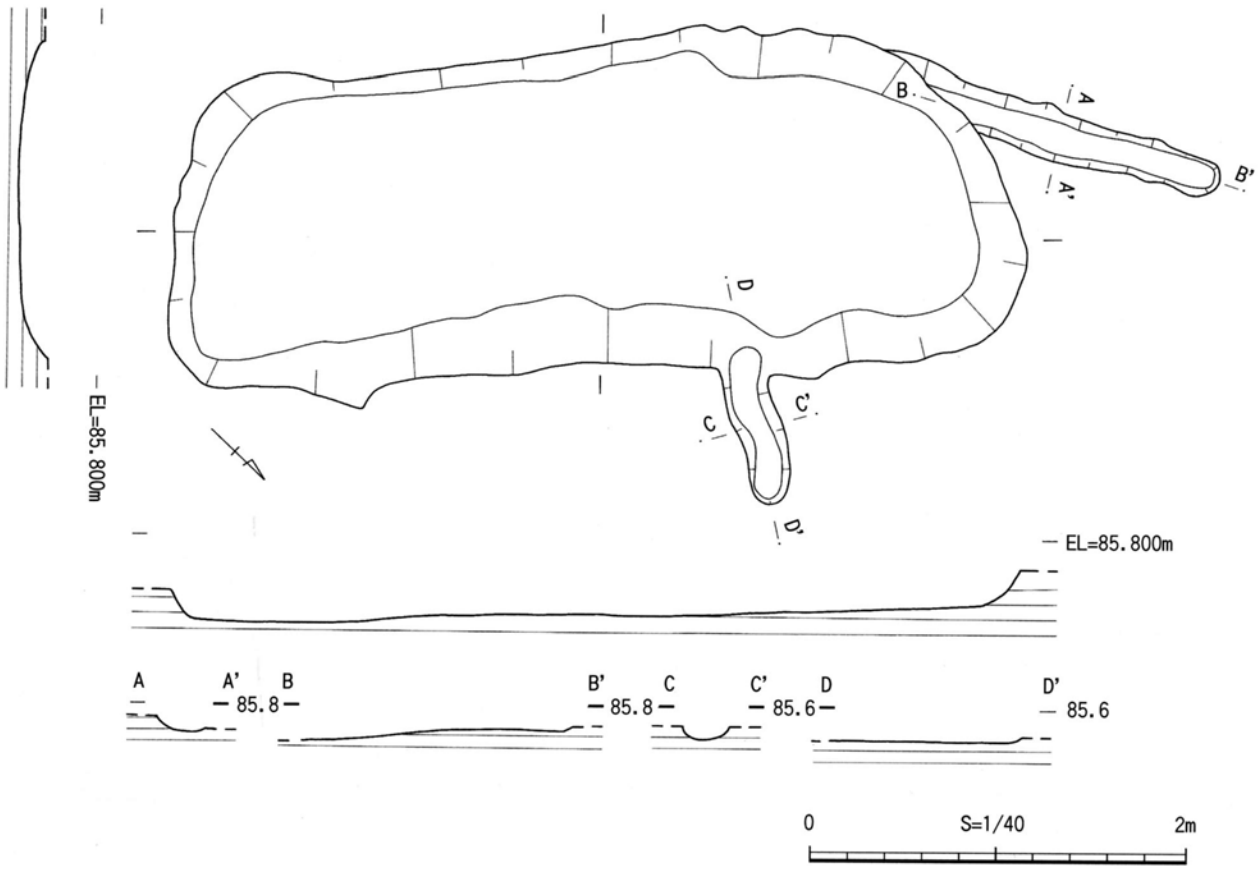
柱穴の平面形は不整円形を基本とし、比較的大きな柱穴202は隅丸長方形、柱穴203はややいびつな楕円形を呈する。断面形は下方で隅丸となる逆台形を基本とする。埋土は淡褐色を基調とした粘質土に基盤層の橙褐色土ブロックが混ざるものである。柱穴の深さについてはおのおの差異があり、基底部の計測値はEL＝85.791mからEL＝85.479mにわたっている。このように掘方について必ずしも規格性らしきものは認められないが、周辺でこのようなまとまりをもつピット群が存在しないことや前述の平地造成跡と主軸方向を同じくすることなどを検討した結果、建物として解釈するに至った。

柱痕については半数にあたる5基の柱穴で確認されている。柱穴204、柱穴217では直径12cm前後、柱穴214では直径18cm前後、柱穴209では直径10cm前後を測る柱痕が認められる。柱穴205では底部で直径14cmを測る窪みが確認され、柱穴210でも同様に底部で直径18-14cmを測る窪みが確認された。そのほか関連するものとしては、柱穴203の内縁部では楔石と思われる石灰岩礫3個が検出された。

**出土遺物**　柱穴207から沖縄産焼締陶器1片、柱穴214から沖縄産焼締陶器1片と骨片6点が得られたが、小破片のため図化を省略した。

**時期**　本遺構が平地造成地内にあり、柱穴内からの出土遺物も同地内で出土する遺物と同様のものであることから判断すると、17世紀後半以降のものと推定される。

**土坑304**（第17図　図版1）　平地造成跡内のお-10・11グリット第6層地山面から検出された。北西－




**第17図　土坑304　平断面図**

南東方向に主軸をもつ隅丸長方形の土坑である。長軸約4.5m、短軸約1.85mを測る。深さは約15cm程の浅いもので、底面は南東側へ緩く傾斜する。埋土は淡褐色の粘質土に基盤層の橙褐色土を交える。

土坑には導水及び排水の溝と推定される細い溝が2本取り付いている。北西端の高位に溝a、北側の低位に溝bが配置されていることから、流路は溝a→土坑（一時帯水）→溝bが想定できる。

**建物4**（第18図　図版1）　北東側の調査地境界となるお-15・16・17グリットの第6層地山面から検出された。実際に検出したのは南西側の一辺に相当すると考えられるピット列である。建物として捉えた場合、対応するピットが調査区外に展開するため、全形は不明である。しかし、以下のような特徴をもつことから建物番号を付与した。

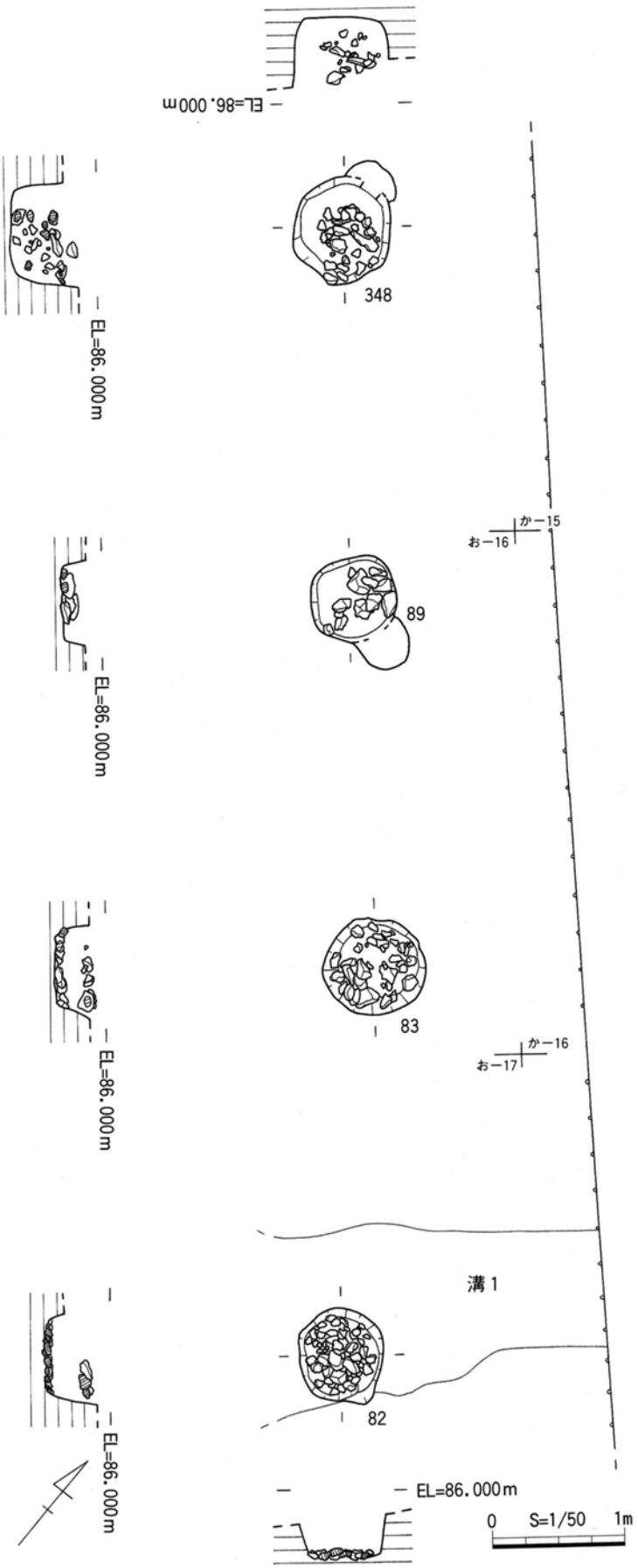
列は地山を掘り込む4基のピットから構成される。隅柱間は約8.5mを測る。

列の方位はN－40°－Wを示し、後述する建物5及び建物6と主軸を同じくする。

柱間寸法はピット348～89間、ピット89～83間が2.8m、ピット83～82間が2.9mを測る。

ピットの形状については、平面形で不整円形を基本とし、直径はピット348で81-72cm。ピット89で66-60cm。ピット83で78-73cm。ピット82で71-62cmを測る大型のものである。

断面形は直径に比べ鍋底状に浅く掘り込まれており、底面ではこの柱列で最も際立った特徴として上げられる根石状の集石群が検出された。最も遺存状態が良



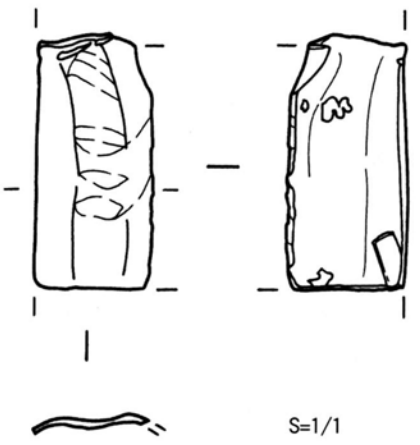

**第18図　建物4　平断面図**

好と思われるピット82では拳大の石灰岩礫が底面にほぼ隙間無く敷き詰められており、且つ礫敷きの上面は平坦に揃えられていた。隣のピット83・84でも礫の量はやや少なくなるが同様である。但し、ピット348では掘り方が深く礫は埋土中に乱されており、二次的な攪乱を窺わせる。

埋土は淡褐色土で基本的に礫は含まないが検出面では数個の礫が散見される。なお、上面は近年の側溝工事の際、攪乱された形跡もあり、検出面の礫について柱穴の構造の一部と捉えられるか判断し難い。

以上を包括的に解釈すると、建物4は礎石建ちの建物であった可能性が高いと思われる。現在、隣接地は農地となっており、対応する柱穴が遺存している可能性が高いものと思われる。今後の調査の進展に期待したい。

**出土遺物**（第19図　図版26）　ピット348から出土した用途不明の青銅製品である。形状は長方形の板状のもので三辺は切断された痕があり、二次的に加工された製品と思われる。長軸の中央は溝状に打ち窪められており、成型時に生じたと思われる半円形状の打痕が認められる。同ピットではその他に鉄片1点が出土した。




**第19図　ピット348出土遺物**

**建物5**（第20図　図版1）　え・お-18・20グリットの第6層地山面から検出された掘建柱建物である。合計4基の柱穴で構成され、4本柱の高床式倉庫が想定できる。建物規模は、柱間寸法で長軸3.4m、短軸3.0mの等間を測る。建物は北西ー南東方向に棟をもち、主軸はN－43°－Wと西に振れる。

柱穴の平面形は不定円形又は楕円形、断面形は逆台形を基本とする。底面の計測値は柱穴422（EL＝85.85m）、柱穴425（EL＝85.80m）、柱穴63（EL＝85.75m）、柱穴60（EL＝85.75m）をそれぞれ測る。これらは柱穴425を中間値として±5cmの範囲にあり、特に建物の短軸を構成する柱穴どうしでほぼ一定している。

埋土は暗褐色の粘質土に基盤層の橙褐色土を交える。柱穴422では壁面際の上位に楔石と思われる差し渡し20cm程の石灰岩礫1個が配置されていた。

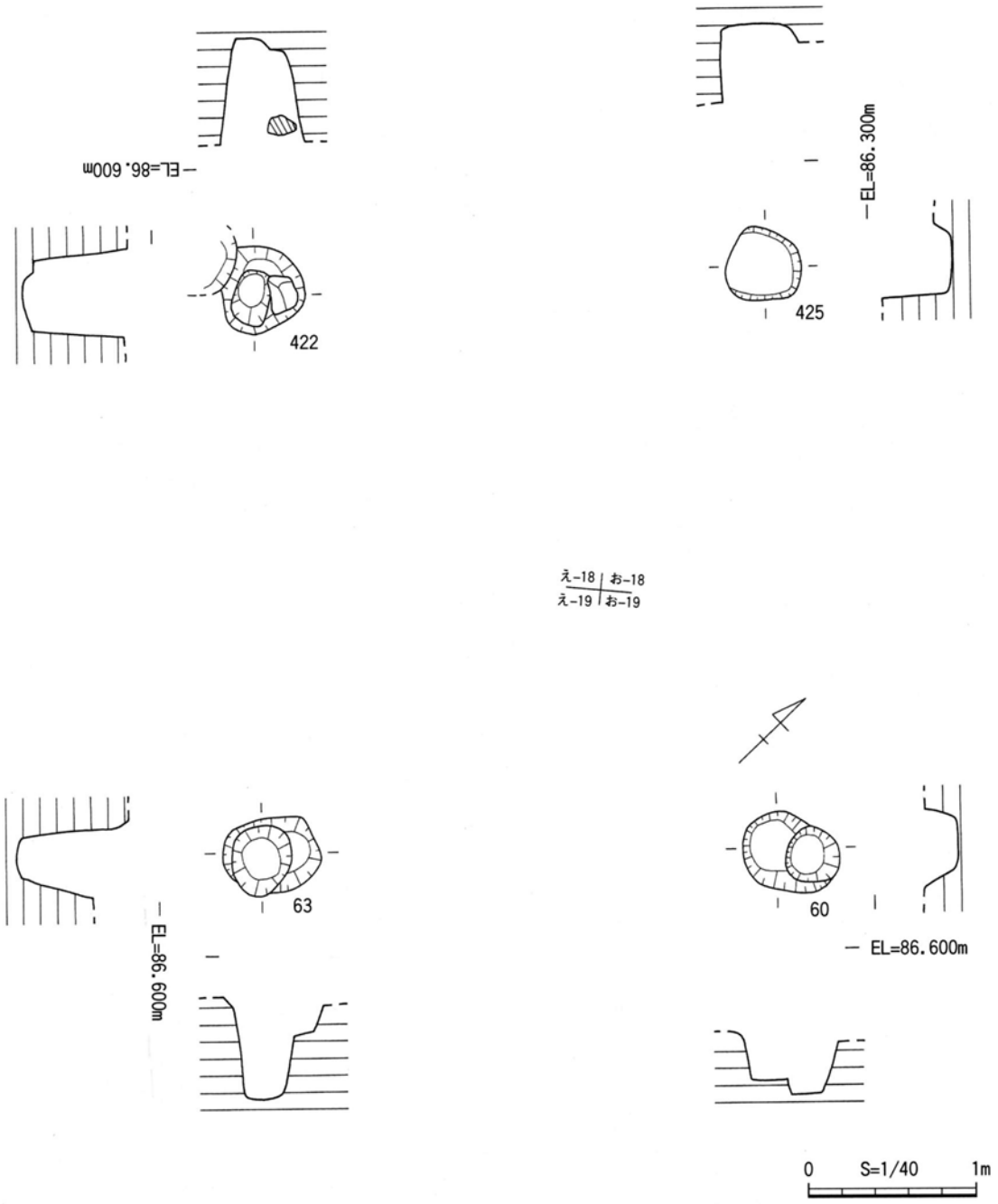
**出土遺物**（第21図　図版25）　1は柱穴66から出土した青磁壷の落とし底である。推定底径18cm程を測る恐らく酒会壷ものと推定される落とし底部分の破片である。復元直径は15.4cm程の円盤状で中央がやや落ち込む形状をしている。外面下端には壷胴部から剥落した痕跡を示す釉薬の乖離面が帯状に巡っている。素地は灰白色の粒子が細かいもので、施釉は透明感のある淡緑色の釉を外底面で比較的厚く総釉し、内底面では薄く掛けられる。内底面の中央を円形に釉剥ぎしている。貫入は外底面に荒く、内底面には見られない。同柱穴からはその他に染付粗製碗1片、不明陶器1片、焼土1点が出土した。

2は柱穴67から出土した青花小杯である。復元口径5.2cmを測る。器形は底部からやや開き気味に立ち上がり口縁部に至って外反する。素地は白色の微粒子。文様は口縁部外面に2本の細圏線と抽象的な文様を描く。口縁部内面にも2本の圏線が施される。口唇部は銹釉で縁取られており、全体に丁寧な造りとの印象を受ける。同柱穴からはその他に青花粗製碗1片、高麗瓦1片、沖縄産擂鉢1片が出土している。

3は柱穴60から出土した沖縄産無釉擂鉢である。復元口径20.8cmを測る。器形は底部から直線的に開き、口唇部に至ってほぼ水平方向に平縁となる。外面直下の稜は明瞭ではなく擂鉢編年のⅢ式に分類されるものである。内面の櫛目は10本前後を1単位をすると思われるが判然としない。素地は明茶色の細粒子で外表面には気泡が見られる。全面に無釉であるが口縁部直下に黄褐色の自然釉が帯状に着している。口縁部には窯詰めの際に他の器と互いに口縁部を合わせて焼成した痕跡が見られる。

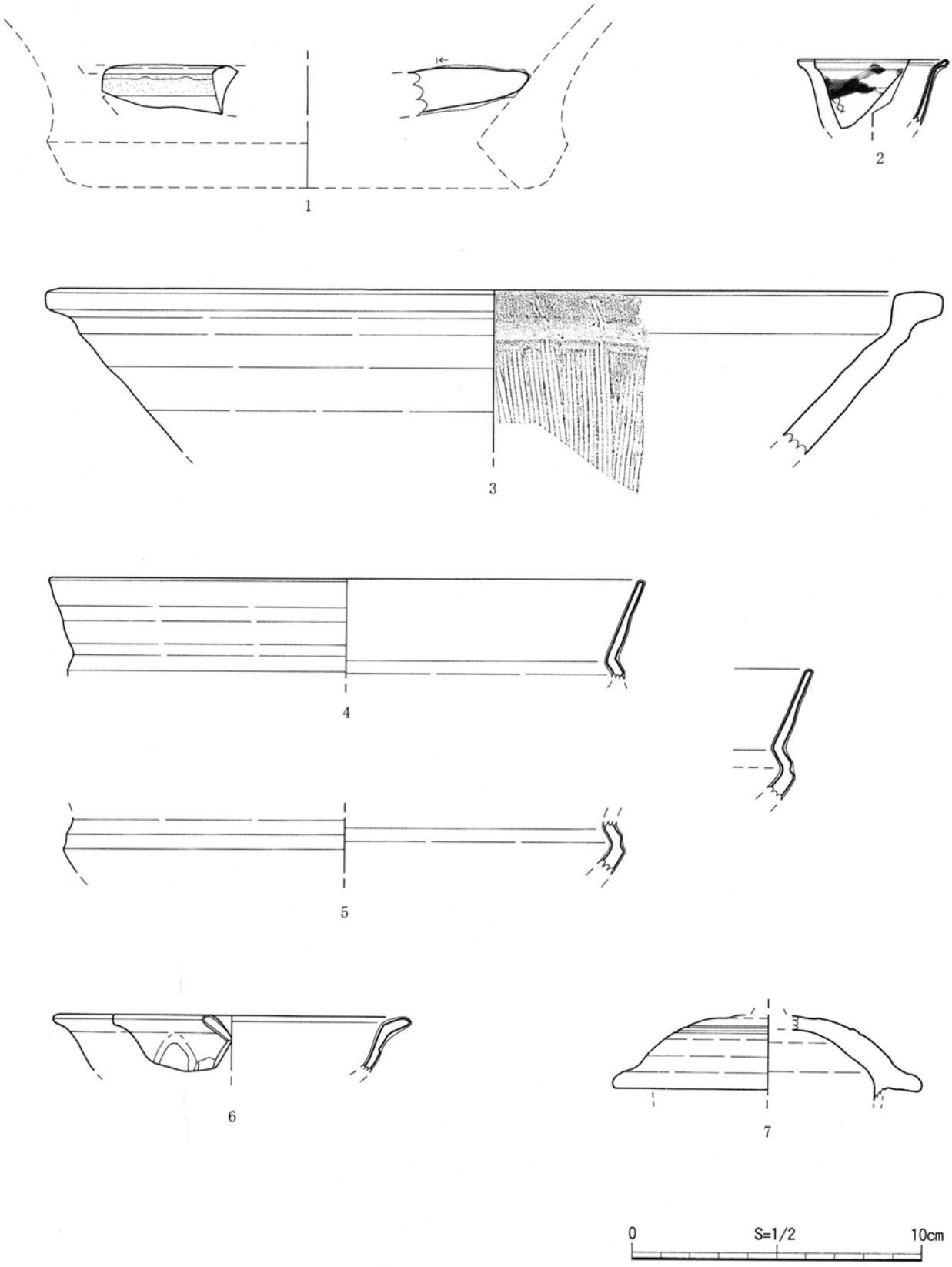
同柱穴ではその他に青磁1片、不明陶器1片、石片2点が出土した。

4は青磁の鉢と推定される口縁部の資料である。柱穴60で出土しており、同遺物によれば復元口径21cmを測る。同一個体と思われる5は隣接する柱穴67から出土した胴部の小片である。両遺物は接合は適わ




**第20図　建物5　平断面図**

ないものの互いに重複する部位を有すると考えられることから図上復元を試みた。復元図によると器形は胴部で一旦、逆「く」の字に内湾し、口縁部にかけて今度は外側へ直線的に開く。胴部外面の屈曲部には１本の圏陰線を巡らして角部分を大きく削り取る。このため屈曲部は二重に角が付く。素地は白色




**第21図　建物５　柱穴内出土遺物**

の微粒子。施釉は淡青色の釉を内外に施し、屈曲部には釉がやや厚く溜まっている。

6は柱穴422から出土した青磁連弁文口折皿である。復元口径12.4cmを測る平鍔の口折皿である。外面に片切彫りによる無鎬連弁文を施す。施釉は淡緑色の釉をやや厚めに掛ける。貫入は見られない。素地は淡灰白色の粒子の細かいものである。

7は柱穴425から出土した沖縄産無釉陶器蓋である。復元直径10.6cmを測る。素地は茶褐色で蓋上部に2本の沈線を巡らしている。同柱穴からはその他に骨片4点が出土した。

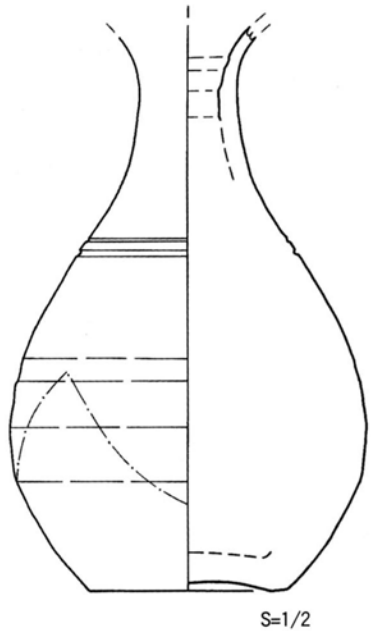
その他に柱穴63からは鉄釘1点、沖縄産軟質陶器（アカムン）1片、焼骨1点が出土した。

**建物6**（第22図　図版1）　え・お-19・20グリットの第6層地山面から検出された掘建柱建物である。合計4基の柱穴で構成され、4本柱の高床式倉庫が想定できる。建物規模は、長軸3.25m、短軸3.1mの等間を測る。建物は北西ー南東方向に棟をもち、主軸はN－45°－Wと西に振れる。底面の計測値は柱穴429（EL＝85.84m）、柱穴56（EL＝85.86m）、柱穴444（EL＝85.84m）、柱穴448（EL＝85.72m）をそれぞれ測る。これらは柱穴448でやや深い計測値を測るが、その他の柱穴では底面の深さは一定しているといえる。

柱穴の平面形は円形、断面形は逆台形を基本とする。埋土は暗褐色の粘質土に基盤層の橙褐色土を交える。柱穴56では底部に石灰岩製の扁平な根固石1個が配置されていた。

**出土遺物**（第23図　図版25）　柱穴444から出土した沖縄産焼締陶器瓶である。柱痕跡の中位から出土しており、柱を抜き取った後に投げ入れられたことが想定できる出土状況であった。口縁部を欠くものの頸部以下が完形の状態である。器高15cm程を測る。器形はいわゆる「ラッキョウ形」で、すぼまった頸部を経て肩部がなだらかに落ち、胴部は丸く膨らむ。肩の上部に二本の沈線を施す。底部はベタ底で、雑に仕上げられる。胎土は石英粒を多く含み、器面にはそれらの露頭が見られる。

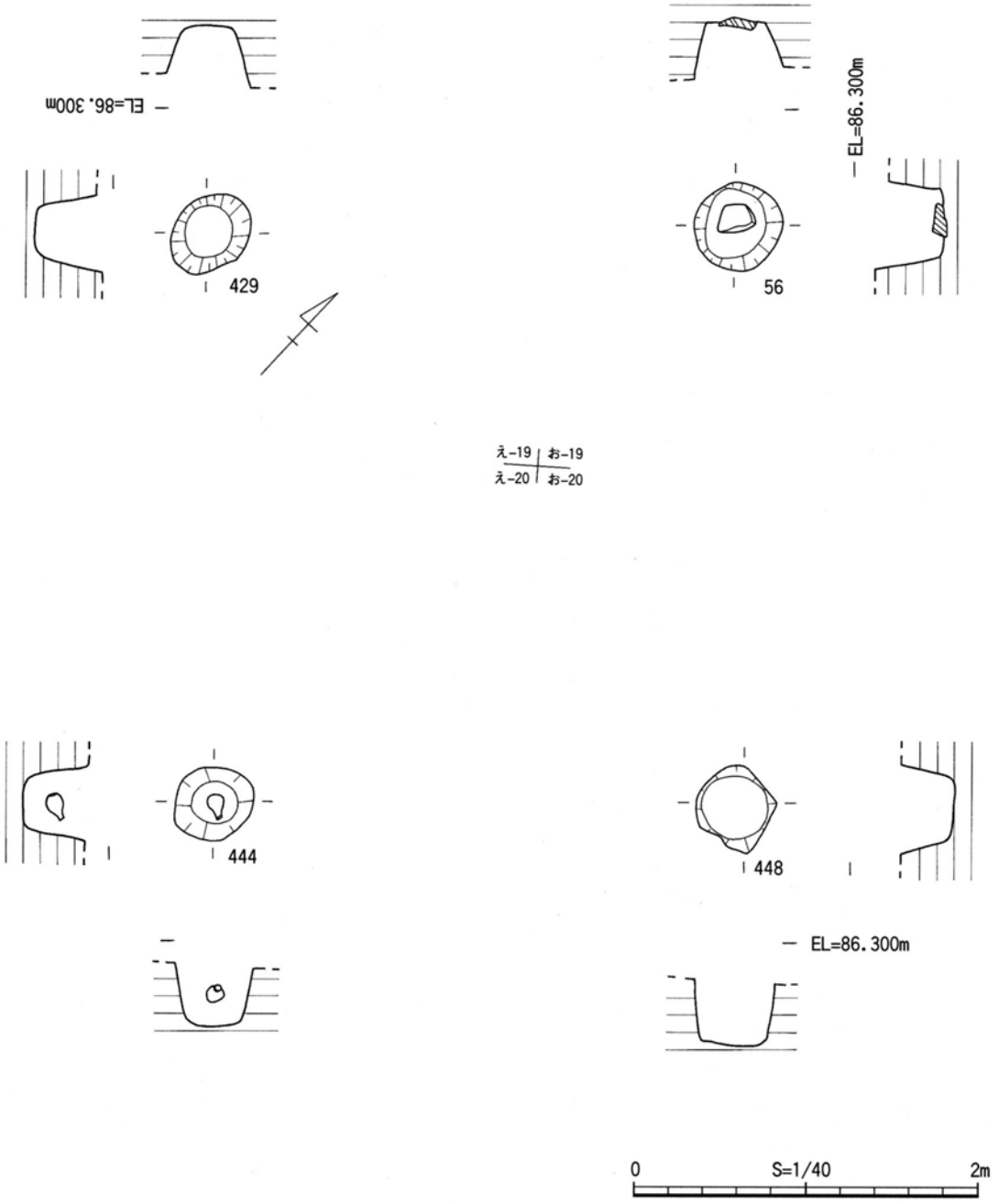
施釉については褐色の釉を底部近くまで施すが、施釉中に付いたと思われる指の痕が二本とその間に逆V字状の露胎部が観察できる。おそらく底部を手のひらで持ち、親指と人差し指で支え、釉薬を張った漕の中に口を下にして漬けて180°回転させ、引き上げる。といった作業が想定される。




**第23図　柱穴444出土遺物**

**土坑13**（第24図　図版1）　え-8・9グリットの第6層地山面から検出された。両遺構とも北西ー南東方向に主軸をもつややいびつな隅丸長方形の土坑である。土坑13は長径約1.7m、短径約0.95mを測る。深さは約4.5cm程の浅いもので、底面は平坦である。北西端を同様の土坑によって切られている。こちらは長径約1.4m、短径約1.0mを測る。深さは約18cmを測り、底面は南東側へやや傾斜している。双方とも埋土は淡褐色の粘質土に基盤層の橙褐色土を交える。

土坑13では南東隅に焼土の集中部が検出された。科学分析によると燃料材の種類は木本類でマツ科マ

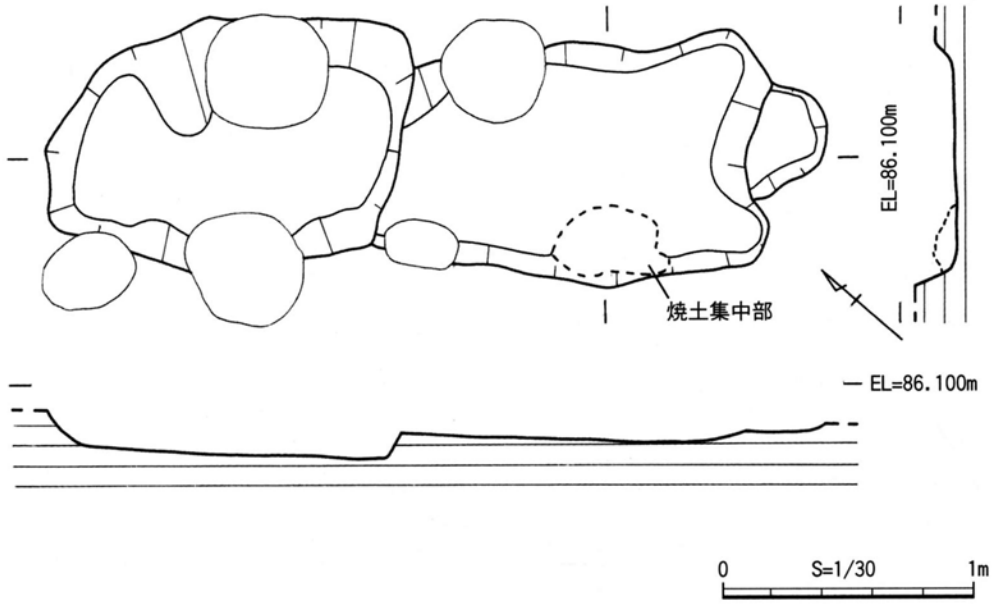



**第22図　建物６　平断面図**

ツ属複維管束亜属、草本類ではイネ、栽培種か否か不明のムギ属、不明組織片などが同定されている。放射性炭素年代測定（AMS法）結果は340±40y.B.P（17世紀初め頃）が得られた。

**出土遺物**　青磁２片、白磁１片、骨片１点が出土したが、細片のため図化を省略した。

**土坑318**（第25図　図版１・８）　え-10グリットの第６層地山面から検出された。西側を平地造成による攪乱で切られ、そこから埋土や遺物が流出している。残存部の長径約1.25mを測る。深さは約0.2mを測り、底面は東側に向かって傾斜している。埋土は10～30cm大の石灰岩礫や炭化物、焼土を多量に含む暗褐色土層で獣骨片や陶磁器片が混在している。

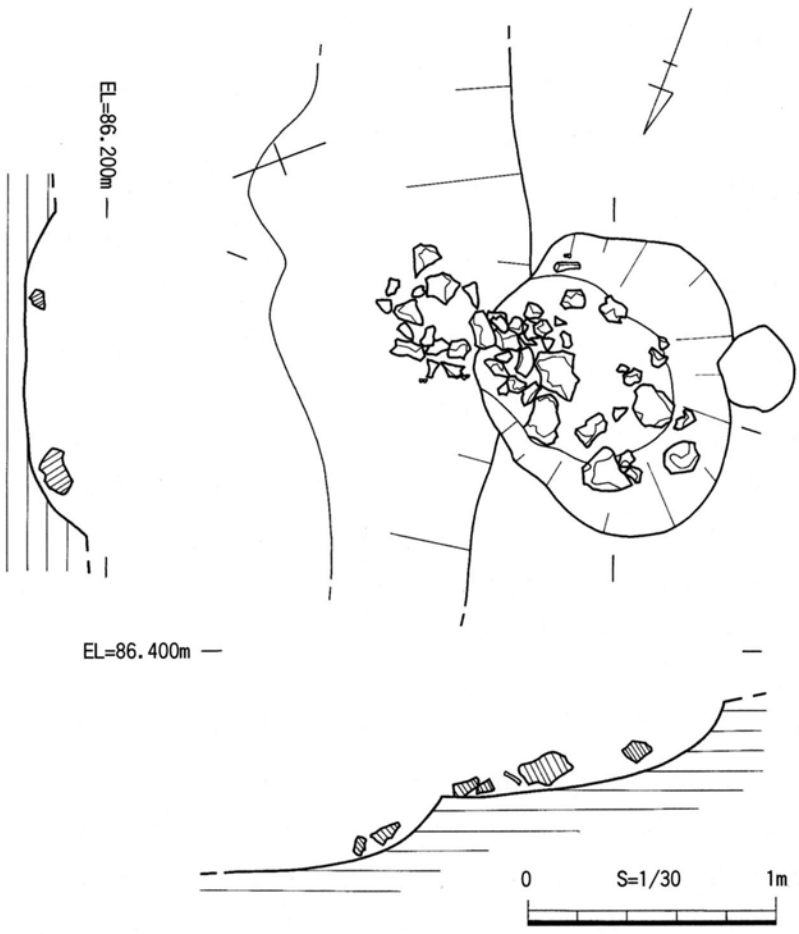



第24図　土坑13　平断面図

**科学分析**　イネ科や他の草本類に由来する珪化組織片が検出され、これらの植物体またはその灰が混入していることがうかがえる。寄生虫卵は全く検出されず、排泄物の痕跡を見いだすことは難しい。獣骨片など食物残滓の廃棄坑が考えられるとしている。

**土坑86・87・88**（第26図　図版1・10）　え-16・17グリットの第6層地山面からまとまって検出された。いずれも長径1m前後の円形または楕円形の浅い土坑である。

埋土は暗褐色の粘質土で、獣骨片、土器、高麗瓦片などの遺物と共に拳大の石灰岩礫が多量に混在するなどの共通点をもっており、同種の遺構と見られ



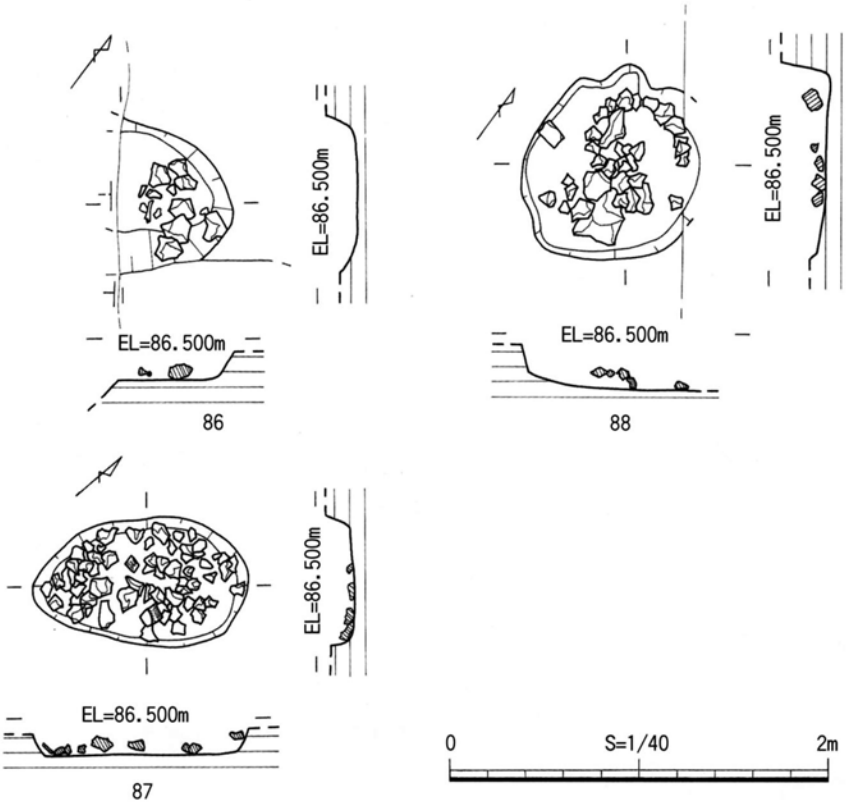

第25図　土坑318　平断面図

る。

土坑86は後世の溝や現代の攪乱により大半が破壊されており、全形は不明である。深さは最深部で13cm程を測り、残存する底面は平坦である。

土坑87は長径約1.15m、短径約0.65mを測るややいびつな楕円形の土坑である。深さは13cm程を測り、底面は平坦である。主軸は北東－南西方向を示す。

土坑88は現代の攪乱により北東端が破壊されている。残存部で径約1.0mを測る。深さは約26cmを測り、底面は北側に向かってやや傾斜している。




**第26図　土坑86・87・88　平断面図**

**科学分析**　イネ科や他の草本類に由来する珪化組織片が検出され、これらの植物体またはその灰が混入していることがうかがえる。寄生虫卵は全く検出されず、排泄物の痕跡を見いだすことは難しい。獣骨片など食物残滓とともに廃棄坑と考えられる。

**出土遺物**　土坑86では土器１点、獣骨片多数。土坑87では青磁３点、褐釉陶器１点、高麗瓦３点、獣骨多数。土坑88では獣骨多数が出土したが、小破片のため、図化を省略した。

**溝10**（第27図　図版１・７）　え－10グリッドの第６層地山面から検出された。軸線は磁北から東方へ38°振れる。南端は攪乱により消滅している。埋土は淡褐色の粘質土に基盤層の橙褐色土を交える。溝は検出面で幅0.88～0.68m、深さは12cm前後を測る。周辺に展開する各遺構はピット153を除くと切り合い関係はなく、溝を避けた、或いは溝に添った配置を取っているものと思われる。

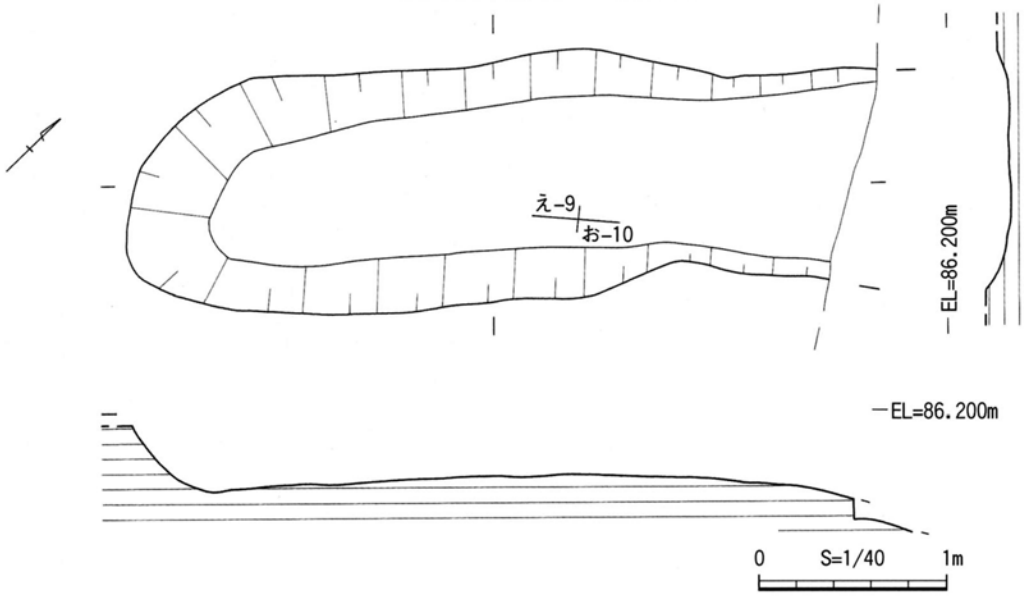
**出土遺物**　骨片が13点出土している。

**溝11**（第28図　図版１・７）　え・お－９グリッドの３層上面から掘り込まれ、底部は地山に達する溝である。軸線は磁北から東方へ42°振れる。溝は検出面で幅1.3～1.1m、深さは34～10cm程を測る。埋土は淡褐色の粘質土である。東側へは途中から現代の攪乱によって消滅している。

**出土遺物**（第29図　図版26）　図に示す口径14.2cmを測る沖縄産無釉陶器壷の他に青磁片３点、青花１点、石灰岩（結晶）礫２点、沖縄産無釉陶器４点が得られた。

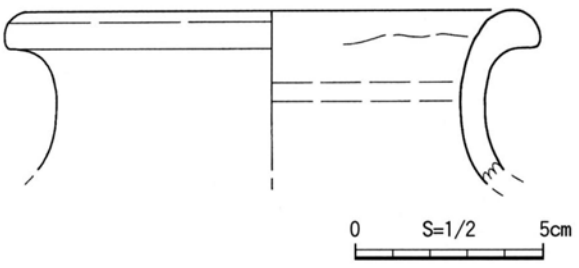



第27図　溝10　平断面図



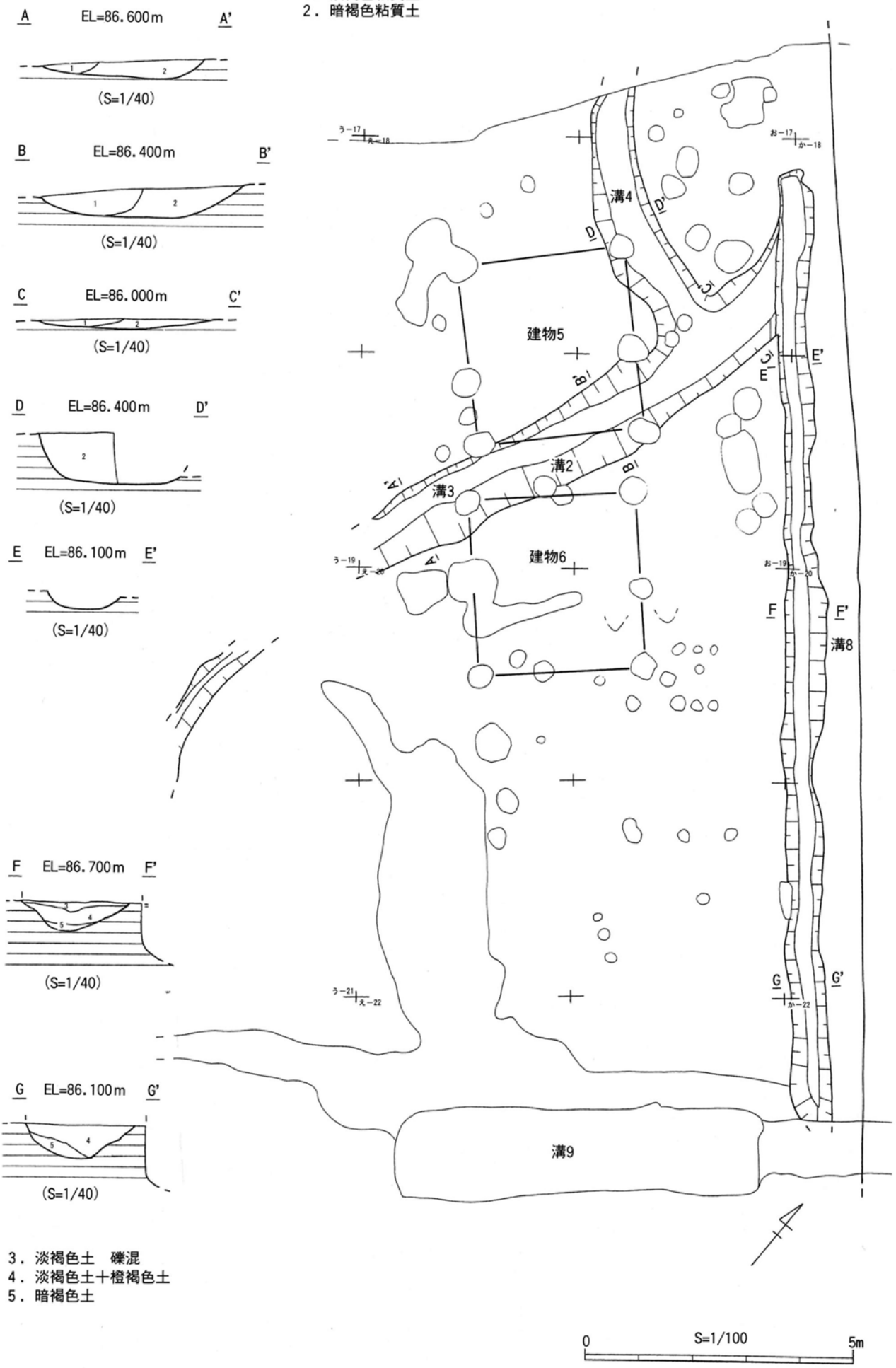

第28図　溝11　平断面図

**溝２・３・４**（第30図　図版１・５）　え・お-17～20グリットの６層地山面から検出された。主体となる溝２・３は磁北から東方へ約20°振れる。溝２・３は並立しており、北西側が溝３、南東側が溝２である。さらに溝３には溝４が北西側から合流する。




第29図　溝11　出土遺物

埋土は溝２が淡褐色の粘質土。溝３および溝４が暗褐色の粘質土である。各溝や周辺の遺構との切り合い関係を見てみると、溝の先後関係では溝３・４が先に開鑿され、最終的には溝２となったのちに廃棄されたものと理解される。周辺遺構との重複関係では、溝３と建物５・６の切り合いが該当するが、建物５の柱穴60、61および建物６の柱穴54、429が溝３を切っているため、後に建てられたものであることが理解される。更に建物５、６と軸線を同じくする溝８が東側で検出されている。当地の排水処理を溝３から新たに受け継いだものであろう。




第30図　溝２・３・４平断面図

**科学分析**　溝２・３では少ないながらも水生珪藻や陸生珪藻など生育環境が異なる種類が産出した。このことから溝内は帯水と乾燥を繰り返したことを反映しているものとしている。

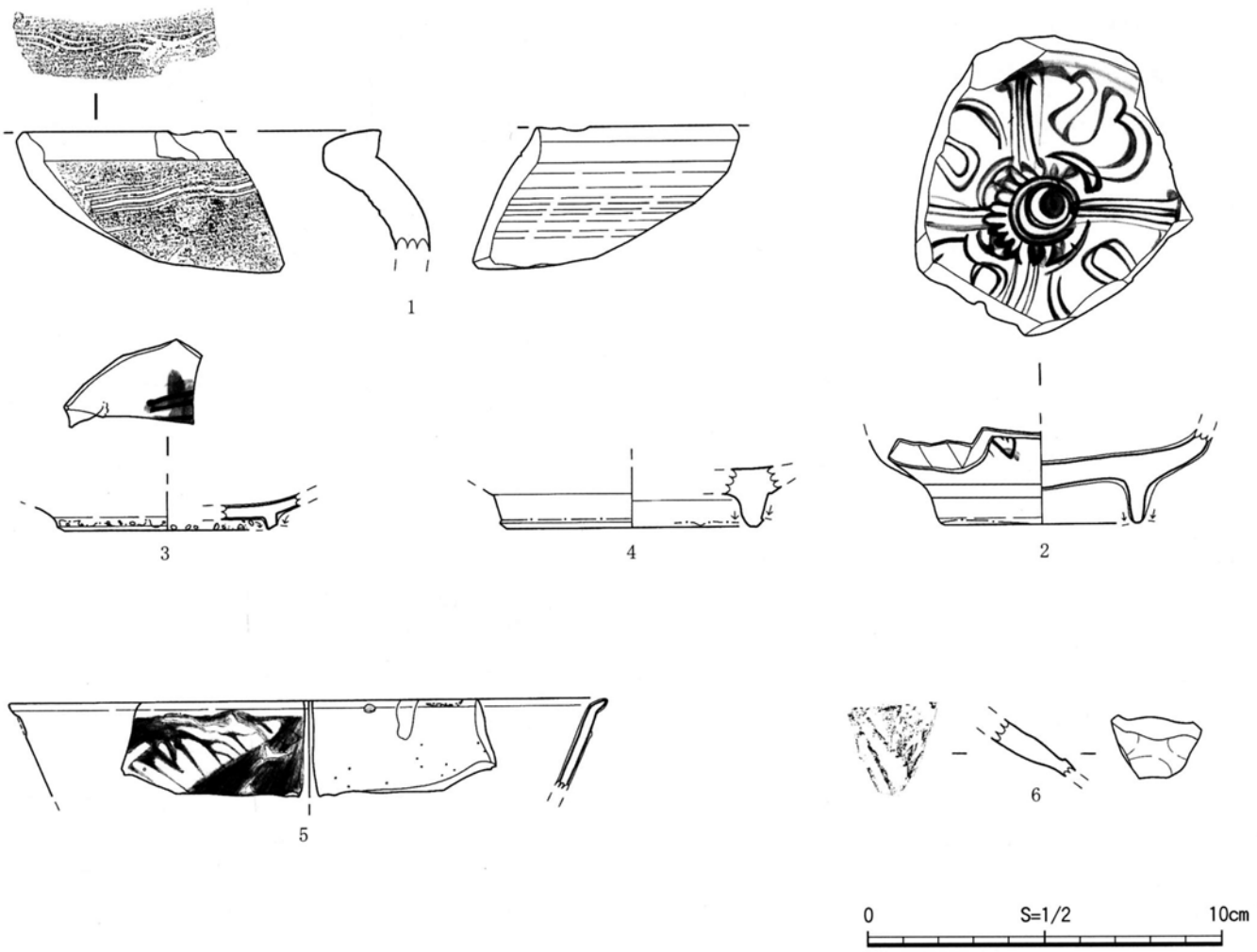
**出土遺物**（第31図　図版26）　１は沖縄産の無釉の水鉢である。口縁部～胴部にかけての資料で、文様は外面に４本櫛による波状文を描く。溝２からの出土。溝２からはその他に青磁２片、沖縄産軟質陶器（アカムン）１片が出土している。

２は青花腰折碗の底部破片である。内底面に十字花文、高台外面に２本の界線を描く。呉須の発色はやや淡い。淡灰白色の釉を施すが、畳付は無釉である。素地は淡灰白色の細粒子で黒色粒子が混入する。貫入は全体にみられる。時期は15世紀末頃～16世紀中葉のものである。溝３からの出土。

３は青花皿の底部破片である。全体に薄手の造りで高台も低い。素地は白色の細粒子。高台の内外面に窯詰めの際の敷砂が溶着している。内底面に山水文と思われる文様を施す。呉須の発色はやや黒ずんでいる。施釉は淡青白色の釉を施すが畳付のみ無釉である。溝４から出土した。

４は青花粗製碗の底部破片である。溝３からの出土。溝３からは図化された遺物以外に褐釉陶器２片、瓦１片、不明陶器１片、獣骨片多数が得られた。

５は青花碗の口縁部破片である。推定口径16.8cmを測る。文様は口縁内面に１本の界線を施す。外面




**第31図　溝２・３・４出土遺物**

にある文様は判然としない。溝４からの出土。

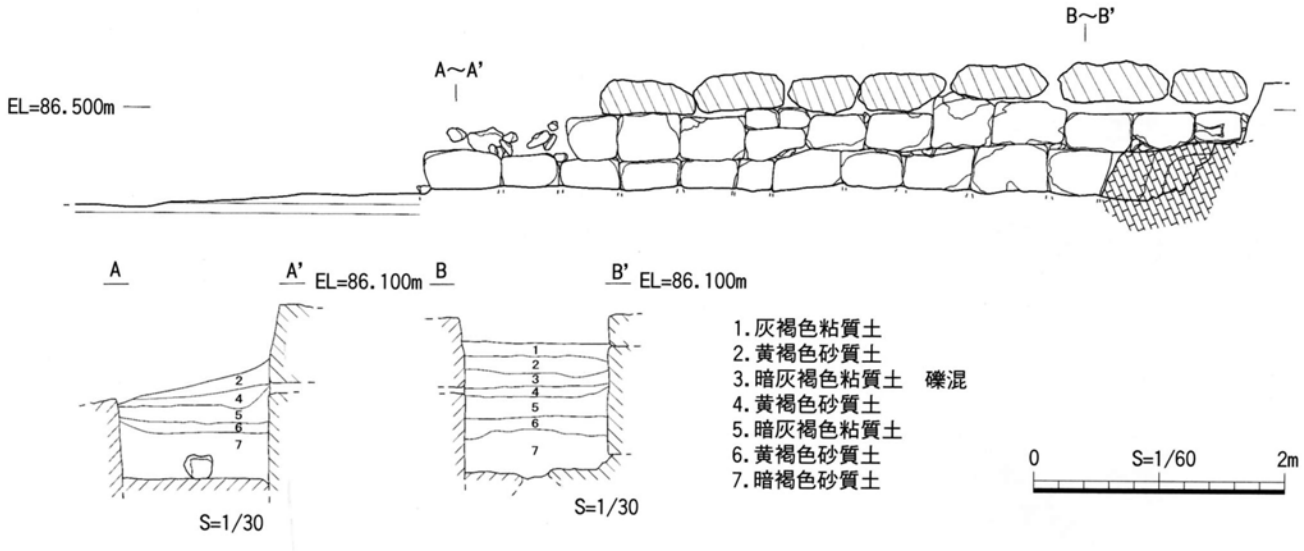
６はタイ産半練土器の身の破片資料である。溝４から出土。溝４からは図化された遺物以外に白磁１片、高麗瓦１片、不明陶器４片、獣骨（歯）１点が得られた。

### 近代の遺構

**溝９**（第９・32図　図版11）　戦後、道路に伴う暗渠として設けられたと考えられる石造りの溝である。え・お－22グリットの１層下面から掘り込まれ、底部は地山に達している。溝は検出面で幅65cm前後、深さは60～70cmを測る。溝は底面から両側面にかけて石灰岩の切石を用いている。蓋石には荒く加工した扁平な石灰石８個で覆っている。なお、セメント材などは使用されていない。溝の軸線は、道路と直交する位置にある。更に溝の両端からは道路の側溝と思われる素堀りの溝が並行する。出土遺物はガラス瓶や缶詰の空き缶などである。

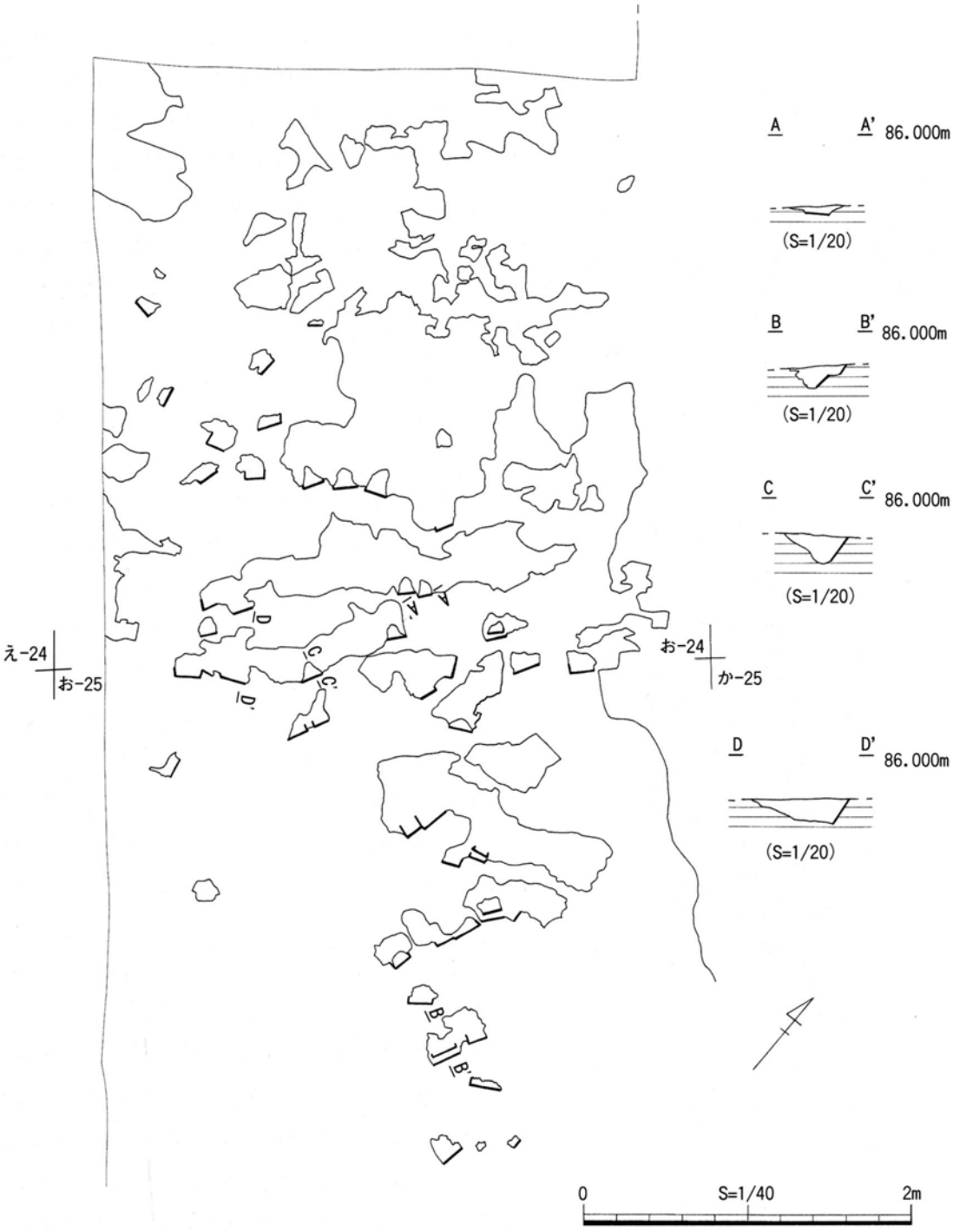
溝９の下位には素掘りの溝７がある。このことから、もともとは溝７が一帯の排水施設であったと思われる。道路建設に伴い、暗渠へ作り替えられたものであろう。同様の石造りの溝がⅡ-A地区でも確認されている。

**耕具痕**（第33図　図版12）　平鍬によるものとみられる耕具痕がお－24・25グリット付近で検出された。２層下面から掘り込まれ、底部は地山に達している。平面観は刃先が食い込んだ痕跡を示す一辺の直線と、その後部に耕起による不定形の掘り方を有するものを基本とする。総数は40個程が確認され、これらの刃幅は13cm前後を測るものが最も多い。刃先の方向は概ね南東方向に向けられている。同様の




**第32図　溝９　断面図**

耕具痕がⅡ-A地区およびⅡ-B地区でも確認されている。




**第33図　耕具痕　平断面図**

## 第２節　Ⅱ－A地区

### (1)層　序　（第35図　図版13）

**層序の概要**　大部分が近代までの耕作土層及び戦後の盛土整地層で占められる。順に見ていくと、表土層は戦後の道路建設に伴う盛土が複数回に渡ってなされており、地形の平坦化が顕著である。次いで第２層が調査区全域に広がる耕作土層であることはⅠ地区と同様、遺跡が耕作地へと変遷したことをもの語っている。第３層はグスク期に比定される暗褐色の遺物包含層で調査区北西端に僅かな堆積がある。地山の橙褐色土層は北西方向へ低く堆積しており、調査区の東半は岩山であったと推察される石灰岩盤の露頭部がほぼ占めている。

岩盤の上面は平坦地化されており、戦後の道路建設等により削平されたようである。

確認された層序は概ね以下のような堆積を示していた。

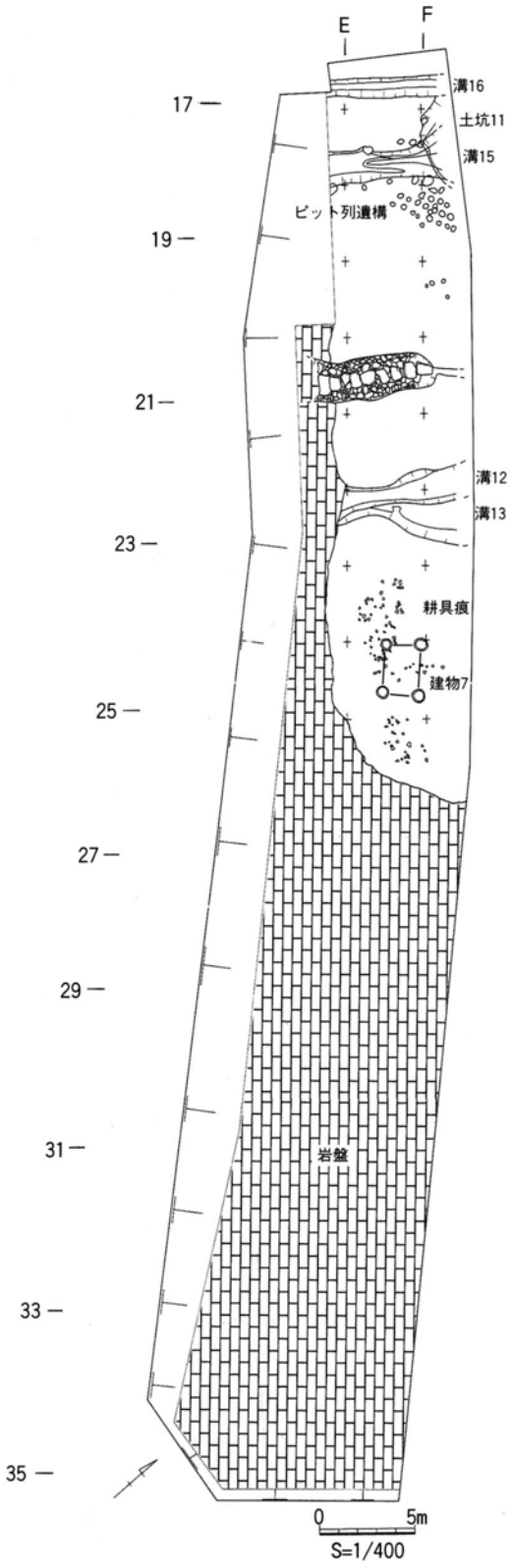
１層：現代の盛土層で機械掘削により、除去対象となった層である。複数層に細分でき、旧市道内では上位から市道建設に伴うアスファルト、琉球石灰岩粒の路盤層及び客土までを範疇とした。旧市道外はほぼ大半が石灰岩盤に至る現代の盛土層であったため、同じくその範疇とした。

２層：焼土粒、炭粒を僅かに含む黄灰褐色土層である。ほぼ調査区全域に分布し、水平的、平均的な堆積を見せる。一部を除き地山に至っている。最下部では農耕具による耕作痕を伴う。上位で灰褐色の粘土が塊状に混ざり、砲弾片が多く出土するなど層状は荒れているが、中位以下は安定していく。道路建設直前までの耕作土と思われる。

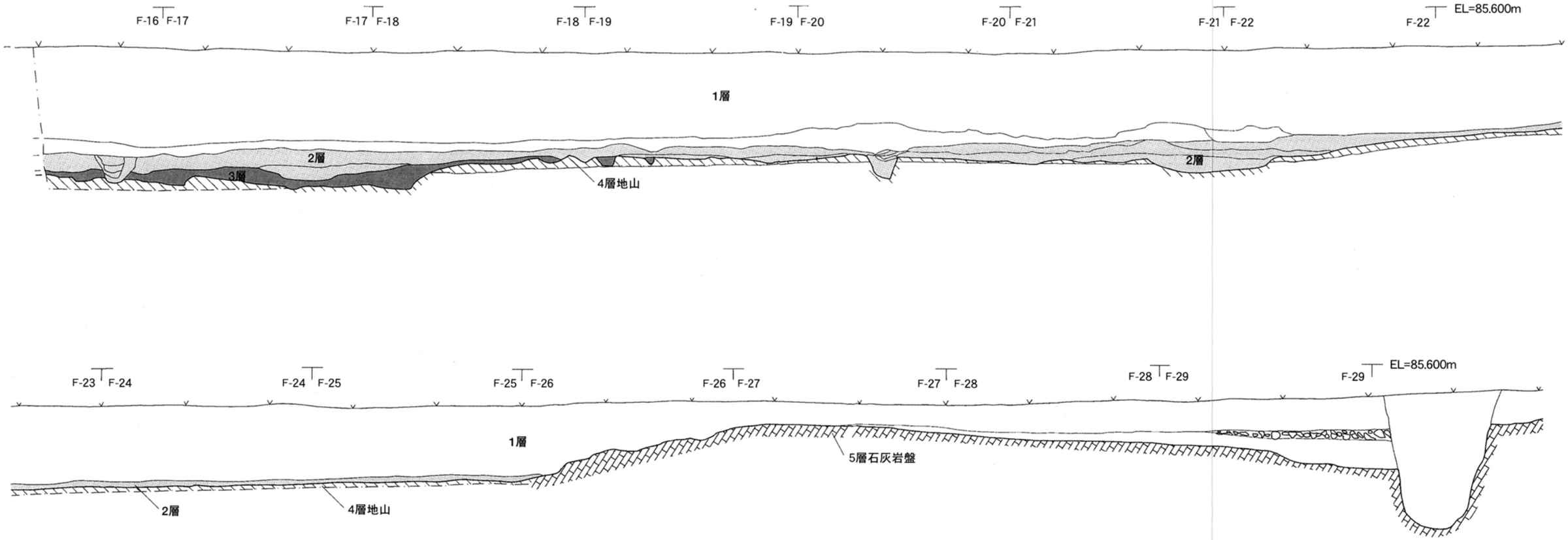
３層：焼土粒、炭化粒を多く含む暗褐色土層。本層は西端の低地部に僅かに分布域がある。層厚は非常に薄く、地形の窪み部分や土坑などの遺構内に僅かに見られる。層の上部は耕作による攪乱によりかなり荒れている。下り勾配の北西端でやや堆積を増す傾向があり、分布範囲は調査区外に広がるものと思われる。

４層：橙褐色土層。方言名：マージ。地山である。

５層：琉球石灰岩。調査区東半の大部分と南端に露頭する。




**第34図　Ⅱ－A地区　遺構全体図**


F-16
F-17
F-18
F-19
F-20
F-21
F-22
EL=85.600m
1層
2層
3層
4層地山
2層
F-23
F-24
F-25
F-26
F-27
F-28
F-29
EL=85.600m
1層
5層石灰岩盤
2層
4層地山
F-30
F-31
F-32
F-33
F-34
EL=87.200m
1層
5層石灰岩盤
D-16
E-16
F-16
1層
EL=84.000m
2層
3層
4層地山
0
S=1/80
4m

第35図　Ⅱ-A地区　層序

(2)遺　構　（第34図　巻頭図版３）

**遺構の概要**　グスク時代のピット列遺構、近世の堀立柱建物跡１棟、溝状遺構などが検出された。グスク時代、近世の遺構分布は、前述したⅠ地区ほど活発ではなく、その希薄性が指摘できる。西端部に僅かなグスク時代の遺構の分布域があるが、これらは位置関係や共伴遺物の年代などから後述するⅡ-B地区の遺構群に帰属するものと考えられる。また、地山直上層の殆どを近代までの耕作層が占めているため、遺構上面には耕作土層から掘り込まれた平鍬によるものと思われる耕作痕が多数検出された。以下、検出された主要な遺構について、各個に記す。

**ピット列遺構**（第36図　図版14～18）　F-17グリットを中心とする第４層地山面から検出された。本遺構は、４列に並ぶ浅いピット、合計25基で構成される。列は東西方向へ軸をもち、さらに列は調査区外へ展開するようである。

ピットの平面形は、ほぼ円形を呈し、掘具痕が明瞭なものでは８角前後の多角形である。なお、掘具は平刀で多角形一辺の最小幅から刃幅約10cmを推定できる。ピットの直径は30cm前後を測る。隣り合うピット同士の間隔は概ね15～20cmを測る。ピットの断面形は浅鉢又はボール状を呈している。深さは15cm前後を測る。底面下には細い亀裂のような跡がみられるものがあり、後述する埋土が充填される。

埋土は二種類確認でき、その堆積形態も二種類あった。①淡褐色土に少量の黒色土粒やマージ粒が混ざる粘質土と、②前述の淡褐色土層を主体にするが、上層にピット外周に比べ一回りほど小さく不定形な黒色土層が堆積する二重構造をもつものがある。前者は後者が大部分を占める各列内に１基程度混在しており、黒色土が投入されなかった結果による差異とも考えられるが、この二重構造は一体の機能を有するのか、個別のものであったのかは判断できなかった。

ピットは上記に見るように極めて強い規格性をもち、列内における配置、各列の方向など計画性をもって掘削されている。この種の遺構は、宜野湾市野嵩タマタ原遺跡（註１）においてその存在、用途が指摘され、近年、検出例が増えつつある遺構である。用途については主に形態的な特徴から農耕関連の遺構と考えられているが、具体的な性格の究明は更に資料の蓄積が必要である。

主な類例遺構として宜野湾市伊佐前原第一遺跡（註２）、那覇市名護松尾原南遺跡（註３）などの報告がある。

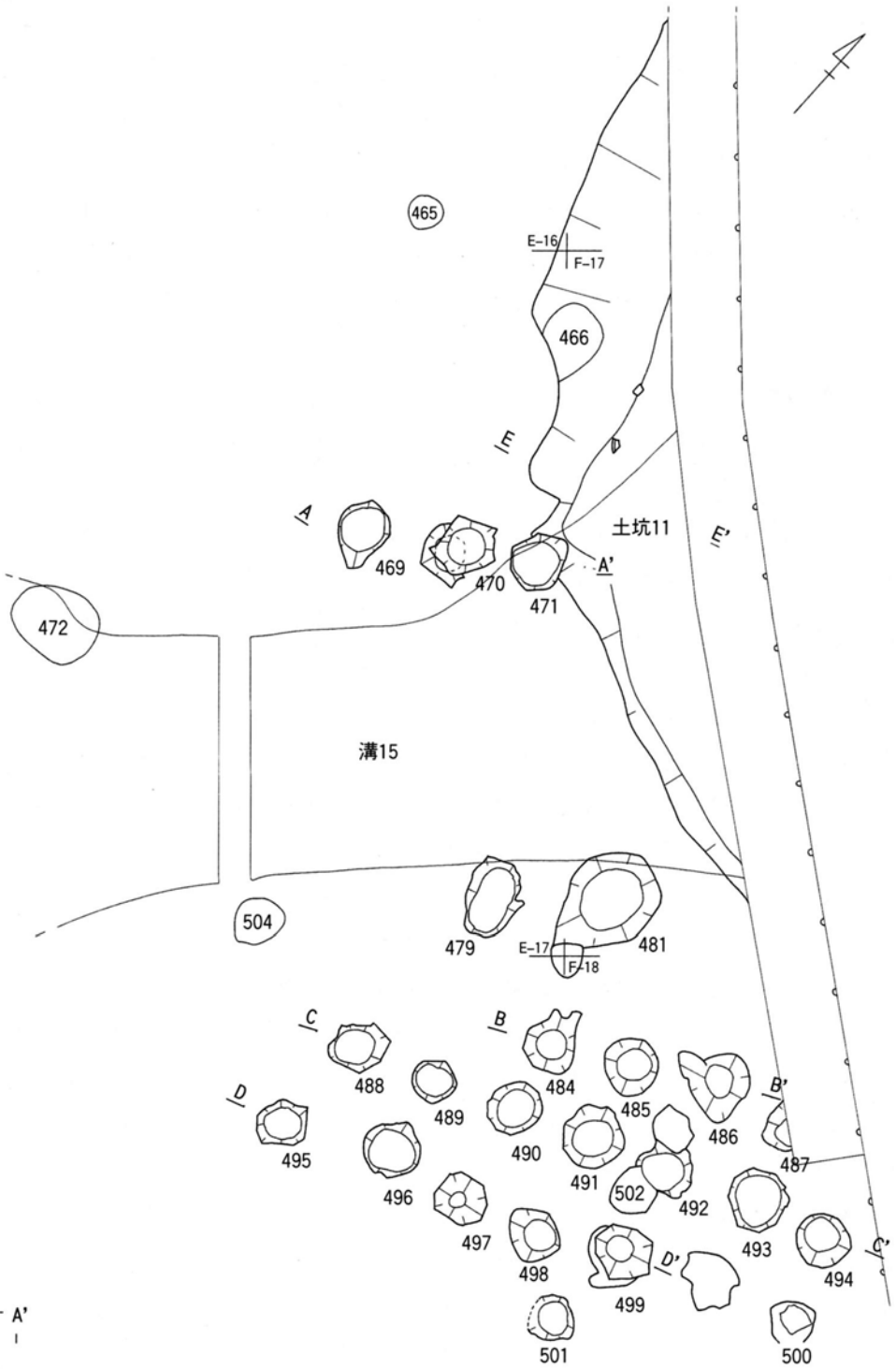
**科学分析**　分析結果からは栽培種を決定づける資料は得られていない。その他の結果を要約すると、覆土の成分組成は全体的な腐植含量やリン酸含量が多い傾向にあることから、有機物を充填した土壌と見ることができる。植物珪酸体分析からは稲藁や稲籾を使用した堆肥の混和を示唆している。土壌構造からは人為的な攪乱を強く受けた畑耕作土のように良くこなされた土壌であり、数回にわたって、遺構外に土壌を掘り返し、埋め戻している可能性があるとし、本ピットの機能、用途が耕作に伴う遺構である可能性が高いとしている。

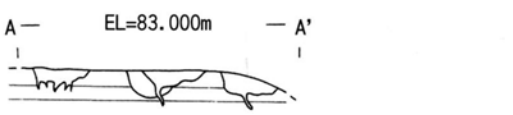
**年代**　ピット内から遺物が出土していないため、遺物からの年代判定はできない。科学分析ではピット481で490±50y.B.P（15世紀）。ピット492で620±40y.B.P（14世紀）の年代が示されている。

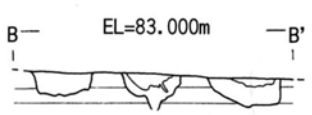
註１　『上原濡原遺跡発掘調査記録』　宜野湾市文化財保護資料第43集　宜野湾市教育委員会　1995年

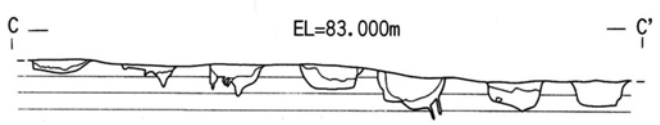
註２　当銘清乃他　『伊佐前原第一遺跡』　沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第４集　2001年３月

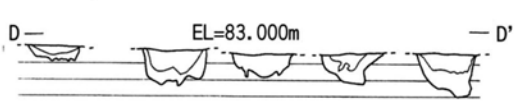
註３　『名護松尾原南遺跡』　埋蔵文化財発掘調査No.９　那覇市教育委員会　1997年３月

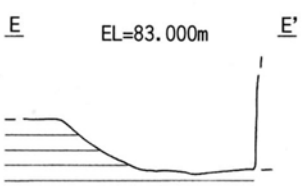


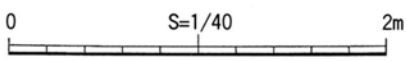



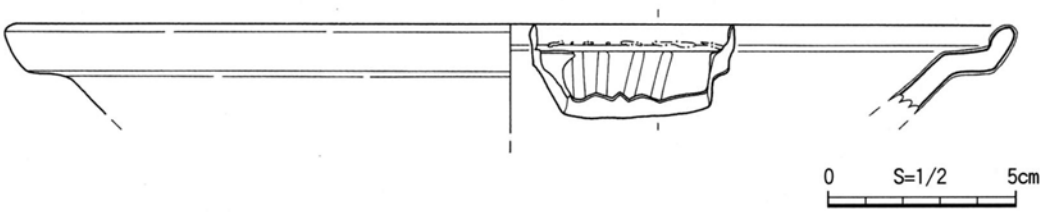

**第36図　ピット列遺構　平断面図**

**土坑11**（第36図）　調査地境界となるF-16・17・18グリットの地山面から一部が検出された。調査区外に展開する部分が多くを占めているものと思われるため、形状は不明である。現況では単に土坑として分類しておきたい。調査部分の最大長径約５m、最大短径約1.25m、深さは最大0.22mを測る。埋土は暗褐色の粘質土である。底部はやや凹凸があるものである。

**科学分析**　小ピット列遺構のピット覆土と同様の結果が得られた。要約すると覆土の成分組成は腐植含量やリン酸含量が多い傾向にあることから、有機物を充填した土壌と見ることができる。植物珪酸体分析からは稲藁や稲籾を使用した堆肥の混和を示唆している。堆肥に関わる何らかの遺構であった可能性があるとしている。

**出土遺物**　青磁小片２点、青磁盤１片が得られた。そのうち図化可能なものは下記の一点である。

**青磁盤**（第37図　図版26）　復元口径26.8cmを測る鍔縁盤である。折鍔は水平に延び、鍔端は斜方につまみ上げている。内面には櫛目が４本までは施されているのが確認できるが、彫りが浅く明瞭ではない。素地は淡灰褐色の細粒子、釉色は暗緑色で全体に細かな貫入が見られる。破損面では素地に橙褐色の酸化部分が観察される。時期は14世紀後半～15世紀頃のものである。




**第37図　土坑11　出土遺物**

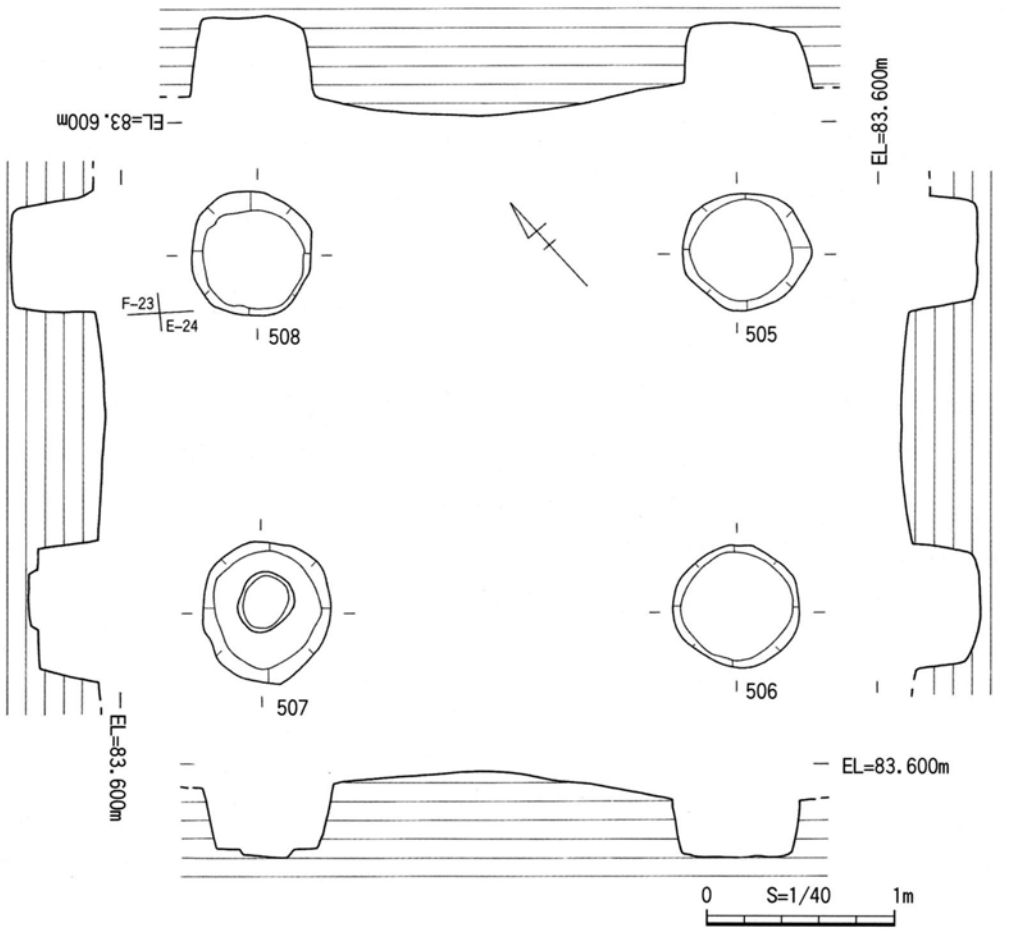
**建物７**（第38図　図版18）　E・F-24グリットの地山面から検出された。４基の柱穴で構成される。柱間寸法は長軸北側で2.5m。南側が同方向から2.5mとなる。短軸西側で1.8m。東側で1.85mとなる。このように対応する柱間寸法どうしはよく合致している。柱穴の平面形はほぼ円形、断面形は垂直に近く掘り込まれている。底面の深さは殆ど一定している。埋土は淡褐色の粘質土に基盤層の橙褐色土を交える。柱穴507では底面に直径約30cmを測る円形の柱痕が見られた。

**出土遺物**　遺構内遺物に恵まれないため時期は不明だが、埋土の検出面では耕具痕が明瞭に確認できる。調査区一帯の耕地化に先行する時期のものと考えられる。

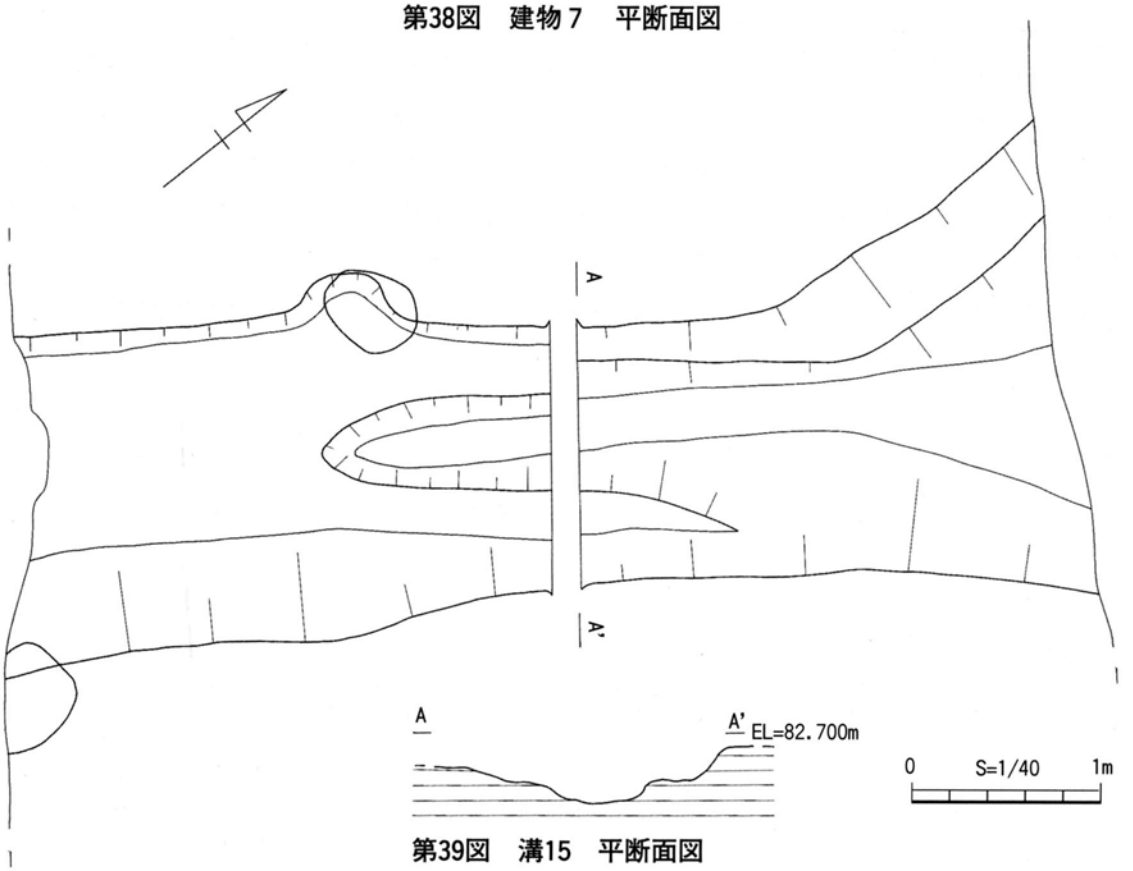
**溝15**（第39図）　D・E・F-17グリットから検出された素掘りの溝である。溝は第２層下面から掘り込まれ、底部は地山に達している。溝は検出面で幅2.5～1.35m程で、北東側でやや溝の幅を増していく。深さは20cm程を測る。

**溝12**（第40図）　E・F-22グリットから検出された素掘りの溝である。溝は第２層下面から掘り込まれ、底部は地山に達している。溝は検出面で幅1.45～4.4m、深さは10cm程を測る。

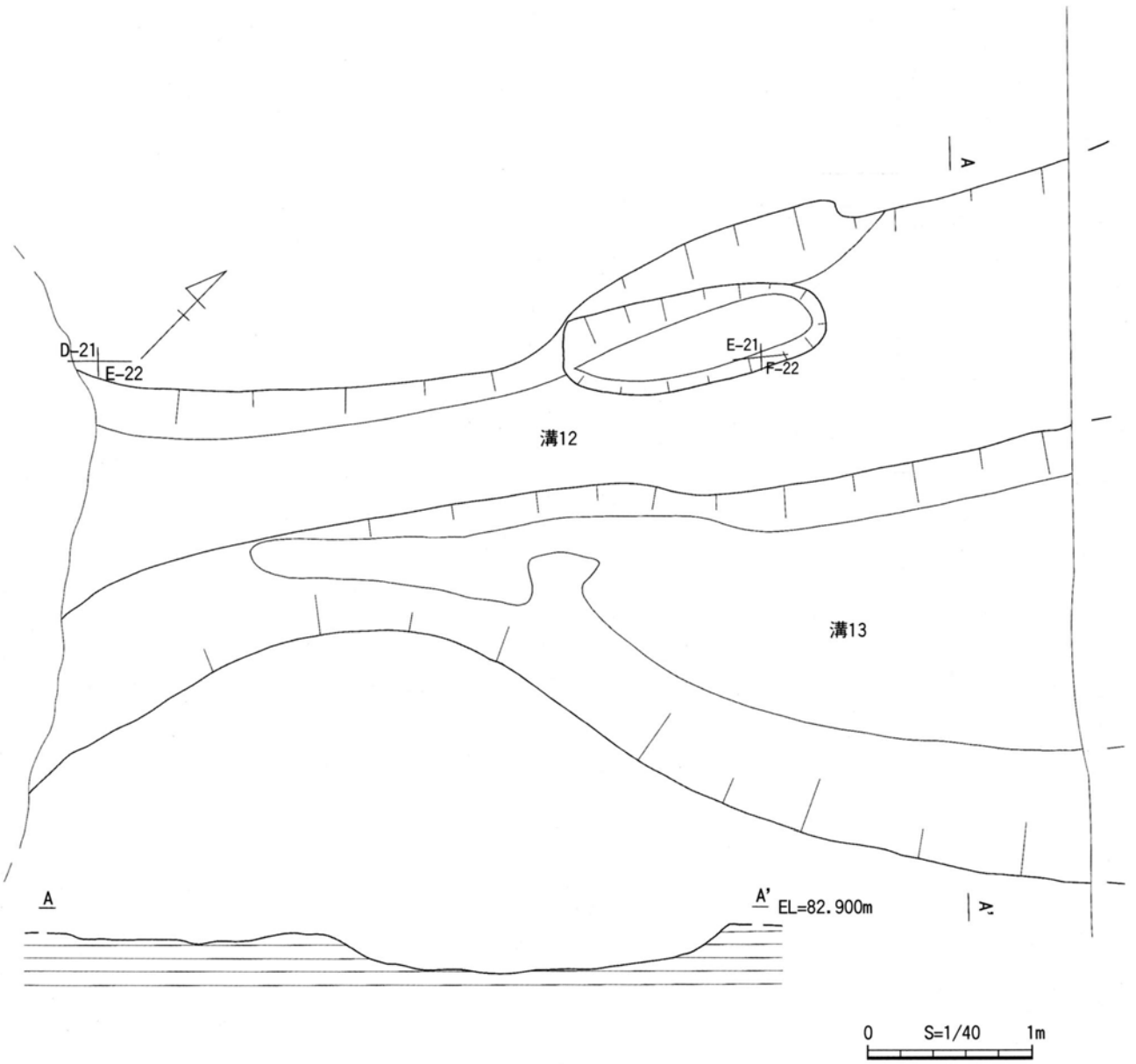
**溝13**（第40図）　E・F-22グリットから検出された素掘りの溝である。第３層下面から掘り込まれ、底部は地山に達している。溝は検出面で幅0.7～2.8m、深さは30cm程を測る。




第38図　建物７　平断面図




第39図　溝15　平断面図

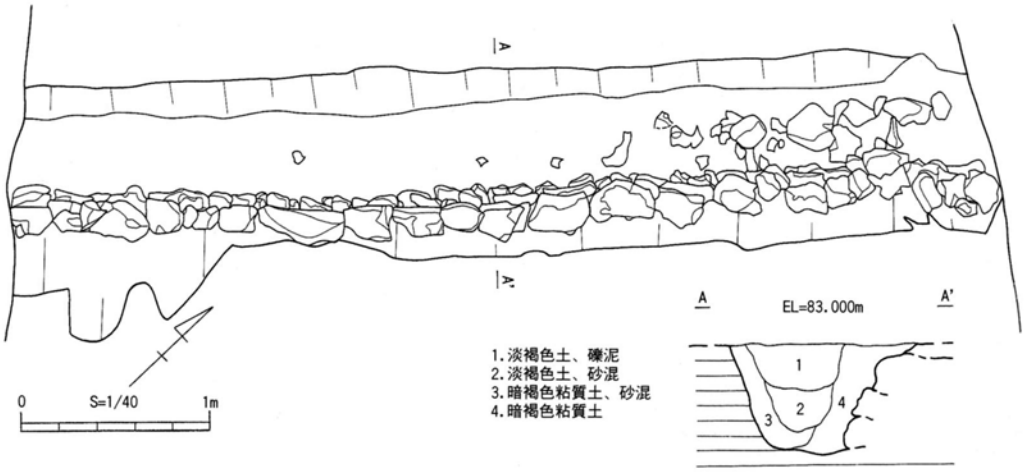



**第40図　溝12・13　平断面図**

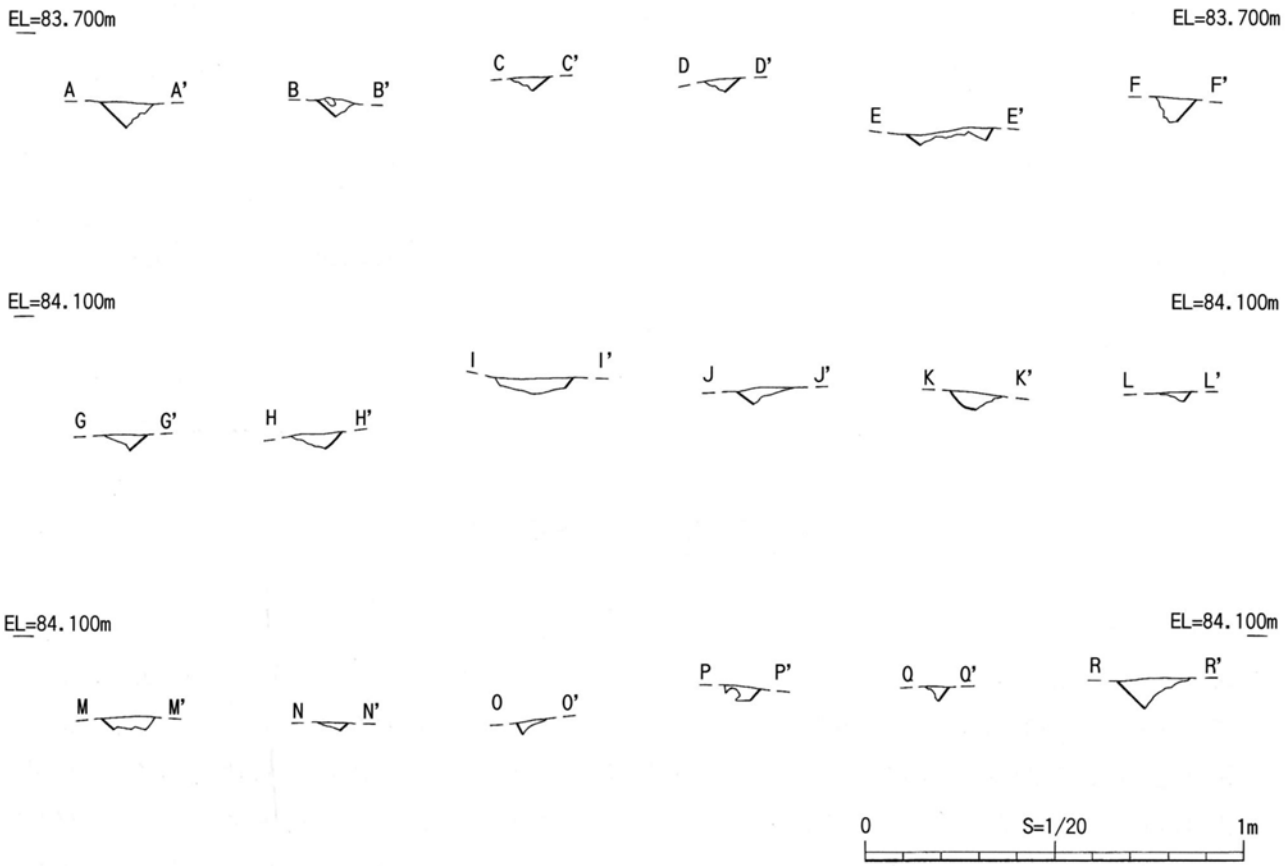
**近現代の遺構**

**溝16**（第41図　図版19）　D・E・F−16グリットから検出された土留め状の石積みをもつ溝である。溝は底部から東側に石積を積み上げ、西側は素掘りとなっている。北東〜南西方向を軸とし、1層最下面から掘り込まれ底部は地山に達している。溝は検出面で幅0.9〜1.1m程で、深さは60cm程を測る。この溝により区画される両地山面の比高差は30〜50cmあり、東側に10〜20cm大の石灰岩礫を積み上げ土留めとしている。溝内からは石灰岩礫が多数検出されたが、位置関係から暗渠など溝機能の一部として配置されたものではなく石積みから落下したか偶然のものと理解される。関連する遺構としては周辺から耕作痕が多数検出されている。

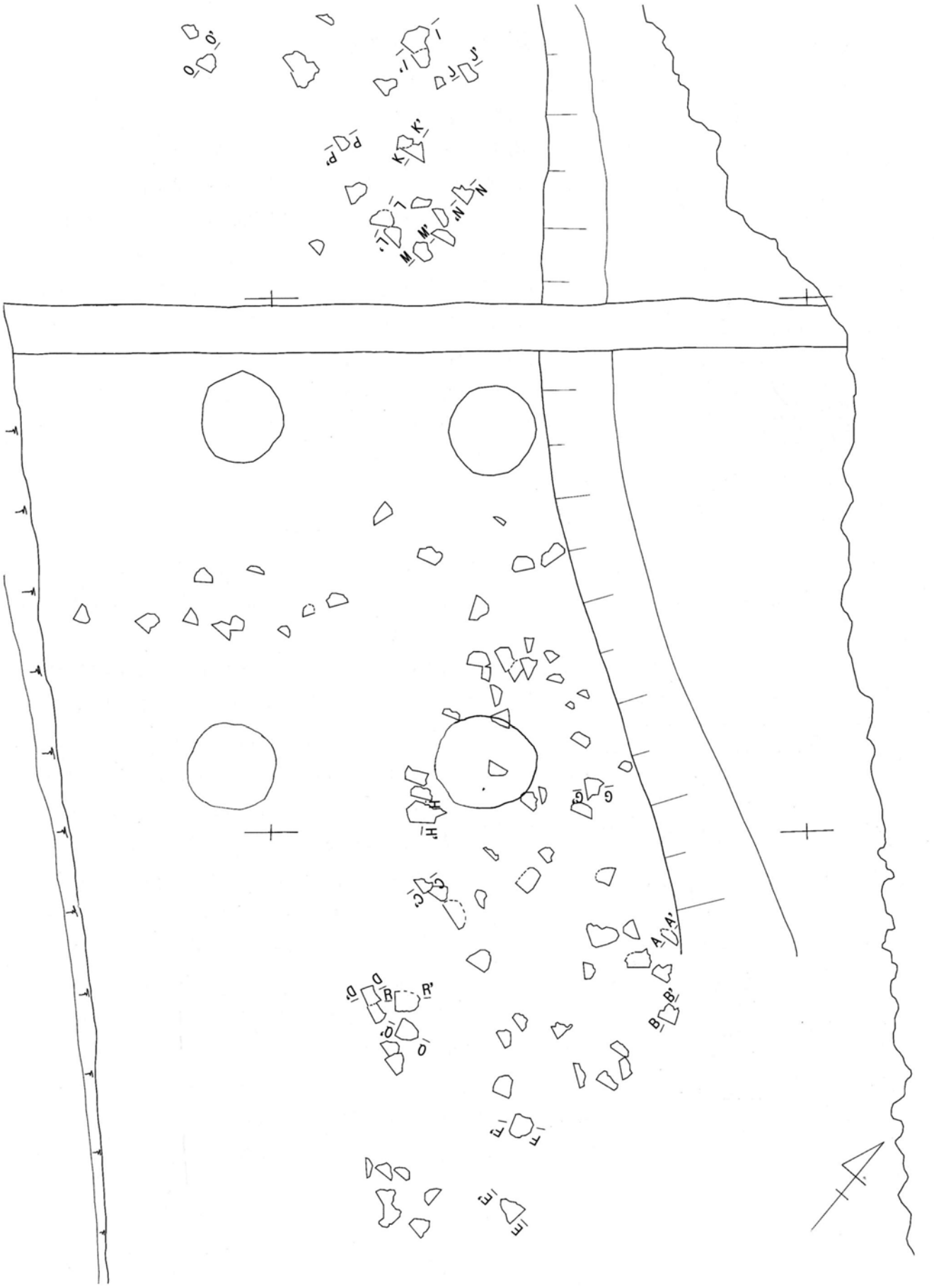
**時期**　溝の上部には1層土が被覆しており、戦後、道路建設に伴い廃棄されたと考えられる。



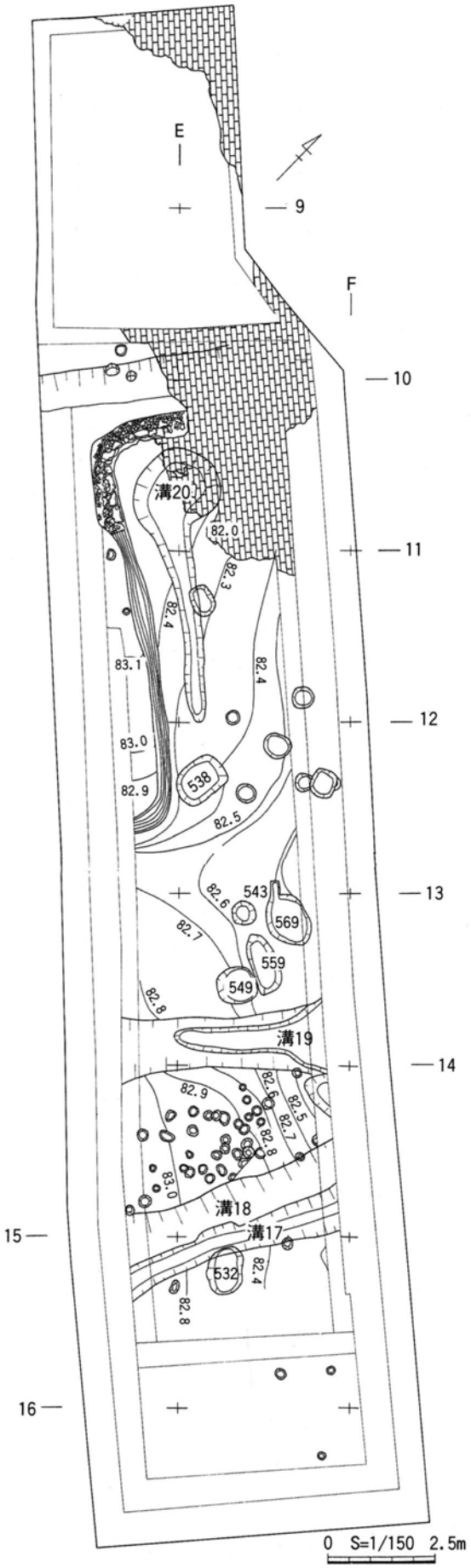

**第41図　溝16　平断面図**




**第42図　耕具痕　断面図**




**第43図　耕具痕　平面図**




第44図　Ⅱ-B地区　遺構全体図

## 第3節　Ⅱ-B地区

### (1)層　序（第45図　図版20）

**層序の概要**　Ⅱ-A地区とほぼ同様の層序を示している。基層部より順に見ていくと、石灰岩盤の露頭部は西端部に僅かに見られる。次の橙褐色土層はⅡ-A地区より引き続き北西方向へ暫時低く堆積しており、低位部ではグスク期に比定される暗褐色の遺物包含層が僅かに乗っている。次いで上層が調査区全域に広がる耕作土層であることはⅠ・Ⅱ-A地区と同様、遺跡が耕作地へと変遷したことをもの語っている。表層は戦後の道路建設に伴う盛土が複数回に渡ってなされており、地形の平坦化が顕著である。確認された層序は概ね以下のような堆積を示していた。

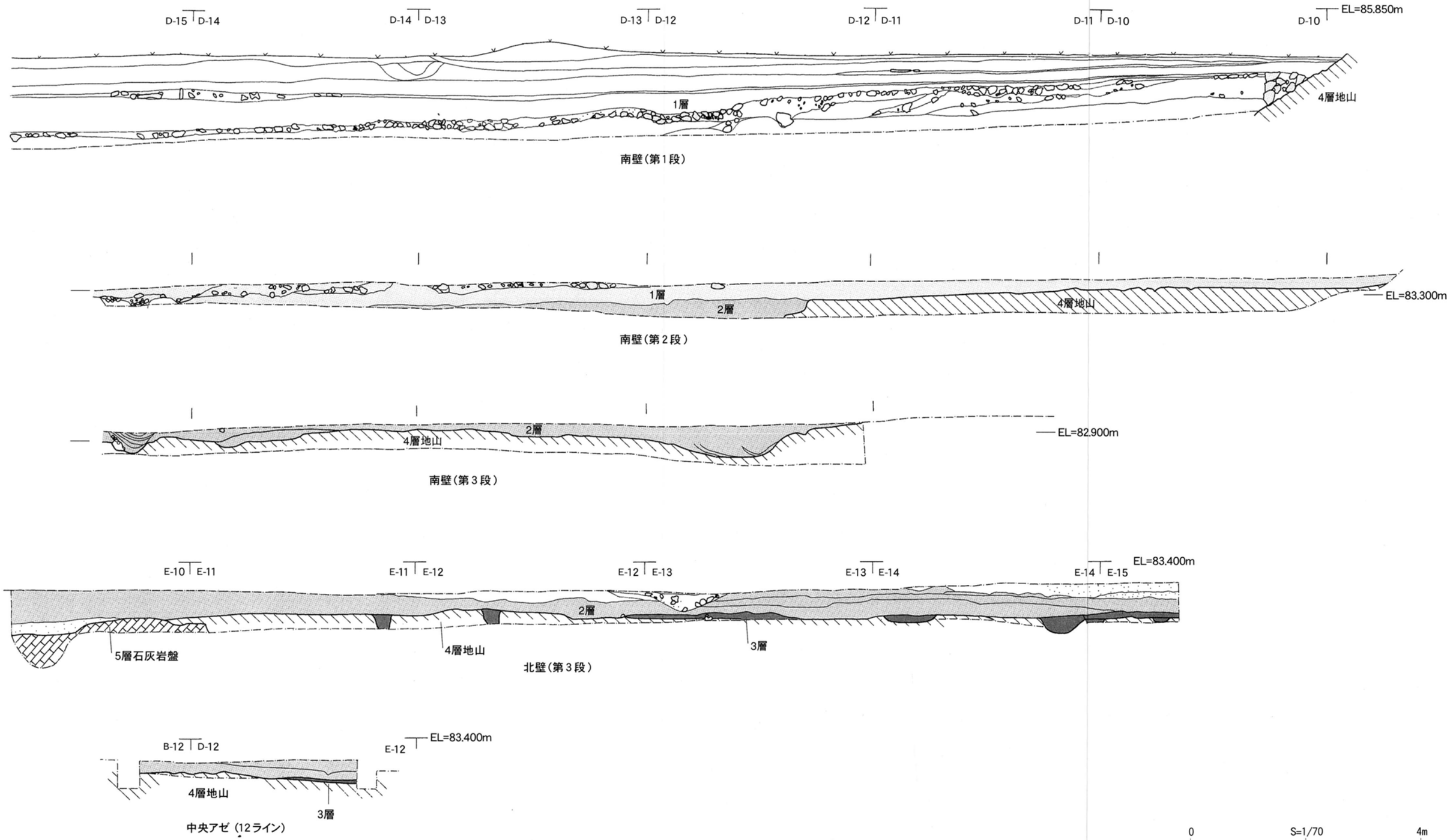
1層：現代の盛土層で機械掘削により、除去対象となった層である。複数層に細分でき、旧市道内では市道建設に伴うアスファルト、琉球石灰岩粒の路盤層及び客土までを範疇とした。

2層：焼土粒、炭化粒を含む黄灰褐色土層で機械掘削により、除去対象となった層である。ほぼ調査区全域に分布し、水平的、平均的な堆積を見せる。大部分は地山に至っている。最下部では農耕具による耕作痕を伴う。近代までの耕作土と思われる。

3層：焼土粒、炭化粒を多く含む暗褐色土層である。上面は上層からの攪乱を受けており、相当部分が地山に至るものである。断面「レ」字形の耕具痕が壁面で数多く認められる。地形は本層が被覆する地山に至って南高北低となっており、本層はその北側低地部に暫時厚みを増して分布する。現在の地形を考慮すると北東側の低位傾向はなお続くと思われるため、本層の中心部も調査区外に広がっているものと思われる。

4層：橙褐色土層。方言名：マージ。地山である。

5層：琉球石灰岩。一部が調査区西端に露頭している。


D-15
D-14
D-13
D-12
D-11
D-10
EL=85.850m
1層
4層地山
南壁(第1段)
1層
2層
4層地山
EL=83.300m
南壁(第2段)
2層
4層地山
EL=82.900m
南壁(第3段)
E-10
E-11
E-12
E-13
E-14
E-15
EL=83.400m
2層
5層石灰岩盤
4層地山
3層
北壁(第3段)
B-12
D-12
E-12
EL=83.400m
4層地山
3層
中央アゼ (12ライン)
0
S=1/70
4m

第45図　Ⅱ-B地区　層序

(2)遺　構（第44図　巻頭図版４）

**遺構の概要**　小ピット群、堀立柱建物跡１棟、土坑９基、溝状遺構などが検出された。Ⅱ-A、B地区を包括的に捉えると中心的な遺構の分布はⅡ-B地区にあるようである。また、Ⅱ-A地区と同様に地山直上層の殆どを近代までの耕作層が占めているため、近世、グスク時代の遺構上面には耕作土層から掘り込まれた平鍬によるものと思われる耕作痕が多数検出された。以下、検出された主要な遺構について、概要を記す。

**建物８**（第46図　図版24）　北側の調査地境界で一部が検出された掘建柱建物である。従って建物の規模は測り得ない。建物は直径55cm～65cmを測る比較的大型の柱穴528、531、567で構成されると思われる。

各柱穴の平面形は概ね円形を基本とする。断面形はいづれも垂直に近く掘り下げられている。底面はそれぞれEL＝81.800m前後で一定している。

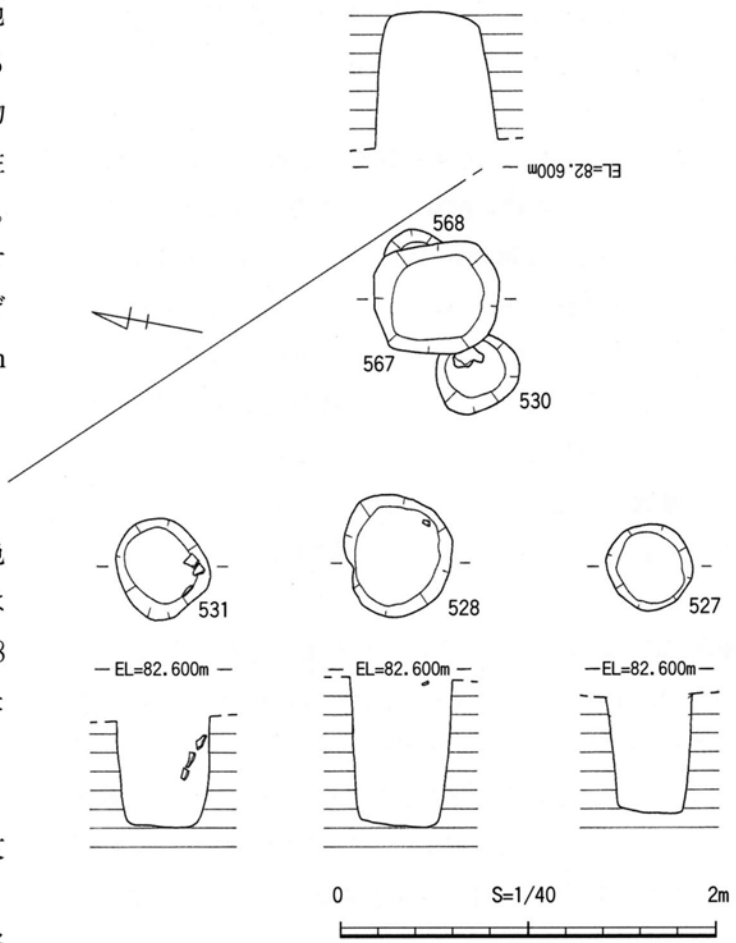
柱間寸法は略東西方向の柱列で1.4m。略北西方向の柱列で1.3mを測る。

埋土は暗褐色の粘質土に基盤層の橙褐色土ブロックを交える。なお、柱穴の南には対応する柱穴がなく、現時点では柱穴528を建物の南西隅柱との解釈を行っておきたい。

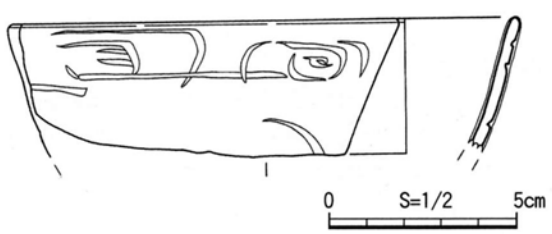
**出土遺物**　柱穴531から青磁雷文碗１片、高麗瓦１片が出土した。このうち青磁雷文碗を図化した。

**青磁雷文碗**（第47図　図版27）　復元口径13.7cmを測る直口口縁の碗である。文様は口縁部外面に雷文を篦描きで描いているが、雷文はかなり崩れている。雷文直下に篦描きの沈線が１本描かれている。蓮弁文を描いているものと思われる。内面は無文である。時期は14世紀中頃～15世紀中頃のものである。

本遺物は柱穴531の内壁面にへばりつくような位置で検出された。これは柱と壁面間の埋土部分にあたり、埋土に伴って混入したものと考えられる。




第46図　建物８　平断面図




第47図　柱穴531　出土遺物

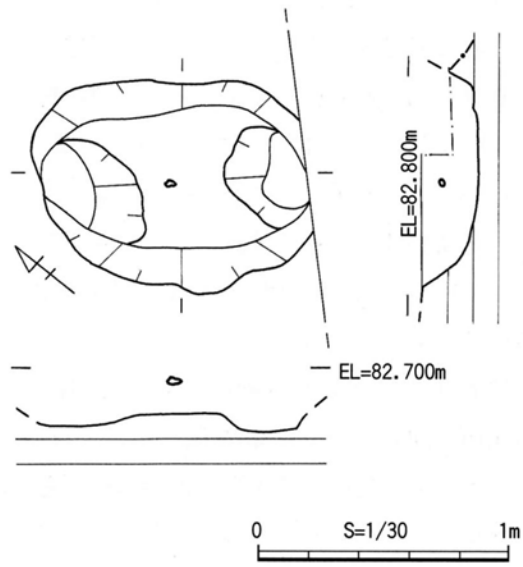
**小ピット群**（第48図　図版21・22）　D・E－14グリッドにおいて34基が検出された。地山を掘り込む直径25cm前後、深さ10cm前後の多角形ないしは円形の浅いピットで構成される。断面形は底面が平坦な浅鉢形である。埋土は暗褐色の粘質土で焼土粒や炭化物の粒を少量含む。

ピットの形状はⅡ-A地区で検出された「ピット列遺構」に類似の遺構であるが、特徴とされる「列」をもって計画的に配置されるものではないようである。しかし、その要因を踏まえつつも肯定的に捉えると、ピットは直径など規格性が認められること。周辺のピットに比べ掘り方が極端に浅いこと。各ピットの間隔が狭いことなどの共通点を上げることができる。本遺構も農耕関連の遺構が想定されているピット列遺構と同種の遺構である可能性がある。

**出土遺物**　遺物は出土していない。

**土坑532**（第49図）　北東－南西に主軸をとる楕円形の土坑である。北東側を攪乱で、南西側を溝によって断ち切られている。4層地山面において検出され、長径約1.05m、短径約0.8mを測る。深さは約0.22mを測り、底面は長軸に添って両端が落ち込む凹凸のあるものである。埋土は炭化物、焼土に富む暗褐色土層で3層土に比べ、それらの混入する割合はかなり高い。

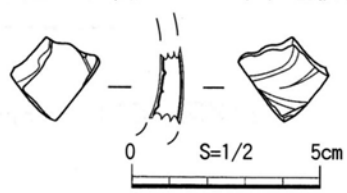
**出土遺物**　青磁3点、鉄塊1点が出土した。うち、青磁劃花文小片（第50図　図版27）を図化した。




第49図　土坑532　平断面図

**土坑538**（第51図　図版23）　北－南に主軸をとる隅丸長方形の土坑である。4層地山面において検出され、長径約1.2m、短径約0.9mを測る。深さは0.26m前後を測り底面は平坦である。埋土は炭化物、焼土に富む暗褐色土層の単層であるが、埋土の上位には東側約1/2の範囲でやや淡い褐色土の掘り込みを確認しており、埋没後に再び掘削されている。

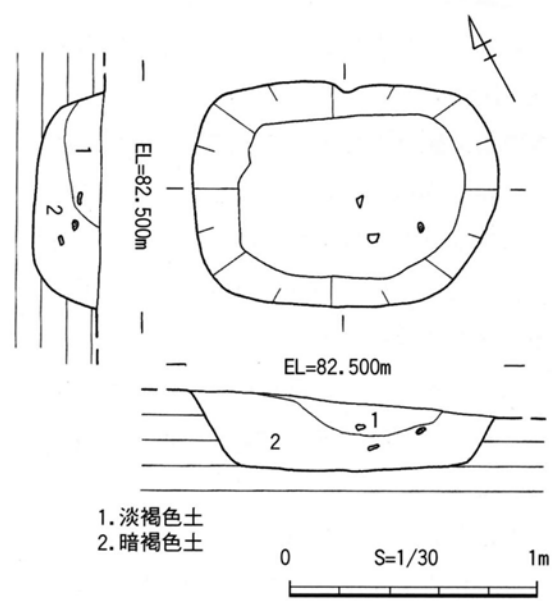
**出土遺物**　銭貨1枚。中国産褐釉壷の小片1点、骨片1点が出土した。骨片は遺存状態が悪く損傷が激しい。このうち銭貨（至□□寶）（第52図　図版27）を図化した。



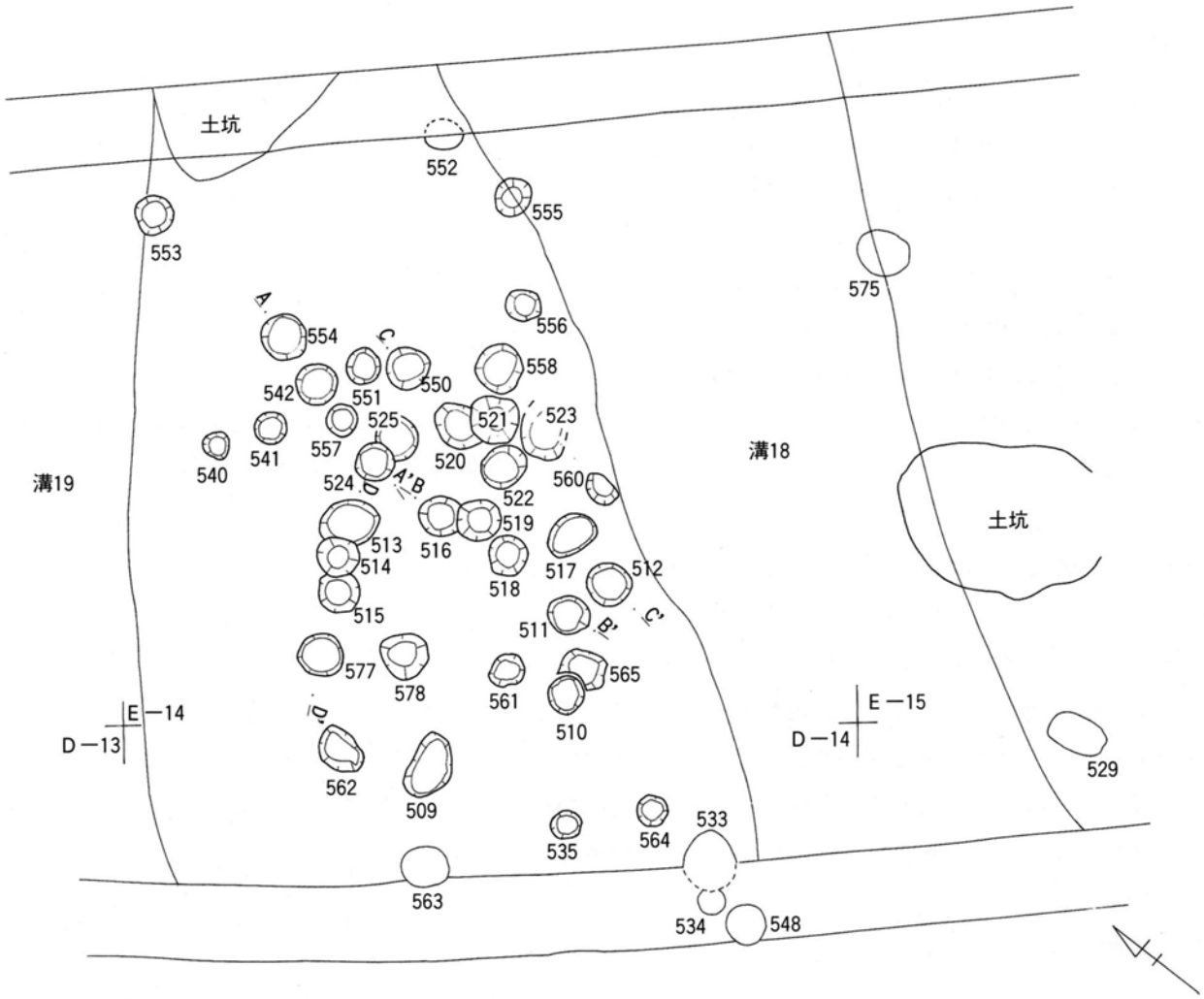

第50図　土坑532　出土遺物

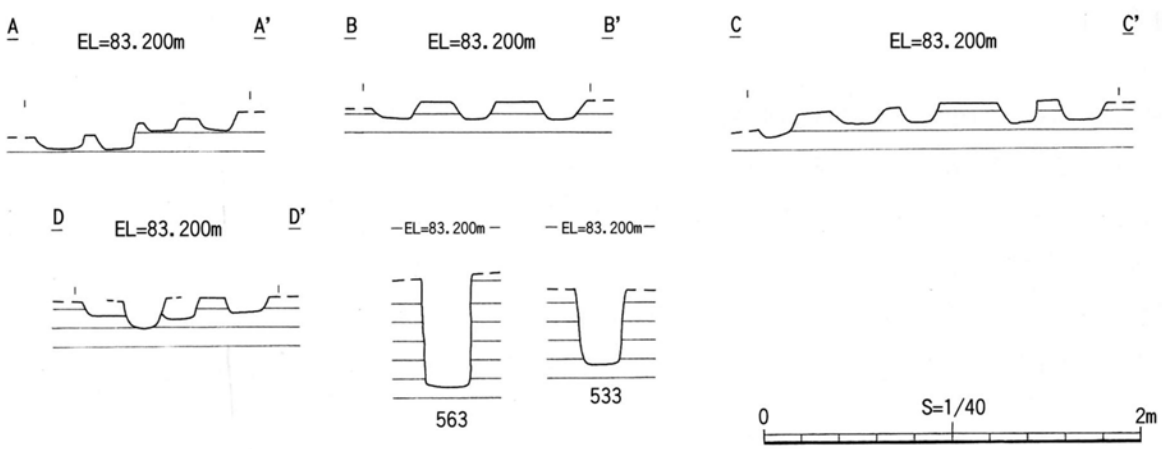



第52図　土坑538　出土遺物




第51図　土坑538　平断面図

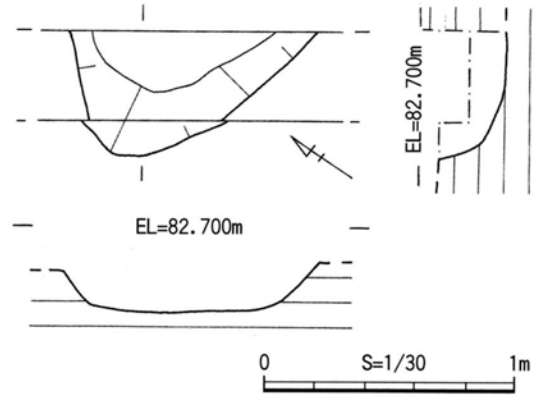



**第48図　小ピット群　平断面図**

**土坑539**（第53図）　北側の調査地境界で一部が検出された。4層地山を掘り込むものである。東一西に主軸をとるものと推定される土坑である。部分的に検出されたため計測位置は妥当とは言えないが、最大長径約1.0m、最大短径約0.5mを測る長方形の土坑である。深さは約0.3mを測る。底面は平坦となるようである。埋土は淡褐色土の単層で炭化物、焼土粒を少量含んでいる。

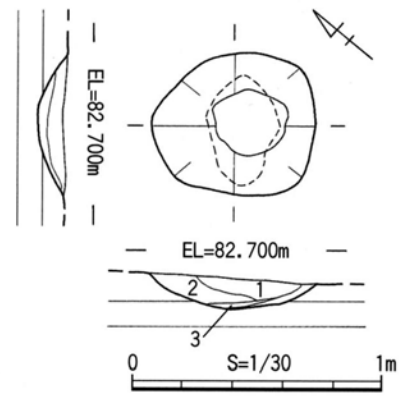
**出土遺物**　出土していない。




第53図　土坑539　平断面図

**土坑543**（第54図　図版23）　長径約0.65m、短径約0.55mを測るややいびつな円形の土坑である。4層地山面において検出され、深さは0.12mを測る。底面はボール状をなしている。埋土は炭化物、焼土粒の混入割合によって3層に分けられる。上位層は炭化物、焼土粒を多く含む暗褐色土である。中位層は淡褐色土で炭化物、焼土粒の混入は少ない。下位層は炭化物の割合が非常に高く、底面の中央付近に集中している。

**出土遺物**　出土していない。



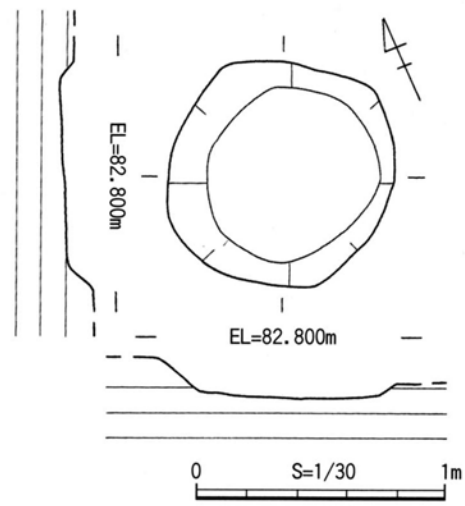

第54図　土坑543　平断面図

**土坑549**（第55図）　長径約0.9m、短径約0.9mを測る円形の土坑である。4層地山面において検出され、深さは0.08m前後を測る。底面は平坦である。埋土は淡褐色土の単層で炭化物、焼土粒を多く含む。

**出土遺物**　出土していない。

**土坑559**（第56図）　四隅の不定形な細長い土坑である。4層地山面において検出され、長径約1.4m、短径約0.6m、深さは0.18m前後を測る。底面は平坦である。埋土は淡褐色土の単層で炭化物、焼土粒を少量含んでいる。

**出土遺物**　陶器2片、骨片1点が出土しているがいづれも小片であるため図化を省略した。



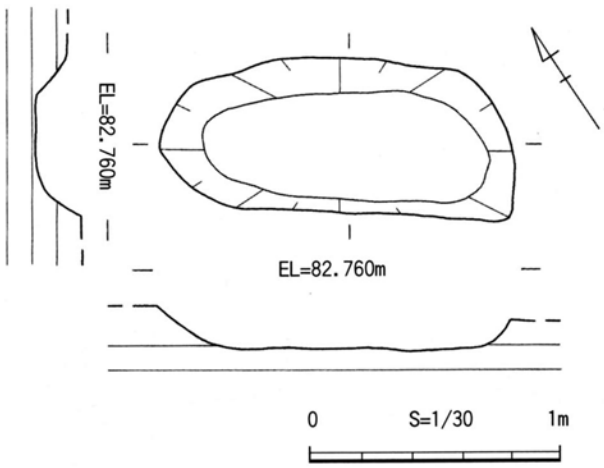

第55図　土坑549　平断面図

**土坑569**（第57図）　4層地山面において検出され、長径約1.3m、短径約1m前後を測る土坑である。深さは0.16m前後を測る。底面は平坦である。埋土は比較的大きな炭化物、焼土粒を含む暗褐色土である。

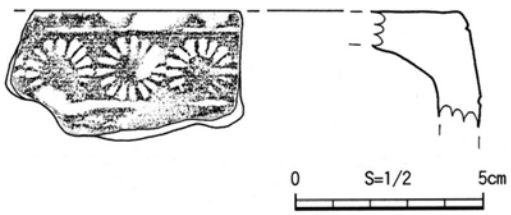
**出土遺物**　瓦質土器（第58図　図版27）が出土している。

**溝17・18**（第59図　図版24）　D・E−14・15グリッドの第３層下面から掘り込まれ、底部は地山に達する溝である。軸線は磁北から西方へ41°振れる。両端は更に調査区外へ延びている。溝17は検出面で幅0.6〜１m、深さは0.2m程を測る。埋土は暗褐色土である。軸を同じくして上位には幅広で浅い溝18が位置する。埋土は淡褐色土である。

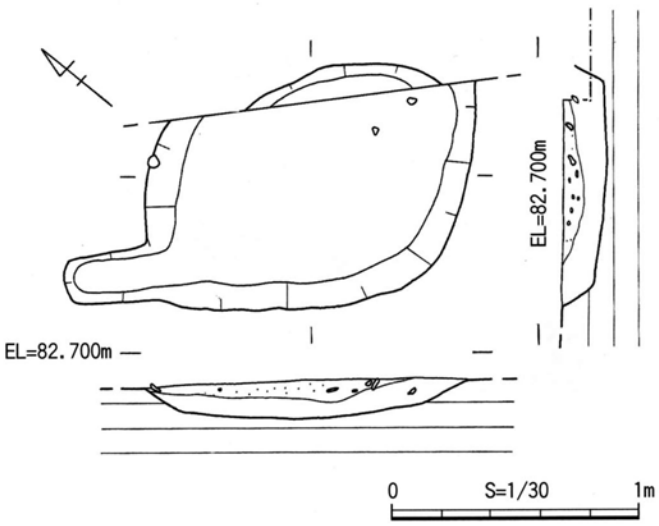
**出土遺物**　溝17より青磁３片、永楽通寶（明：初鋳1408年）１片が出土したが小片のため図化を省略した。




**第56図　土坑559　平断面図**




**第58図　土坑569　出土遺物**




**第57図　土坑569　平断面図**

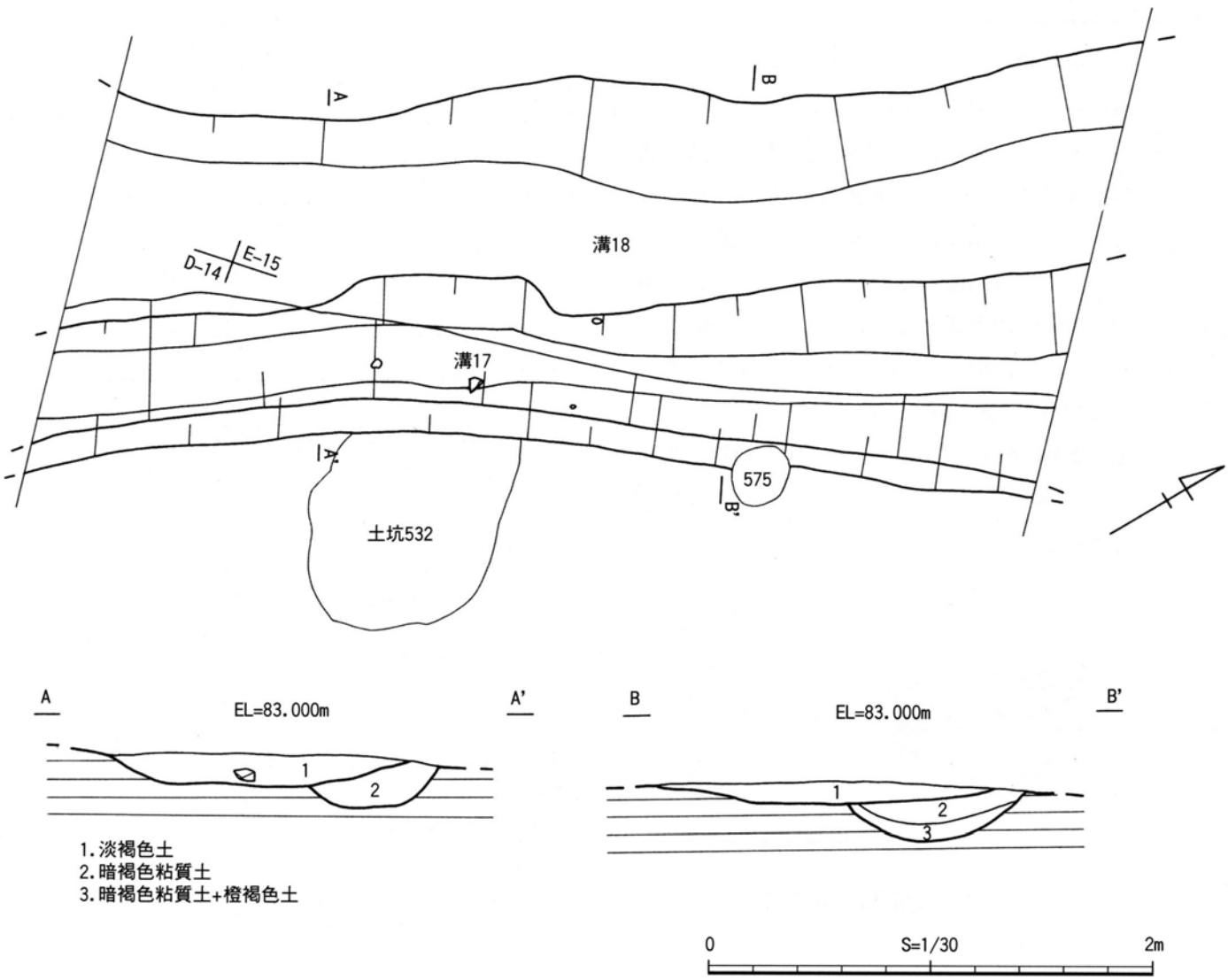
**近世の遺構**

**溝19**（第60図）　D・E−13グリッドの第２層下面から掘り込まれ、底部は地山に達する溝である。

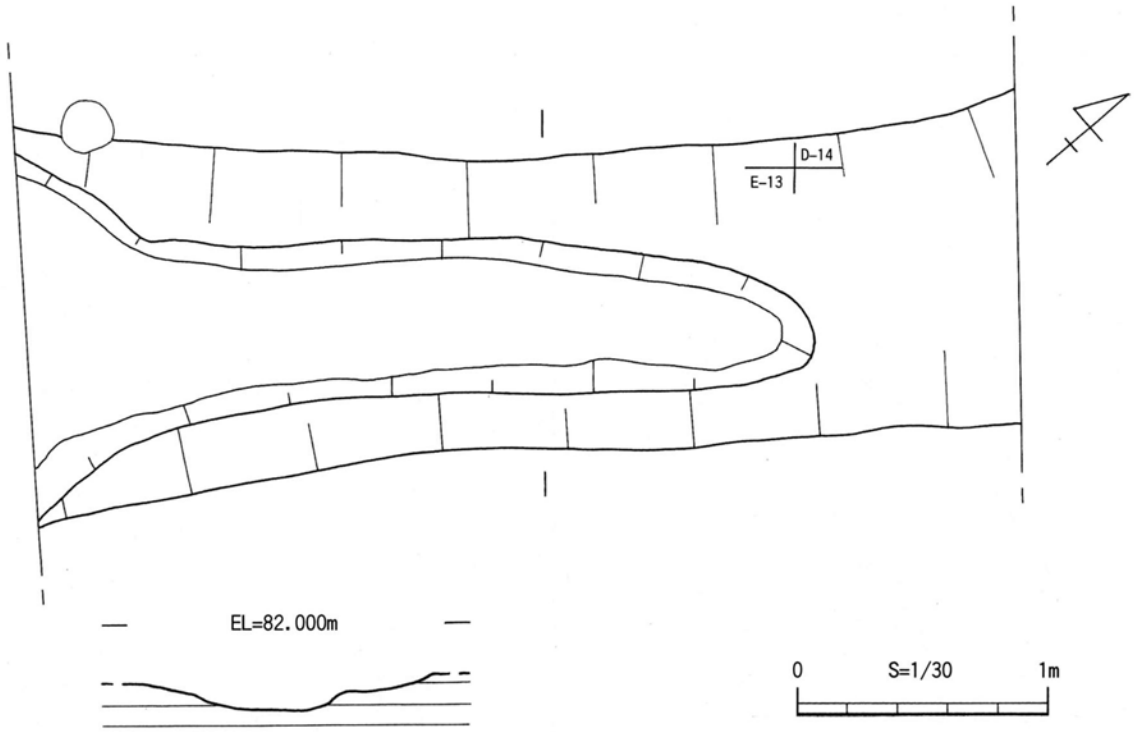
**出土遺物**　青磁３片が出土したが無文小片のため図化を省略した。

**溝20**（第61図）　D・E−10・11グリッドの第２層下面から掘り込まれ、底部は地山に達する溝である。

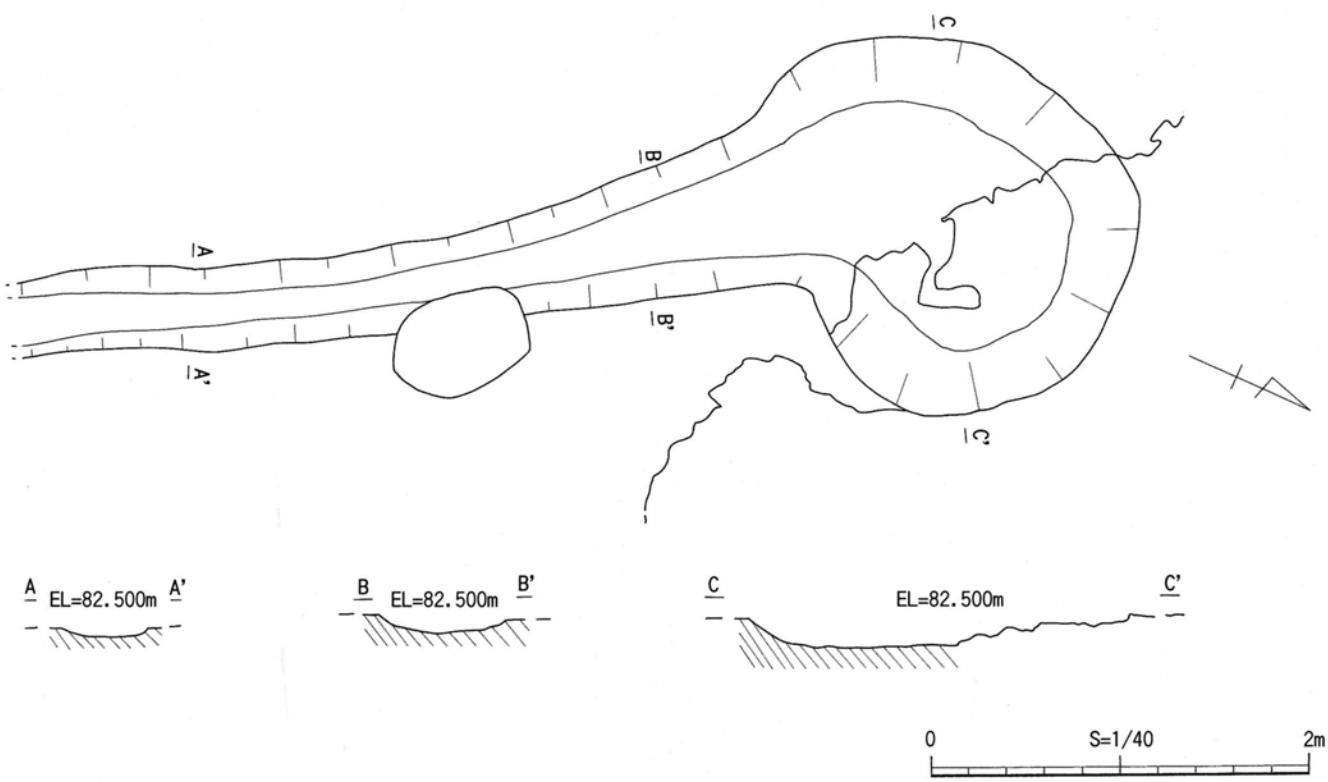
**出土遺物**　高麗瓦片数点が出土した。




**第59図　溝17・18　平断面図**




第60図　溝19　平断面図




第61図　溝20　平断面図

## 第1表　ピット観察一覧(1)

| No. | 長径(cm) | 短径(cm) | 底面EL(m) | 覆土の色調 | | 出土遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 28 | 23 | 86.119 | 淡褐色 | | | |
| 2 | 40 | 35 | 86.188 | | | | |
| 3 | 18 | 18 | 85.866 | | | | |
| 4 | 44 | － | 85.667 | | | | |
| 5 | 44 | 29 | 86.168 | | | | |
| 6 | 22 | 19 | 86.225 | | | | |
| 7 | 47 | 45 | 86.041 | | | | |
| 8 | 24 | 22 | 86.082 | | | | |
| 9 | 21 | 20 | 86.144 | | | | |
| 10 | 36 | 31 | 86.249 | | | | |
| 11 | 27 | 21 | 86.245 | | | | |
| 12 | 34 | 32 | 86.143 | | | 骨片2.焼土1 | 柱痕 |
| 13 | 34 | 34 | 86.223 | | | | |
| 14 | 34 | 28 | 86.165 | | | | |
| 15 | 30 | 25 | 86.188 | | | | |
| 16 | 34 | － | 欠 | | | | |
| 17 | 35 | 32 | 86.146 | | | | |
| 18 | 30 | 26 | 86.071 | | | | 柱痕 |
| 19 | 80 | 55 | 85.298 | | | | |
| 20 | 28 | 27 | 85.464 | | | | |
| 21 | 40 | 38 | 85.713 | | マージ混 | | 柱痕 |
| 22 | 39 | 38 | 85.811 | | マージ混 | 青磁1.微粒砂岩1 | 柱痕 |
| 23 | 58 | 37 | 86.292 | | マージ混 | 獣骨1 | 柱痕 |
| 24 | 45 | 38 | 86.044 | | マージ混 | | |
| 25 | 25 | 22 | 86.105 | | マージ混 | | |
| 26 | 60 | 42 | 85.802 | | マージ混 | 焼土1 | 柱痕 |
| 27 | － | 29 | 86.130 | | マージ混 | | |
| 28 | 40 | 40 | 85.973 | 暗褐色 | マージ混淡い土 | | |
| 29 | － | 29 | 85.330 | | マージ混 | | |
| 30 | 53 | 48 | 85.661 | 淡褐色 | マージ混 | 金属片1.　貝殻4 | 柱痕。建物2 |
| 31 | 67 | 57 | 85.852 | | マージ混 | 青磁1.獣骨1 | |
| 32 | 37 | 35 | 85.755 | | マージ混 | 青磁2.焼土5.獣骨1 | 柱痕 |
| 33 | 28 | 27 | 86.095 | | | | |
| 34 | 38 | 33 | 86.047 | | | | |
| 35 | 36 | 25 | 86.170 | | | | |
| 36 | 29 | 28 | 86.211 | | | | |
| 37 | 35 | 35 | 86.081 | | | | |
| 38 | 19 | 18 | 86.087 | | | | |
| 39 | 34 | 30 | 86.351 | | | 鍍金青銅製品1 | |
| 40 | 26 | 26 | 86.134 | | | 骨片1 | |
| 41 | － | 18 | 85.980 | | | | 根固石？ |
| 42 | 33 | 31 | 85.951 | | | | |
| 43 | 34 | 30 | 86.084 | | | | |
| 44 | 23 | 22 | 86.134 | | | | |
| 45 | 34 | 32 | 86.134 | | | | |
| 46 | 26 | 25 | 86.134 | | | | |
| 47 | 44 | 38 | 85.673 | | マージ混 | 沖縄産鉄釉陶器1 | 建物6 |
| 48 | 47 | 46 | 85.604 | | | 青花1 | |
| 49 | 85 | 82 | 86.252 | | | | 土坑 |
| 50 | 95 | 75 | 86.199 | | マージ混 | | 土坑 |
| 51 | 45 | 40 | 85.584 | | マージ混 | | 根固石 |
| 52 | 66 | 46 | 86.152 | | | | |
| 53 | － | 24 | 85.475 | | マージ混 | | |
| 54 | － | 40 | 86.003 | | マージ混 | | |
| 55 | 42 | 40 | 85.974 | | マージ混 | | 建物6 |
| 56 | 55 | 53 | 85.796 | | | 青花1 | 根固石。建物6 |
| 57 | 112 | 66 | 85.719 | | | | 土坑 |
| 58 | － | 51 | 85.845 | | | | |
| 59 | 60 | 51 | 85.696 | | | | |
| 60 | 59 | 45 | 85.734 | | | 青磁1.褐釉1.沖縄産擂鉢1 | 建物5 |
| 61 | 42 | 35 | 85.792 | | マージ混 | 鉄釘1.アカムヌ1.焼骨1 | |
| 62 | 28 | 26 | 86.223 | | | 青磁1.沖縄産陶器1.肥前産緑釉碗1.青花菊花文碗1 | |
| 63 | 56 | 45 | 86.123 | | | | 建物5 |
| 64 | 60 | 35 | 86.247 | | | | |
| 65 | 38 | 31 | 86.327 | | | | |
| 66 | 58 | 50 | 85.928 | | マージ混 | 青磁(蓋)1.青花粗製碗1.褐釉1.沖縄産無釉陶器1.焼土1 | 建物5 |
| 67 | 60 | 52 | 85.904 | | | 肥前産青磁皿1.青磁2.褐釉1.瓦1 | 建物5 |
| 68 | 45 | 43 | 86.206 | | | 褐釉1 | |
| 69 | 47 | 42 | 85.506 | | | | |
| 70 | 45 | 41 | 85.639 | | | | |
| 71 | 45 | 43 | 85.693 | | | | |
| 72 | 56 | 42 | 85.739 | | | | |

| No. | 長径(cm) | 短径(cm) | 底面EL(m) | 覆土の色調 | | 出土遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 73 | 20 | 17 | 85.821 | 淡褐色 | | | |
| 74 | － | 85 | 85.847 | | | 骨片1.褐釉1 | 土坑。10cm程の礫が混入。 |
| 75 | 26 | 26 | 86.297 | | | | |
| 76 | | | 86.235 | | | | |
| 77 | 30 | 26 | 86.217 | | | | |
| 78 | 95 | － | 86.319 | | | 褐釉1 | 土坑。10cm～15cm程の礫が混入。 |
| 79 | － | 62 | 86.247 | | | 青磁線刻蓮弁文碗1.骨片1.瓦1 | 土坑。10cm～16cm程の礫が混入。 |
| 80 | 29 | 25 | 86.702 | | | | |
| 81 | － | 25 | 85.811 | | | | |
| 82 | 70 | 65 | 85.319 | | | | 底部は礫多数。建物4 |
| 83 | 80 | 75 | 85.721 | | | | 底部は礫多数。建物4 |
| 84 | 30 | 27 | 85.995 | | | | |
| 85 | 37 | 30 | 86.070 | | | 青磁線刻蓮弁文碗1.骨片1 | |
| 86 | － | － | 86.305 | | | 土器1.骨片5 | 土坑。大小の礫が混入。 |
| 87 | 151 | 87 | 86.353 | | | 青磁1.獣骨2.褐釉1.瓦1 | 土坑。10cm～15cm程の礫が混入。 |
| 88 | 139 | 117 | 86.239 | | | 骨片3. | 土坑。10cm～16cm程の礫が混入。 |
| 89 | 93 | 69 | 85.764 | | | | 建物4 |
| 90 | 39 | 28 | 86.021 | | | | |
| 91 | 27 | 25 | 86.082 | | | | |
| 92 | － | 21 | 85.839 | | マージ混 | | 平地造成地内 |
| 93 | 86 | 52 | 85.476 | | マージ混 | 褐釉1 | 平地造成地内 |
| 94 | 74 | 52 | 85.770 | | マージ混 | | 柱痕　平地造成地内 |
| 95 | 38 | 38 | 85.719 | | マージ混 | 不明陶器1 | 柱痕　平地造成地内 |
| 96 | 33 | 32 | 85.763 | | マージ混 | | 柱痕　平地造成地内 |
| 97 | 68 | 67 | 85.669 | | マージ混 | | 5～10cmの礫が混入。平地造成地内 |
| 98 | 26 | 25 | 85.856 | | マージ混 | | 柱痕。平地造成地内 |
| 99 | － | 40 | 85.898 | | | 青磁1.絵文1 | 建物6 |
| 100 | 30 | 28 | 85.945 | | マージ混 | | 平地造成地内 |
| 101 | 48 | 35 | 86.174 | | マージ混 | | 平地造成地内 |
| 102 | 36 | 34 | 86.144 | | マージ混 | | 平地造成地内 |
| 103 | 35 | 28 | 85.802 | | マージ混 | | 平地造成地内 |
| 104 | 34 | 29 | 85.590 | | | | 柱痕 |
| 105 | 43 | 37 | 86.223 | 暗褐色 | マージ混 | 鉄片(釘？)1.焼土5 | 柱痕 |
| 106 | 48 | 38 | 86.194 | | マージ混 | | 柱痕 |
| 107 | 48 | 31 | 86.077 | | マージ混 | | |
| 108 | 34 | 30 | 86.142 | | マージ混 | 褐釉1 | |
| 109 | 28 | 24 | 86.248 | | マージ混 | | |
| 110 | 50 | 42 | 86.145 | | マージ混 | 青磁1.青花2.褐釉1.骨片1 | |
| 111 | 87 | 63 | 86.305 | | マージ混 | | |
| 112 | 54 | 14 | 86.181 | | マージ混 | | |
| 113 | 20 | 41 | 86.173 | | マージ混淡い土 | | 柱痕 |
| 114 | 34 | 32 | 86.228 | | マージ混淡い土 | | 柱痕 |
| 115 | 36 | 27 | 86.187 | | マージ混 | | 柱痕 |
| 116 | 27 | 26 | 86.225 | | マージ混 | | |
| 117 | 24 | 20 | 86.251 | | マージ混 | | |
| 118 | 23 | 19 | 86.351 | | マージ混 | | |
| 119 | 8 | 36 | 86.011 | | マージ混 | 青磁外反碗1 | |
| 120 | 42 | 37 | 86.217 | | マージ混 | 無文銭5～6枚 | |
| 121 | 35 | 30 | 86.092 | | マージ混淡い土 | | |
| 122 | 28 | 27 | 86.238 | | マージ混淡い土 | | |
| 123 | － | 30 | 86.174 | | マージ混淡い土 | | |
| 124 | 40 | 35 | 86.037 | | マージ混淡い土 | | |
| 125 | 38 | 35 | 85.993 | | マージ混淡い土 | 青磁1 | |
| 126 | 34 | 32 | 86.151 | | マージ混淡い土 | 獣骨1 | |
| 127 | 36 | 33 | 85.993 | | マージ混淡い土 | | |
| 128 | 25 | 18 | 86.296 | | マージ混淡い土 | | |
| 129 | 34 | 35 | 86.037 | | マージ混淡い土 | | |

## 第2表　ピット観察一覧(2)

| No. | 長径(cm) | 短径(cm) | 底面EL(m) | 覆土の色調 | | 出土遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 130 | 44 | 30 | 86.179 | 暗褐色 | マージ混淡い土 | | |
| 131 | 31 | 30 | 86.157 | 暗褐色 | マージ混淡い土 | | |
| 132 | － | 30 | 86.023 | 暗褐色 | マージ混淡い土 | 青磁1.焼土1 | |
| 133 | 35 | － | 86.119 | 暗褐色 | マージ混淡い土 | | |
| 134 | 45 | 34 | 86.057 | 暗褐色 | マージ混淡い土 | | |
| 135 | 40 | 35 | 86.275 | 暗褐色 | マージ混淡い土 | | |
| 136 | 40 | 30 | 86.103 | 暗褐色 | マージ混淡い土 | | |
| 137 | 45 | － | 85.854 | 暗褐色 | マージ混 | 青磁線刻蓮弁文碗1.青磁1.焼土1 | |
| 138 | 34 | 30 | 85.994 | 暗褐色 | マージ混 | 沖縄産施釉陶器1.鉄片1 | |
| 139 | － | － | 86.224 | 暗褐色 | マージ混 | | |
| 140 | 32 | 27 | 85.249 | 淡褐色 | マージ混 | | 平地造成地内 |
| 141 | 26 | 19 | 85.345 | 淡褐色 | マージ混 | | 平地造成地内 |
| 142 | 35 | 29 | 85.272 | 淡褐色 | マージ混 | | 平地造成地内 |
| 143 | 103 | 60 | 85.360 | 淡褐色 | マージ混 | | 平地造成地内 |
| 144 | 55 | 74 | 85.372 | 淡褐色 | マージ混 | | 平地造成地内 |
| 145 | 59 | 45 | 85.444 | 淡褐色 | マージ混 | | 平地造成地内 |
| 146 | 45 | 37 | 85.158 | 淡褐色 | マージ混 | | 平地造成地内 |
| 147 | 30 | 28 | 85.416 | 淡褐色 | マージ混 | | 平地造成地内 |
| 148 | 60 | 48 | 85.293 | 淡褐色 | マージ混 | 板状鉄片1 | 柱痕　平地造成地内 |
| 149 | 37 | 34 | 85.324 | 淡褐色 | マージ混 | | 平地造成地内 |
| 150 | 36 | 34 | 85.457 | 暗褐色 | マージ混 | | |
| 151 | 35 | 34 | 85.854 | 暗褐色 | マージ混 | | |
| 152 | 45 | 40 | 85.279 | 暗褐色 | マージ混 | | |
| 153 | 23 | 21 | 85.960 | 暗褐色 | マージ混 | | |
| 154 | 66 | 43 | 85.395 | 暗褐色 | マージ混 | | |
| 155 | 50 | 37 | 85.828 | 暗褐色 | マージ混 | | |
| 156 | 70 | 50 | 85.425 | 暗褐色 | マージ混 | 炭化物1 | 柱痕 |
| 157 | － | － | 85.454 | 暗褐色 | マージ混 | 獣骨1 | |
| 158 | 40 | 40 | 85.441 | 暗褐色 | マージ混 | 沖縄産施釉陶器1 | |
| 159 | － | 25 | 85.744 | 暗褐色 | マージ混 | | |
| 160 | 54 | 52 | 85.640 | 暗褐色 | マージ混 | | 建物2 |
| 161 | 40 | 37 | 85.379 | 暗褐色 | マージ混 | 青磁1.三彩1.褐釉1 | |
| 162 | 34 | 32 | 85.654 | 暗褐色 | マージ混 | 白磁1.褐釉1.骨片1 | |
| 163 | － | 45 | 85.629 | 暗褐色 | マージ混 | | 柱痕 |
| 164 | 34 | － | 85.724 | 暗褐色 | マージ混 | 青磁玉縁碗1.骨片1 | 柱痕 |
| 165 | 65 | 60 | 85.615 | 暗褐色 | マージ混 | | 建物2 |
| 166 | 34 | 25 | 85.817 | 暗褐色 | | | |
| 167 | 17 | 15 | 85.787 | 暗褐色 | | 青磁1.土器1.骨片2 | 土坑 |
| 168 | 110 | 53 | 85.787 | 暗褐色 | | 青磁2.青花1.褐釉1 | |
| 169 | 40 | 40 | 85.692 | 暗褐色 | マージ混 | 青磁1.土器1.骨片2 | |
| 170 | 41 | － | 85.312 | 暗褐色 | マージ混 | | |
| 171 | 30 | 26 | 85.504 | 暗褐色 | | | |
| 172 | 36 | 29 | 85.397 | 暗褐色 | | | |
| 173 | 44 | 40 | 85.740 | 暗褐色 | マージ混 | | |
| 174 | 27 | 23 | 85.346 | 暗褐色 | | | |
| 175 | 54 | 32 | 85.676 | 暗褐色 | マージ混 | | |
| 176 | 31 | 31 | 85.658 | 暗褐色 | マージ混 | 青磁1 | |
| 177 | 30 | 30 | 85.478 | 暗褐色 | マージ混 | | |
| 178 | 54 | － | 85.451 | 暗褐色 | マージ混 | | |
| 179 | 25 | 23 | 85.375 | 暗褐色 | マージ混 | 白磁1 | |
| 180 | 29 | 26 | 85.259 | 暗褐色 | マージ混 | | |
| 181 | 40 | 40 | 85.326 | 暗褐色 | マージ混 | 焼土1 | |
| 182 | 35 | － | 85.560 | 暗褐色 | マージ混 | 青磁2.白磁?2.青花2.鉄釘1.獣骨1.鉄滓1 | 柱痕 |
| 183 | － | 23 | 85.619 | 暗褐色 | | | |
| 184 | 40 | 39 | 85.686 | 暗褐色 | | | |
| 185 | 35 | － | 85.598 | 暗褐色 | | 陶器1 | 柱痕 |
| 186 | － | 30 | 85.750 | 暗褐色 | マージ混 | 白磁1 | |
| 187 | 37 | 40 | 85.901 | 暗褐色 | マージ混 | | 柱痕 |
| 188 | 59 | 40 | 85.683 | 暗褐色 | マージ混 | 青花粗製1 | 柱痕 |
| 189 | － | 28 | 85.833 | 暗褐色 | マージ混 | | 柱痕 |
| 190 | 30 | 25 | 85.772 | 暗褐色 | マージ混 | | 柱痕 |
| 191 | 25 | 22 | 85.749 | 暗褐色 | | | |
| 192 | 40 | 35 | 85.841 | 暗褐色 | マージ混 | 獣骨1 | 柱痕 |
| 193 | 25 | － | 85.914 | 暗褐色 | マージ混 | | |
| 194 | － | 32 | 85.346 | 暗褐色 | マージ混 | | |
| 195 | 26 | 26 | 86.062 | 暗褐色 | マージ混 | 青磁直口碗1.青磁1.瓦1.天目釉1.獣骨5 | |
| 196 | 120 | 96 | 86.015 | 暗褐色 | | | 土坑。大小の礫が混入。 |
| 197 | 38 | 35 | 85.728 | 暗褐色 | | | |
| 198 | 36 | 36 | 85.836 | 暗褐色 | マージ混淡い土 | | |
| 199 | 46 | 53 | 85.621 | 暗褐色 | | 青磁1青花2 | |
| 200 | 85 | 56 | 85.743 | 淡褐色 | | 礫4 | 楔石　平地造成地内 |
| 201 | 148 | 80 | 85.493 | 淡褐色 | | 青磁2青花1.沖縄産焼締陶器4.アカムヌ1.不明陶器5.鉄片5.瓦2 | 柱痕　平地造成地内 |
| 202 | 94 | 70 | 85.560 | 淡褐色 | マージ混 | | 平地造成地内建物3 |
| 203 | 44 | 34 | 85.595 | 淡褐色 | マージ混 | 礫4 | 平地造成地内建物3 |
| 204 | 40 | 33 | 85.637 | 淡褐色 | マージ混 | | 柱痕。平地造成地内建物3 |
| 205 | 30 | 25 | 85.791 | 淡褐色 | マージ混 | | 平地造成地。建物3 |
| 206 | － | 16 | 85.751 | 淡褐色 | | | 大型の礫が混入。平地造成地内 |
| 207 | 32 | 30 | 85.738 | 淡褐色 | | 沖縄産褐釉1.沖縄産陶器1.骨片7 | 5cm～10cm程の礫が混入。平地造成地内建物3 |
| 208 | 66 | 53 | 85.628 | 淡褐色 | | | 柱痕　平地造成地内 |
| 209 | 30 | 27 | 85.737 | 淡褐色 | マージ混 | | 柱痕。平地造成地内建物3 |
| 210 | 43 | 40 | 85.574 | 淡褐色 | マージ混 | | 柱痕。平地造成地。建物3 |
| 211 | 46 | 43 | 85.452 | 淡褐色 | | | 柱痕　10cm位の石が1個入っている。平地造成地 |
| 212 | 77 | 72 | 85.175 | 淡褐色 | マージ混 | | 平地造成地内 |
| 213 | 30 | 26 | 85.519 | 淡褐色 | マージ混 | 高麗瓦1 | 平地造成地内 |
| 214 | 40 | 40 | 85.552 | 淡褐色 | マージ混 | 沖縄産焼締陶器1 | 平地造成地内建物3 |
| 215 | 35 | 18 | 86.021 | 淡褐色 | マージ混 | 青花1 | 柱痕　平地造成地内 |
| 216 | 40 | 23 | 85.401 | 淡褐色 | マージ混 | | 平地造成地内建物3 |
| 217 | 34 | 30 | 85.479 | 淡褐色 | マージ混 | | 柱痕　平地造成地内建物3 |
| 218 | 19 | 19 | 85.433 | 淡褐色 | マージ混 | | 平地造成地内 |
| 219 | 23 | 22 | 85.445 | 淡褐色 | マージ混 | | 平地造成地内 |
| 220 | 15 | 14 | 85.425 | 淡褐色 | マージ混 | | 平地造成地内 |
| 221 | 50 | 47 | 85.197 | 淡褐色 | マージ混 | 青花4 | 柱痕　平地造成地内 |
| 222 | 37 | 28 | 85.693 | 淡褐色 | | 青花1.骨片1 | 柱痕　平地造成地内 |
| 223 | 60 | 50 | 85.743 | 暗褐色 | | | 柱痕 |
| 224 | 34 | 32 | 85.702 | 暗褐色 | | | |
| 225 | 50 | 42 | 85.593 | 暗褐色 | マージ混 | | 建物2 |
| 226 | 30 | 23 | 85.826 | 暗褐色 | マージ混 | | |
| 227 | 30 | 17 | 85.845 | 暗褐色 | マージ混淡い土 | | |
| 228 | 59 | 44 | 85.919 | 暗褐色 | マージ混 | 青花1.グスク土器1 | |
| 229 | 28 | 23 | 85.984 | 暗褐色 | マージ混 | | |
| 230 | 30 | 25 | 85.958 | 暗褐色 | マージ混 | | |
| 231 | 26 | 22 | 86.119 | 暗褐色 | マージ混 | | 柱痕 |
| 232 | 31 | 24 | 86.076 | 暗褐色 | マージ混淡い土 | | |
| 233 | 35 | 27 | 86.193 | 暗褐色 | マージ混 | グスク土器1.骨片2 | 柱痕 |
| 234 | 41 | 40 | 86.026 | 暗褐色 | マージ混 | 青磁直口碗1.半練1.不明陶器2.骨片8.鉄釘1 | 柱痕 |
| 235 | 30 | 27 | 85.968 | 暗褐色 | マージ混淡い土 | | 柱痕 |
| 236 | 10 | 9 | 86.088 | 暗褐色 | マージ混 | | |
| 237 | 15 | 13 | 86.107 | 暗褐色 | マージ混 | | |
| 238 | 53 | 50 | 86.096 | 暗褐色 | マージ混淡い土 | 礫2 | 楔石か。 |
| 239 | 51 | 42 | 86.044 | 暗褐色 | マージ混 | 青磁1.骨片7.金属片1.焼土1 | |
| 240 | 55 | 55 | 85.763 | 暗褐色 | マージ混 | 青磁1.骨片2 | |
| 241 | 34 | 32 | 85.833 | 暗褐色 | マージ混 | | 根固石 |
| 242 | 25 | 23 | 86.010 | 暗褐色 | マージ混 | | 柱痕 |
| 243 | 24 | 20 | 85.917 | 暗褐色 | | | |
| 244 | 28 | 27 | 欠 | 暗褐色 | | | |
| 245 | 42 | 40 | 86.028 | 暗褐色 | | | 柱痕 |
| 246 | 32 | 26 | 86.137 | 暗褐色 | | | |
| 247 | 32 | 32 | 85.734 | 暗褐色 | | | |
| 248 | 27 | 26 | 86.187 | 暗褐色 | マージ混 | | |
| 249 | 34 | 31 | 85.972 | 暗褐色 | | | |
| 250 | 28 | 30 | 85.851 | 暗褐色 | | | |
| 251 | 26 | 24 | 85.964 | 暗褐色 | | | 柱痕 |
| 252 | 31 | 30 | 86.049 | 暗褐色 | マージ混 | 礫1 | 根固石 |
| 253 | 32 | 31 | 86.197 | 暗褐色 | | | |
| 254 | 34 | 31 | 85.938 | 淡褐色 | マージ混 | | 平地造成地内 |

## 第3表　ピット観察一覧(3)

| No. | 長径(cm) | 短径(cm) | 底面EL(m) | 覆土の色調 | | 出土遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 255 | 27 | 27 | 86.081 | 暗褐色 | マージ混 | | |
| 256 | 34 | 32 | 86.222 | | マージ混 | | |
| 257 | 20 | 20 | 85.874 | | マージ混 | | |
| 258 | 32 | 24 | 86.024 | | マージ混 | | 炉跡? |
| 259 | 38 | 32 | 85.312 | | | | 焼土集中 |
| 260 | 21 | 18 | 86.037 | | マージ混 | | |
| 261 | 28 | 27 | 85.896 | | マージ混 | | |
| 262 | 58 | 40 | 86.045 | | マージ混 | 礫1 | 柱痕　楔石 |
| 263 | 30 | 24 | 86.130 | | マージ混 | | |
| 264 | － | 25 | 85.667 | | マージ混 淡い土 | | |
| 265 | 44 | 36 | 85.742 | | | | 炭化物、焼土が集中。建物1 |
| 266 | 22 | 20 | 85.884 | | マージ混 | | |
| 267 | 32 | 30 | 85.880 | | マージ混 | | 柱痕 |
| 268 | 20 | 18 | 85.892 | | マージ混 | | |
| 269 | 33 | 29 | 85.784 | | マージ混 | | |
| 270 | 24 | 20 | 85.726 | | | | |
| 271 | 44 | 33 | 85.738 | | | | 建物1 |
| 272 | 44 | 36 | 85.554 | | マージ混 | | |
| 273 | 56 | 33 | 85.567 | | マージ混 | | |
| 274 | 34 | 31 | 85.748 | | マージ混 | 褐釉1 | 柱痕 |
| 275 | 50 | 32 | 85.593 | | マージ混 | | |
| 276 | 39 | 33 | 85.488 | | マージ混 | 青磁1 | |
| 277 | 24 | 20 | 85.860 | | | | |
| 278 | 29 | 28 | 85.801 | | マージ混 | | 柱痕 |
| 279 | 36 | 36 | 85.656 | | マージ混 | | 建物1 |
| 280 | 27 | 27 | 85.848 | | | 礫3 | 楔石か。 |
| 281 | 45 | 38 | 85.844 | | マージ混 | | |
| 282 | 44 | 35 | 85.871 | | マージ混 | | |
| 283 | － | 26 | 85.971 | | マージ混 | | |
| 284 | 33 | 26 | 86.171 | | マージ混 淡い土 | | |
| 285 | 42 | 35 | 86.183 | | マージ混 淡い土 | | |
| 286 | 38 | 30 | 86.219 | | マージ混 淡い土 | | |
| 287 | 32 | 27 | 86.241 | | マージ混 淡い土 | | |
| 288 | 33 | 33 | 86.146 | | マージ混 淡い土 | | |
| 289 | 23 | 20 | 86.192 | | マージ混 淡い土 | | |
| 290 | － | － | 86.347 | | マージ混 | | |
| 291 | 30 | 27 | 85.782 | | | | |
| 292 | 38 | － | 85.619 | | | | |
| 293 | 31 | 30 | 85.757 | | マージ混 | グスク土器1 | 建物1 |
| 294 | 35 | 30 | 85.862 | | マージ混 | | |
| 295 | 17 | 16 | 85.935 | | マージ混 | | 柱痕 |
| 296 | 25 | 25 | 85.827 | | マージ混 | | 建物1 |
| 297 | 46 | 35 | 85.941 | | マージ混 | | |
| 298 | 35 | 30 | 85.881 | | マージ混 | 青花口折碗1 | 柱痕 |
| 299 | 52 | 37 | 86.119 | | マージ混 | | |
| 300 | 21 | 20 | 85.794 | | マージ混 | 砂岩(板状)1 | |
| 301 | 60 | 60 | 85.767 | | マージ混 | 青磁1.礫6 | 根固石　柱痕 |
| 302 | 65 | 56 | 85.582 | | マージ混 | 青磁無鎬蓮弁文碗1.青磁外反文碗1.骨片2 | 柱痕 |
| 303 | 115 | 110 | 85.857 | | | 青磁直口碗1.白磁1.鉄釘(?)1.骨片5 | 土坑 |
| 304 | 1132 | 420 | 84.800 | | | | 土坑 |
| 305 | － | 40 | 86.244 | | | | |
| 306 | 42 | 35 | 85.503 | | 淡い土 | | |
| 307 | 23 | － | 86.336 | | マージ混 | | |
| 308 | 24 | 20 | 85.856 | | マージ混 | | |
| 309 | 20 | 17 | 86.010 | | マージ混 | | |
| 310 | － | － | 86.162 | | マージ混 | | |
| 311 | 31 | 28 | 86.202 | | マージ混 | 青磁外反碗1 | |
| 312 | 40 | 37 | 86.219 | | マージ混 | | |
| 313 | 40 | － | 86.236 | | マージ混 | | |
| 314 | 165 | 128 | 85.908 | | | 青磁直口鉢1.青磁外反碗1.青磁8.青花1.グスク土器2.古銭1.金属片1.骨片2.貝殻1.礫3 | 土坑。10cm程の礫混入。 |
| 315 | 125 | 110 | 85.872 | | | 土器1 | 土坑。10cm程の礫混入。 |
| 316 | 30 | 30 | 85.789 | | マージ混 | | 柱痕 |
| 317 | 27 | 27 | 86.192 | | マージ混 | | |
| 318 | － | 124 | 85.794 | | | 青花粗製1.沖縄産陶器1.褐釉1.グスク土器1.骨片26.貝殻1.焼土3 | 土坑 |

| No. | 長径(cm) | 短径(cm) | 底面EL(m) | 覆土の色調 | | 出土遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 319 | 38 | 30 | 85.853 | | | 鉄釘1 | |
| 320 | － | 24 | 85.354 | | | | |
| 321 | 34 | 31 | 85.590 | | マージ混 | | |
| 322 | 38 | 33 | 85.540 | | マージ混 | 褐釉1.骨片1 | |
| 323 | － | 30 | 85.769 | | マージ混 | 青磁1.青花小杯1 | 土坑 |
| 324 | － | － | 85.838 | | | | 土坑 |
| 325 | － | 30 | 85.798 | | マージ混 | | |
| 326 | 20 | 15 | 85.810 | | マージ混 | | |
| 327 | 31 | 29 | 85.839 | 淡褐色 | マージ混 | | 平地造成地内 |
| 328 | 40 | 30 | 85.587 | 暗褐色 | マージ混 | | 柱痕 |
| 329 | － | 45 | 85.854 | | マージ混 | | |
| 330 | 36 | 30 | 85.780 | | マージ混 | | |
| 331 | 26 | 24 | 85.699 | | マージ混 | 微粒砂岩1 | |
| 332 | 37 | 22 | 85.680 | | マージ混 | | |
| 333 | 30 | 25 | 85.689 | | マージ混 | | |
| 334 | 20 | 18 | 85.911 | | マージ混 | 青磁1.瓦質陶器1 | |
| 335 | 33 | 28 | 85.435 | | マージ混 | | |
| 336 | 32 | 26 | 85.860 | | マージ混 淡い土 | | |
| 337 | 48 | 21 | 85.770 | | マージ混 淡い土 | | |
| 338 | 32 | 21 | 85.979 | | マージ混 | | 柱痕 |
| 339 | 30 | 28 | 85.982 | | マージ混 | | |
| 340 | 45 | 45 | 85.626 | | マージ混 | | |
| 341 | 40 | － | 85.988 | | | | |
| 342 | 39 | 34 | 85.953 | | マージ混 | | |
| 343 | 136 | 98 | 85.889 | | | 青磁1.不明陶器1.骨片1.金属片1.焼土1 | 焼土面。土坑 |
| 344 | 84 | 75 | 84.947 | 淡褐色 | | 青磁盤1.青花3.骨片1 | 平地造成地内 |
| 345 | 26 | 24 | 85.483 | | マージ混 | 沖縄産施釉陶器5.鉄片8 | 平地造成地内。建物3 |
| 346 | 19 | 17 | 85.338 | | マージ混 | | 平地造成地内 |
| 347 | 27 | 23 | 85.381 | | | | 柱痕　平地造成地内 |
| 348 | 93 | 77 | 85.492 | | | 鉄片1.板状青銅製品1.礫片1 | 平地造成地内。建物4 |
| 349 | 35 | 34 | 85.811 | 暗褐色 | マージ混 | | |
| 350 | 24 | 16 | 85.960 | | | | |
| 351 | 26 | 24 | 欠 | 淡褐色 | | | 5cm～15cm位の礫が多数入っている |
| 352 | 33 | 16 | 85.841 | 暗褐色 | マージ炭化物混 | | |
| 353 | 65 | 38 | 85.703 | | | 青磁1 | |
| 354 | 54 | 33 | 85.578 | | マージ混 淡い土 | 礫1 | |
| 355 | 40 | 27 | 85.857 | | | 青磁直口(碗?)1.焼土1 | 建物1 |
| 356 | 29 | 19 | 85.848 | | | | |
| 357 | 55 | 50 | 85.593 | | マージ混 | | |
| 358 | 60 | 43 | 85.721 | | マージ混 | 青磁雷文碗1.青磁無鎬蓮弁文碗1.褐釉1.不明陶器1.獣骨2 | |
| 359 | 30 | 26 | 85.587 | | マージ混 | | |
| 360 | 48 | 46 | 85.634 | | マージ混 | 青磁外反碗1.白磁3.青花2.灰釉1.　アカムヌ1.半練(蓋)1.骨片1.焼土3 | 柱痕 |
| 361 | 35 | 34 | 85.703 | | | | |
| 362 | 40 | 36 | 85.908 | | マージ混 淡い土 | | 柱痕。建物1 |
| 363 | | | 85.464 | | | 青磁1.鉄片1.骨片7 | |
| 364 | 26 | － | 86.059 | | マージ混 | | |
| 365 | － | 36 | 86.120 | | マージ混 | | 柱痕 |
| 366 | 27 | － | 86.156 | | マージ混 | | 柱痕 |
| 367 | 30 | 23 | 85.746 | | マージ混 | | |
| 368 | 29 | 24 | 86.068 | | マージ混 | | |
| 369 | 12 | 12 | 85.372 | | | | |
| 370 | 28 | － | 86.234 | | | | 柱痕 |
| 371 | 26 | 15 | 85.960 | | | | |
| 372 | 33 | 28 | 86.163 | | マージ混 | | |
| 373 | 18 | 15 | 86.154 | | マージ混 | | |
| 374 | 25 | 18 | 85.972 | | マージ混 | | |
| 375 | － | － | 86.271 | | マージ混 | | |
| 376 | 43 | － | 85.972 | | マージ混 | 青磁外反碗(皿?)1.青磁碗(鉢?)1青磁1.骨片4 | |
| 377 | 35 | 32 | 85.554 | | マージ混 | | |
| 378 | 30 | 24 | 86.085 | | マージ混 | 青磁外反碗1 | |

## 第4表　ピット観察一覧(4)

| No. | 長径(cm) | 短径(cm) | 底面EL(m) | 覆土の色調 | | 出土遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 379 | 36 | 27 | 86.082 | | マージ混 | | |
| 380 | 24 | 25 | 欠 | | マージ混 | | |
| 381 | 35 | 20 | 86.179 | | マージ混淡い土 | | |
| 382 | 25 | 21 | 85.656 | | マージ混淡い土 | | |
| 383 | 35 | 31 | 86.137 | | | | 根固石。柱痕。 |
| 384 | 27 | － | 85.763 | | | | |
| 385 | 20 | 13 | 85.768 | | | | |
| 386 | 26 | 24 | 85.681 | | | | |
| 387 | 20 | 16 | 85.743 | | マージ混 | | |
| 388 | 64 | 49 | 85.666 | | マージ混 | | |
| 389 | － | 25 | 85.769 | | マージ混 | | |
| 390 | 32 | － | 85.982 | | マージ混 | | |
| 391 | － | 17 | 85.904 | | マージ混 | | |
| 392 | 45 | 33 | 85.624 | | マージ混 | | |
| 393 | 22 | 19 | 85.662 | | マージ混 | | |
| 394 | 13 | 10 | 86.019 | | マージ混 | | |
| 395 | 24 | 20 | 85.768 | | マージ混 | | |
| 396 | 19 | 18 | 85.883 | | マージ混 | | |
| 397 | 30 | 25 | 85.909 | | マージ混 | | |
| 398 | 44 | 44 | 85.728 | | マージ混 | 青花腰折杯1.焼土1 | |
| 399 | － | 18 | 85.969 | | マージ混 | | |
| 400 | | | 欠 | 暗褐色 | マージ混 | | |
| 401 | 20 | 17 | 欠 | | マージ混 | | |
| 402 | 26 | 21 | 86.044 | | マージ混 | 緑釉1.鉄片(釘?)1 | |
| 403 | 35 | 35 | 86.115 | | マージ混 | | |
| 404 | － | 26 | 86.185 | | マージ混 | | |
| 405 | | | 欠 | | マージ混 | | |
| 406 | 35 | 26 | 86.021 | | マージ混 | | |
| 407 | 48 | 35 | 86.248 | | マージ混 | | |
| 408 | | | 欠 | | マージ混 | 骨片1 | |
| 409 | 21 | 19 | 86.305 | | マージ混 | | |
| 410 | 21 | 20 | 86.248 | | マージ混 | | 柱痕 |
| 411 | | | 欠 | | マージ混 | | |
| 412 | | | 欠 | | マージ混 | | |
| 413 | 25 | － | 86.249 | | マージ混 | | |
| 414 | 55 | 42 | 86.168 | | マージ混 | | |
| 415 | 33 | 28 | 86.255 | | マージ混 | | |
| 416 | 25 | 22 | 86.272 | | マージ混 | | |
| 417 | － | 27 | 86.248 | | マージ混 | | |
| 418 | 22 | 20 | 欠 | | マージ混 | | |
| 419 | 24 | － | 欠 | | マージ混 | | |
| 420 | 32 | 21 | 欠 | | マージ混 | | |
| 421 | 10 | 9 | 85.727 | | | | |
| 422 | 64 | 50 | 85.842 | | | 青磁無鎬蓮弁文口折皿1.骨片1 | 建物5 |
| 423 | 76 | 61 | 85.534 | | | 不明陶器1 | |
| 424 | － | 63 | 85.758 | | | 銅製品(鋲)1.焼土5 | 根固石 |
| 425 | 44 | 43 | 85.825 | 淡褐色 | | 沖縄産無釉陶器(蓋)1.骨片4 | 建物5 |
| 426 | 30 | 28 | 欠 | | | | |
| 427 | 29 | 27 | 85.863 | | | | |
| 428 | 30 | 29 | 85.752 | | | | |
| 429 | 52 | 42 | 85.839 | | | | 建物6 |
| 430 | | | 欠 | 暗褐色 | マージ混 | | 根固石 |
| 431 | 19 | 14 | 86.427 | | マージ混 | | |
| 432 | 37 | － | 85.764 | 淡褐色 | マージ混 | | |
| 433 | 45 | 42 | 86.057 | 暗褐色 | マージ混 | | |
| 434 | － | 36 | 欠 | | マージ混 | | |
| 435 | 40 | － | 85.095 | | マージ混 | | |
| 436 | 23 | 10 | 欠 | 淡褐色 | マージ混 | | |
| 437 | 19 | 10 | 85.405 | | マージ混 | 沖縄産施釉陶器2.獣骨1 | |
| 438 | 36 | 28 | 85.822 | | マージ混 | | |
| 439 | | | | 暗褐色 | | | |
| 440 | | | | | | | |
| 441 | | | | | | | |
| 442 | 40 | 38 | 85.718 | | | | 建物6 |
| 443 | 33 | 27 | 86.010 | | | | |
| 444 | 50 | 47 | 85.763 | | | | 建物6 |
| 445 | 42 | 34 | 85.492 | | | | |
| 446 | 15 | 12 | 85.991 | | | | |
| 447 | 19 | 19 | 85.926 | | | | |
| 448 | 52 | 47 | 85.704 | | | | 建物6 |
| 449 | 26 | 25 | 85.924 | 淡褐色 | | | |
| 450 | 18 | 17 | 85.894 | | | | |
| 451 | 18 | 18 | 85.864 | | | | |

| No. | 長径(cm) | 短径(cm) | 底面EL(m) | 覆土の色調 | | 出土遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 452 | 22 | 18 | 85.865 | | | | |
| 453 | 30 | 28 | 85.819 | | | | |
| 454 | 30 | 27 | 85.778 | | | | |
| 455 | 17 | 15 | 85.715 | | | | |
| 456 | 29 | 21 | 85.694 | | | | |
| 457 | 25 | 21 | 85.773 | | | | |
| 458 | － | 28 | 85.824 | | | | |
| 459 | 46 | 37 | 85.863 | | | | |
| 460 | 14 | 14 | 85.985 | | | | |
| 461 | 16 | 10 | 85.999 | | | | |
| 462 | 22 | 22 | 85.820 | | | | |
| 463 | 24 | 22 | 85.887 | | | | |
| 464 | 27 | 20 | 85.901 | | | | |
| 465 | 19 | 19 | | | | | |
| 466 | － | 32 | | | マージ混 | | 土坑11に切られる。 |
| 467 | 20 | 19 | | | | | |
| 468 | 18 | 16 | | | マージ混 | | 土坑11に切られる。 |
| 469 | 40 | 29 | 82.710 | | マージ混 | | 浅ピット列遺構。断面は浅鉢状。 |
| 470 | 33 | 30 | 82.610 | | マージ混 | | 浅ピット列遺構。断面は浅鉢状。 |
| 471 | 34 | 30 | 82.610 | 暗褐色 | マージ混 | | 浅ピット列遺構。断面は浅鉢状。 |
| 472 | 49 | 39 | | | | | 土坑 |
| 473 | | | | | | | 浅ピット列遺構 |
| 474 | 25 | 22 | | | | | 浅ピット列遺構 |
| 475 | | | | | | | 浅ピット列遺構 |
| 476 | 14 | 13 | | | | | 浅ピット列遺構 |
| 477 | 13 | 13 | | | | | 浅ピット列遺構 |
| 478 | 25 | 23 | | | | | 浅ピット列遺構 |
| 479 | 43 | 28 | | | | | 土坑 |
| 480 | 20 | 17 | | | | | 浅ピット列遺構 |
| 481 | 70 | 52 | | | | | 土坑 |
| 482 | 欠 | | | | | | |
| 483 | 欠 | | | | | | |
| 484 | 31 | 30 | 82.660 | | | | 浅ピット列遺構 |
| 485 | 32 | 30 | 82.660 | 淡褐色 | | | 浅ピット列遺構 |
| 486 | 40 | 34 | 82.600 | 暗褐色 | 下位に淡褐色土層 | | 浅ピット列遺構 |
| 487 | － | － | 欠 | | | | 浅ピット列遺構 |
| 488 | 34 | 28 | 82.780 | | | | 浅ピット列遺構 |
| | | | | | | | |
| 489 | 25 | 24 | 82.780 | | マージ、炭化物、焼土混 | | 浅ピット列遺構 |
| 490 | 31 | 30 | 82.710 | | 下位に淡褐色土層 | | 浅ピット列遺構。断面は浅鉢状。 |
| 491 | 36 | 35 | 82.680 | | 下位に淡褐色土層 | | 浅ピット列遺構。断面は浅鉢状。 |
| 492 | 32 | － | 82.580 | | 下位に淡褐色土層 | | 浅ピット列遺構。炭化物混。 |
| 493 | 34 | 33 | 82.570 | | 炭化物、焼土混 | | 浅ピット列遺構。掘具の刃幅約10cm。 |
| 494 | 29 | 31 | 82.590 | | 下位に淡褐色土層 | | 浅ピット列遺構。断面は浅鉢状。 |
| 495 | 28 | 25 | 82.860 | | 下位に淡褐色土層 | | 浅ピット列遺構。断面は浅鉢状。 |
| 496 | 34 | 33 | 82.720 | | 下位に淡褐色土層 | | 浅ピット列遺構。断面は浅鉢状。炭化物、焼土混。 |
| 497 | 30 | 25 | 82.760 | | マージ混 | | 浅ピット列遺構。断面はボール状。 |
| 498 | 30 | 26 | 82.730 | | 下位に淡褐色土層 | | 浅ピット列遺構 |
| 499 | 31 | 26 | 82.660 | | | | 浅ピット列遺構。断面は浅鉢状。炭化物、焼土混。 |
| 500 | 27 | 26 | | | | | 浅ピット列遺構 |
| 501 | 26 | 26 | | | | | 浅ピット列遺構 |
| 502 | 12 | 11 | | | | | |
| 503 | 21 | 20 | | | | | |
| 504 | 30 | 25 | | | | | |
| 505 | 68 | 62 | 83.030 | 淡褐色 | | | 建物11 |
| 506 | 66 | 64 | 83.050 | | | | 建物11 |
| 507 | 74 | 66 | 83.120 | | | | 建物11 |
| 508 | 65 | 62 | 83.020 | | | | 建物11 |
| 509 | 36 | 23 | 82.300 | | | | |
| 510 | 21 | 20 | 82.300 | | | | |
| 511 | 23 | 21 | 82.260 | | | | |

## 第5表　ピット観察一覧(5)

| No. | 長径(cm) | 短径(cm) | 底面EL(m) | 覆土の色調 | | 出土遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 512 | 24 | 24 | 82.240 | 暗褐色 | | | |
| 513 | 33 | 24 | 82.220 | | | | |
| 514 | 24 | 22 | 82.170 | | | | |
| 515 | 23 | 23 | 82.200 | | | | |
| 516 | － | 21 | 82.240 | | | | |
| 517 | 28 | 19 | 82.210 | | | | |
| 518 | 22 | 21 | 82.260 | | | | |
| 519 | 23 | 22 | 82.270 | | | | |
| 520 | 29 | 22 | 82.230 | | | | |
| 521 | 29 | 28 | 82.390 | | | | |
| 522 | 26 | 23 | 82.220 | | | | |
| 523 | 32 | － | 82.380 | | | | |
| 524 | 22 | 20 | 82.210 | | | | |
| 525 | 26 | － | 82.230 | | | | |
| 526 | 33 | 31 | 82.240 | | | | |
| 527 | 46 | 44 | 82.310 | | | | |
| 528 | 65 | 58 | 82.190 | | | | |
| 529 | 32 | 19 | 82.080 | | | | |
| 530 | 45 | － | 81.840 | | | | |
| 531 | 54 | 45 | 82.190 | 焼土・炭化物混 | | 青磁雷帯文碗、瓦 | |
| 532 | － | 81 | 82.460 | 焼土・炭化物混 | | 青磁3、鉄塊1 | 土坑 |
| 533 | － | － | 81.960 | | | | |
| 534 | 14 | 13 | 82.090 | | | | |
| 535 | 16 | 16 | 82.940 | | | | |
| 536 | 13 | 13 | 82.590 | | | | |
| 537 | 24 | 18 | 82.590 | | | | |
| 538 | 121 | 90 | 82.080 | 焼土・炭化物混 | | 中国産褐釉壷1、骨片1至□□寶 | 土坑 |
| 539 | － | － | 82.360 | 焼土・炭化物混 | | | 土坑 |
| 540 | 15 | 14 | 82.200 | | | | |
| 541 | 18 | 17 | 82.140 | | | | |
| 542 | 22 | 22 | 82.110 | 炭化物混 | | | |
| 543 | 67 | 55 | 82.590 | 焼土・炭化物混 | | | 土坑 |
| 544 | 38 | 28 | | | | | |
| 545 | 24 | 23 | | | | | |
| 546 | 17 | 16 | | | | | |
| 547 | 27 | 24 | | | | | |
| 548 | 22 | 21 | 81.900 | | | | |
| 549 | 90 | 89 | 82.570 | 焼土・炭化物混 | | | 土坑 |
| 550 | 23 | 22 | 82.150 | | | | |
| 551 | 20 | 20 | 82.170 | | | | |
| 552 | － | － | 82.160 | | | | |
| 553 | 21 | 20 | 82.480 | | | | |
| 554 | 26 | 25 | | | | | |
| 555 | 21 | 19 | 82.410 | | | | |
| 556 | 21 | 20 | 82.170 | | | | |
| 557 | 18 | 17 | | | | | |
| 558 | 27 | 24 | | 焼土・炭化物混 | | | |
| 559 | 140 | 61 | 82.460 | 焼土・炭化物混 | | 陶器2、骨片1 | 土坑 |
| 560 | 20 | － | 82.400 | | | | |
| 561 | 18 | 16 | 82.950 | | | | |
| 562 | 28 | 20 | 82.700 | | | | |
| 563 | 27 | － | 81.850 | | | | |
| 564 | 16 | 16 | 82.940 | | | | |
| 565 | 25 | － | 82.960 | | | | |
| 566 | 20 | 15 | 82.600 | | | | |
| 567 | 65 | 58 | 81.780 | | | | |
| 568 | － | － | | | | | |
| 569 | 127 | － | 82.440 | 焼土・炭化物混 | | 瓦質土器1 | 土坑 |
| 570 | 欠 | | | | | | |
| 571 | 18 | 16 | 欠 | | | | |
| 572 | 27 | 23 | 欠 | | | | |
| 573 | 21 | 21 | 欠 | | | | |
| 574 | － | － | 欠 | | | | |
| 575 | 30 | 24 | 82.600 | | | | |
| 576 | 22 | 20 | 82.490 | | | | |
| 577 | 25 | 23 | 82.240 | | | | |
| 578 | 25 | 25 | 82.260 | | | | |

# 第Ⅳ章　出土遺物

総計11,671片の遺物が出土した。地区別の内訳では、Ⅰ地区7,556片、Ⅱ-A地区3,770片、Ⅱ-B地区345片の遺物が得られている。第６・７・８表に各地区の出土遺物一覧表を示し、以下、主要な遺物について観察一覧表および実測図を示す。

**第６表　Ⅰ地区　出土遺物一覧**

| 種類＼出土地 | 表採 | 攪乱 | １層 | ２層 | ３層 | ４層 | ５層 | その他 | 不明 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土器 | 2 | 14 | 1 | 17 | 37 | 44 | 2 | 1 | 13 | 131 |
| 青磁 | 17 | 81 | 14 | 102 | 301 | 179 | 33 | 165 | | 892 |
| 白磁 | 1 | 35 | 2 | 41 | 222 | 105 | 15 | 32 | | 453 |
| 青花 | 1 | 66 | 11 | 57 | 289 | 78 | 22 | 76 | 461 | 1,061 |
| 天目 | | | | | | 1 | 1 | | 2 | 4 |
| 赤絵 | | | | 1 | 3 | 1 | | 1 | | 6 |
| 瑠璃釉 | | 1 | | | 2 | | | | | 3 |
| 三彩 | | | | | 2 | 1 | | | 1 | 4 |
| 緑釉 | | 1 | 2 | 2 | 4 | 3 | | 1 | | 13 |
| 翡翠釉 | | 1 | | | | | | | | 1 |
| 褐釉陶器 | 13 | 43 | 22 | 83 | 216 | 82 | 21 | 29 | 16 | 525 |
| タイ産陶器 | | 1 | | 2 | 4 | 1 | | | 1 | 9 |
| タイ産鉄絵 | | | | | 2 | 1 | | | 1 | 4 |
| タイ産半練 | | | | | 4 | 5 | | 1 | 1 | 11 |
| 高麗青磁 | | | | | 3 | 1 | | | 1 | 5 |
| 類須恵器 | | 1 | | 3 | 6 | 2 | | 3 | 3 | 18 |
| 本土産陶磁器 | 1 | 8 | | 20 | 91 | 18 | 4 | 30 | 6 | 178 |
| 不明陶器 | 5 | 51 | 14 | 132 | 154 | 58 | 14 | 68 | 2 | 498 |
| 沖縄産無釉陶器 | 2 | 23 | 8 | 29 | 70 | 25 | 7 | 20 | | 184 |
| 沖縄産施釉陶器 | 4 | 42 | 31 | 110 | 67 | 16 | 19 | 133 | 9 | 431 |
| 沖縄産軟質陶器 | 13 | 24 | 21 | 95 | 33 | 9 | 21 | 201 | | 417 |
| 沖縄産瓦質土器（橙色） | 2 | 23 | 10 | 16 | 25 | 3 | 4 | 12 | | 95 |
| 沖縄産瓦質土器（灰色） | | | | | 1 | | | | | 1 |
| 近現代磁器 | | 14 | 5 | 15 | 11 | 4 | | 4 | 7 | 60 |
| 円盤状製品 | 1 | | 1 | 4 | | | | 1 | 2 | 9 |
| 土製品 | | | | | 1 | | | | | 1 |
| 石製品 | | | | | 1 | | | | | 1 |
| 炭化物 | | | | 3 | 2 | | | | 2 | 7 |
| 鍍金青銅製品 | | | | | | 1 | | 1 | | 2 |
| 青銅製品 | | 1 | | 1 | 3 | 1 | | 1 | 4 | 11 |
| 銭貨 | 3 | | | | 5 | 4 | | 5 | 1 | 18 |
| 煙管 | | 1 | | 2 | 4 | 1 | | | 2 | 10 |
| 瓦（灰色） | 4 | 12 | 6 | 45 | 121 | 31 | 6 | 20 | 19 | 264 |
| 瓦（橙色） | | 3 | 1 | | 1 | | | | | 5 |
| 鍛冶関連 | | 2 | | | 3 | 3 | | 1 | 12 | 21 |
| 焼土 | | 57 | | 57 | 49 | 89 | 7 | 8 | 97 | 364 |
| 鉄 | | | | 2 | 1 | | | | 10 | 13 |
| 脊椎動物遺存体 | | 153 | 17 | 119 | 889 | 410 | 68 | 29 | 66 | 1,751 |
| 貝類依存体 | 1 | 13 | 2 | 14 | 19 | 13 | | 11 | 2 | 75 |
| 合計 | 70 | 671 | 168 | 972 | 2,646 | 1,190 | 244 | 854 | 741 | 7,556 |

## 第７表　Ⅱ-A地区　出土遺物一覧

| 種類＼出土地 | 表採 | 攪乱 | 1層 | 2層 | 3層 | その他 | 不明 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土器 | | | 1 | | | | 36 | 37 |
| 青磁 | | 42 | 25 | 83 | 300 | 129 | 31 | 610 |
| 白磁 | | | 13 | 23 | 40 | | 30 | 106 |
| 青花 | | | 20 | 40 | 42 | 38 | | 140 |
| 天目 | | | | 2 | | | | 2 |
| 瑠璃釉 | | | 1 | | 1 | | | 2 |
| 褐釉陶器 | | | | 4 | 2 | | | 6 |
| 本土産陶磁器 | | 1 | 7 | 4 | 3 | 4 | | 19 |
| 沖縄産無釉陶器 | | | 84 | 105 | 108 | 37 | | 334 |
| 沖縄産施釉陶器 | | | 135 | 256 | 325 | 52 | 1 | 769 |
| 沖縄産軟質陶器 | | | 142 | 280 | 419 | 155 | | 996 |
| 沖縄産瓦質土器（橙色） | | 1 | 22 | 32 | 22 | 13 | | 90 |
| 近現代磁器 | | | 19 | 14 | 6 | 3 | | 42 |
| 円盤状製品 | | | 1 | 1 | 2 | 1 | | 5 |
| 土製品 | | | | | | 1 | | 1 |
| 青銅製品 | | | 3 | 3 | 1 | | 1 | 8 |
| 銭貨 | | | | | | 3 | | 3 |
| 煙管 | | | | 1 | 1 | | | 2 |
| 瓦（灰色） | | 2 | 23 | 8 | 22 | 4 | | 59 |
| 鍛冶関連 | | | 1 | 1 | 3 | 6 | 5 | 16 |
| 焼土 | | | 15 | 28 | 39 | | 53 | 135 |
| 炭化木片 | | | 5 | 2 | 4 | 6 | 7 | 24 |
| 鉄 | | | 60 | 76 | 41 | 3 | 18 | 198 |
| 戦争遺物 | | | 12 | 35 | 3 | 2 | 7 | 59 |
| 木片 | | | | | | 5 | | 5 |
| 脊椎動物遺存体 | | 1 | 9 | 3 | | 25 | 6 | 44 |
| 貝類遺存体 | | | 18 | 22 | 6 | 2 | 10 | 58 |
| 合計 | 0 | 47 | 616 | 1,023 | 1,390 | 489 | 169 | 3,770 |

## 第８表　Ⅱ-B地区　出土遺物一覧

| 種類／出土地 | 青磁 | 白磁 | 青花 | 褐釉陶器 | タイ産鉄絵 | 本土産陶磁器 | 沖縄産無釉陶器 | 沖縄産施釉陶器 | 沖縄産軟質陶器 | 沖縄産瓦質土器 | 不明陶器 | 石製品 | 青銅製品 | 銭貨 | 煙管 | 瓦 | 鍛冶関連 | 焼土 | 鉄 | 戦争遺物 | 木片 | 脊椎動物遺存体 | 貝類遺存体 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| E-13（アゼ）2層 | 3 | 1 | 2 | | 1 | 1 | 11 | 8 | 1 | | | | | | | 3 | 1 | 3 | 1 | | | 3 | | 39 |
| D-13（アゼ）2層 | 1 | | | | | | | 1 | 1 | | | | | | | 1 | | | | | | | | 4 |
| 2層一括 | | | | | | | 25 | 8 | 10 | | | | 2 | | 1 | 37 | 1 | | | | | | | 84 |
| E-11　3層 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | 3 |
| E-12　3層 | | | 2 | 2 | | | | 1 | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 | | 7 |
| E-13　3層 | 2 | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 | | 6 |
| E-14　3層 | 1 | | | | | | | | 1 | | | | | 2 | | 1 | | 2 | | | | | | 7 |
| D-15　3層 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| E-15　3層 | 4 | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 5 |
| 地山直上3層一括 | 9 | 4 | 8 | 2 | | 5 | 21 | 25 | | | | 1 | | 1 | | 25 | 7 | 8 | 35 | 2 | 3 | 1 | 3 | 160 |
| Pit 575 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| Pit 529 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| Pit 531 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | 2 |
| 土坑532 | 3 | | | | | | 1 | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | | | 6 |
| 土坑538 | | | | 1 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | 1 | | 3 |
| 土坑569 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 土坑559 | | | | | | | | | | | 2 | | | | | | | | | | | | 1 | 3 |
| 溝17 | 3 | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | 4 |
| 溝19 | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 |
| 溝20 | | | | | | | | | | | | | | | | 5 | | | | | | | | 5 |
| 合計 | 35 | 6 | 12 | 6 | 1 | 6 | 58 | 43 | 14 | 1 | 2 | 1 | 2 | 5 | 1 | 76 | 10 | 14 | 36 | 2 | 3 | 7 | 4 | 345 |

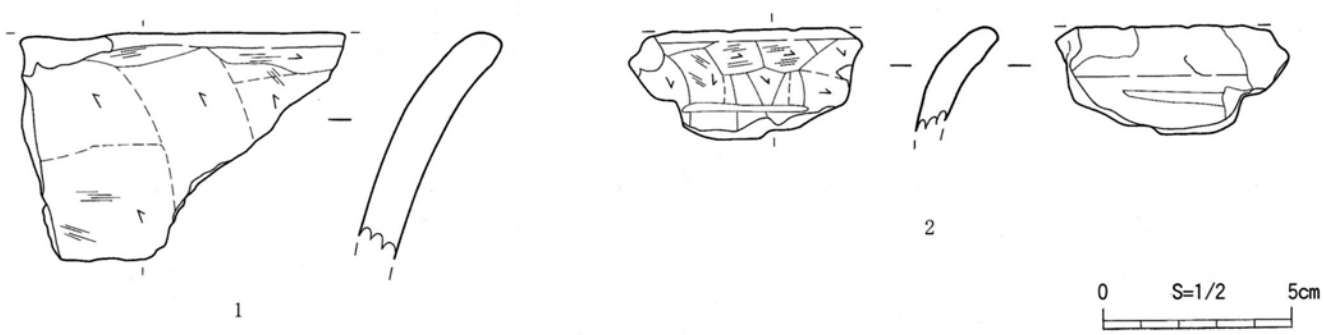
## 第１節　土器　（第62図　図版27）

総数168片程が得られている。地区別でみるとⅠ地区が131片、Ⅱ-A地区で37片が出土し、Ⅱ-B地区では出土していない。これらは胎土などから見て、グスク土器及び宮古式土器の範疇に含まれるものである。ほとんどが小破片のため、接合して全形が窺えるもの、またはある程度全形が推測できる資料に恵まれていない。小破片資料のうち、口縁部と認められるもの８片、底部と認められるもの７片である。これらのうち比較的大型の破片である壷口縁部資料２片を図化した。胎土に多量の砂粒や赤色粒を含み、宮古式土器の範疇に入るものである。また、タイ産の半練土器も数点得られているが、他のタイ産陶磁器と共に後述する。

**第９表　土器観察一覧**

（単位：cm）

| 挿図番号<br>図版番号 | 番号 | 器形 | 部位 | 口径<br>器高<br>底径 | 器色 | 器面調整 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第62図<br>図版27 | 1 | 鉢 | 口縁部 | —<br>—<br>— | 外面は黒褐色<br>内面は橙褐色 | 外面篦削り後撫で仕上げ　口唇部は篦磨き<br>内面は撫で | Ⅰ<br>え-6<br>4層 | 焼成良好。硬く焼き締まる。貝殻細片を多量に混入。口唇は僅かに外反する。口縁部には篦削り時にできた混入物の擦痕多数有り。 |
| 〃 | 2 | 鉢 | 口縁部 | —<br>—<br>— | 外面口縁部と内面は橙白色<br>外面胴部は淡灰色 | 外面篦削り後撫で仕上げ　内面は撫で | Ⅰ<br>え-8<br>4層 | 焼成良好。口唇は僅かに外反し雑に成形。赤色粒と微細な白色粒子多量に混入。 |




**第62図（図版27）　土器**

## 第２節　陶磁器

### 青磁　（第63～68図　図版28～33）

Ⅰ地区892片、Ⅱ-A地区610片、Ⅱ-B地区35片の出土があり、総数1,530片余り得られている。器種別の組成は、碗・皿・盤・鉢・杯・香炉・瓶・壷・壷の蓋の９器種である。時期は14世紀前半から16世紀代の遺物が出土している。小破片が多く、復元可能な資料は僅かである。図化可能な資料及び特徴的な資料を第63図～第68図に図示し、個々の詳細は観察一覧表に記した。以下、種別に概要を記述する。

### 1．碗

殆どが小破片の資料であり、全形の窺える資料は得られていない。文様から蓮弁文、雷文、無文の3種類が確認できる。

**無鎬蓮弁文碗**（第63図1～5　図版28）

器形は口縁部で直口または内湾ぎみのものや外反するものがあり、口唇部は肥厚するものとしないものがある。外面に施される蓮弁文様は片切り彫りで描かれ、弁先が尖る。

**線刻蓮弁文碗**（第63図6～13　図版28）

器形は概ね厚手の直口碗であり、口唇部は丸い。蓮弁の描き方を見てみると、蓮弁の線と弁先が一致するものと蓮弁の線と弁先が一致しないものが見られた。また、弁先は横方向に線彫りで連続して描かれるが、意識して尖らせているものと丸いものに分けられた。その弁先の上部には2本の圏陰線を施すものも見られる。

**雷文帯碗**（第63図14～17　図版28）

口縁形態・文様で概ね2種類に分けられる。①直口口縁で雷文を篦描きで描くもの。②内湾ぎみの口縁で口縁外部と内面体部にスタンプの雷文が施されているものである。

**無文外反碗**（第64図1～6　図版29）

口縁形態から3種類に分けられる。①口縁部が外反するもの。②口縁が玉縁状に肥厚し、外反するもの。③口縁付近で一旦くびれてから外反するもの。

**直口口縁碗**（第64図7　図版29）

合計25片の口縁部資料が得られた。特徴的なものを第64図7に示した。

**玉縁口縁碗**（第64図8　図版29）

合計11片の口縁部資料が得られたが、殆どが無文の小破片である。有文資料は1片得られており、内面に劃花文が型押しされる。

### 2．皿

器種の組成は、外反口縁の皿では口折皿、腰折皿、端反皿があり、直口口縁の皿では菊花皿が見られた。更に玉縁口縁皿も含め、以下の器種に分けられた。時期は14～15世紀のものが中心である。

**口折皿**（第64図9～12　図版29）

口縁部が外側に向かって水平方向に折れる皿である。外面に片切彫りで無鎬蓮弁文を描き、内面は無文のものが多い。1片のみ内面及び鍔表面に片切彫りで文様が描かれる資料が得られている。時期は14世紀後半～15世紀中頃のものである。

**腰折皿**（第64図13　図版29）

合計5片が得られた。すべて腰部の破片で屈曲部分には明瞭な稜をもち、口縁部までゆるやかに外反する。4片が内外面無文。1片のみ内面に図柄不明の線文が見られる。

**外反皿**（第65図1　図版30）

合計9片が得られたが、全体復元の出来る資料は得られなかった。器形は腰部で丸みをもち、口縁部まで浅くゆるやかに外反する。得られた資料は器の内外面は無文である。

**玉縁皿**（第65図2～5　図版30）

合計9片が得られたが、全体復元の出来る資料は得られなかった。器形は腰部で丸みをもって立ち上

がり、口縁手前でややくびれて外反する。口縁部は玉縁状に肥厚するものである。

**菊花型皿**（第65図６～８　図版30）

合計７片が得られている。そのうち口縁部から底部にかけての資料が１片得られている。内体面は菊花文を施し、外面の花弁については線刻の花弁文様が描かれるものと、花弁文様は省略され、口唇部の抉り目のみとなるものが見られた。なお、抉り目は内面の花弁の境界と一致する。

**稜花皿**（第65図９～11　図版30）

合計23片が得られている。腰折れの皿で、すべて腰折れ部分付近から口縁部にかけての資料である。器形は腰折れ部以降で外反しつつ浅く開き、口唇部は狭い間隔で抉り目を入れてラマ式蓮弁の弁先を表現している。口縁部に添って２～４条の線彫りを描くものと線彫りが不明瞭なものがある。内外面の文様は弁化が著しくすべて無文である。

**３．盤**

鍔縁の口縁部22片と底部７片の破片資料が出土したが、全形の伺える資料は得られなかった。特徴的なものを第66図に示した。

**鍔縁盤**（第66図１～４　図版31）

鍔の先端をつまみあげる形式の盤である。文様は、内面に幅広の１本篦で蓮弁文を描くものと櫛篦で幅の狭い蓮弁文を描くものがある。鍔上面及び外面に文様が見られる資料は見られなかった。１．２の図上復元による推定口径は24cm程を測る。高台資料は臥足形のものが得られた。

**４．杯**（第66図５　図版31）

全形の窺える資料が１点出土している。器形はベタ底の底部から胴部にかけて大きく膨らみ、口縁に向けて内湾するものである。口径6.8cm、器高3.5cmを測る。文様は無文。内外面には撫で調整が施される。

**５．香炉**（第66図６．７　図版31）

小型の筒型香炉である。すべて口縁部破片の為、全形の伺える資料はない。特徴的なものを第66図６・７に示した。６は底部よりやや開き気味に立ち上がり、口縁部は直口するものである。７は胴部がやや膨らみ口縁部にかけて内湾する。文様は胴部最大径付近に二本の沈線を巡らす。施釉範囲は両方とも外面から内面上部までである。

**６．瓶**（第66図８　図版31）

頸部破片が一点出土している。小破片であるため詳細は不明である。文様は頸部下方に二本の沈線を巡らす。施釉は内外面に施され、表面には全体に貫入が見られる。釉色は暗緑色の失透釉である。

**７．産地不明**（第68図１．２　図版33）

産地不明の輪花皿と蓋が出土している。素地、釉色等から本土産の可能性も考えられる資料である。

## 第10表　青磁観察一覧(1)

(単位：cm)

| 挿図番号<br>図版番号 | 番号 | 器形 | 部位 | 口径<br>器高<br>底径 | 素地 | 施釉 | 釉色 | 貫入 | 文様 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第63図<br>図版28 | 1 | 無鎬蓮弁文碗 | 口縁部 | —<br>—<br>— | 灰白色<br>細粒子 | 厚く両面施釉 | 淡緑色 | 無 | 有 | I<br>え-11<br>3層 | 直口口縁碗。 両面に弁先の尖った篦描の蓮弁文を描くが、釉の厚みの為外面の文様はかなり不明瞭。 |
| 〃 | 2 | 無鎬蓮弁文碗 | 口縁部 | 15.0<br>—<br>— | 白色<br>微粒子 | 厚く両面施釉<br>口縁部は薄く施釉 | 暗緑色 | 無 | 有 | 不明 | 外反口縁碗。 龍泉窯系。 |
| 〃 | 3 | 無鎬蓮弁文碗 | 口縁部 | —<br>—<br>— | 灰白色<br>微粒子 | 厚く両面施釉 | 暗緑色 | 全体に有 | 有 | I<br>え-9<br>4層 | ゆるやかに外反する外反口縁碗。 口縁部が僅かに玉縁状に肥厚。 外面に弁先の尖った片切彫の蓮弁文。 龍泉窯系。 |
| 〃 | 4 | 無鎬蓮弁文碗 | 口縁部 | —<br>—<br>— | 灰白色<br>微粒子 | やや厚く両面施釉 | 淡緑色 | 無 | 有 | I<br>え-7<br>4層 | 直口口縁碗。 外面に弁先の丸い幅広蓮弁文を描く。 内面口縁部に界線と劃花文らしき文様を片切り彫りで描く。 |
| 〃 | 5 | 無鎬蓮弁文碗 | 底部 | —<br>—<br>5.8 | 淡灰白色<br>微粒子 | 厚く両面施釉<br>外面　畳付けから高台内面途中まで施釉 | 淡青緑色 | 無 | 有 | IIB<br>E-15<br>3層 | 見込み牡丹文と界線。 外面には蓮弁文。 高台内に窯詰めの砂粒付着。 底部が約1.5cmと厚目。 |
| 〃 | 6 | 線刻蓮弁文碗 | 口縁部 | —<br>—<br>— | 淡灰色<br>細粒子 | やや厚く両面施釉 | 淡緑色 | 全体に細かく有 | 有 | I<br>お-7<br>4層 | 直口口縁碗。 線彫りで蓮弁を描き、弁先を波状に描く。 蓮弁と弁先はほぼ一致する。 蓮弁の直上と口唇に界線。 釉はガラス質で気泡多数混入。 |
| 〃 | 7 | 線刻蓮弁文碗 | 口縁部 | —<br>—<br>— | 灰白色<br>粗粒子 | やや厚く両面施釉 | 淡緑色 | 無 | 有 | I<br>お-29<br>2層攪乱 | 厚手の内灣型碗。 口唇を丸く成形。 外面上部に線書きで短く蓮弁を描き、弁先を波状で描く。 口縁部直下に2本の界線。 釉に細かい気泡多数有り。 |
| 〃 | 8 | 線刻細蓮弁文碗 | 口縁部 | —<br>—<br>— | 淡灰白色<br>微粒子 | 両面施釉 | 淡緑色 | 細かい貫入有 | 有 | I<br>お-13<br>4層 | 直口口縁碗。 線描で蓮弁を雑に描く。 蓮弁と弁先は一致する。 |
| 〃 | 9 | 線刻細蓮弁文碗 | 口縁部 | —<br>—<br>— | 淡灰白色<br>微粒子 | やや厚く両面施釉 | 淡緑色 | 無 | 有 | I<br>え・お-7<br>4層 | 直口口縁碗。 外面に線彫りによる蓮弁と弁先を描く。 弁先と蓮弁はほぼ一致する。 |
| 〃 | 10 | 線刻細蓮弁文碗 | 口縁部 | —<br>—<br>— | 橙白色<br>細粒子 | 未発色<br>薄く両面施釉 | 茶褐色 | 無 | 有 | I<br>お-10<br>3層 | 薄手の直口口縁碗。 外面に線書きの細蓮弁。焼成不良により器色が橙白色を帯び口縁部内面に釉溜まり有り。 弁先と蓮弁は一致しない。 |
| 〃 | 11 | 線刻蓮弁文碗 | 口縁部 | —<br>—<br>— | 灰白色<br>微粒子 | やや厚く両面施釉 | 淡緑色 | 無 | 有 | I<br>え-15・16<br>3層 | 直口口縁碗。 弁先を波状文で描く。 弁先と蓮弁一致しない。 |
| 〃 | 12 | 線刻蓮弁文碗 | 口縁部 | —<br>—<br>— | 灰白色<br>微粒子 | やや厚く両面施釉 | 淡緑色 | 無 | 有 | I<br>え-8<br>3層 | 直口口縁碗。 弁先は波状文で描き蓮弁は線描。 弁先と蓮弁は一致しない。 |
| 〃 | 13 | 線刻細蓮弁文碗 | 口縁部 | —<br>—<br>— | 灰白色<br>微粒子 | やや厚く両面施釉 | 淡緑色 | 内面に貫入有 | 有 | I<br>え-8<br>4層 | 直口口縁碗。 外面に篦で蓮弁を描き、線彫りで弁先を波状に描く。 |
| 〃 | 14 | 雷文帯碗 | 口縁部 | 14.4<br>—<br>— | 灰白色<br>微粒子 | やや薄く両面施釉 | 淡緑色 | 無 | 有 | I<br>え-7<br>4層 | 直口口縁碗。 外面上部にくずれた篦描の雷文。 内面無文。 |
| 〃 | 15 | 雷文帯碗 | 口縁部 | 15.4<br>—<br>— | 灰白色<br>微粒子 | やや厚く両面施釉 | 明青色 | 粗い貫入有 | 有 | I<br>お-9<br>3層 | 直口口縁碗。 外面上部に篦描きの雷文。 内面無文。 |
| 〃 | 16 | 雷文帯碗 | 口縁部 | —<br>—<br>— | 灰白色<br>微粒子 | やや薄く両面施釉 | 淡緑色 | 無 | 有 | I<br>お-18<br>4層 | 直口口縁碗。 外面上部に篦描の雷文。 内面無文。 |
| 〃 | 17 | 雷文帯碗 | 口縁部 | —<br>—<br>— | 淡灰白色<br>細粒子 | 両面施釉 | 淡灰緑色 | 無 | 有 | I<br>お-11<br>3層ｃｋ | 直口口縁碗。 外面口縁部にｽﾀﾝﾌﾟの雷文。内面胴部にｽﾀﾝﾌﾟによる雷文と不明文様。 |

## 第11表　青磁観察一覧(2)

（単位：cm）

| 挿図番号<br>図版番号 | 番号 | 器形 | 部位 | 口径<br>器高<br>底径 | 素地 | 施釉 | 釉色 | 貫入 | 文様 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第64図<br>図版29 | 1 | 外反碗 | 口縁部 | 17.6<br>—<br>— | 灰色<br>やや<br>粗粒子 | 両面に厚く施釉 | 暗緑色 | 無 | 無 | I<br>え-6<br>3層 | 口縁僅かに肥厚し外反。 |
| 〃 | 2 | 外反碗 | 口縁部 | 14.9<br>—<br>— | 淡灰白色<br>微粒子 | やや厚く両面施釉 | 淡緑色 | 粗い貫入有 | 無 | I<br>え-15D | 口縁部肥厚し、きつく外反。 口唇は丸みをもって成形。 釉やや厚めで釉中に気泡有り。 |
| 〃 | 3 | 外反碗 | 口縁部 | 17.2<br>—<br>— | 灰白色<br>やや<br>粗粒子 | 両面にやや厚く施釉 | 淡緑色 | 粗い貫入有 | 無 | I<br>お-5<br>4層 | 口縁僅かに肥厚し外反。 |
| 〃 | 4 | 外反碗 | 口縁部 | 12.6<br>—<br>— | 灰白色<br>微粒子 | 薄く両面施釉 | 灰緑色 | 無 | 無 | I<br>え-7<br>4層 | 口縁部はきつく外反。 |
| 〃 | 5 | 外反碗 | 口縁部 | 16.4<br>—<br>— | 灰白色<br>粗粒子 | やや厚く両面施釉 | 暗緑色 | 両面に粗く有 | 無 | I<br>お-5<br>4層 | 口縁部はやや肥厚し微弱に外反。 |
| 〃 | 6 | 外反碗 | 口縁部 | 15.0<br>—<br>— | 灰白色<br>やや<br>細粒子 | やや薄く両面施釉 | 青緑色 | 全体に有 | 無 | I<br>お-5<br>4層<br>え-16<br>5層 | 口縁部疑似肥厚し微弱に外反する。 肥厚帯直下を調整し口縁部を強調。 |
| 〃 | 7 | 直口碗 | 口縁部 | 15.8<br>—<br>— | 灰白色<br>微粒子 | 厚く両面施釉 | 暗緑色 | 無 | 無 | I<br>お-7<br>3b層 | 直口口縁の無文碗。 口縁部は薄く胴部は最大1mmと厚く施釉。 |
| 〃 | 8 | 玉縁碗 | 口縁部 | —<br>—<br>— | 灰白色<br>細粒子 | 両面施釉 | 淡緑色 | 無 | 有 | I<br>え-8<br>4層 | 幅広（約1cm）の玉縁。 内面にｽﾀﾝﾌﾟ文。 |
| 〃 | 9 | 口折皿 | 口縁部 | 12.4<br>—<br>— | 淡灰白色<br>細粒子 | やや厚く両面施釉 | 淡緑色 | 無 | 有 | I<br>表採 | 平鍔の鍔縁皿。 外面に片切彫りの蓮弁。 釉の発色良い。 |
| 〃 | 10 | 口折皿 | 口縁部 | —<br>—<br>— | 淡灰白色<br>微粒子 | 両面施釉 | 淡緑色 | 少し有 | 有 | IIB<br>D-15<br>3層 | 平鍔の鍔縁皿。 外面に片切彫りによる蓮弁文。 釉に透明感が有り気泡が見られる。 |
| 〃 | 11 | 口折皿 | 口縁部 | 11.8<br>—<br>— | 淡灰白色<br>微粒子 | 厚く両面施釉 | 淡緑色 | 無 | 有 | I<br>え-8<br>3b層 | 平鍔に唐草のくずれた文様と内面には草花文。 外面には弁先の尖った蓮弁を片切彫りで立体的に成形。 |
| 〃 | 12 | 口折皿 | 口縁部 | 12.0<br>—<br>— | 灰白色<br>細粒子 | 両面施釉 | 淡緑色 | 全体に有 | 有 | I<br>え-8<br>3層 | 平鍔の鍔縁皿。 外面に弁先の尖った鎬蓮弁。 |
| 〃 | 13 | 腰折皿 | 口縁部 | —<br>—<br>— | 灰白色<br>微粒子 | 厚く両面施釉 | 淡青緑色 | 無 | 無 | I<br>え-7<br>4層 | 口縁微弱に外反する。 素地も釉も厚く良質。 |
| 第65図<br>図版30 | 1 | 外反皿 | 口縁部 | 12.0<br>—<br>— | 白色<br>微粒子 | 厚く両面施釉 | 青緑色 | 粗い貫入有 | 無 | IIB<br>E-12<br>3層 | 口縁は微弱に外反。 腰部はゆるやかにカーブし、器壁は厚く丁寧な作り。 |
| 〃 | 2 | 玉縁皿 | 口縁部 | 12.4<br>—<br>— | 淡灰白色<br>細粒子 | 両面施釉 | 淡緑色 | 全体に細かく有 | 無 | I<br>お-7<br>3層 | 口縁を玉縁状に成形し微弱に外反させる。 外面に擦痕のような不明瞭な線。 |
| 〃 | 3 | 玉縁皿 | 口縁部 | 12.6<br>—<br>— | 淡灰白色<br>細粒子 | 両面施釉 | 黄灰色 | 全体に細かく有 | 無 | I<br>え-6<br>4層 | 口縁を玉縁状に成形する。 焼成不良のため釉不透明。 |
| 〃 | 4 | 玉縁皿 | 口縁部 | 12.0<br>—<br>— | 淡灰白色<br>細粒子 | 両面施釉 | 淡緑色 | 無 | 無 | I<br>え-8<br>4層 | 口縁は微弱に外反し玉縁状に肥厚。 |
| 〃 | 5 | 玉縁皿 | 口縁部 | —<br>—<br>— | 白色<br>微粒子 | 薄く両面施釉 | 淡緑色 | 無 | 無 | IIB<br>E-15<br>3層 | 口縁を玉縁状に成形し、微弱に外反する。 |

## 第12表　青磁観察一覧(3)

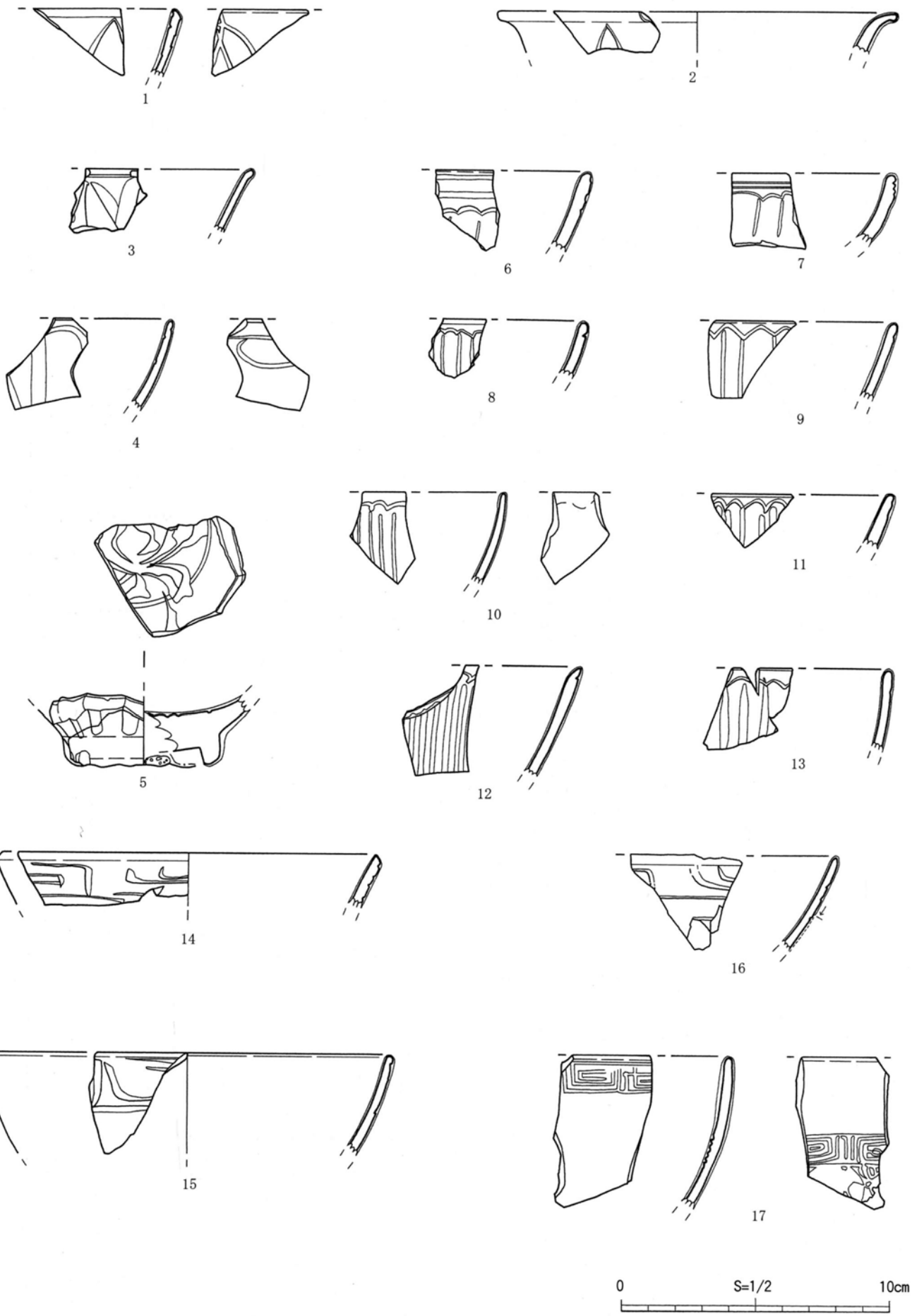
（単位：cm）

| 挿図番号<br>図版番号 | 番号 | 器形 | 部位 | 口径<br>器高<br>底径 | 素地 | 施釉 | 釉色 | 貫入 | 文様 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第65図<br>図版30 | 6 | 菊花形皿 | 口縁部 | 6.0<br>—<br>— | 淡黄白色<br>細粒子 | 両面施釉 | 淡緑色 | 少し有 | 有 | I<br>え-11<br>3b層 | 外面口唇部は箆をあて凹凸にし、菊花形に成形。　内面型成形と思われる。 |
| 〃 | 7 | 菊花形皿 | 口縁部<br>～底部 | —<br>—<br>— | 灰白色<br>微粒子 | 全面施釉後、外底の釉を掻取る | 淡緑色 | 粗い貫入有 | 有 | I<br>お-10<br>3層 | 外面箆描、内面型成形と思われる。　口唇は箆をあて凹凸にし菊花形に成形。 |
| 〃 | 8 | 菊花形皿 | 底部 | —<br>—<br>5.8 | 黄白色<br>粗粒子 | やや厚く全面施釉後、外底の釉を蛇の目状に剥ぐ | 暗緑色 | 細かい貫入有 | 有 | I<br>攪乱 | 外面箆描。　内面型成形と思われる。　高台非常に低い。　高台から腰部にかけて釉溜まり。施釉後に高台内の削りを仕上げている。 |
| 〃 | 9 | 稜花形皿 | 口縁部 | —<br>—<br>— | 灰白色<br>細粒子 | 両面施釉 | 淡緑色 | 全体に粗く有 | 有 | I<br>え-9<br>4層 | 腰下部で折れる腰折れ皿。　口縁に4本の櫛目。 |
| 〃 | 10 | 稜花形皿 | 口縁部 | —<br>—<br>— | 灰白色<br>細粒子 | やや厚く両面施釉 | 淡緑色 | 全体に有 | 有 | I<br>え-11<br>3b層 | 腰下部で折れる腰折れ皿。　口縁に2本の櫛目と1本の細線。　腰折れ部分（見込み側）に釉溜まり。 |
| 〃 | 11 | 稜花形皿 | 口縁部 | —<br>—<br>— | 灰白色<br>細粒子 | 両面施釉 | 淡青色 | 全体に有 | 有 | I<br>え-8<br>4層 | 口縁に2本の櫛目がみえるがはっきりしない。 |
| 第66図<br>図版31 | 1 | 鍔縁盤 | 口縁部 | 24.6<br>—<br>— | 灰白色<br>細粒子 | 両面施釉 | 暗緑色 | 全体に有 | 有 | I<br>攪乱 | 幅広の1本箆で蓮弁文。　鍔端はつまみ上げられる。 |
| 〃 | 2 | 鍔縁盤 | 口縁部 | 24.0<br>—<br>— | 灰白色<br>微粒子 | 厚く両面施釉 | 暗緑色 | 細かい貫入有 | 有 | I<br>え-12<br>3層 | 幅広の1本箆で蓮弁文。　鍔端はつまみ上げられる。 |
| 〃 | 3 | 鍔縁盤 | 口縁部 | —<br>—<br>— | 淡灰白色<br>粗粒子 | やや厚く両面施釉 | 淡緑色 | 全体に貫入 | 有 | I<br>え-7<br>4層 | 鍔端はつまみ上げられる。　幅の狭い箆が3本確認出来る。 |
| 〃 | 4 | 盤 | 底部 | —<br>—<br>9.0 | 赤茶色<br>粗粒子 | やや厚く全面施釉後、外底内の釉をふき取る | 暗緑色 | 全体に細かい貫入有 | 無 | I<br>え-10<br>3層 | 焼成不良のため、素地が赤色を帯びている。 |
| 〃 | 5 | 杯 | 口縁部<br>～底部 | 6.8<br>3.5<br>3.6 | 灰白色<br>微粒子 | やや厚く両面施釉　畳付外端まで施釉 | 青緑色 | 全体に有 | 無 | I<br>え-5<br>4層 | 碁笥底。　指で撫調整。 |
| 〃 | 6 | 香炉 | 口縁部 | 6.8<br>—<br>— | 灰白色<br>やや<br>細粒子 | 外面やや厚く施釉　内面口縁部施釉 | 青緑色 | 無 | 有 | I<br>え-9<br>4層 | 内面は口縁部約1ｾﾝﾁ下から無釉。 |
| 〃 | 7 | 香炉 | 口縁部 | 5.2<br>—<br>— | 灰白色<br>やや<br>微粒子 | 外面やや厚く施釉　内面途中まで施釉 | 青緑色 | 無 | 有 | I<br>お-6<br>4層 | 外面胴部に二条沈線。　口縁部厚く施釉。 |
| 〃 | 8 | 瓶 | 頸部 | —<br>—<br>— | 淡黄白色<br>細粒子 | 両面施釉 | 暗緑色 | 全体に有 | 有 | I<br>え-8<br>3層 | 頸部に2条の沈線。　内面に轆轤痕。 |
| 〃 | 9 | 皿 | 底部 | —<br>—<br>5.7 | 灰白色<br>微粒子 | やや薄く内面施釉、外面は高台外面まで施釉　畳付け外底露胎 | 青緑色 | 有 | 有 | I<br>お-11<br>3層 | 見込界線と文様不明の印花文有り。　畳付け外側を斜位に削る。 |
| 〃 | 10 | 碗 | 底部 | —<br>—<br>5.4 | 灰白色<br>やや<br>微粒子 | 全面施釉後、外底の釉を蛇の目状に剥ぐ | 青緑色 | 無 | 有 | I<br>お-8<br>4層 | 内底に『清渓』と見られる2文字のスタンプ有。　高台周辺を荒く打ち欠き丸く(?)成形している。　二次製品に転用されたものと思われる。　外底に窯詰めの陶土付着。 |

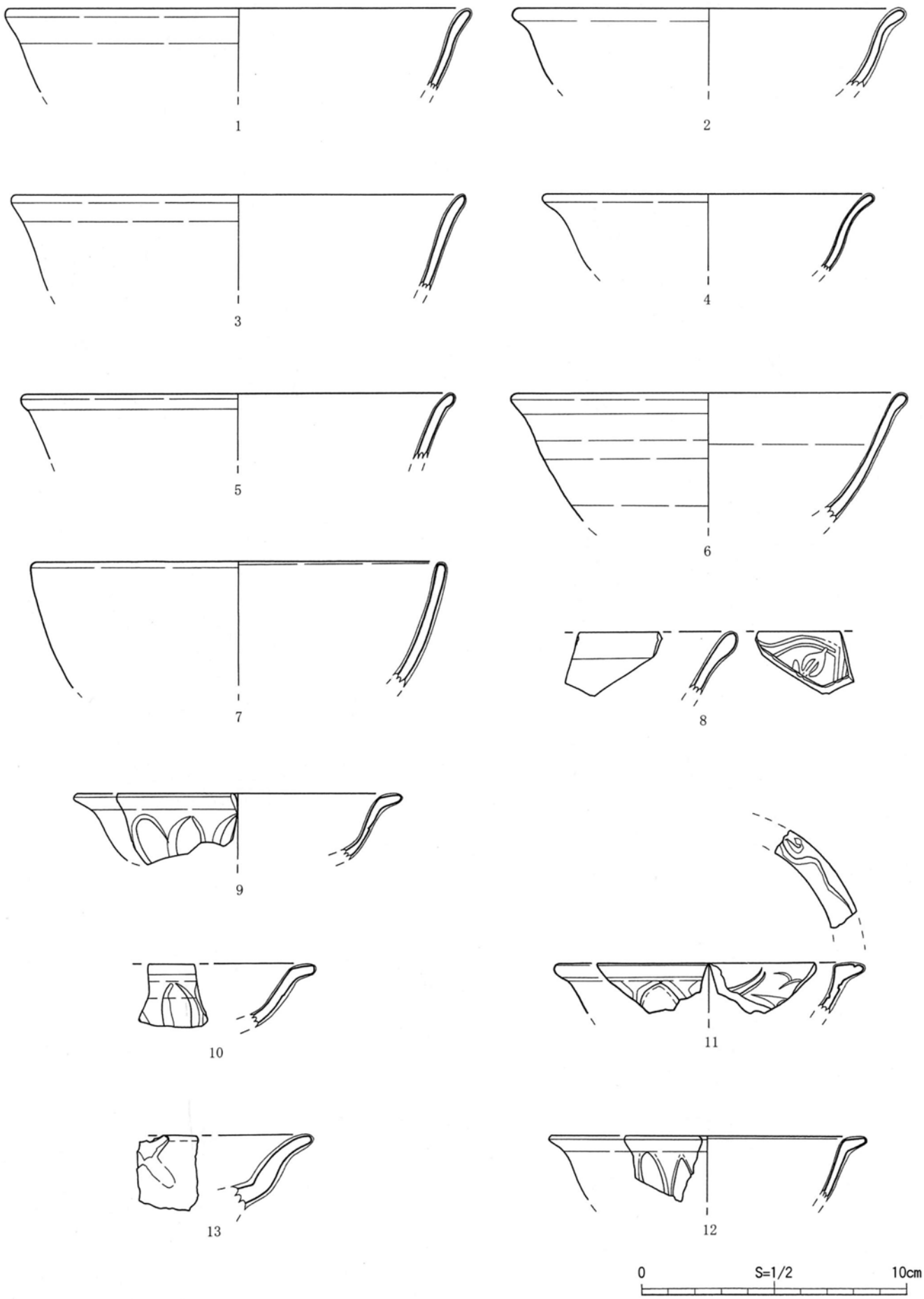
## 第13表　青磁観察一覧(4)

（単位：cm）

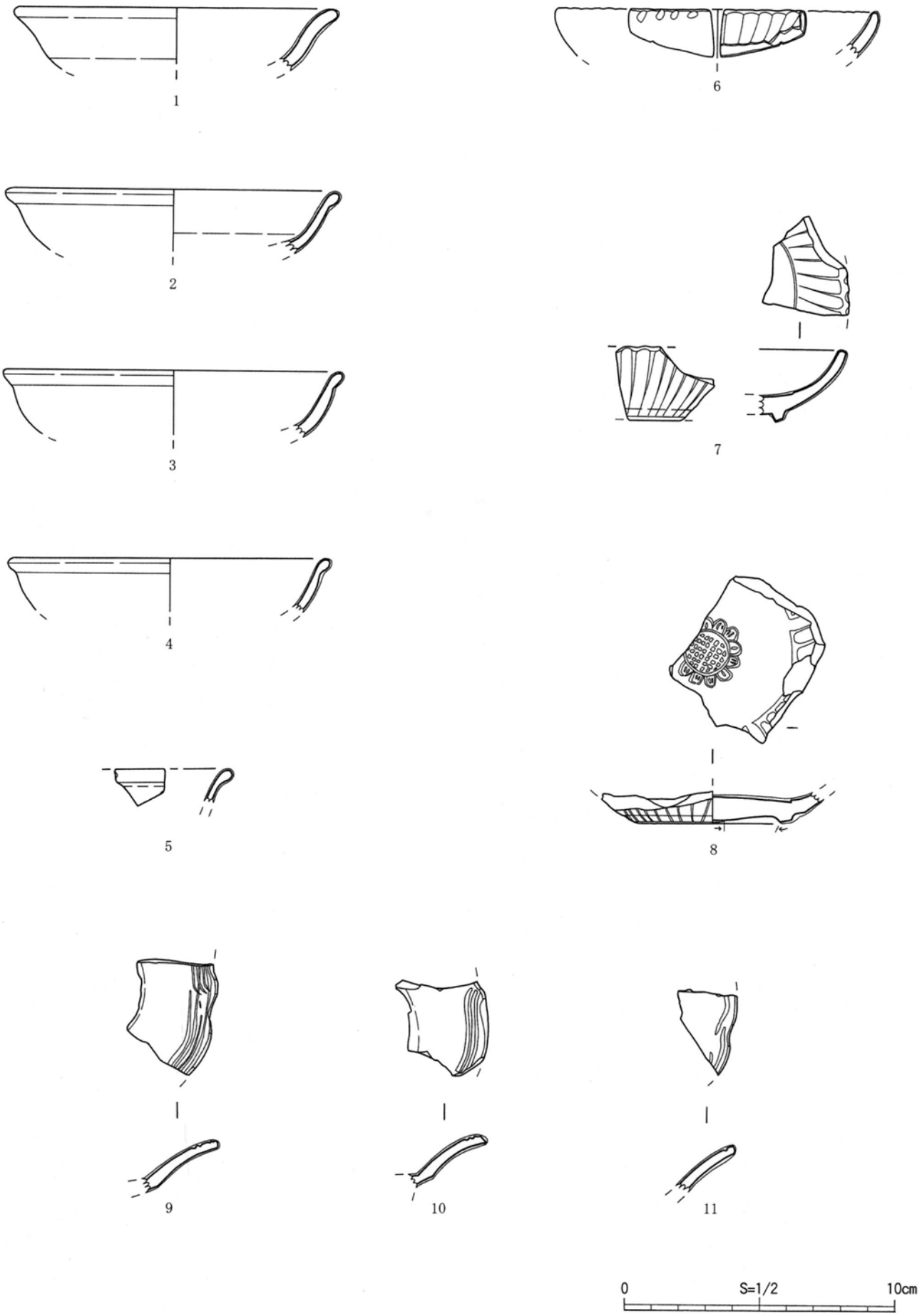
| 挿図番号<br>図版番号 | 番号 | 器形 | 部位 | 口径<br>器高<br>底径 | 素地 | 施釉 | 釉色 | 貫入 | 文様 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第66図<br>図版31 | 11 | 碗 | 底部 | —<br>—<br>6.4 | 灰白色<br>やや<br>粗粒子 | 全面施釉後、外底の釉を蛇の目状に剥ぐ | 青緑色 | 見込み部分に有 | 無 | I<br>攪乱 | 見込に界線とスタンプの花文らしき文様があるが不明。高台内に重ね焼の痕の溶着痕及び砂粒付着。 |
| 〃 | 12 | 皿 | 底部 | —<br>—<br>5.1 | 灰白色<br>微粒子 | 全面施釉後、外底の釉を蛇の目状に剥ぐ | 淡緑色 | 粗く有 | 有 | I<br>お-3<br>攪乱 | 見込に界線と卍の印花。　高台低い。 |
| 第67図<br>図版32 | 1 | 皿 | 底部 | —<br>—<br>5.2 | 灰白色<br>細粒子 | 両面施釉　外面高台脇まで施釉　畳付け外底露胎 | 淡緑色 | 無 | 有 | I<br>攪乱<br>No. 10-585 | 見込みに印花花文。畳付けの外側を斜位に削り尖らす。 |
| 〃 | 2 | 皿 | 底部 | —<br>—<br>6.6 | 灰白色<br>細粒子 | 内面見込施釉　外面高台際まで施釉　畳付け外底露胎 | 暗緑色 | 全体に細かい貫入有 | 有 | I<br>攪乱 | 見込みに双魚文を貼り付けるが、施釉前に一つ取れたようで凹んでいる。　竹節高台。　底部約1.7ｾﾝﾁと厚目。　釉の発色不良。　円盤状製品へ二次加工。 |
| 〃 | 3 | 碗 | 底部 | —<br>—<br>5.3 | 灰色<br>粗粒子 | やや薄く内面施釉　外面畳付途中まで施釉 | 青緑色 | 無 | 無 | I<br>お-6<br>4層 | 見込部分に渦巻き状の轆轤目痕有。底部厚い。 |
| 〃 | 4 | 碗 | 底部 | —<br>—<br>6.8 | 灰白色<br>粗粒子 | やや薄く内面施釉　外面高台脇まで施釉　畳付け外底露胎 | 青緑色 | 全体に細かい貫入有 | 有 | I<br>え・お-11<br>3c層 | 兜巾高台。　見込に花文。　轆轤回転左回り。 |
| 〃 | 5 | 鉢に近い(大)碗 | 底部 | —<br>—<br>6.8 | 灰白色<br>微粒子 | 両面施釉後、外底を蛇の目状に剥ぐ | 淡緑色 | 粗い貫入有 | 有 | I<br>攪乱 | 見込に花文と界線。　底部2.7cmと厚目。 |
| 〃 | 6 | 碗 | 底部 | —<br>—<br>6.4 | 灰白色<br>粗粒子 | やや薄く内面施釉　外面高台脇まで施釉　畳付け外底露胎 | 淡緑色 | 無 | 無 | I<br>攪乱 | 大ぶりの碗。　見込部分に沈線1本。底部を中心に丸く打ち砕いている。　内底と外底の中央が盛り上がる。 |
| 第67図<br>図版33 | 7 | 碗 | 底部 | —<br>—<br>6.8 | 淡灰白色<br>微粒子 | やや薄く内面施釉　外面高台脇まで施釉 | 青緑色 | 粗い貫入有 | 無 | I<br>え-7<br>4層 | |
| 〃 | 8 | 皿 | 底部 | —<br>—<br>6.8 | 灰白色<br>細粒子 | 両面施釉　見込蛇の目釉剥ぎ　外面高台内まで施釉　外底露胎 | 青緑色 | 有 | 無 | I<br>え・お-11<br>3c層 | |
| 〃 | 9 | 碗 | 底部 | —<br>—<br>5.0 | 淡黄橙色<br>やや<br>粗粒子 | 見込み蛇の目釉剥ぎ　外面高台脇から一部畳付けまで釉が流れる | 淡緑色 | 全体に有 | 不明 | I<br>R102 | 見込みに重ね焼きの痕有。畳付けは摩耗している。　高台小さい。　円盤状製品への二次加工痕有。　焼成不良。　質悪い。 |
| 第68図<br>図版33 | 1 | 輪花皿 | 口縁部 | 15.4<br>—<br>— | 淡灰白色<br>微粒子 | 薄く両面施釉 | 淡緑色 | 全体に有 | 有 | I<br>え-7<br>4層 | 鍔縁は輪花で鍔上面には6本を1単位とする波状の沈線文。内面も6本を1単位とする1ｾﾝﾁ程度の縦位の沈線を短く描く。釉は透明感があり腰部の釉溜まり部分は濃淡が顕著。<br>焼成良好。　産地不明。 |
| 〃 | 2 | | 蓋 | 17.1<br>—<br>— | 淡灰白色<br>微粒子 | 外面施釉<br>内面露胎 | 淡緑色 | 無 | 有 | I<br>え-12<br>3層 | 蓋甲頂周には2本の沈線を廻す。　釉は透明感があり釉溜まり部分は濃淡が顕著。外面に焼成時に付着したと思われる砂粒。　焼成良好。壺の蓋と推定される。　産地不明。 |



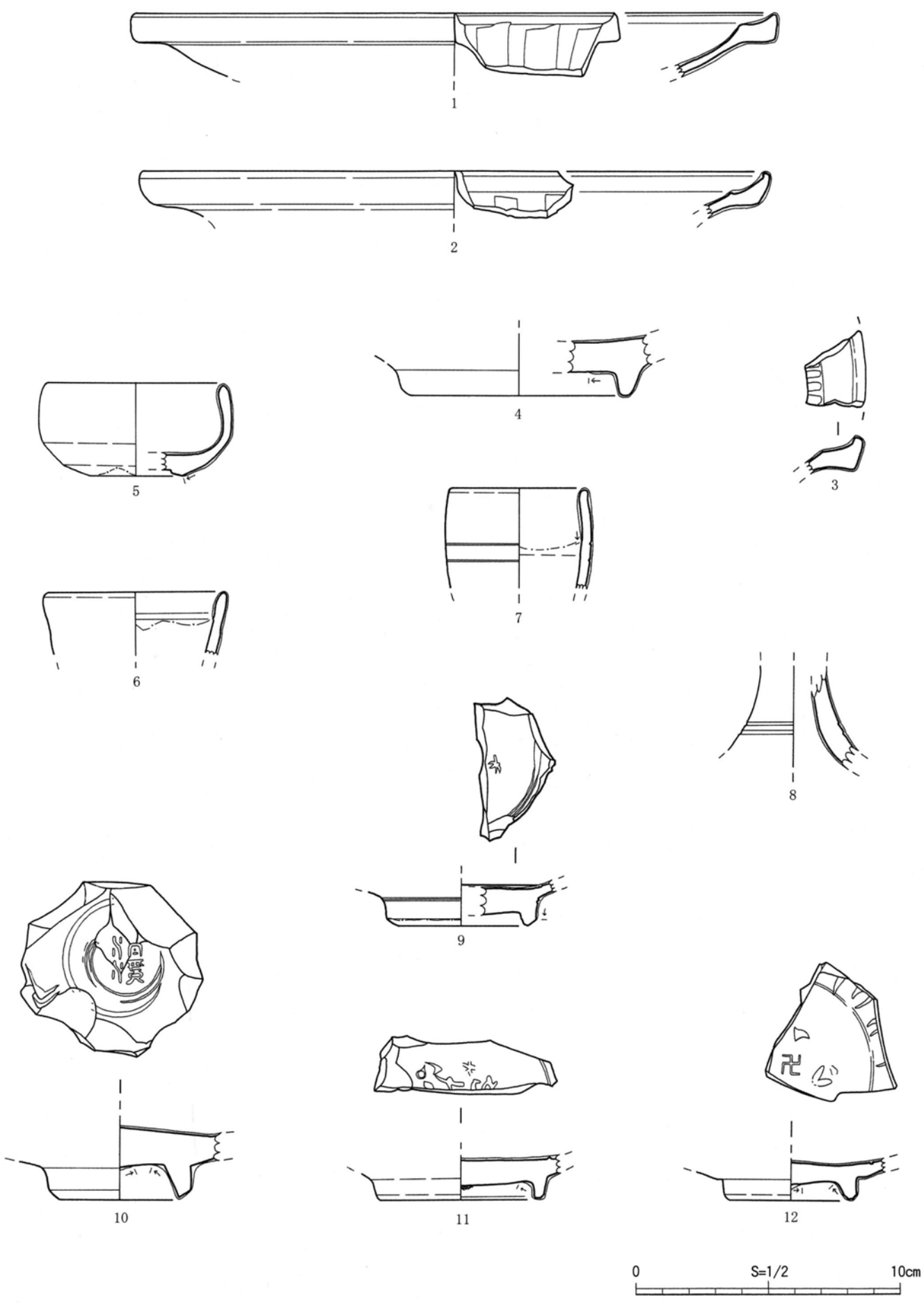

**第63図（図版28）　青磁：碗**



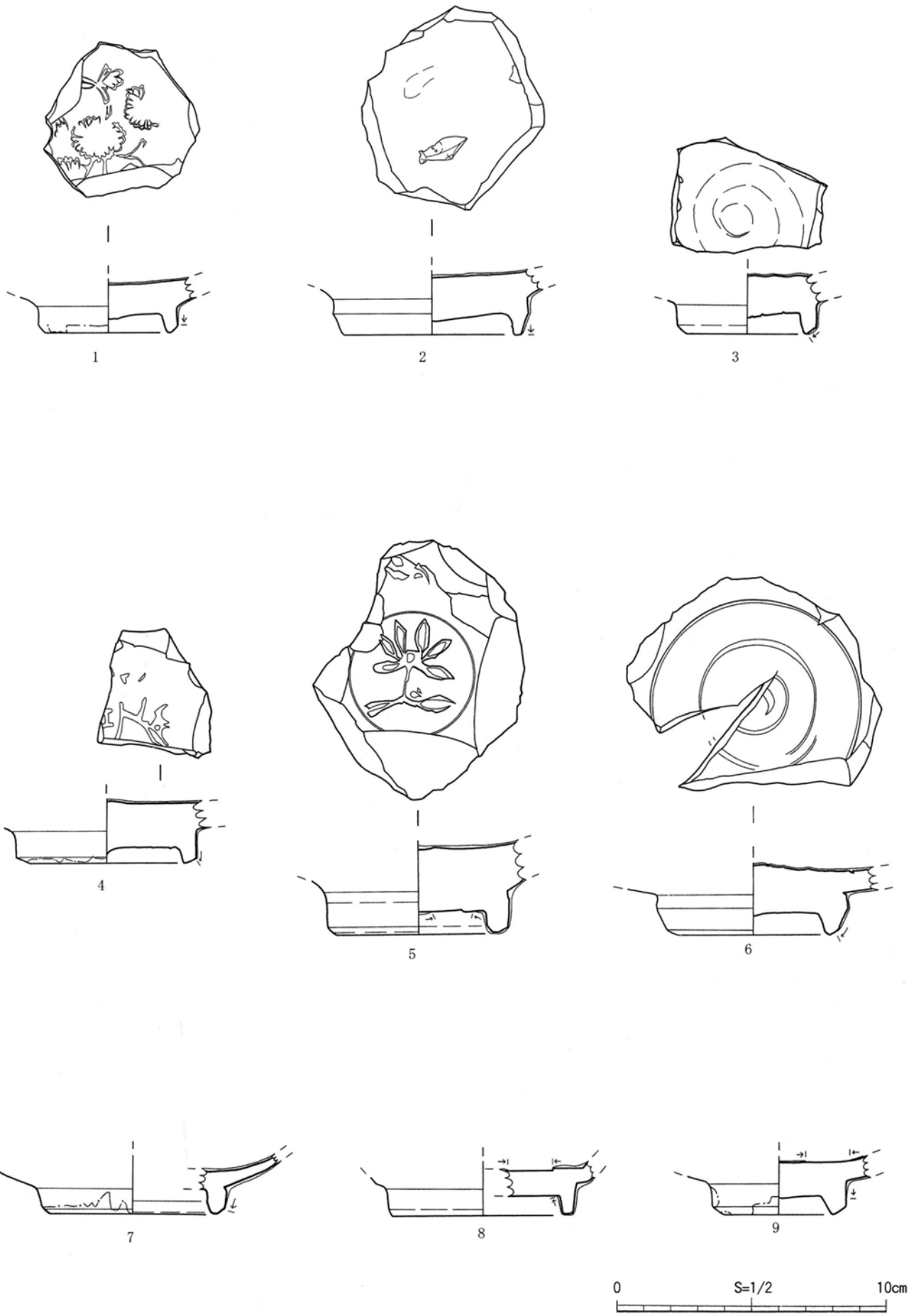

**第64図（図版29）　青磁**：碗(1～8)・皿(9～13)



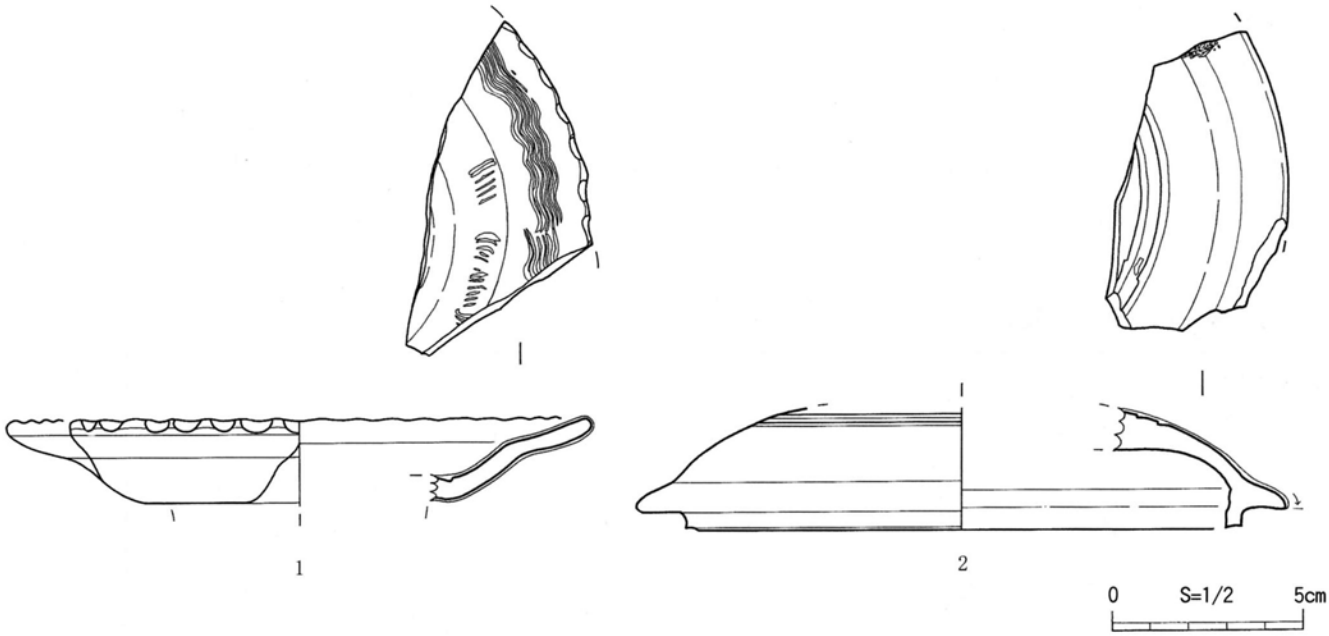

**第65図（図版30）　青磁：Ⅲ**




**第66図（図版31）　青磁**：盤(1～4)・杯(5)・香炉(6.7)・瓶(8)・底部資料(9～12)




**第67図（図版32・33）　青磁：底部資料**




**第68図（図版33）　青磁**：産地不明

## 白磁　（第69・70図　図版34・35）

Ⅰ地区453点、Ⅱ-A地区106点、Ⅱ-B地区６点の出土があり、総数565点が得られている。ほとんどが小破片のため、詳細が不明な資料が大部分である。それらの中から器種別に碗、鉢、皿、灯明皿、杯、蓋が得られている。時期的には14世紀後半以降の資料が出土した。以下、主なものについて概略を示し、個々の詳細は観察一覧に記した。

### 第14表　白磁観察一覧(1)

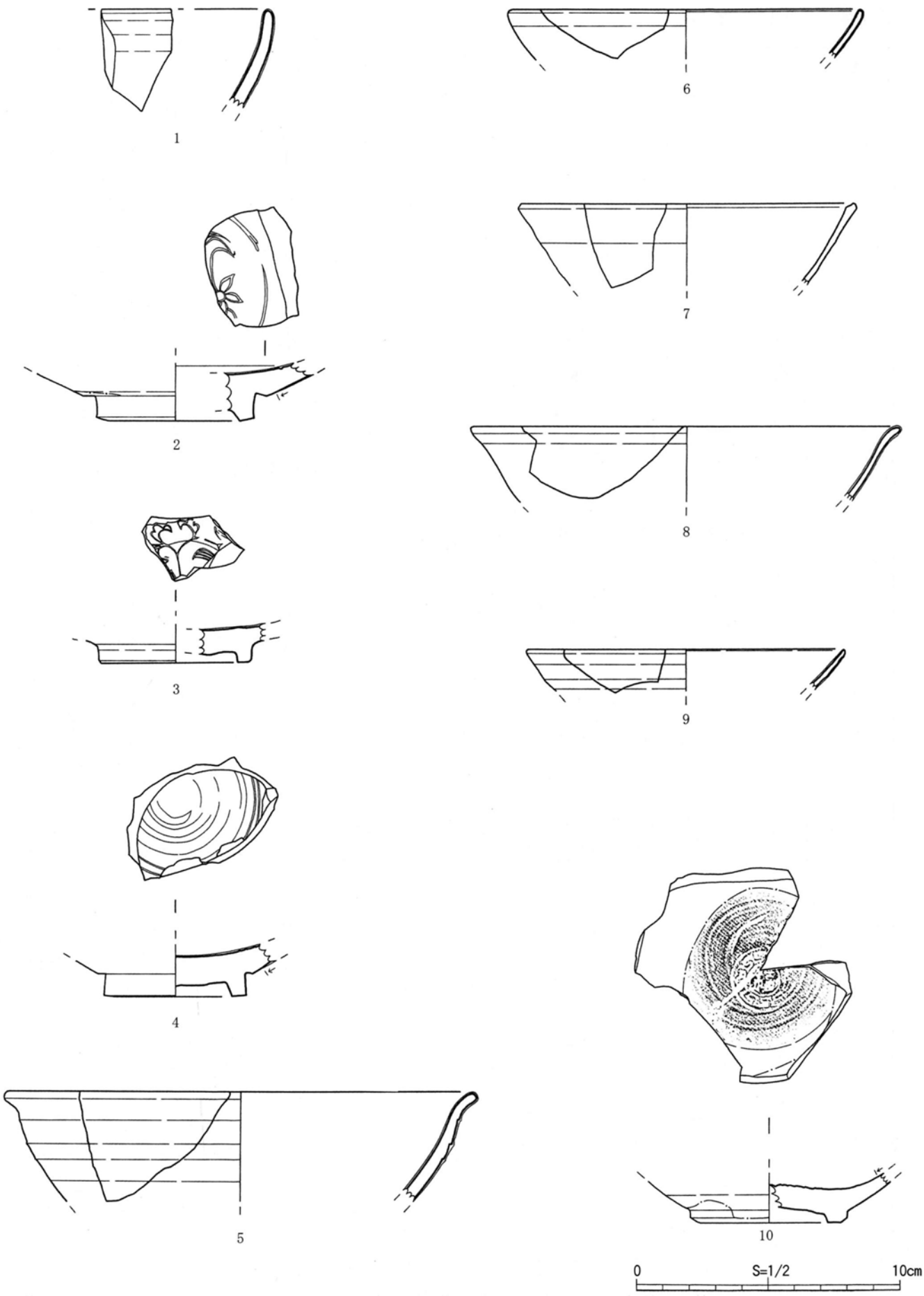
（単位：cm）

| 挿図番号<br>図版番号 | 番号 | 器形 | 部位 | 口径<br>器高<br>底径 | 素地 | 施釉 | 釉色 | 貫入 | 文様 | 出土地点 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第69図<br>図版34 | 1 | 内湾<br>口縁碗 | 口縁部 | —<br>—<br>— | 灰白色<br>やや<br>微粒子 | 両面施釉 | 淡灰白色 | 無 | 無 | Ⅰ<br>え-6<br>4層 | 厚手で内湾気味の碗。 素地に黒色粒子がまばらに見られる。 内外面に轆轤痕。 |
| 〃 | 2 | 碗 | 底部 | —<br>—<br>6.0 | 灰白色<br>やや<br>微粒子 | 内面施釉<br>外面高台脇まで施釉 | 灰白色 | 無 | 有 | ⅡA<br>E-17<br>3層 | 内底に印花文と界線。 高台脇を深く削り高台高く成形、内刳は浅い。 畳付けは研磨する。 口縁は内湾するﾀｲﾌﾟ。 |
| 〃 | 3 | 碗 | 底部 | —<br>—<br>5.6 | 灰白色<br>やや<br>微粒子 | 内面施釉<br>外面高台脇まで施釉 | 灰白色 | 粗く<br>有 | 有 | Ⅰ | 内底に印花文。 素地に黒色粒子混入。 畳付けは研磨する。 口縁部が、「く」の字状に外反するﾀｲﾌﾟ。 |
| 〃 | 4 | 碗 | 底部 | —<br>—<br>5.4 | 灰白色<br>微粒子 | 内面施釉<br>外面高台脇まで施釉 | 淡青白色 | 粗く<br>有 | 有 | Ⅰ<br>え-7<br>4層 | 素地に黒色粒子多数混入。 高台脇に削りを入れ畳付けを平坦にし、外底は雑に成形。 見込みに界線。 口縁部が、「く」の字状に外反するﾀｲﾌﾟ。 |
| 〃 | 5 | 外反<br>口縁碗 | 口縁部 | 18.0<br>—<br>— | 淡黄白色<br>細粒子 | 両面施釉 | 淡黄白色 | 全体<br>に有 | 無 | Ⅰ<br>お-5<br>4層 | 口縁下で僅かに窄まり外反する。 外面に轆轤痕。 素地に黒色粒子混入。 貫入が発達。 |
| 〃 | 6 | 直口<br>口縁碗 | 口縁部 | 13.4<br>—<br>— | 黄白色<br>粗粒子 | 両面施釉 | 黄灰色 | 全体<br>に細<br>かく有 | 無 | Ⅰ<br>え-7<br>4層 | 素地に黒色粒子が散見。 貫入が発達。 |
| 〃 | 7 | 端反<br>口縁碗 | 口縁部 | 12.8<br>—<br>— | 灰白色<br>やや<br>微粒子 | 薄く両面施釉 | 淡青白色 | 細かく<br>有 | 無 | Ⅰ<br>え-8・9<br>3層 | 薄手の碗。 口唇部は内縁で明瞭な稜を作る。 |
| 〃 | 8 | 外反<br>口縁碗 | 口縁部 | 16.4<br>—<br>— | 灰白色<br>やや<br>粗粒子 | 両面施釉 | 乳白色 | 無 | 無 | Ⅰ<br>え-7<br>4層 | 薄手の外反碗。 乳白色の失透釉を厚めに掛ける。 |
| 〃 | 9 | 直口<br>口縁碗 | 口縁部 | 12.2<br>—<br>— | 灰白色<br>微粒子 | 両面施釉 | 青白色 | 無 | 無 | Ⅰ<br>お-13<br>4層 | 薄手の直口口縁碗。 透明釉を薄く掛け外面には轆轤痕が顕著である。 口縁部の釉は禿げており露胎は茶褐色を呈す。 素地に黒色粒子混入する。 |
| 〃 | 10 | 碗 | 底部 | —<br>—<br>6.0 | 乳褐色<br>やや<br>粗粒子 | 両面施釉<br>見込み高台露胎 | 灰青白色 | 無 | 有 | Ⅰ<br>お-7<br>攪乱 | 内底に、「福」文字とそれを雷文で囲む陽刻のｽﾀﾝﾌﾟを施す。 内底に重ね焼きの痕あり。 |

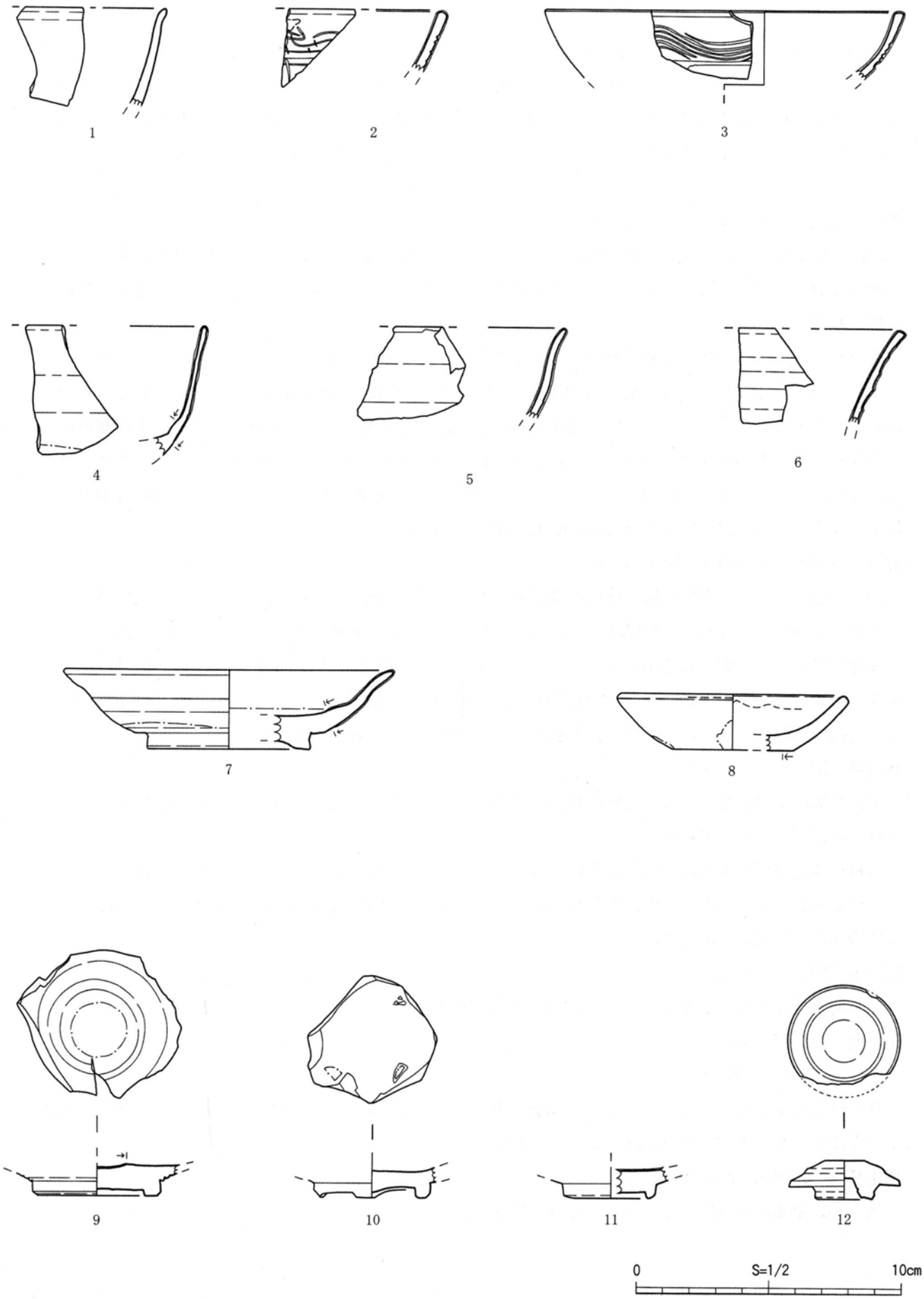
## 第15表　白磁観察一覧(2)

(単位：cm)

| 挿図番号<br>図版番号 | 番号 | 器形 | 部位 | 口径<br>器高<br>底径 | 素地 | 施釉 | 釉色 | 貫入 | 文様 | 出土地点 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第70図<br>図版35 | 1 | 外反<br>口縁碗 | 口縁部 | —<br>—<br>— | 黄白色<br>細粒子 | 薄く両面施釉 | 淡青白色 | 全体<br>に細<br>かく有 | 無 | I<br>え-10<br>3層 | 薄手で口縁部が微弱に外反する。 細かな貫入が発達。 |
| 〃 | 2 | 直口<br>口縁碗 | 口縁部 | —<br>—<br>— | 灰白色<br>細粒子 | 両面施釉 | 淡灰白色 | 無 | 有 | I<br>え-7<br>4層 | 口縁外面に櫛描波状文と思われる崩れた文様。透明釉はやや厚めで口唇部は茶褐色を呈す。 |
| 〃 | 3 | 直口<br>口縁碗 | 口縁部 | 13.6<br>—<br>— | 灰白色<br>細粒子 | 両面施釉 | 淡灰白色 | 無 | 有 | I<br>え-8<br>4層 | 口縁部外面に5本櫛目で波状文を施し、直下に篦彫りの界線1本。 口唇部は茶褐色を呈す。釉は透明。 口縁部を厚めに作る。 |
| 〃 | 4 | 直口<br>口縁碗 | 口縁部 | —<br>—<br>— | 灰白色<br>微粒子 | 両面施釉<br>見込及び高台脇から露胎 | 青白色 | 無 | 無 | I<br>え-20<br>2層 | 薄手の直口口縁碗。 腰部は丸みがあり口縁部に向けて直線的に立ち上がる。 素地に黒色粒子混入。 青白色の透明釉を複数回に分けて施釉するようである。腰部に釉溜まり有り。内外面に轆轤痕。 |
| 〃 | 5 | 外反<br>口縁碗 | 口縁部 | —<br>—<br>— | 灰白色<br>やや<br>微粒子 | 両面施釉 | 青白色 | 全体<br>に有 | 有 | I<br>え-8<br>4層 | 口縁部は微弱に外反する。 外面轆轤痕が顕著で細かな貫入が発達する。 |
| 〃 | 6 | 外反<br>口縁鉢 | 口縁部 | —<br>—<br>— | 灰白色<br>やや<br>微粒子 | 両面施釉 | 青白色 | 全体<br>に有 | 無 | I<br>え-12<br>3層 | 大型の鉢の口縁部。口縁部は微弱に外反し、口唇部は平坦で外面に明瞭な稜線。外面は轆轤痕が顕著。 内外面に貫入が発達。 |
| 〃 | 7 | 外反皿 | 口縁部<br>～底部 | 12.6<br>3.0<br>6.0 | 淡灰白色<br>細粒子 | 内外面施釉<br>見込及び高台脇から外底は露胎 | 淡灰白色 | 有 | 無 | I<br>え-8<br>3b層 | 口縁は微弱に外反。 高台の内刳りは浅く、高台際には削りを加えて、高台を強調。 轆轤痕顕著。内面総釉後に内底の釉を掻き取る。やや焼成不良。 |
| 〃 | 8 | 灯明皿 | 口縁部<br>～底部 | 8.8<br>2.1<br>4.6 | 灰白色<br>細粒子 | 内面施釉<br>外面口縁部から流し掛け 底部まで釉垂れ | 灰白色 | 無 | 無 | I<br>2層一括 | べた底の底部から丸みをもって浅く立ち上がる。口唇部は平に仕上げる。 口唇部から口縁部内面に黒褐色の煤が帯状に付着する。 |
| 〃 | 9 | 皿か碗 | 底部 | —<br>—<br>4.9 | 淡灰白色<br>微粒子 | 見込蛇の目釉剥ぎ<br>高台露胎 | 灰白色 | 無 | 無 | I<br>お-8<br>3c層 | 高台を低く成形し高台際に削りを入れる。 内刳は浅い。 見込みに輪状の剥離痕。 高台に沿って丸く打ち割り二次製品に転用されたものと思われる。 |
| 〃 | 10 | 皿 | 底部 | —<br>—<br>4.4 | 淡黄白色<br>細粒子 | 見込高台際施釉、畳付け外底露胎 | 淡黄白色 | 無 | 無 | I<br>え・お-8<br>2d層 | 高台をｱｰﾁ状に抉った抉入高台皿。 見込みに重ね焼きの目痕が四ヶ所配置されると思われるが、内三ヵ所　確認される。 全体に摩耗が著しい。 |
| 〃 | 11 | 杯 | 底部 | —<br>—<br>3.5 | 淡黄白色<br>細粒子 | 内面から高台脇まで施釉 | 淡黄白色 | 有 | 無 | I<br>お-9<br>4層 | 内底は約9ﾐﾘと厚いが、高台は低く内刳は浅い。高台に沿って粗く打ち割られる。 |
| 〃 | 12 | 蓋 | — | 4.2<br>1.5<br>— | 淡白色<br>細粒子 | 外面施釉<br>内面露胎 | 淡灰白色 | 全体<br>に細<br>かく有 | 無 | I<br>え-9<br>4層 | 水注の蓋かと思われる。中央を甲盛りに作り、周辺部を一段低く鍔状に成形。 細かい貫入が発達。 |




**第69図（図版34）　白磁：碗**




**第70図（図版35）　白磁**：碗(1～5)・鉢(6)・皿(7～10)・杯(11)・蓋(12)

## 青花　（第71～75図　図版36～40）

Ⅰ地区1,061点、Ⅱ-A地区140点、Ⅱ-B地区12点の出土があり、総数1,213点が得られている。器種は、碗、小碗、皿、小皿、角皿、杯、小杯、高足杯、瓶、合子の10器種である。殆どが小破片の資料であり、全形の窺える資料はわずかである。時期的には15世紀後半～18世紀頃までの資料が出土した。以下に概略を示し、個々の詳細は観察一覧表に示した。

**碗**（第71図１～第73図５　図版36～38）

口縁形態からは直口口縁と外反口縁に分けられる。器形では端反口縁碗、直口口縁碗がある。文様は外面に花唐草文（第71図１）や梵字文（第71図２）などを描くものがあり、内底には十字花文や蓮花文が描かれる。

第71図９以下はいづれも粗製碗の範疇に含まれるものである。大部分が直口口縁の腰部からストレートに立ち上がる器形で、口縁形態は直口が主で、若干の外反口縁（第72図６～９）が含まれる。外面には顕著な轆轤痕を有するものが多い。文様は筆書きによって主として口縁部外面に上下２本の圏線間に不明文様を施すもの（第71図９～13）や点状の文様（第72図４）を施すものがある。次いでスタンプと筆書きが併用されるもの（第72図７～10）、スタンプによって花文（第72図11）、瓔珞文（第72図12）、文様不明なもの（第72図13）などが数個程度施されるものがある。

**皿**（第74図１～第75図３　図版39・40）

口縁形態については直口口縁、外反口縁がみられた。高台形態は高い高台をもつものと低い高台をもつもの、碁笥底がみられた。角皿は１片のみ得られており、四方入隅の方形で高台も方形に造る。

文様については外面に如意頭文（第74図１）、芭蕉文（第74図２．３）、宝草華唐草文（第74図４）、唐草文（第74図５～７）、花唐草文（第74図11）、内面に花文（第74図５）、内底面に草花文（第74図１．９）、花文（第74図２．３．８．11）。十字花文（第75図１．２）などが描かれる。

**杯**（第75図４～６　図版40）

すべて短筒型腰折杯である。文様は胴部に如意頭文、みこみに三友文（梅）を施す（第75図４．５）。

**小杯**（第75図７～13　図版40）

口縁形態は外反口縁と直口口縁に分けられた。外反するものは腰部が張らず、文様は外面に草文や烈点文が施される。直口するものは腰部が大きく張るもので、外面に唐草文などが描かれる。底部資料では内底面に草花文などが施される。

**蓋**（第75図14　図版40）

蓋の鍔部分の資料が１片出土した。推定口径９cm程を測る。鍔の上面には草花文を巡らせている。呉須の発色は鮮明である。

**合子**（第75図15　図版40）

身の口縁部が１片出土した。推定口径11cmを測る。文様は口縁外側に界線を一条巡らし、その下に唐草文を施す。胎土は淡灰白色の細かなものである。

**馬上杯**（第75図16　図版40）

馬上杯の足部が１点出土している。外面に草花文を描く。

## 第16表　青花観察一覧(1)

(単位：cm)

| 挿図番号<br>図版番号 | 番号 | 器形 | 部位 | 口径<br>器高<br>底径 | 素地 | 釉色 | 文 様 | 貫入 | 出土地点 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第71図<br>図版36 | 1 | 直口<br>口縁碗 | 口縁部 | 14.2<br>—<br>— | 灰白色<br>細粒子 | 青白色 | 外面：界線2本<br>花唐草文<br>内面：界線2本 | 無 | I<br>え・お-8<br>2d層<br>え-7<br>4層 | 素地と釉中に若干気泡有り。　絵付けは丁寧。<br>呉須は鮮明。 |
| 〃 | 2 | 外反<br>口縁碗 | 口縁部 | —<br>—<br>— | 淡白色<br>微粒子 | 淡青白色 | 外面：界線2本<br>梵字文<br>内面：界線2本 | 無 | I<br>お-20<br>4層 | 口縁は微弱に外反。　呉須はやや鮮明。 |
| 〃 | 3 | 碗 | 胴部 | —<br>—<br>— | 灰白色<br>細粒子 | 淡灰白色 | 外面：鋸歯状文様<br>と不明文様<br>内面：界線2本 | 粗く<br>有 | I<br>え-9<br>4層 | 腰部で逆「く」の字状に若干曲がる碗の胴部。<br>呉須はやや鮮明。 |
| 〃 | 4 | 直口<br>口縁碗 | 口縁部 | 11.6<br>—<br>— | 白色<br>微粒子 | 淡白色 | 外面：界線1本<br>唐草文<br>内面：界線2本 | 無 | 不明 | 釉切れが見られる。　呉須は鮮明。 |
| 〃 | 5 | 直口<br>口縁碗 | 口縁部 | —<br>—<br>— | 淡灰白色<br>細粒子 | 淡青白色 | 外面：界線1本<br>渦巻文<br>内面：界線2本 | 無 | I<br>不明 | 口唇は平坦。　呉須はやや鮮明。　焼成良好。 |
| 〃 | 6 | 碗 | 底部 | —<br>—<br>5.7 | 灰白色<br>細粒子 | 淡灰白色 | 内底面：蓮花文<br>高台：界線 | 有 | I<br>え・お-15<br>3層 | 内外両面施釉　畳付露胎。　外底雑に施釉し、所々に釉切れ。　呉須はやや鮮明。 |
| 〃 | 7 | 碗 | 底部 | —<br>—<br>5.0 | 灰白色<br>細粒子 | 淡青白色 | 内底面：十字花文 | 無 | I<br>え・お-11<br>3b層 | 全面施釉　畳付け露胎。　釉に鉄分を含み所々茶褐色を呈する。　気泡多数有り。　見込と高台外面の中央がへそ状に僅かに盛り上がる。　呉須はやや黒ずむ。 |
| 〃 | 8 | 碗 | 胴部<br>～<br>底部 | —<br>—<br>— | 灰白色<br>細粒子 | 淡青白色 | 内底面：界線2本<br>波濤文　外面：<br>蓮弁文と界線1本<br>高台に界線2本 | 無 | I<br>お-7<br>攪乱 | 呉須は淡い。 |
| 〃 | 9 | 直口<br>口縁碗 | 口縁部 | —<br>—<br>— | 灰白色<br>細粒子 | 暗灰色 | 外面：界線2本<br>くずれた草花文<br>内面：界線1本 | 無 | I<br>お-11<br>3層 | 外面は轆轤痕が顕著。　呉須は黒ずむ。　焼成良好。<br>福建・広東系。 |
| 〃 | 10 | 直口<br>口縁碗 | 口縁部 | 15.6<br>—<br>— | 灰白色<br>細粒子 | 暗灰色 | 外面：界線2本 簡<br>略化された文様<br>内面：界線1本 | 有 | I<br>え-9<br>4層 | 外面は轆轤痕が顕著である。　呉須は黒ずむ。<br>福建・広東系。 |
| 〃 | 11 | 直口<br>口縁碗 | 口縁部 | —<br>—<br>— | 灰白色<br>細粒子 | 暗灰白色 | 外面：界線2本<br>くずれた草花文<br>内面：界線1本 | 細かく有 | I<br>え-8<br>3層 | 外面は轆轤痕が有り。　呉須は黒ずむ。<br>福建・広東系。 |
| 〃 | 12 | 直口<br>口縁碗 | 口縁部 | —<br>—<br>— | 灰白色<br>細粒子 | 暗灰色 | 外面：界線2本<br>くずれた草花文<br>内面：界線1本 | 細かく有 | I<br>え-8<br>3層 | 外面に轆轤痕有り。　呉須は黒ずむ。<br>福建・広東系。 |
| 〃 | 13 | 直口<br>口縁碗 | 口縁部 | —<br>—<br>— | 灰白色<br>微粒子 | 暗灰色 | 外面：界線3本<br>抽象的文様<br>内面：界線1本 | 無 | I<br>お-11<br>3層 | 外面に轆轤痕有り。　文様は呉須で濃淡をつける。<br>発色はやや鮮明。　口唇部は黄褐色。　焼成良好。 |
| 第72図<br>図版37 | 1 | 直口<br>口縁碗 | 口縁部 | 14.0<br>—<br>— | 灰白色<br>細粒子 | 灰色 | 外面：界線1本<br>文様有<br>内面：界線1本 | 無 | I<br>え-11<br>3b層<br>え-12<br>3層 | 外面は轆轤痕が顕著である。　文様は小破片の為不明。　焼成良好。　呉須は鈍い。 |
| 〃 | 2 | 直口<br>口縁碗 | 口縁部 | 12.4<br>—<br>— | 灰白色<br>細粒子 | 灰白色 | 外面：界線1本<br>文様有<br>内面：界線1本 | 有 | I<br>え-14<br>3層 | 薄手の口禿で口唇は錆色。　文様は、小破片の為不明。　呉須は鈍い。 |

## 第17表　青花観察一覧(2)

(単位：cm)

| 挿図番号<br>図版番号 | 番号 | 器形 | 部位 | 口径<br>器高<br>底径 | 素地 | 釉色 | 文 様 | 貫入 | 出土地点 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第72図<br>図版37 | 3 | 直口<br>口縁碗 | 口縁部 | 13.2<br>—<br>— | 黄白色<br>細粒子 | | 外面:草花文 | 無 | I<br>え-9<br>4層 | 釉は非常に薄く施釉。 焼成不良により呉須の発色は黒ずむ。 外面に轆轤痕有り。 |
| 〃 | 4 | 直口<br>口縁碗 | 口縁部 | 12.6<br>—<br>— | 灰白色<br>細粒子 | 灰白色 | 外面:点状の文様 | 無 | IIB<br>E-17<br>3層 | 腰部から口縁に向かって、直線的に開くように立ち上がる。 内外両面腰部まで施釉　外面に釉溜まり有り。 轆轤成型時の小石の擦痕有り。 呉須はやや鮮明。 |
| 〃 | 5 | 直口<br>口縁碗 | 口縁部<br>～底部 | 15.2<br>5.8<br>7.8 | 灰白色<br>微粒子 | 灰白色 | 外面:界線1本<br>菊花文 | 無 | I<br>お-20<br>2層 | 口唇は平坦に近く内側に明瞭な線。 高台際に削りを入れて胴部との境を明瞭にする。 内面に轆轤痕。 釉は厚く釉溜まりがある。 高台脇畳付け露胎　見込み蛇ノ目釉剥ぎ。 呉須は鈍い。 |
| 〃 | 6 | 直口<br>口縁碗 | 口縁部 | 16.6<br>—<br>— | 灰白色<br>微粒子 | 青白色 | 外面:印判の渦巻文 | 無 | I<br>お-10<br>3b層 | 内外面に轆轤痕有り。 腰部で内側に折れ曲がる。 釉は厚く釉溜まりがある。 呉須はやや黒ずむ。 |
| 〃 | 7 | 外反<br>口縁碗 | 口縁部 | 14.6<br>—<br>— | 灰白色<br>細粒子 | 淡青白色 | 外面:界線1本<br>印判と筆書きの菊唐草文 | 全体に細かく有 | I<br>お-12<br>3層 | 口縁は微弱に外反。 釉は厚く、呉須はやや鮮明。 外面胴部に轆轤痕。 福建・広東系。 |
| 〃 | 8 | 外反<br>口縁碗 | 口縁部 | 14.4<br>—<br>— | 黄白色<br>細粒子 | 青白色 | 外面:界線1本<br>印判と筆書きの菊唐草文<br>内面:界線2本 | 全体に細かく有 | I<br>え-13<br>3層<br>え-14<br>3層<br>お-13<br>3層 | 口縁は微弱に外反。 外面施釉、内面は腰部まで施釉。 釉中に気泡含む。<br>釉は厚目で、呉須は鈍い。 |
| 〃 | 9 | 外反<br>口縁碗 | 口縁部 | —<br>—<br>— | 黄白色<br>細粒子 | 青白色 | 外面:界線1本<br>印判と筆書きの菊唐草文 | 全体に有 | I<br>え-8・9<br>3層<br>え・お-10<br>3b層<br>え-9<br>4層 | 内面腰部まで施釉。 見込みに剥離痕有り。 呉須は鈍い。 |
| 〃 | 10 | 直口<br>口縁碗 | 口縁部 | 11.8<br>—<br>— | 灰白色<br>細粒子 | 淡灰白色 | 外面:印判と筆書きの菊唐草文 | 無 | I<br>お-11<br>4層 | 口唇部を内外面から削り成形し、外面に錆釉を施釉。 内面に明瞭な線。 呉須はやや鮮明。 |
| 〃 | 11 | 直口<br>口縁碗 | 口縁部 | 13.4<br>—<br>— | 淡白色<br>細粒子 | 灰白色 | 外面:印判の花文 | 無 | I<br>お-14<br>3層 | 口唇は平坦で内側に明瞭な線。 呉須は鈍い。 |
| 〃 | 12 | 直口<br>口縁碗 | 口縁部 | 12.4<br>—<br>— | 淡黄白色<br>細粒子 | 灰白色 | 外面:印判の瓔珞文 | 細い貫入有 | I<br>お-10<br>攪乱 | 素地はやや粗い。 呉須は鈍い。 |
| 〃 | 13 | 直口<br>口縁碗 | 口縁部 | 13.2<br>—<br>— | 灰白色<br>細粒子 | 青白色 | 外面:印判文<br>(文様不明) | 有 | I<br>え-23<br>2層 | 口唇は平坦で内側に明瞭な線。 呉須は鈍い。 |
| 第73図<br>図版38 | 1 | 碗 | 底部 | —<br>—<br>7.4 | 白色<br>微粒子 | 淡灰白色 | 外面:草花文<br>内底面:界線1本 | 無 | I<br>攪乱 | 内外面施釉。 高台外面途中から畳付けまで露胎見込み蛇の目釉剥ぎ。 高台際に削りを入れて段をつくり、腰部との境を明瞭にする。 見込みに輪状の剥離痕有り。 呉須はやや鮮明。 |
| 〃 | 2 | 碗 | 底部 | —<br>—<br>8.0 | 黄白色<br>細粒子 | 灰白色 | 外面:草花文<br>内底:界線2本 | 細い貫入有 | I<br>え・お-11<br>3c層 | 高台際に削りをいれ胴部との境を明瞭にする。 内外面透明釉施釉、高台脇畳付け露胎。 見込み蛇の目釉剥ぎ。 内底に重ね焼きの剥離痕。 呉須は鈍い。 福建・広東系。 |

## 第18表　青花観察一覧(3)

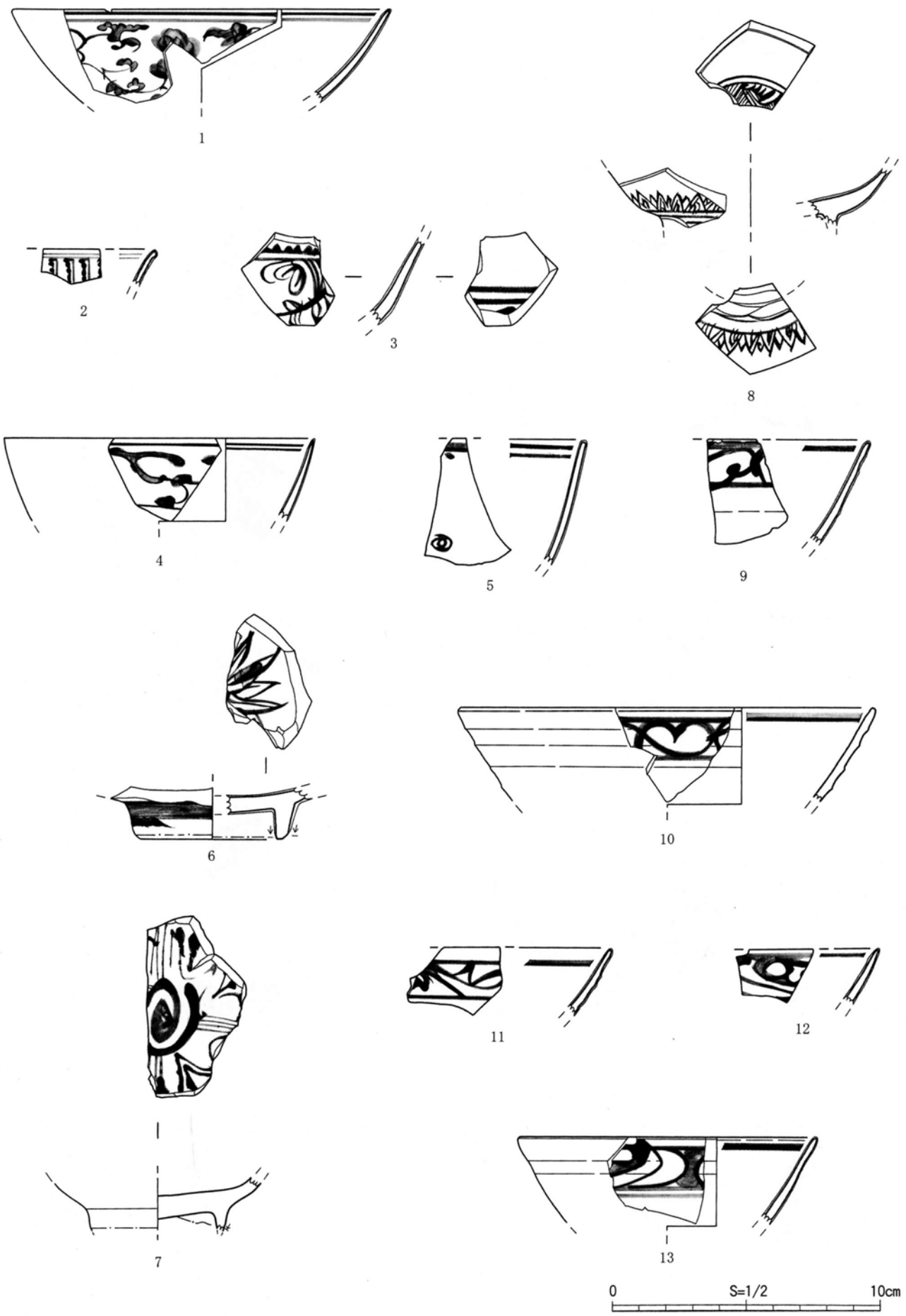
(単位：cm)

| 挿図番号<br>図版番号 | 番号 | 器形 | 部位 | 口径<br>器高<br>底径 | 素地 | 釉色 | 文様 | 貫入 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第73図<br>図版38 | 3 | 碗 | 底部 | —<br>—<br>8.0 | 淡黄白色<br>細粒子 | 灰白色 | 外面:印判の花文 | 細い貫入有 | ⅡB<br>E-12<br>3層 | 高台際に削りを入れて胴部との境を明瞭にする。見込み、高台外面、畳付け露胎。見込み輪状の剥離痕有り。呉須は鈍い。福建・広東系。 |
| 〃 | 4 | 碗 | 底部 | —<br>—<br>8.2 | 黄白色<br>細粒子 | 灰白色 | 文様僅かの為不明 | 細い貫入有 | Ⅰ<br>え-12<br>3層 | 底部大きく、高台際に削りを入れて胴部との境を明瞭にする。透明釉を内外面施釉。高台脇畳付け露胎。見込み蛇の目釉剥ぎ。見込みに輪状の剥離痕。呉須はやや鮮明。 |
| 〃 | 5 | 碗 | 底部 | —<br>—<br>8.0 | 黄白色<br>微粒子 | 青緑色 | 外面:不明文様有り | 細かく有 | Ⅰ<br>え-12<br>3a層<br>お-11<br>3層<br>お-12<br>3層 | 高台際に削りを入れて胴部との境を明瞭にする。青味がかった透明釉を厚く（最大3mm）内外面腰部まで施釉。見込みに輪状の剥離痕。呉須は不鮮明。 |
| 第74図<br>図版39 | 1 | 皿 | 底部 | —<br>—<br>5.8 | 白色<br>微粒子 | 淡青白色 | 外面:界線3本<br>如意頭繋ぎ文<br>内底面:界線2本<br>草花文 | 無 | Ⅰ<br>え-11<br>3b層 | 内外面施釉。畳付露胎。外底面に釉切れ。呉須は鮮明。景徳鎮産。 |
| 〃 | 2 | 基筒底皿 | 底部 | —<br>—<br>3.2 | 淡白色<br>細粒子 | 淡青白色 | 外面:芭蕉文<br>界線2本<br>内底面:花文<br>界線2本 | 無 | Ⅰ<br>お-10<br>3層 | 全面施釉後、胴下端部と畳付けは釉を剥ぎ露胎とする。呉須は鈍い。景徳鎮産。 |
| 〃 | 3 | 基筒底皿 | 底部 | —<br>—<br>2.4 | 淡白色<br>微粒子 | 青白色 | 外面:芭蕉文<br>内底面:花文<br>界線2本 | 無 | Ⅰ<br>お-9<br>4層 | 全面施釉後、胴下端部と畳付けは釉を剥ぎ露胎とする。呉須は鈍い。景徳鎮産。 |
| 〃 | 4 | 外反口縁皿 | 口縁部 | 9.6<br>—<br>— | 白色<br>微粒子 | 淡青白色 | 外面:界線1本<br>宝相華唐草文<br>内面:口唇部に太書きの界線1本<br>内底に界線2本 | 無 | Ⅰ<br>お-8<br>3層 | 薄手で外反のきつい小皿。呉須は鈍い。景徳鎮産。 |
| 〃 | 5 | 直口口縁皿 | 口縁部 | 14.4<br>—<br>— | 白色<br>微粒子 | 淡白色 | 外面:界線1本<br>唐草文<br>内面:花文<br>界線1本 | 無 | ⅡA<br>E-18<br>2層<br>E-22<br>2層 | 非常に薄手の作り。花文は輪郭を描いた後、濃淡をつけて中を塗る。呉須は鮮明。 |
| 〃 | 6 | 外反口縁皿 | 口縁部 | —<br>—<br>— | 淡白色<br>微粒子 | 淡青白色 | 外面:界線1本<br>唐草文<br>内面:界線1本 | 無 | Ⅰ<br>G-18 | 文様を雑に描く。呉須は鈍い。 |
| 〃 | 7 | 外反口縁皿 | 口縁部 | 10.4<br>—<br>— | 淡白色<br>微粒子 | 淡青白色 | 外面:界線1本<br>唐草文<br>内面:界線1本 | 無 | Ⅰ<br>攪乱 | 文様を雑に描く。　呉須は鈍い。 |
| 〃 | 8 | 皿 | 底部 | —<br>—<br>4.8 | 淡白色<br>微粒子 | 淡青白色 | 内面:2本界線<br>花文 | 無 | Ⅰ<br>お-17<br>地山 | 内底中央部が盛り上がり、高台低く碁笥底に近い。高台脇から外底露胎。呉須は黒ずむ。高台には目砂が付着する。 |
| 〃 | 9 | 皿 | 底部 | —<br>—<br>6.3 | 灰白色<br>細粒子 | 灰白色 | 内面:1本界線<br>草花文 | 細かく有 | Ⅰ<br>う-20<br>3層 | 高台脇から外底露胎。露胎面は茶褐色を呈す。底部には目砂が付着する。轆轤回転左回り。釉は縮れ失透気味。呉須は不鮮明。 |
| 〃 | 10 | 皿 | 底部 | —<br>—<br>6.4 | 淡白色<br>微粒子 | 青白色 | 外面:高台脇に唐草文と2本界線<br>内面:2本界線 | 無 | Ⅰ<br>お-13 | 畳付けのみ露胎。呉須は黒ずむ。 |
| 〃 | 11 | 皿 | 底部 | —<br>—<br>6.3 | 灰白色<br>微粒子 | 青白色 | 外面:花唐草文<br>内面:2本界線<br>花文 | 有 | Ⅰ<br>え-9<br>4層 | 高台細く低い。畳付けは無釉。呉須は鈍い。 |

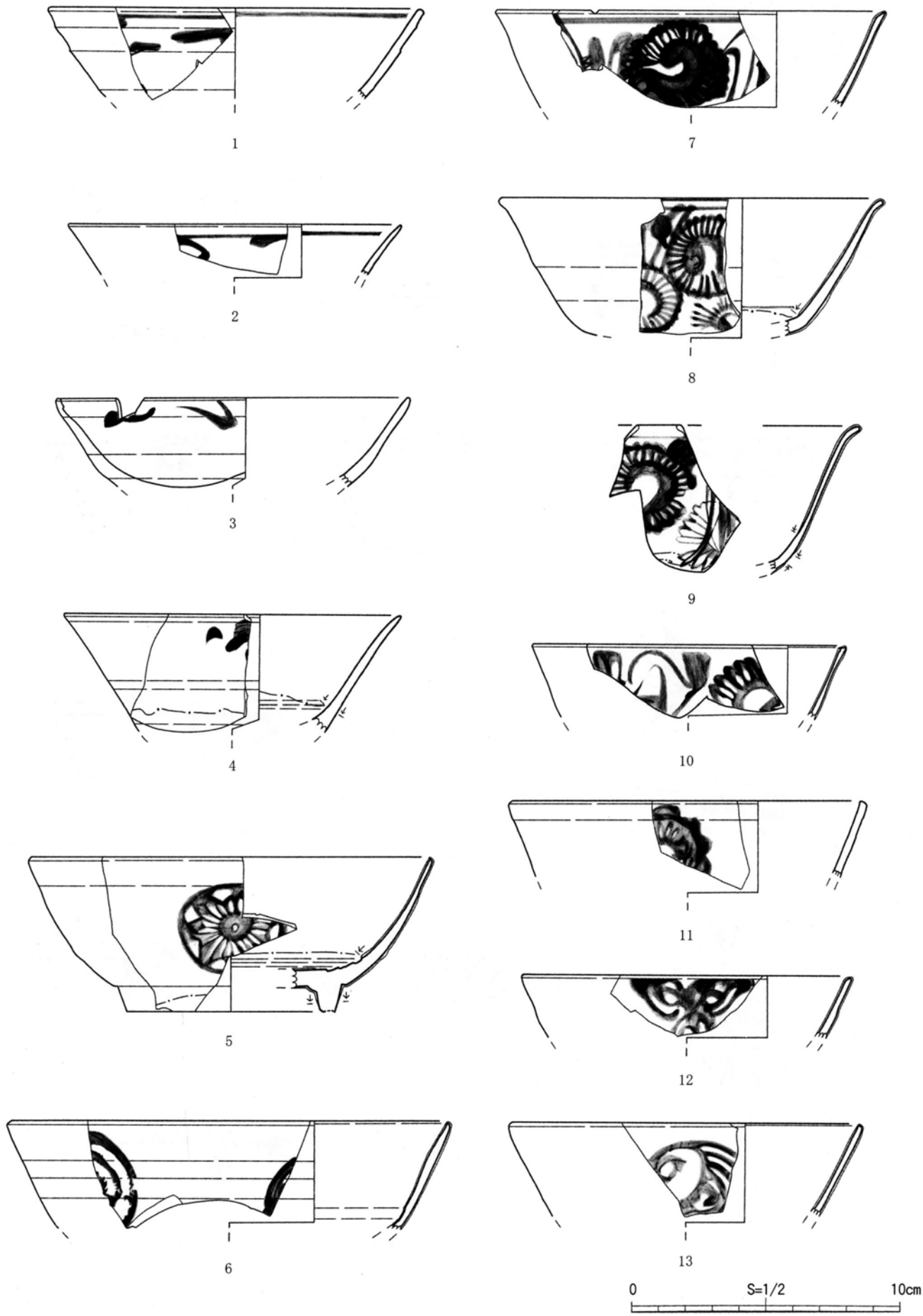
## 第19表　青花観察一覧(4)

(単位：cm)

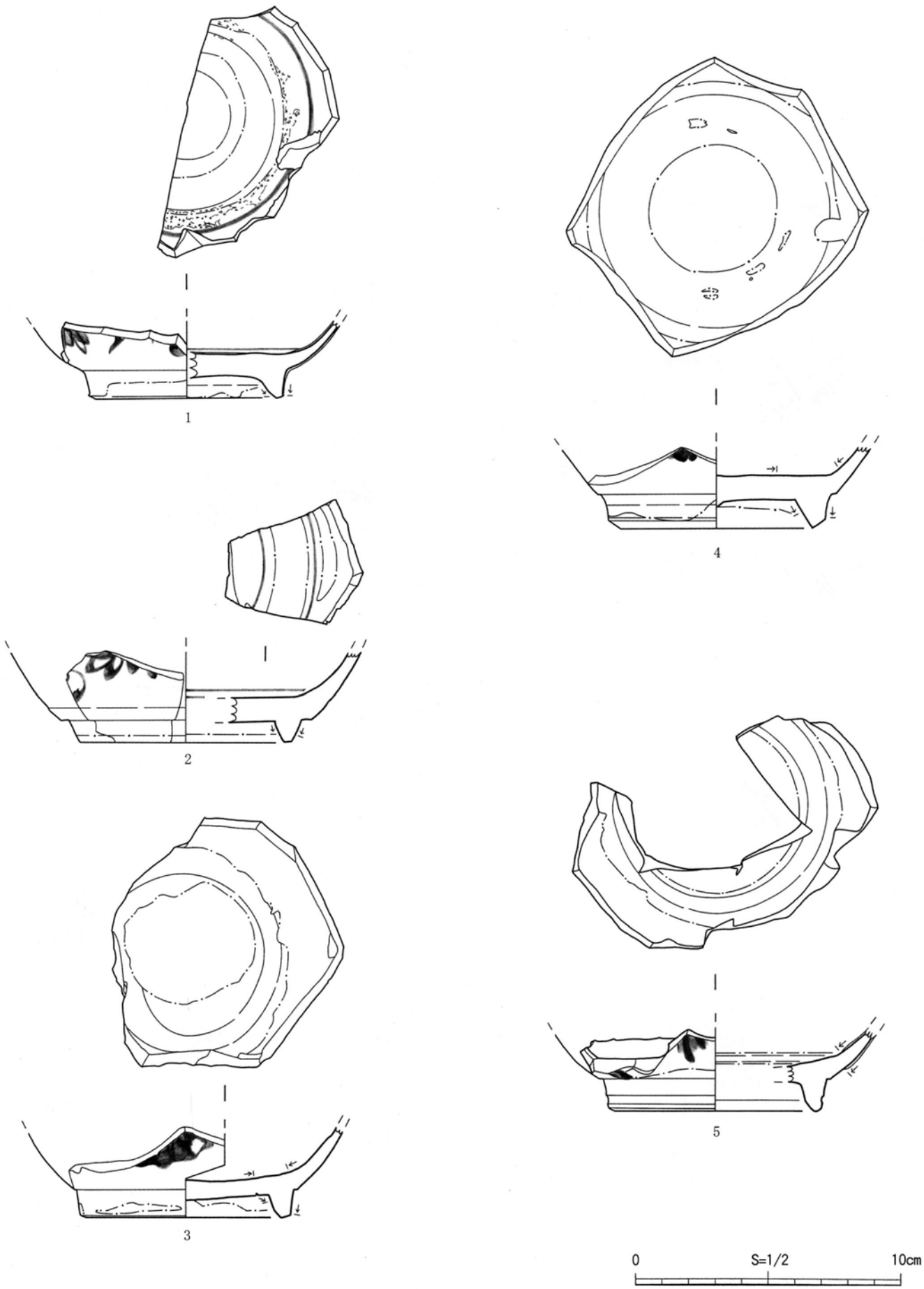
| 挿図番号<br>図版番号 | 番号 | 器形 | 部位 | 口径<br>器高<br>底径 | 素地 | 釉色 | 文 様 | 貫入 | 出土地点 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第75図<br>図版40 | 1 | 皿 | 底部 | －<br>－<br>5.7 | 淡白色<br>微粒子 | 青白色 | 外面:2本界線<br>草花文<br>内底面:十字花文 | 無 | I<br>お-12<br>3層 | 畳付けは無釉。高台際に釉切れ有り。高台は外側を削り成形し内向きに尖らす。呉須は鈍い。 |
| 〃 | 2 | 皿 | 底部 | －<br>－<br>4.6 | 淡白色<br>微粒子 | 青白色 | 外面:胴部に文様<br>内面:十字花文 | 無 | 不明 | 畳付けは無釉。高台際に釉切れ有り。高台は外側を削り成形し内向きに尖らす。呉須は鈍い。 |
| 〃 | 3 | 角皿 | 口縁部<br>～底部 | －<br>－<br>－ | 淡灰白色<br>微粒子 | 淡青白色 | 内面:界線と不明の文様 | 無 | I<br>お-20<br>攪乱 | 四方入隅の方形で高台は貼り付け。畳付けのみ無釉。文様は線書きで施されるが小片のため文様不明。呉須はやや鮮明。 |
| 〃 | 4 | 短筒型<br>腰折杯 | 底部 | －<br>－<br>－ | 灰白色<br>微粒子 | 淡青白色 | 外面:界線1本<br>如意頭文<br>内面:梅の図<br>界線2本 | 無 | I<br>え-14<br>5層 | 文様は輪郭を描いた後、濃淡をつけて中を塗る。呉須は鮮明。景徳鎮産。 |
| 〃 | 5 | 短筒型<br>腰折杯 | 底部 | －<br>－<br>－ | 灰白色<br>微粒子 | 淡青白色 | 外面:界線2本<br>如意頭文<br>内面:梅の図<br>界線2本 | 無 | I<br>え-10<br>3層 | 文様は輪郭を描いた後、濃淡をつけて中を塗る。呉須は鮮明。景徳鎮産。 |
| 〃 | 6 | 短筒型<br>腰折杯 | 底部 | －<br>－<br>3.8 | 淡白色<br>微粒子 | 外面：<br>淡緑色<br>内面：<br>淡白色 | 外底面:2本界線<br>内底面:2本界線<br>山水文 | 無 | I<br>え-18<br>2層 | 外底面の内刳は深目に作られる。高台を両側より尖らせて成形。畳付けは露胎。呉須は鮮明。 |
| 〃 | 7 | 外反<br>口縁<br>小杯 | 口縁部 | 4.8<br>－<br>－ | 白色<br>微粒子 | 淡青白色 | 外面:界線2本<br>不明文様<br>内面:界線2本 | 無 | I<br>え-14 | 口縁部はきつく外反。口唇に錆釉。四足動物(馬?)に似た文様を描く。呉須はやや鈍い。景徳鎮産。 |
| 〃 | 8 | 外反<br>口縁<br>小杯 | 口縁部 | 4.6<br>－<br>－ | 淡白色<br>微粒子 | 淡白色 | 外面:草文<br>界線1本 | 無 | I<br>お-12<br>3層 | 厚手の造りで口縁は微弱に外反し、高台脇から逆「ハ」の字状に開くように成形したと思われる。丁寧な絵付け。呉須は鈍い。 |
| 〃 | 9 | 外反<br>口縁<br>小杯 | 口縁部<br>～底部 | 3.5<br>1.8<br>1.5 | 白色<br>微粒子 | 淡青白色 | 外面:界線2本<br>烈点文 | 無 | I<br>え-12<br>5層<br>お-13<br>4層 | 型成形。高台脇から逆「ハ」の字状に開くように成形し、口縁は微弱に外反する。畳付け無釉。呉須は鮮明。 |
| 〃 | 10 | 直口<br>口縁<br>小杯 | 口縁部 | 4.6<br>－<br>－ | 白色<br>微粒子 | 淡白色 | 外面:界線1本<br>簡略化された文様 | 有 | I<br>え-12<br>3層 | 薄手の作りで高台脇から丸みをもって立ち上がるように成形。口唇部を尖り気味にする。腰部で削り調整痕。呉須はやや鮮明。 |
| 〃 | 11 | 直口<br>口縁<br>小杯 | 口縁部 | 4.4<br>－<br>－ | 淡白色<br>微粒子 | 淡白色 | 外面:界線1本 唐草文 | 無 | I<br>お-10<br>4b層<br>お-11<br>3層 | 高台脇から角度を変えて腰折れ状にし、口唇部を尖り気味に成形。腰部に削り調整痕。文様は簡略化されている。呉須はやや鮮明。景徳鎮産。 |
| 〃 | 12 | 小杯 | 底部 | －<br>－<br>2.1 | 白色<br>微粒子 | 淡青白色 | 外底面:1本界線<br>内底面:2本界線<br>と抽象的文様 | 無 | I<br>え-11<br>3層 | 高台脇の釉厚く、気泡有り。畳付け無釉。意図的に底部を打ち欠いている。呉須はやや鮮明。 |
| 〃 | 13 | 小杯 | 底部 | －<br>－<br>2.4 | 白色<br>微粒子 | 淡青白色 | 外面:2本界線<br>内面:界線1本<br>草花文 | 無 | I<br>お-10<br>3層 | 高台脇から丸みを持って立ち上がる。畳付け無釉。呉須は鮮明。 |
| 〃 | 14 | | 蓋 | 9.0<br>－<br>－ | 淡白色<br>微粒子 | 淡白色 | 外面:界線1本<br>草花文 | 無 | I<br>攪乱 | 鍔端部は削り成形。釉外面薄く施釉、内面露胎。口唇部と鍔縁内面に窯詰めの白土付着。身にｾｯﾄし焼成したと思われる。呉須は鮮明。 |
| 〃 | 15 | 合子 | 身 | 11.0<br>－<br>－ | 淡白色<br>微粒子 | 淡青白色 | 外面:界線1本<br>唐草文 | 無 | I<br>お-14<br>2層 | 内外面施釉するが、蓋部分との接合面のみ無釉で窯詰めの白土付着している。呉須は鈍い。 |
| 〃 | 16 | 馬上杯 | 底部 | －<br>－<br>3.8 | 灰白色<br>細粒子 | 灰白色 | 外面:界線1本<br>草花文 | 無 | I<br>う-16<br>地山 | 外底面釉切れが見られる。畳付けは無釉。呉須はやや鮮明。 |



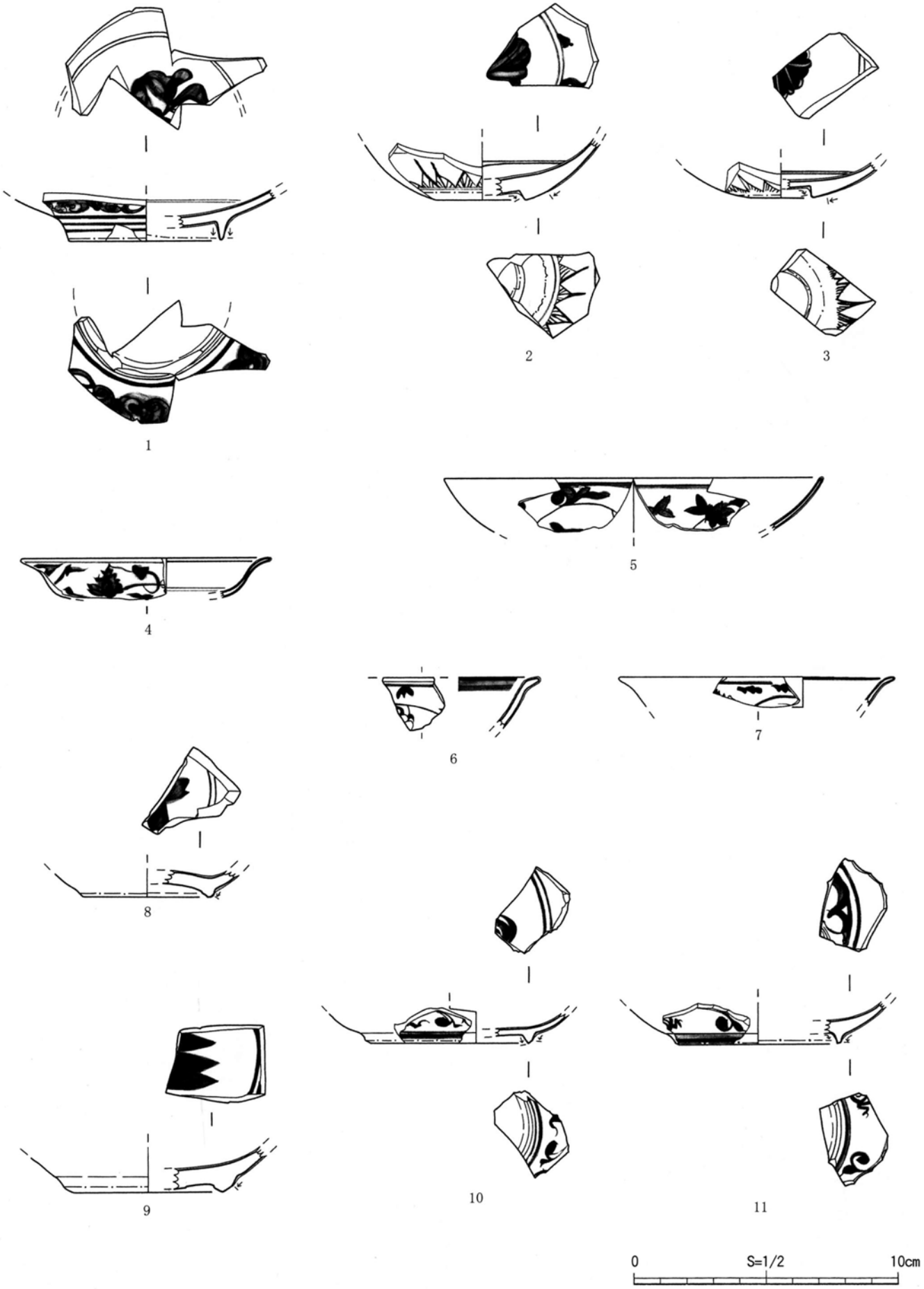

**第71図（図版36）青花：碗**



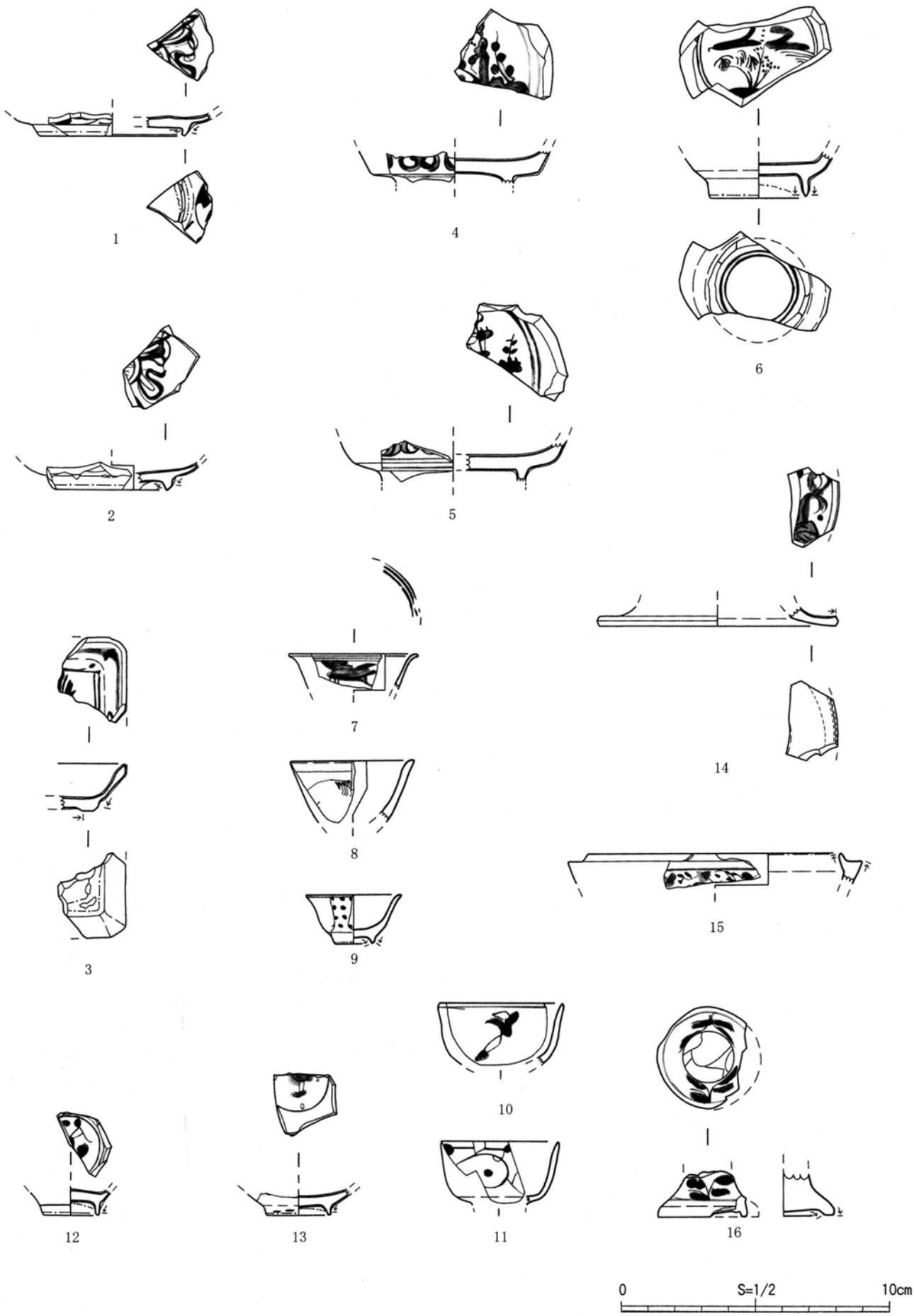

**第72図（図版37）青花：碗**




**第73図（図版38）青花：**碗底部




**第74図（図版39）　青花：Ⅲ**




**第75図（図版40）　青花**：皿(1,2)・角皿(3)・杯(4～6)・小杯(7～13)・蓋(14)・合子(身)(15)・馬上杯(16)

## 褐釉陶器（第76・77図　図版41・42）

Ⅰ地区525片、Ⅱ-A地区６片、Ⅱ-B地区６片の出土があり、総数530片余が得られている。ここでは従来、中国産と目されているものを中心にまとめた。器種は壷、擂鉢が得られている。

### 壷（第76図１～第77図５　図版41・42）

口縁部の形状はすべて断面三角形の肥厚を造り出すものである。底部は底面からの立ち上がりで一旦内傾し、その後外側へ開くもの（第76図６・第77図１～３）と、底面から直線的に開くもの（第77図４．５）がみられた。

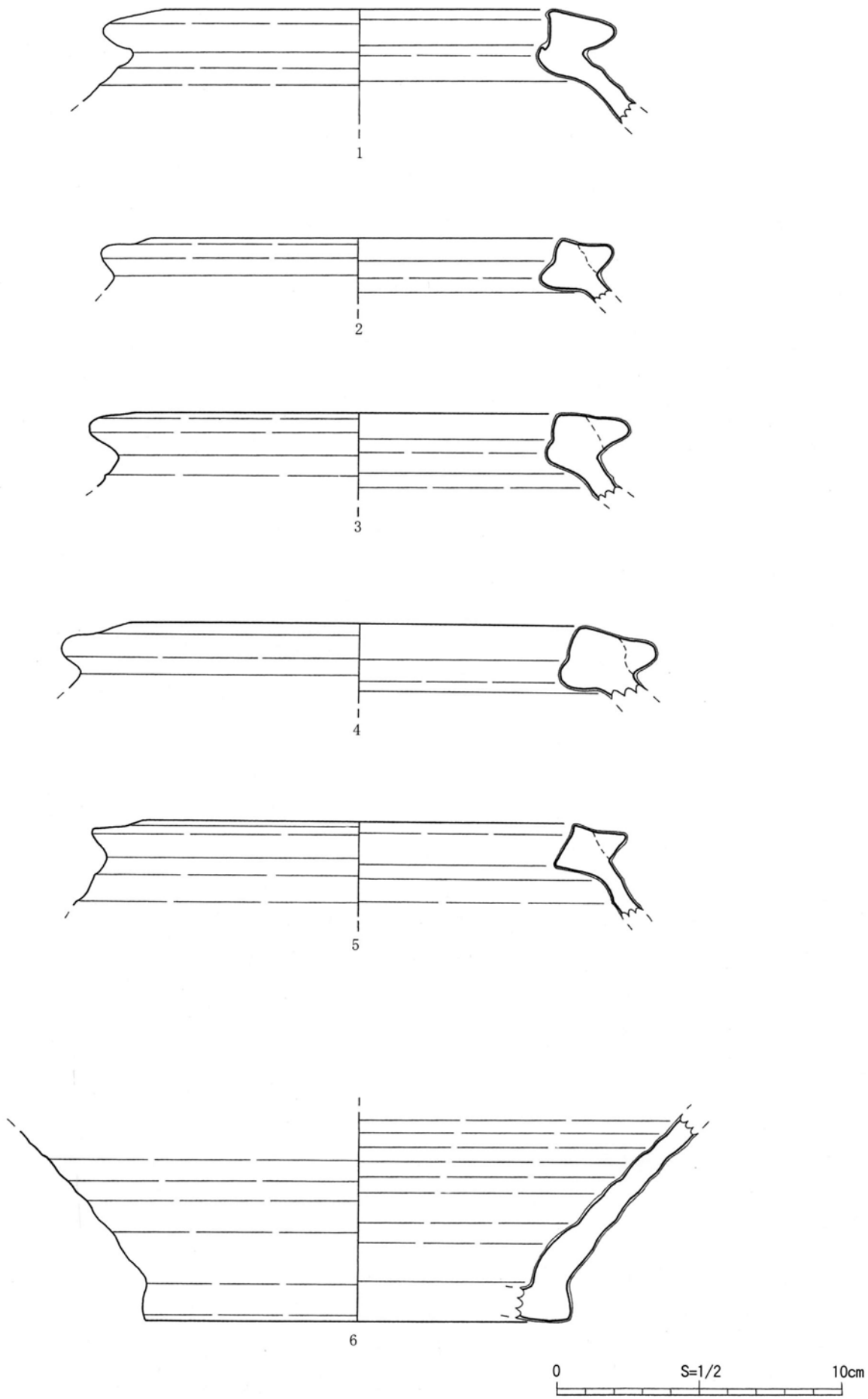
### 擂鉢（第77図６　図版42）

１片出土している。胴部破片のため詳細は不明であるが、外面上部に釉が掛けられ、内面は露胎である。櫛目は９条まで確認できる。

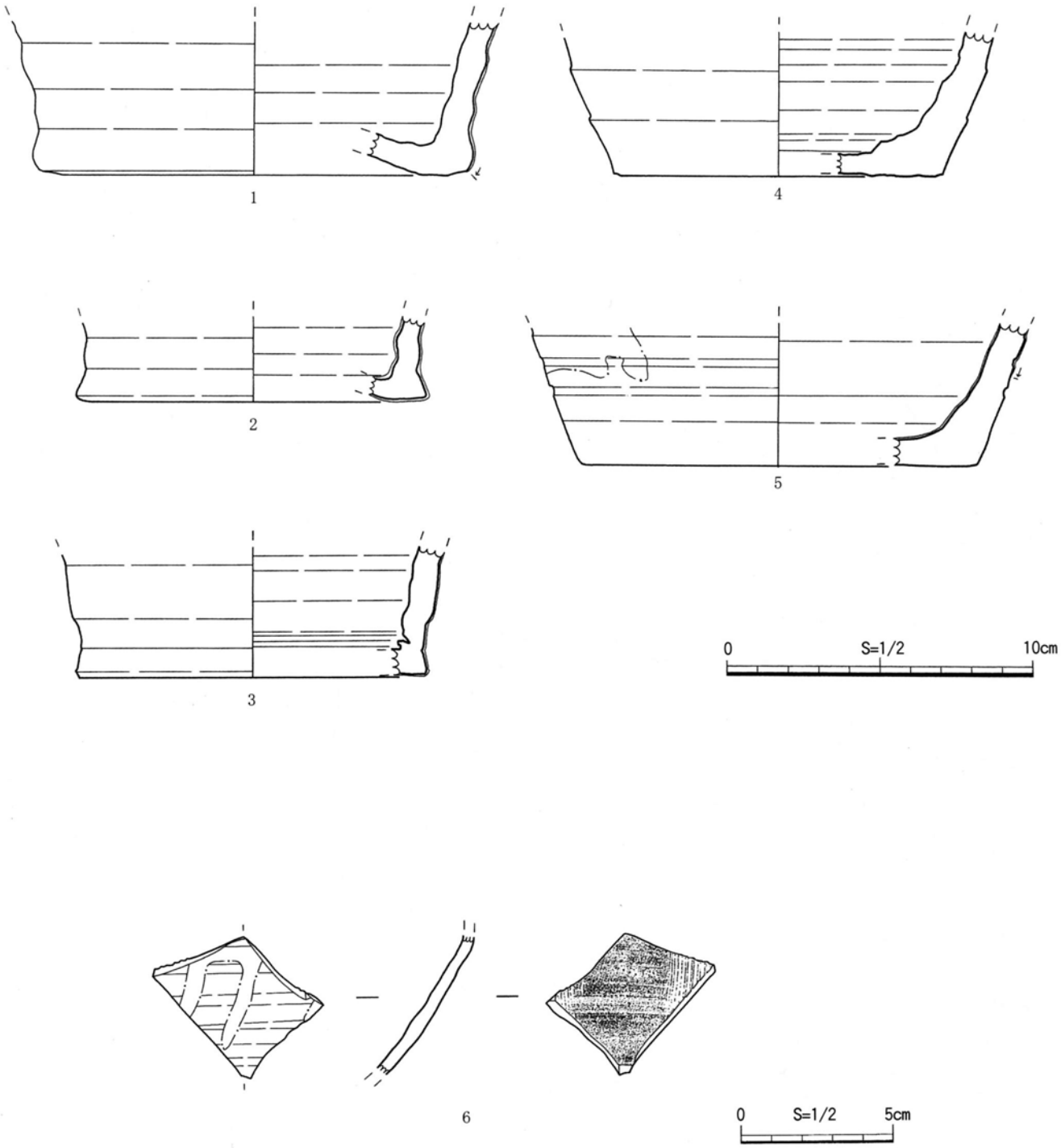
**第20表　褐釉陶器観察一覧**

（単位：cm）

| 挿図番号<br>図版番号 | 番号 | 器形 | 口径<br>器高<br>底径 | 素地 | 施釉 | 釉色 | 貫入 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第76図<br>図版41 | 1 | 壷口縁部 | 18.0<br>—<br>— | 淡灰褐色<br>微粒子 | 両面施釉 | 暗褐色～<br>茶褐色 | 細かく有 | Ⅰ<br>え-10<br>3層 | 素地に黒色、白色、茶色粒子混入。口縁は歪な方形状で口唇部は平坦。口縁部の内側を8㎜幅で削り凹面成形。無頸壷で肩部の轆轤痕は顕著、凹面に釉溜まり有り。 |
| 〃 | 2 | | 18.4<br>—<br>— | 淡灰褐色<br>微粒子 | 両面施釉 | 暗茶褐色 | 細かく有 | Ⅰ<br>お-12<br>3層<br>え-12<br>4層 | 素地に黒色粒子と白色粗粒子混入。口縁は歪な方形状の肥厚を有し、口縁部の内側、下端部が突出し段を成形。口唇部は平坦。 |
| 〃 | 3 | | 20.0<br>—<br>— | 淡灰褐色<br>微粒子 | 両面施釉 | 暗茶褐色 | 細かく有 | Ⅰ<br>え-8<br>4層 | 素地に黒色粒子と白色粗粒子混入。口縁は陶土の継ぎ足しにより、歪な方形状の肥厚を有す。口縁部の内側中央部分が2㎜幅で浅く窪む。口唇部は平坦。 |
| 〃 | 4 | | 20.6<br>—<br>— | 淡灰褐色<br>微粒子 | 両面施釉 | 淡茶褐色 | 細かく有 | Ⅰ<br>う・え-22<br>2層攪乱 | 素地に黒色、白色、茶色粒子、白色粗粒子混入。口縁は歪な方形状の肥厚を有し、口縁部の内側、段状になり、口唇部は約3cmと幅広で平坦。口縁部の肥厚は陶土の継ぎ足しによる。釉は剥離し、光沢は無い。 |
| 〃 | 5 | | 18.8<br>—<br>— | 紫灰色<br>微粒子 | 両面施釉 | 淡茶褐色 | 細かく有 | Ⅰ<br>攪乱 | 紫灰色の素地に白色陶土がおりこまれたように層をなし、黒色、白色、茶色粒子を含む。口縁は歪な方形状の肥厚を有す。無頸壷で肩部の轆轤痕は顕著、凹面に釉溜まり有り。口縁部の釉は剥離し、不透明。 |
| 〃 | 6 | 壷底部 | —<br>—<br>15.0 | 茶紫色<br>微粒子 | 両面施釉 | 外:緑黒色<br>内:暗黄褐色 | 細かく有 | Ⅰ<br>え-9<br>4層 | 素地に白色粒子多数混入。底面から垂直に立ち上り、外向きに大きく開く。外面撫で調整、内面轆轤痕顕著で凹面に釉溜り有り。底部近くの釉は所々剥離。底部に胎土目の溶着痕。 |
| 第77図<br>図版42 | 1 | | —<br>—<br>14.2 | 淡灰褐色<br>微粒子 | 外面施釉<br>内面露胎 | 暗褐色 | 無 | Ⅰ<br>え-13<br>3層 | 素地に粗い白色や茶色の粒子多量に混入。底面から垂直に立ち上がり僅かにくびれて胴部に移行。胴部両面、轆轤痕を軽く指で撫で調整。外底面は丸味をもって上方に盛り上がり（上げ底）、砂粒の混じった胎土目の溶着痕が円形状に有り。 |
| 〃 | 2 | | —<br>—<br>11.6 | 淡灰褐色<br>微粒子 | 両面施釉 | 暗褐色 | 粗く有 | Ⅰ<br>お-10<br>3層 | 素地に白色、黒色粒子、気泡有り。底面から内側に立ち上り、外側にゆるく反って胴部に移行。内面、轆轤痕顕著で凹面に黄茶色の釉溜り。外面撫で調整。底部に粗石の混じった胎土目の溶着痕有り。 |
| 〃 | 3 | | —<br>—<br>11.2 | 淡灰褐色<br>微粒子 | 外面施釉<br>内面露胎 | 暗褐色 | 無 | Ⅰ<br>お-8<br>3層 | 素地に白色砂粒の粗粒子、黒色粒子、気泡混入。底面から内側に立ち上り、外側にゆるく反って胴部に移行。内外面に轆轤痕と指撫でや指圧痕有り。内底から胴部への立ち上がり部分にヘラ状工具の痕。 |
| 〃 | 4 | | —<br>—<br>10.8 | 外面：<br>黄灰色<br>内面：<br>淡紫灰色 | 両面露胎 | | 無 | Ⅰ<br>表採 | 褐釉陶器の底部と思われる破片。素地に紫色、白色、茶色の粒子多数混入。外面、轆轤痕を指で撫で調整。器面アバタ状。内面、轆轤痕顕著で成型時の工具痕有り。底部は、平底で、胴部に比較して中央部の器面薄く、外面に籾殻付着。 |
| 〃 | 5 | | —<br>—<br>13.0 | 外面：<br>淡灰色<br>内面：<br>淡紫白色 | 外面：底部近くまで施釉<br>内面：内底まで施釉 | 褐色 | 少し有 | Ⅰ<br>攪乱 | 素地に白色、黒色粒子を多量に含み、気泡有り。内面を刷毛で撫でる。胴部を約2㎜幅の工具で3本削る。外底面の縁部が摩耗。 |
| 〃 | 6 | 擂鉢胴部 | —<br>—<br>— | 淡褐色<br>微粒子 | 外面流し掛け一部露胎 | 茶褐色 | 無 | Ⅰ<br>え-6<br>4層 | 中国産擂鉢の胴部片。櫛目は9条数えられるが、破片の為正確な櫛目は確認出来ない。素地に白色、黒色粒子混入。外面は淡褐色で内面は桃褐色を呈す。器面に白色の微細な粒子が噴き出す。内外面に轆轤痕。 |




**第76図（図版41）褐釉陶器：壷**




**第77図（図版42）褐釉陶器**：壷(1～5)・擂鉢(6)

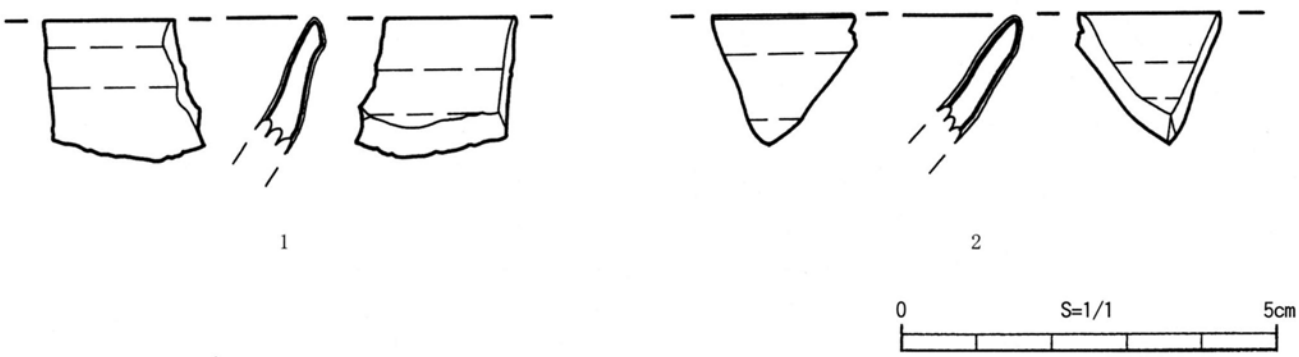
## 天目（第78図　図版43）

Ⅰ地区４片、Ⅱ-A地区２片の合計６片が出土した。Ⅱ-B地区では出土していない。全形の窺える資料はなく、すべて小破片である。うち口縁部にあたる２点を図化した。両資料とも黒色の釉が内外面に施され、２では口唇部で茶褐色を呈する。器形は口縁部直下で僅かにくびれる。素地は灰～淡灰褐色の細粒子で微細な黒色、白色粒子が混入している。何れも中国系統と思われる。

**第21表　天目観察一覧**

（単位：cm）

| 挿図番号<br>図版番号 | 番号 | 器形 | 部位 | 口径<br>器高<br>底径 | 素地 | 施釉 | 釉色 | 貫入 | 出土地点 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第78図<br>図版43 | 1 | 茶碗 | 口縁部 | —<br>—<br>— | 灰褐色<br>細粒子 | 両面施釉 | 黒色 | 無 | I<br>え-13<br>4層 | 口縁部の小破片。口縁はやや外側に開き、口縁下が凹む。素地に白色粒子混入。釉中に気泡有り。口唇部は薄く施釉。内面に轆轤痕。 |
| 〃 | 2 | 茶碗 | 口縁部 | —<br>—<br>— | 淡灰褐色<br>細粒子 | 両面施釉 | 口唇部茶褐色<br>胴部黒茶色 | 無 | I<br>え-5<br>5層 | 口縁部の小破片。口縁はやや外側に開き、口縁直下で僅かに窪む。素地に黒色、白色細粒子混入。黒色の釉に茶褐色の釉を二度掛け。禾目が見られる。内外面に轆轤痕。 |




**第78図（図版43）天目**：茶碗

**三彩**（第79図１．２　図版43）

Ⅰ地区17片の出土があり、Ⅱ-A地区、Ⅱ-B地区では出土していない。小破片のものがほとんどで、全形の窺える資料は見受けられない。器種は水滴などが得られている。

**型不明の水滴**（第79図１）　外面全体に濃い緑釉が掛かっている。内面無釉。胎土は淡褐色の軟質のものである。資料は器の上部の破片と思われ、孔が穿たれている。上部には、鰭または、尻尾（？）のような突起物が付いている。器は身中線で接合される型造りによって製作されており、接合面で割れている。うー20グリット．２層出土。

**鳥型水滴**（第79図２）　型造りの胴部破片で、上部（背）には孔が穿たれる。側面には羽文、施釉は上部（背）に淡い緑釉、側面部（羽）に黄釉を配色している。内面無釉。胎土は淡褐色の軟質のものである。おー７グリット．４層出土。

**翡翠釉**（第79図３　図版43）

Ⅰ地区で１片のみ得られた。Ⅱ-A地区、Ⅱ-B地区では得られていない。

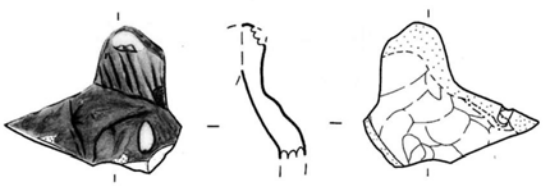
３は外面に線彫りによる蓮弁文を施した瓶の底部資料である。外面のみ白化粧を掛け、翡翠釉を施している。高台内側には緑釉を施し、線彫りの凹部も緑味をおびる。施文は、腰部に連弁文、その上に横沈線が２条確認できる。高台外側に２条の横沈線を描く。内面は無釉で轆轤造りの痕が明瞭に残る。腰

部については釉の剥落が激しく、下地の白化粧土が大部分で露頭している。胎土は乳白色の軟質のものである。Ⅰ地区撹乱層出土。

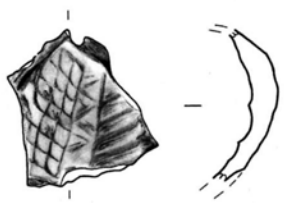
**第22表　三彩・翡翠釉観察一覧**

（単位：cm）

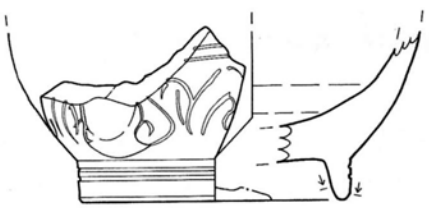
| 挿図番号<br>図版番号 | 番号 | 種類 | 器形 | 部位 | 口径<br>器高<br>底径 | 素地 | 施釉 | 釉色 | 貫入 | 出土地点 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第79図<br>図版43 | 1 | 三彩 | 水滴 | 胴部 | —<br>—<br>— | 淡褐色<br>細粒子 | 外面施釉<br>内面露胎 | 明緑色<br>淡黄色 | 有 | Ⅰ<br>う-20<br>3層 | 形状不明の水滴。 鰭又は羽のような装飾が見られる。 白化粧後、胴部に緑釉、羽又は鰭部分に黄釉を施釉する。 胴上部に空気孔を開ける。 型成形で接合面より剥離。 内面には接合痕や指圧痕有り。 内面露胎。 軟陶胎。 |
| 〃 | 2 | 三彩 | 水滴 | 胴部 | —<br>—<br>— | 淡褐色<br>細粒子 | 外面施釉<br>内面露胎 | 淡緑色<br>淡黄色 | 無 | Ⅰ<br>お-7<br>4層 | 鳥型水滴の胴部破片。 型成形による羽状文。 羽部分に黄釉、胴部に薄く緑釉を施釉する。 胴上部に径約3ミリの空気孔を開ける。 内面露胎。 内面指圧痕明瞭。 軟陶胎。 |
| 〃 | 3 | 翡翠釉 | 瓶 | 底部 | —<br>—<br>7.2 | 乳白色<br>細粒子 | 外面施釉<br>内面露胎 | 明緑色<br>淡黄色 | 無 | Ⅰ<br>撹乱 | 素地に気泡多数混入。 内面無釉。 外面に白化粧後、翡翠釉施釉。 外底面に緑釉を施す。 畳付け露胎、一部に緑釉の釉垂れ有り。 釉の剥落は著しい。 線刻により高台外面と胴部に2本界線、胴下部に蓮弁文。 |



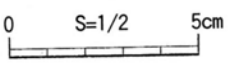
1



2



3




**第79図（図版43）三彩**：水滴(1.2)　**翡翠釉**：瓶(3)

## 瑠璃釉（第80図　図版43）

Ⅰ地区3片、Ⅱ-A地区2片の合計5片が出土した。Ⅱ-B地区では確認されず、量的には多くない。器種は瓶、小杯の2器種が確認できた。ほとんどが小破片の資料であり、全形の窺える資料は得られていない。いづれも外面に瑠璃釉、内面に灰白色の透明釉を掛け分けている。特徴的なものを第80図に示した。

**小杯**（第80図1．2）　1～2に示した2点で1は口縁部、2は底部の資料である。腰部が丸みをもって膨らみ、口縁部までゆるやかに立ち上がる直口口縁の器形で、底部は無釉のベタ底のものである。素

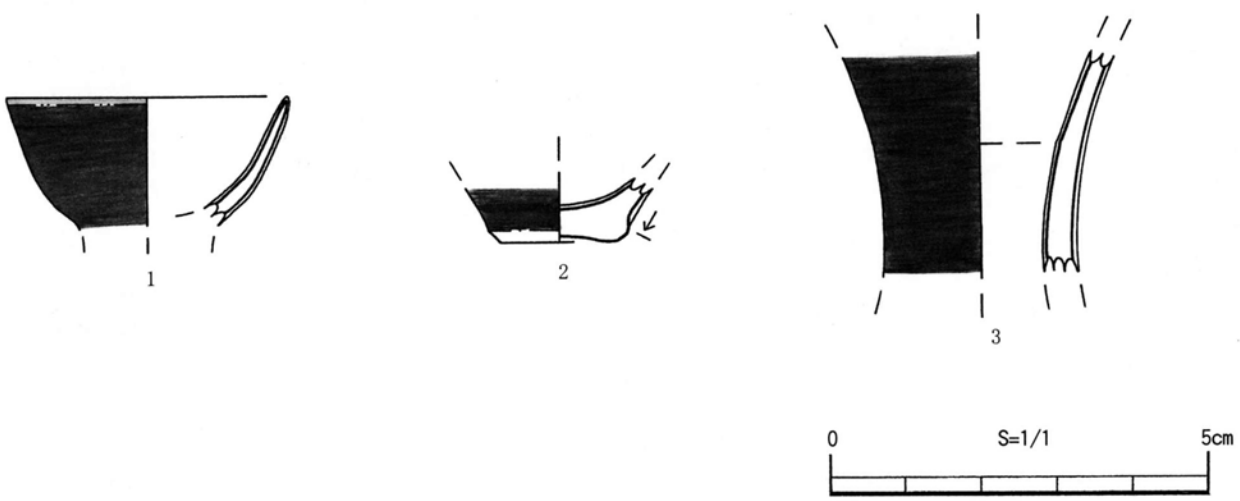
地はいづれも乳白色の細かなものである。

**瓶**（第80図３）　頸部破片で口縁部はラッパ形に開くものと思われる。内面には成型時の痕跡と考えられる横位の稜線が巡っている。内面には粒状の溶着物が認められる。

**第23表　瑠璃釉観察一覧**

（単位：cm）

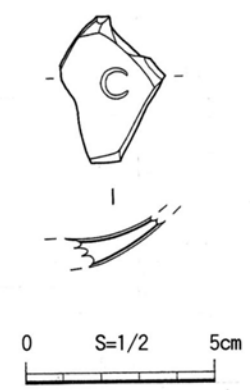
| 挿図番号<br>図版番号 | 番号 | 器形 | 部位 | 口径<br>器高<br>底径 | 素地 | 施釉 | 釉色 | 貫入 | 出土地点 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第80図<br>図版43 | 1 | 小杯 | 口縁部<br>～胴部 | 3.6<br>—<br>— | 乳白色<br>微粒子 | 外面:瑠璃釉<br>内面:透明釉 | 外面:淡藍色<br>内面:淡青白色 | 無 | ⅡA<br>E-2<br>3層2 | 口縁部の小破片。口縁部上端まで瑠璃釉を施釉し口唇部より内面まで透明釉施釉。口唇部は尖り気味。 |
| 〃 | 2 | 小杯 | 底部 | —<br>—<br>1.6 | 乳白色<br>微粒子 | 外面:瑠璃釉<br>内面:透明釉<br>高台脇外底露胎 | 外面:藍色<br>内面:淡青白色 | 無 | ⅡA<br>表採 | 型成形。瑠璃釉を高台脇で釉剥ぎし畳付けから外底露胎。上げ底。 |
| 〃 | 3 | 瓶 | 頸部 | —<br>—<br>— | 乳白色<br>微粒子 | 外面:瑠璃釉<br>内面:透明釉 | 外面:濃藍色<br>内面:淡青白色 | 無 | Ⅰ<br>お-9<br>3b層 | 外面に瑠璃釉を厚く施釉。内面に黒色粒子、砂粒付着。轆轤痕有り。 |




**第80図（図版43）　瑠璃釉**：杯(1.2)・瓶(3)

## 高麗青磁（第81図　図版43）

Ⅰ地区で５片の出土があり、Ⅱ-A地区、Ⅱ-B地区では確認されていない。第83図に示す資料は内面に白象嵌の小珠状の竹管文を施したいわゆる「象嵌青磁」である。釉は内外面に施されており緑灰色でガラス質の透明感があるものである。貫入は内外面に細かく見られる。小破片であるため、器種は不明であるが、皿などの比較的小型の器であると思われる。Ⅰ地区お－６グリッド第４層から出土している。




**第81図（図版43）　高麗青磁**

## タイ産陶器（第82図　図版44）

Ⅰ地区13片、Ⅱ-B地区１片が出土している。Ⅱ-A地区では確認されていない。種類は鉄絵合子、壷である。

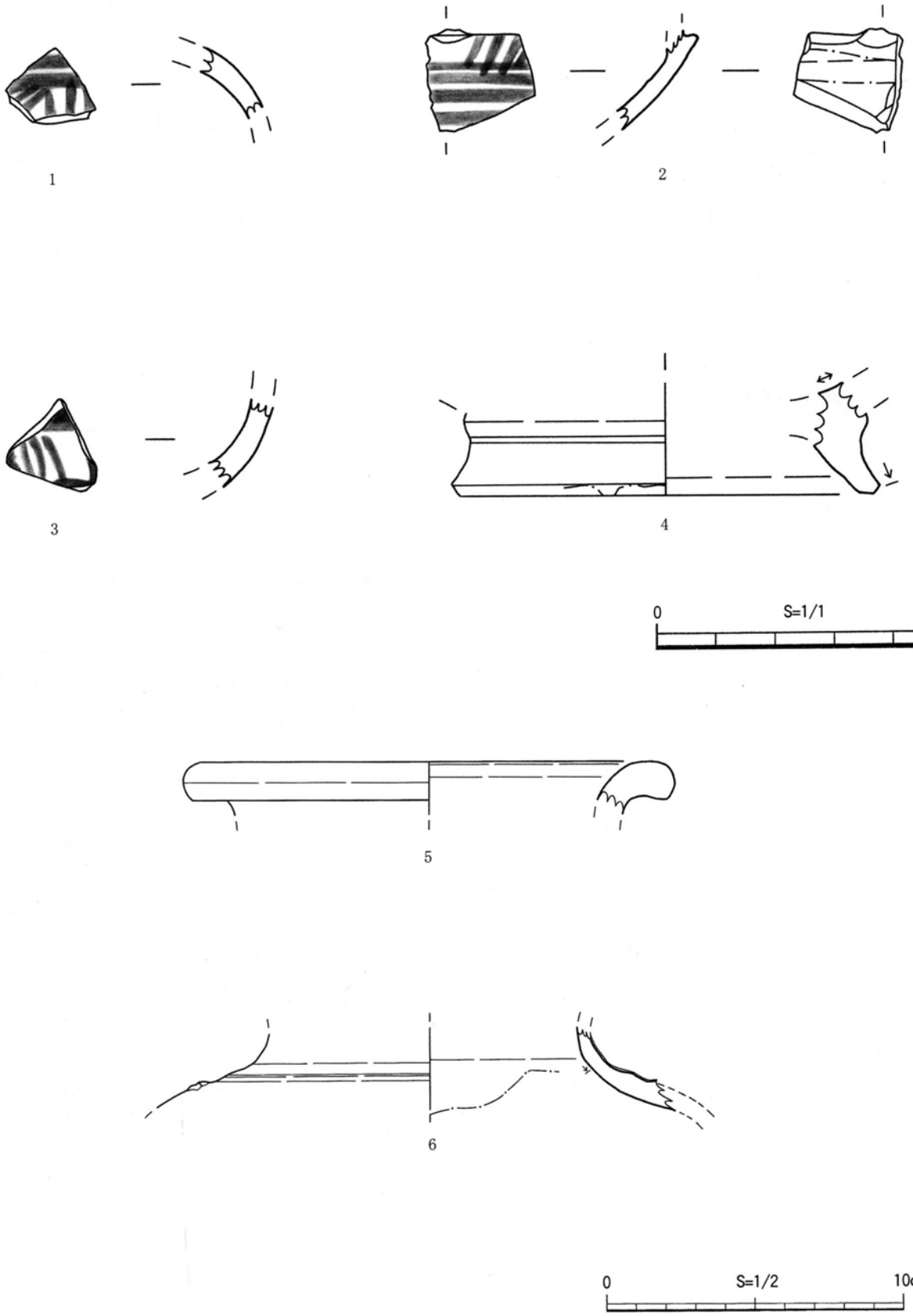
**鉄絵合子**（第82図１～４）　小破片ながら蓋、身、高台の各部分が出土した。１～３は蓋あるいは身の資料である。施釉は主に外面に施され、界線、横位の連続斜線、縦線などを描き、その上に透明釉を掛けるものである。高台資料は１片得られている。末広がりの形状を有し、畳付外端で直径7.0cmを測る。高台外面も同様に薄い透明釉下に鉄絵が幅広く施されていており、器面は光沢のあるものである。

**壷**（第82図５．６）　９片出土した。そのうち口縁部資料２片を図化した。１は推定口径16.6cmを測る外反口縁の壷である。残存面の内外面に釉は見られない。２は頸部～肩部にかけての資料で、耳の一部がわずかに残っている。施釉は内外面に施されるが内面は肩部以下で露胎とみられる。金沢大学の向井亙氏に鑑定を依頼した結果、前者はノイ川窯産の無頸壷、後者はシーサッチャナライ窯の頸部がラッパ状に大きく開く壷のものであるとの御教示を得た。

### 第24表　タイ産陶器観察一覧

（単位：cm）

| 挿図番号<br>図版番号 | 番号 | 器形 | 部位 | 口径<br>器高<br>底径 | 素地 | 施釉 | 釉色 | 貫入 | 出土地点 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第82図<br>図版44 | 1 | 合子 | 身か蓋 | —<br>—<br>— | 明灰色<br>細粒子 | 外面施釉<br>内面露胎 | 淡灰色 | 細かく<br>有 | 不明 | 鉄絵合子の小破片。 外面に界線・斜線・縦線。 素地に黒色細粒子混入。 シーサッチャナライ窯産。 |
| 〃 | 2 | 合子 | 身 | —<br>—<br>— | 明灰色<br>細粒子 | 外面施釉<br>内面一部施釉 | 淡灰色 | 細かく<br>有 | ⅡB<br>中央ｱｾﾞくずし<br>上2層 | 鉄絵合子の身の小破片。 蓋受けが僅かに残る。 外面に界線・斜線・縦線。 素地に黒いｺﾞﾏ粒状粒子多数混入。 シーサッチャナライ窯産。 |
| 〃 | 3 | 合子 | 身か蓋 | —<br>—<br>— | 明灰色<br>細粒子 | 外面施釉<br>内面露胎 | 淡灰色 | 細かく<br>有 | Ⅰ<br>お-7<br>4層 | 鉄絵合子の小破片。 外面に界線・斜線。 素地に黒色細粒子混入。 シーサッチャナライ窯産。 |
| 〃 | 4 | 合子 | 底部 | —<br>—<br>7.0 | 明灰色<br>細粒子 | 高台外面まで<br>鉄釉　畳付け<br>外底露胎　内<br>底透明釉 | 淡黒色 | 無 | Ⅰ<br>え-20<br>3層 | 鉄絵合子の底部。 高台「ハ」の字状に開く。 高台脇と畳付け、成形時に明瞭な線を入れ、畳付けを撫でて器面調整。素地に黒いｺﾞﾏ粒状粒子多数混入。 シーサッチャナライ窯産。 |
| 〃 | 5 | 壷 | 口縁部 | 16.6<br>—<br>— | 紫灰色<br>粗粒子 | 無釉 | | 無 | Ⅰ<br>お-19<br>3層 | 口縁部は丸みをもって外反する。 素地に白色細粒子や黒色粒、径1.5ﾐﾘ大の赤褐色粒含む。 口縁部内面に目痕有り。 ノイ川窯産。 |
| 〃 | 6 | 壷 | 頸部 | —<br>—<br>— | 茶紫色<br>細粒子 | 両面施釉<br>内面肩部まで<br>流し掛け<br>一部露胎 | 黒褐色 | 無 | Ⅰ<br>お-8<br>4層 | 頸部基部で最も窄まり口縁部に向かい緩やかに外反するﾀｲﾌﾟの壷。 横耳の貼付痕があり、耳の上部に突起文帯を巡らす。内面を撫で調整。素地に白色細粒子を多量に含む。 シーサッチャナライ窯産。 |




**第82図（図版44）　タイ産陶器**：鉄絵合子(1～4)・壷(5.6)

**タイ産半練**（第83図　図版45）

すべてⅠ地区で得られており、総計11片出土している。資料は蓋と身に分けられる。

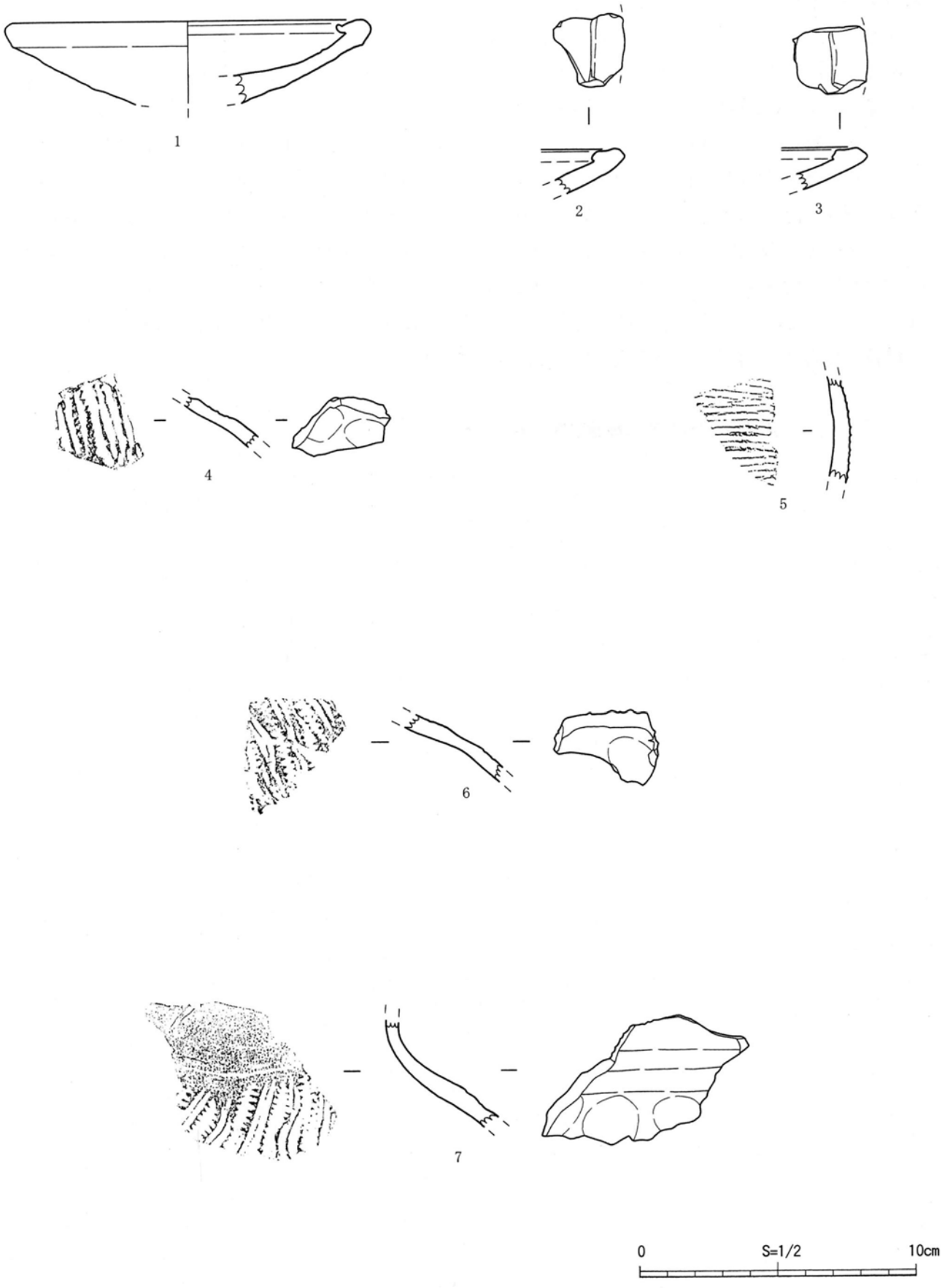
**蓋**（第83図１～３）　５片出土した。すべて落とし蓋の端部で、つまみ部分は得られていない。底面から端部へ膨らみながら立ち上がり、端部に至って内側へ折り曲げる。１は端部を折り曲げて先端をやや上向きに成形したものである。２・３は折り曲げた先端を丸く成形し、器内面と密着させたものである。

**身**（第83図４～７）　６片出土した。すべてに外面に叩き目が確認され、類例資料を参考にすると外面に縦位の鋸歯状の叩き目を施す４・６・７は胴部の上半部に相当し、５は胴部下半部に相当するものと思われる。

**第25表　タイ産半練観察一覧**

（単位：cm）

| 挿図番号<br>図版番号 | 番号 | 器形 | 部位 | 端径 | 色調 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第83図<br>図版45 | 1 | 蓋 | 端部 | 13.2 | 橙白色 | Ⅰ<br>え-9<br>4層 | 落とし蓋で端部の折り曲げ方は丁寧。折り曲げ先端部をつまみ上げ突起状にする。器面を指で撫で調整。胎土に茶褐色粒子や微細な黒色粒子が多量に混入。僅かに白色粒子も見られる。焼成は良く堅緻。 |
| 〃 | 2 | 蓋 | 端部 | — | 外面:橙白色<br>断面中央:淡灰色 | Ⅰ<br>え-12<br>3層 | 落とし蓋。端部は折り曲げてから上面を撫でて、やや平坦に成形。折り曲げ部分を撫で調整。胎土は細かく、茶褐色粒子や、微細な黒色粒子多量に混入。僅かに白色粒子も見られる。No.3と同一個体と思われる。 |
| 〃 | 3 | 蓋 | 端部 | — | 外面:橙白色<br>断面中央:淡灰色 | Ⅰ<br>え-9<br>3層k | 落とし蓋。端部は折り曲げてから上面を撫でて、やや平坦に成形。折り曲げ部分を撫で調整。胎土は細かく、茶褐色粒子や、微細な黒色粒子多量に混入。僅かに白色粒子も見られる。No.2と同一個体と思われる。 |
| 〃 | 4 | 身 | 胴部 | — | 外面:淡橙色<br>断面中央:淡灰白色 | Ⅰ<br>え-9<br>4層 | 胴部の破片。外面には、鋸歯状の文様を、縦位に叩き施す。内面には指圧痕。胎土は細かく、茶褐色、黒色粒子多量に混入。僅かに白色粒子も見られる。 |
| 〃 | 5 | 身 | 胴部 | — | 外面:橙白色<br>断面中央:淡灰白色 | Ⅰ<br>え・お-<br>5～9<br>p314c | 胴部の破片。外面には線条の文様を縦位に叩き施す。内面には指圧痕。胎土は細かく、茶褐色、黒色粒子多量に混入。僅かに白色粒子も見られる。 |
| 〃 | 6 | 身 | 胴部 | — | 外面:橙白色<br>断面中央:淡灰白色 | Ⅰ<br>え-7<br>4層 | 胴部の破片。外面には、向き合った鋸歯状の文様を、斜位に叩き施す。内面には指圧痕。胎土は細かく、茶褐色、黒色粒子多量に混入。僅かに白色粒子も見られる。 |
| 〃 | 7 | 身 | 頸部 | — | 橙白色 | Ⅰ | 頸部から胴部に掛けての破片。胴部には向き合った鋸歯状の文様を叩きにより斜位に施す。叩き文様の上部に沈線１条廻る。内面には明瞭な指圧痕有り。内外面に撫で調整痕。胎土は細かく、茶褐色粒子や微細な黒色粒子を多量に混入。僅かに白色粒子も見られる。 |




**第83図（図版45）　タイ産半練**：蓋(1～3)・身(4～7)

## 本土産陶磁器（第84図　図版46）

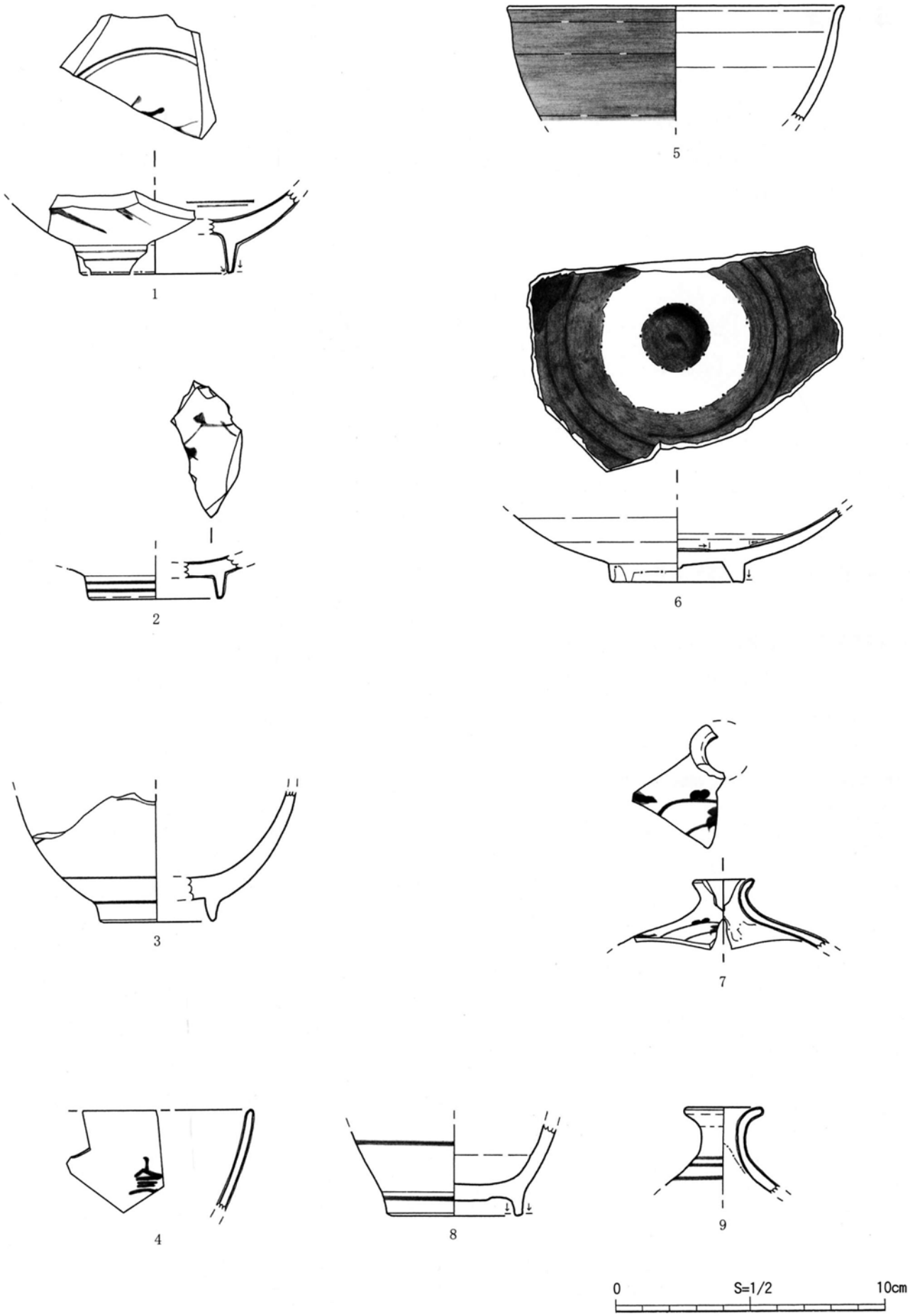
Ⅰ地区178点、Ⅱ-A地区19点、Ⅱ-B地区６点の総計200点余が出土している。器種は碗、油壷、皿、瓶が確認できた。ほとんどを肥前系の染付が占めるが、赤絵、緑釉、鉄絵も若干出土している。以下、主要な遺物について概略を示し、詳細は観察表に記した。

碗は　染付碗、鉄絵碗、緑釉碗が出土している。第84図１・２は見込荒磯文碗で外面に龍鳳文などを描く。佐賀県嬉野町吉田２号窯産。時期は1655～1670年代のものである。３は波佐見古窯産のもので高台外面や胴部外面に界線を巡らせている。時期は17世紀末～18世紀のものである。４は京焼風の鉄絵碗で、胴部外面に楼閣文が描かれる。５は佐賀県内野山古窯産の銅緑釉碗である。６も同じく内野山古窯産の緑釉皿。両資料ともに17世紀後半～18世紀前半のものである。７は染付油壷で頸部は短く肩部が張った小型の壷である。肩部に梅花文を施す。18世紀中頃のものである。瓶は染付８と赤絵９の二種類が確認されている。前者が18世紀代。後者が17世紀第２四半期のものである。

### 第26表　本土産陶磁器観察一覧

（単位：cm）

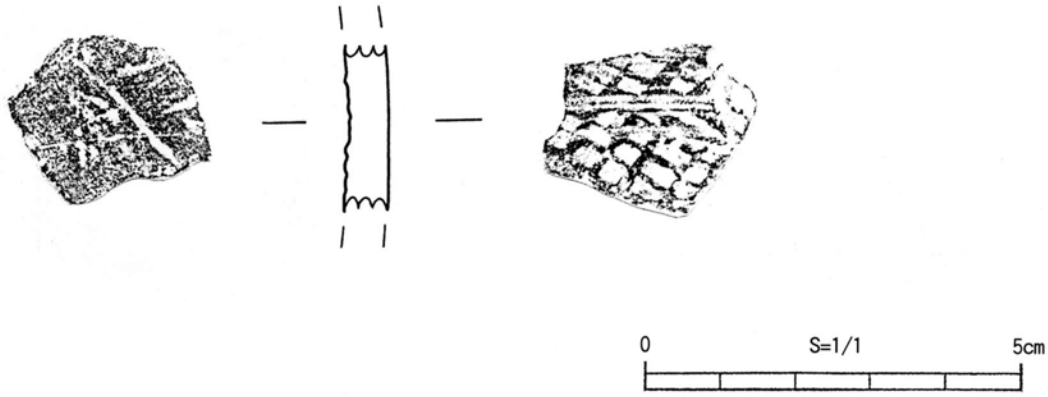
| 挿図番号<br>図版番号 | 番号 | 材質 | 器種 | 部位 | 口径<br>器高<br>底径 | 素地 | 釉色 | 文様 | 貫入 | 年代 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第84図<br>図版46 | 1 | 磁器 | 染付碗 | 底部 | —<br>—<br>5.8 | 淡黄白色<br>細粒子 | 淡灰白色 | 見込みに荒磯文<br>胴部外面に龍鳳文<br>高台外面、見込みに界線1本 | 全体に細かく有 | 1655年～1670年 | Ⅰ<br>一括 | 佐賀県嬉野町吉田2号窯産。東南アジア向けの輸出品と言われる。高台は高く、高台脇よりも内側は深い。畳付けは無釉。見込みに焼成時の付着物。焼成不良気味。呉須は明るめの発色。 |
| 〃 | 2 | 磁器 | 染付碗 | 底部 | —<br>—<br>4.8 | 淡灰白色<br>微粒子 | 淡青白色 | 見込みに荒磯文<br>高台外面に界線2本 | 無 | | Ⅰ<br>え-12<br>3層 | 畳付け無釉で砂粒付着。<br>呉須はやや黒ずむ。 |
| 〃 | 3 | 磁器 | 染付碗 | 底部 | —<br>—<br>4.4 | 淡灰白色<br>細粒子 | 淡灰白色 | 畳付け外面に界線1本<br>胴部下半に界線1本 | 全体に有 | 17世紀末～18世紀 | Ⅰ<br>一括 | 長崎県波佐見古窯産。<br>畳付けは無釉。胴部に文様僅かに残る。やや焼成不良。外底、釉切れ。呉須は暗めの淡い発色。 |
| 〃 | 4 | 陶器 | 鉄絵碗 | 口縁部 | —<br>—<br>— | 淡黄白色<br>微粒子 | 淡黄色 | 外面に楼閣文 | 全体に細かく有 | | Ⅰ<br>え-13<br>3層 | 京焼風陶器。直口口縁碗。水漉した、きめの細かい粘土。鉄絵で文様を描き透明釉を施釉。色調は全体に卵黄色。 |
| 〃 | 5 | 陶器 | 緑釉碗 | 口縁部 | 12.4<br>—<br>— | 淡黄白色<br>細粒子 | 外：淡緑色 内：淡茶色 | 無 | 無 | 17世紀後半～18世紀前半 | Ⅰ<br>お-11<br>3c層 | 佐賀県嬉野市内野山古窯産。器壁は薄く口縁部は弱く外反する。外面銅緑釉　内面透明釉施釉。　所々に釉切れ。 |
| 〃 | 6 | 陶器 | 緑釉皿 | 底部 | —<br>—<br>5.0 | 淡黄白色<br>微粒子 | 外：淡黄色<br>内：緑色 | 無 | 全体に有 | 17世紀後半～18世紀前半 | Ⅰ<br>え-9<br>4層 | 佐賀県嬉野市内野山古窯産。外面透明釉、内面銅緑釉施釉畳付け外底露胎。　見込み蛇の目釉剥ぎ。　見込みに重ね焼きの砂目積み痕。所々に釉切れ。 |
| 〃 | 7 | 磁器 | 染付油壷 | 口縁部 | 2.3<br>—<br>— | 淡灰白色<br>微粒子 | 淡白色 | 肩部に梅花(つぼみ?)文 | 全体に有 | 18世紀中頃 | ⅡA<br>表採 | 頸は短く、口部が外向きに開き、肩部は張る。外面施釉、内面は口縁部まで施釉。呉須は暗めの発色。 |
| 〃 | 8 | 磁器 | 染付瓶 | 底部 | —<br>—<br>4.9 | 淡灰白色<br>微粒子 | 淡青白色 | 畳付け外面に界線1本<br>胴部下半に界線1本 | 全体に細かく有 | 18世紀代 | Ⅱ<br>え-11<br>3c層 | 外底中央に円形の凸部を作る。畳付け、内面無釉。　高台内縁に砂粒付着。　呉須は淡い。 |
| 〃 | 9 | 磁器 | 赤絵瓶 | 口縁部 | 3.0<br>—<br>— | 淡灰白色<br>微粒子 | 淡灰白色 | 頸部下端に界線2本<br>肩部に界線1本 | 無 | 17世紀第2四半期 | Ⅱ<br>お-12<br>3層 | 文様は殆ど剥落し僅かに痕跡が残る。外面施釉、内面は頸部まで施釉。 |




**第84図（図版46）　本土産陶磁器**：碗(1～5)・皿(6)・油壷(7)・瓶(8.9)

## 類須恵器（第85図　図版47）

すべてⅠ地区で得られており、総計18片が出土している。これらはすべて胴部の小破片であったため、器種を確定することはできなかった。その内の代表的な１片を図化した。内外面に格子目状の叩き痕が認められる。外面の叩き痕は撫で消されるが消えきらずに痕跡が残っている。素地は内面が暗茶褐色で外面が灰褐色。焼成は良好である。胎土には白色の微粒子が多量に混入する。Ⅰ地区お－12グリッド第３層から出土している。




**第85図（図版47）　類須恵器**

## 沖縄産施釉陶器（第86・87図　図版47・48）

Ⅰ地区431片、Ⅱ-A地区769片、Ⅱ-B地区43片の総計1,240片余が出土している。器種は碗、小碗、鉢、皿が確認できた。以下、主要な遺物について図示し、詳細は観察表に記した。

**第27表　沖縄産施釉陶器観察一覧(1)**

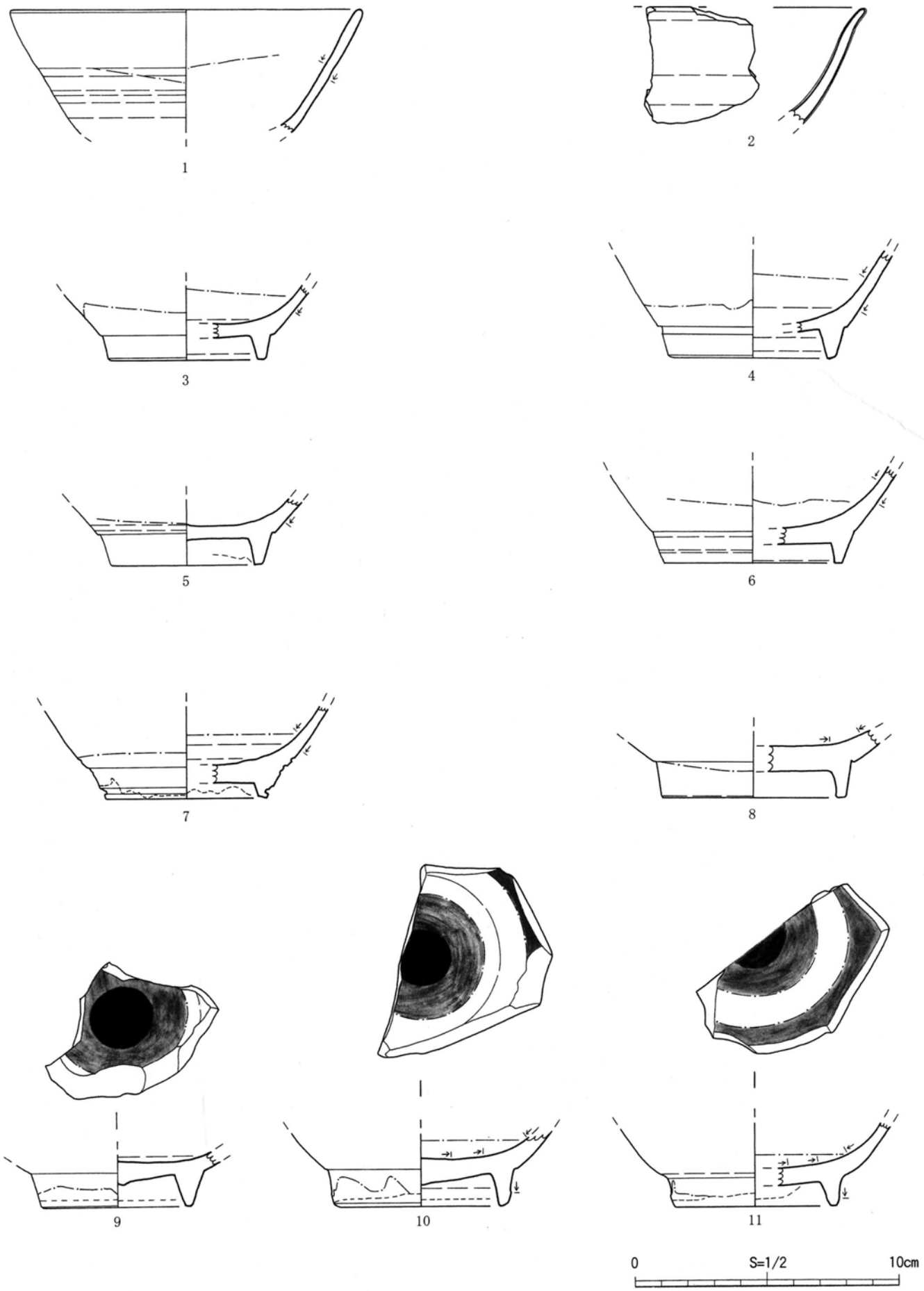
（単位：cm）

| 挿図番号<br>図版番号 | 番号 | 器形 | 部位 | 口径<br>器高<br>底径 | 素地 | 施釉 | 釉色 | 貫入 | 文様 | 出土地点 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第86図<br>図版47 | 1 | 碗 | 口縁部 | 13.4<br>—<br>— | 灰白色<br>微粒子 | フィガキー手法<br>内外面胴部途中まで<br>灰釉を施釉 | 淡灰緑色 | 有 | 無 | Ⅰ<br>え-13<br>3c層 | 直口口縁碗。胴部中央を帯状に削る。胴下部篦削り成形。 |
| 〃 | 2 | 碗 | 口縁部 | —<br>—<br>— | 黄白色<br>微粒子 | 両面施釉 | 乳白色 | 有 | 無 | ⅡA<br>E-23<br>4層 | 外反口縁碗。口縁上端で微弱に外反。内外面に白化粧を施す。口縁部に釉溜まり有り。素地が細かい。 |
| 〃 | 3 | 碗 | 底部 | —<br>—<br>6.0 | 灰色<br>微粒子 | 内外面施釉<br>見込と高台は露胎 | 暗灰緑色 | 無 | 無 | ⅡA<br>E-26<br>2層 | 灰釉碗。底部から直線的に立ち上がり、高台際に段をつけて体部との境を明瞭にする。高台は逆台形。畳付けは平坦。 |
| 〃 | 4 | 碗 | 底部 | —<br>—<br>6.4 | 灰色<br>微粒子 | 内外面施釉<br>見込と高台は露胎 | 暗灰緑色 | 有 | 無 | ⅡA<br>D-26<br>2層 | 灰釉碗。高台際に段をつけて体部との境を明瞭にする。高台は逆台形。見込みの器壁が薄い。 |
| 〃 | 5 | 碗 | 底部 | —<br>—<br>5.8 | 灰色<br>微粒子 | フィガキー手法<br>見込と高台は露胎 | 暗灰緑色 | 無 | 無 | ⅡA<br>F-24<br>3層 | 灰釉碗。外底と内底の中心部分がへそ状に盛り上がる。高台は逆台形。畳付けは平坦。 |
| 〃 | 6 | 碗 | 底部 | —<br>—<br>6 8 | 淡灰白色<br>細粒子 | フィガキー手法<br>灰釉を両面施釉　腰部より下部は露胎 | 淡緑灰色 | 有 | 無 | Ⅰ<br>R4・D2 | 灰釉碗。高台は逆台形。畳付けは平坦。釉はｶﾞﾗｽ質の透明釉。 |

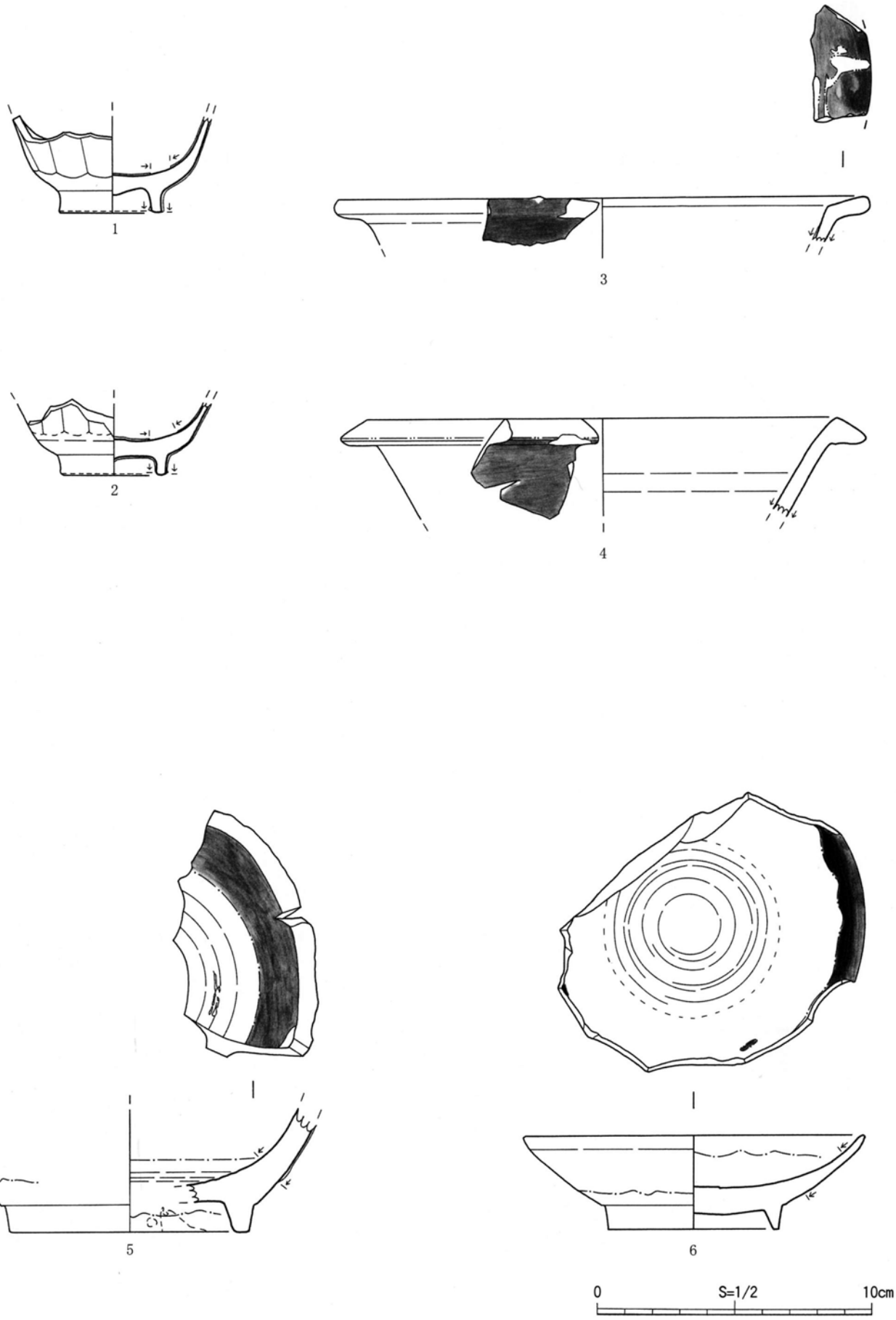
## 第28表　沖縄産施釉陶器観察一覧(2)

(単位：cm)

| 挿図番号<br>図版番号 | 番号 | 器形 | 部位 | 口径<br>器高<br>底径 | 素地 | 施釉 | 釉色 | 貫入 | 文様 | 出土地点 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第86図<br>図版47 | 7 | 碗 | 底部 | —<br>—<br>6.2 | 灰白色<br>粗粒子 | フィガキー手法<br>内外面灰釉を施釉<br>胴部下部露胎 | 淡灰緑色 | 有 | 無 | Ⅰ<br>う･え-22<br>攪乱<br>10-637 | 高台外面を斜めに内面を垂直に削り、逆台形に作る。高台際と畳付上部に段を削り込む。高台は低い。見込と高台に重ね焼きの砂粒付着。 |
| 〃 | 8 | 碗 | 底部 | —<br>—<br>7.0 | 灰色<br>粗粒子 | フィガキー手法<br>外面高台際まで施釉<br>畳付露胎　内底面蛇の目釉剥ぎ | 淡灰緑色 | 外面に有 | 無 | Ⅰ<br>攪乱<br>10-596 | 高台際に段を削り込む。高台は逆台形に成形し畳付けは平坦。 |
| 〃 | 9 | 碗 | 底部 | —<br>—<br>5.8 | 黄白色<br>細粒子 | 外面高台途中まで施釉　畳付外底面は露胎内底面は蛇の目釉剥ぎ | 外面:黒色<br>内面:灰緑色 | 無 | 無 | ⅡA<br>F-20<br>3層 | 外面は鉄釉で内面は灰釉。　見込を蛇の目釉剥ぎし鉄絵で丸文。　外底の中央がへそ状に盛り上がる。　高台は逆台形。畳付けと見込みに重ね焼きの白土付着。焼成不良気味。 |
| 〃 | 10 | 碗 | 底部 | —<br>—<br>6.6 | 茶褐色<br>微粒子 | 外面高台まで施釉<br>畳付外底面は露胎<br>内底面は蛇の目釉剥ぎ | 暗茶褐色 | 有 | 無 | ⅡA<br>D-24<br>3層 | 外面は鉄釉で内面は灰釉。見込を蛇の目釉剥ぎし鉄絵で丸文。高台内の中央がへそ状に盛り上がる。高台は逆台形。畳付けと見込みに重ね焼きの白土付着。焼成不良気味。 |
| 〃 | 11 | 碗 | 底部 | —<br>—<br>6.1 | 灰色<br>微粒子 | 外面高台まで施釉<br>畳付外底面は露胎<br>内底面は蛇の目釉剥ぎ | 外面:茶褐色<br>内面:灰緑色 | 外面に細かく有 | 無 | ⅡA<br>E-24<br>3層 | 外面は鉄釉で内面は灰釉。見込を蛇の目釉剥ぎし鉄絵で丸文。　高台は逆台形。畳付けと見込みに重ね焼きの白土付着。 |
| 第87図<br>図版48 | 1 | 小碗 | 底部 | —<br>—<br>3.8 | 淡灰白色<br>細粒子 | 見込蛇の目釉剥ぎ | 乳白色 | 有 | 無 | ⅡA<br>E-21<br>3層 | 内外面白化粧し光沢のある透明釉を施す。外面は縦長に面取り成形。　外底の中央部がへそ状に盛り上がる。　見込みに輪状の剥離痕。　畳付けに窯詰めの白土が厚く付着。　外底は鉄釉を施釉し尖った部分に白化粧でｱｸｾﾝﾄを入れる。 |
| 〃 | 2 | 小碗 | 底部 | —<br>—<br>3.9 | 暗灰色<br>微粒子 | 両面施釉<br>見込蛇の目釉剥ぎ | 灰白色 | 有 | 無 | ⅡA<br>E-19<br>3層 | 内外面白化粧し光沢のある透明釉を施す。外面は縦長に面取り成形。　外底の中央部がへそ状に盛り上がる。　見込みに輪状の剥離痕。　畳付けに窯詰めの白土が厚く付着。　外底は鉄釉を施釉した後に白化粧を施釉。 |
| 〃 | 3 | 鉢 | 口縁部 | 19.4<br>—<br>— | 黄白色<br>微粒子 | 両面施釉 | 外面:茶褐色<br>内面:灰緑色 | 有 | 有 | ⅡA<br>E-22<br>3層 | 口縁逆「L」字状の鍔縁。外面鉄釉、内面灰釉と掛け分ける。　鍔縁にｲｯﾁﾝ技法により白土で文様を施す。 |
| 〃 | 4 | 鉢 | 口縁部 | 19.1<br>—<br>— | 黄白色<br>微粒子 | 外面:黒釉<br>内面:白釉(白化粧)の掛分け | 外面:暗褐色<br>内面:乳白色 | 有 | 無 | ⅡA<br>E-20 | 口縁部を外側に折り曲げる。　外面には多数のﾋﾟﾝﾎｰﾙ。 |
| 〃 | 5 | 鉢 | 底部 | —<br>—<br>8.8 | 灰色<br>微粒子 | 外面腰部まで黒釉を厚く施釉<br>内面胴部まで灰釉施釉<br>外底面黒釉薄く施釉<br>見込釉剥ぎ | 外面:黒褐色<br>内面:灰緑色 | 無 | 無 | ⅡA<br>2層<br>攪乱 | 畳付露胎。　高台内に薄く黒釉施釉。　内面に細かな轆轤痕。　重ね焼きの痕有。胴部厚く成形。　高台際に削りを入れ体部との境を明瞭にする。　外面に黒釉を厚く施釉し下部で釉溜まり有り。　畳付けに窯詰めの白土が付着。 |
| 〃 | 6 | 皿 | 口縁部<br>～底部 | 12.4<br>3.4<br>6.2 | 淡橙色<br>微粒子 | 内面口縁部、外面腰部途中まで施釉<br>見込、高台無釉 | 緑褐色 | 全体に細かい貫入 | 無 | Ⅰ<br>え-14･<br>D-7<br>2層 | 高台は逆台形に作り、畳付けは平坦。高台際に段を削り込んで体部との境目を明瞭にする。　見込み重ね焼きの痕有。高台内の削り雑。轆轤回転左回り。焼成不良気味。 |




**第86図（図版47）　沖縄産施釉陶器：碗**




**第87図（図版48）　沖縄産施釉陶器**：小碗(1.2)・鉢(3～5)・皿(6)

## 沖縄産無釉陶器（第88～90図　図版49～51）

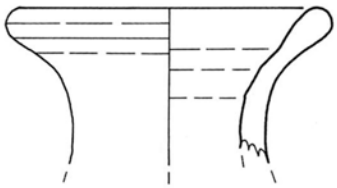
Ⅰ地区184片、Ⅱ-A地区334片、Ⅱ-B地区58片の総計576片余が出土している。器種は水鉢、火入れ、擂鉢、小壷、瓶が確認できた。以下、主要な遺物について図示し、詳細は観察表に記した。

### 第29表　沖縄産無釉陶器観察一覧

（単位：cm）

| 挿図番号<br>図版番号 | 番号 | 器形 | 部位 | 口径<br>器高<br>底径 | 素地 | 色調（外面）<br>色調（内面） | 出土地点 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第88図<br>図版49 | 1 | 瓶 | 口縁部 | 8.6<br>—<br>— | 茶褐色<br>細粒子 | 暗茶褐色<br>茶褐色 | Ⅰ<br>え-11<br>3c層 | 薄く泥釉施釉。　口縁はﾗｯﾊﾟ状に外反する。口縁内面に白色粒付着。　表面に火ぶくれが観察される。 |
| 〃 | 2 | 小壺 | 口縁部 | 11.0<br>—<br>— | 茶褐色<br>細粒子 | 茶褐色<br>茶褐色 | Ⅰ<br>お-8<br>3層 | 表面に薄く泥釉施釉し、内面胴部まで施釉。口唇部は細く成形し内傾させる。胴部は「く」の字状に張る。 |
| 〃 | 3 | 水鉢 | 口縁部 | 21.6<br>—<br>— | 茶褐色<br>細粒子 | 黒褐色<br>茶褐色 | Ⅰ<br>え-13<br>3c層 | 素地に赤色粒子を含む。口縁部直下に4条の波状沈線文様。口唇部を平坦に成形し、口縁直下から膨らみながら胴部に移行。　外面に鉄分やﾏﾝｶﾞﾝを含んだ泥釉施釉。口唇部を重ね合わせて焼成。 |
| 〃 | 4 | 火入れ | 口縁部 | 11.4<br>—<br>— | 茶褐色<br>細粒子 | 暗茶褐色<br>暗茶褐色 | Ⅰ<br>お-11<br>3層 | 口縁部外面に1条沈線。　口縁内側に丸く折り曲げられ雑に成形。No.5と同一個体と思われる。 |
| 〃 | 5 | 火入れ | 底部 | —<br>—<br>11.0 | 茶褐色<br>細粒子 | 茶褐色<br>暗茶褐色 | Ⅰ<br>お-12<br>3層 | 円錐状の足を三ヶ所に貼り付ける。外底面に窯印を釘彫りする。内底の轆轤痕は顕著。轆轤回転左回り。<br>No.4と同一個体と思われる。 |
| 〃 | 6 | 火入れ | 底部 | —<br>—<br>10.6 | 茶褐色<br>粗粒子 | 灰褐色<br>茶褐色 | Ⅰ<br>え-14<br>3層 | 素地に大小の石英を多量に含む。底面からの立ち上がり部を篦削り成形。　足は欠落しているが三足の貼り付け痕有。 |
| 第89図<br>図版50 | 1 | 擂鉢 | 口縁部 | —<br>—<br>— | 茶褐色<br>やや<br>粗粒子 | 暗茶褐色<br>淡褐色 | Ⅰ<br>え-11<br>3層 | 口縁部直下に明瞭な稜を有し、注口を指で成形。<br>9本1組の櫛目で上端を撫で調整。<br>擂鉢編年（註1）のⅠ式に相当。 |
| 〃 | 2 | 擂鉢 | 口縁部 | —<br>—<br>— | 茶褐色<br>微粒子 | 暗灰黒色<br>茶褐色 | Ⅰ<br>撹乱 | 口縁部上端を、逆「L」字状に外反させる。口縁部直下を回横ナデし凸面を成形。素地に白色粒子を含む。<br>擂鉢編年（註1）のⅡ式に相当。 |
| 〃 | 3 | 擂鉢 | 底部 | —<br>—<br>11.0 | 茶褐色<br>やや<br>粗粒子 | 暗茶褐色<br>茶褐色 | Ⅰ<br>え・お-11<br>3b層 | 外面は、篦削り成形。　素地に、石英や白土を含む。<br>内底に珊瑚を敷いて重ね焼きしたと思われる剥離痕有り。<br>外面にも珊瑚の付着痕あり。 |
| 〃 | 4 | 擂鉢 | 口縁部<br>～底部 | 32.0<br>14.0<br>9.6 | 茶褐色<br>やや<br>粗粒子 | 暗茶褐色<br>茶褐色 | Ⅰ<br>お-11<br>3層<br>え・お-12<br>3層 | 8本1組の櫛目で、櫛目上端は回転横撫でにより消去され、口縁下部に明瞭な稜を有する。素地に、白色粒子や赤色粒を含み、気泡多数有り。ﾏﾝｶﾞﾝや鉄分を多く含んだ泥釉施釉。伏せ焼きにより、口縁部下に窯壁が付着し、自然釉が黄色く溜まる。擂鉢編年（註1）のⅠ式に相当。 |
| 第90図<br>図版51 | 1 | 擂鉢 | 口縁部 | —<br>—<br>— | 灰色<br>微粒子 | 橙褐色<br>橙褐色 | Ⅰ<br>え-13<br>4層 | 口縁部は、ゆるやかに「S」字状に成形し凸面に稜を有す。素地に、微細な黒色、褐色、白色粒子混入する。小破片の為櫛目は2本しか観察できない。No.2と同一個体。 |
| 〃 | 2 | 擂鉢 | 底部 | —<br>—<br>14.0 | 暗橙色<br>微粒子 | 橙褐色<br>橙褐色 | Ⅰ<br>え-8<br>3層 | 胴部の器壁に較べ底部は薄く、やや丸く立ち上がり、胴下部を篦削り調整する。7本1組の櫛目を、放射状に引く。<br>素地に微細な黒色、褐色、白色粒子が多数混入する。<br>No.1と同一個体。 |
| 〃 | 3 | 擂鉢 | 口縁部 | —<br>—<br>— | 明橙色<br>やや<br>微粒子 | 明橙色<br>明橙色 | Ⅱ<br>2E-26<br>2層 | 口縁部は、逆「L」字状に外反し、口唇部には浅い二条の凹線が廻る。櫛目は、9条認められる。櫛目の上端は横撫でにより消去される。　擂鉢編年のⅢ式に相当。 |
| 〃 | 4 | 擂鉢 | 口縁部 | —<br>—<br>— | 灰色<br>微粒子 | 淡灰色<br>淡灰色 | Ⅰ<br>う・え-22～24<br>2層 | 瓦質で素地に黒色、茶褐色の粒子含む。口縁部は、僅かに内傾し端の断面は四角形。12本1組の櫛目で、櫛目は磨耗している。 |

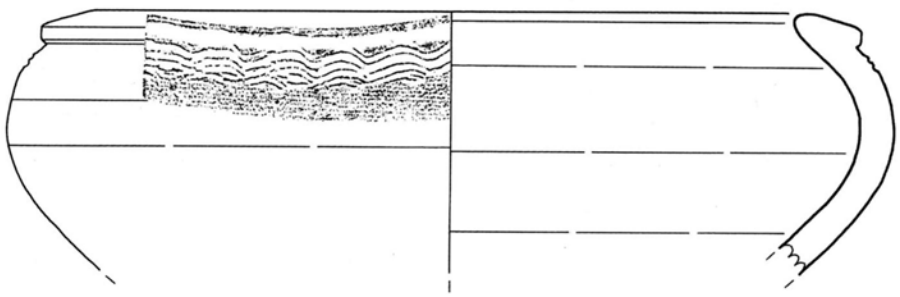
註1．安里進・上原政昌・家田淳一「擂鉢編年から見た近世琉球窯業の展開」『あじまぁ』3　名護博物館　1987年



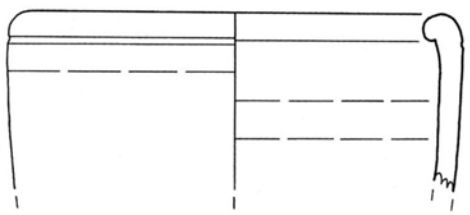
1



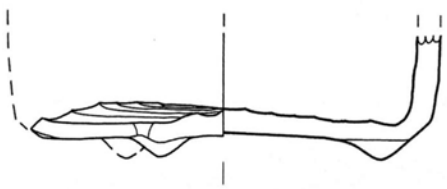
2

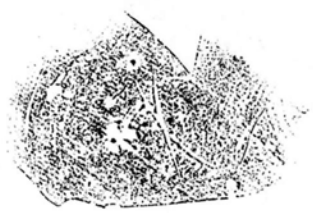


3

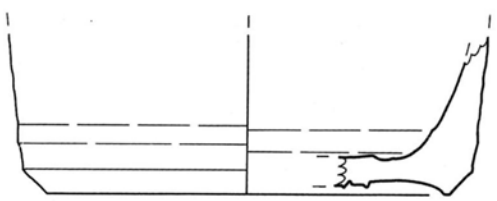


4

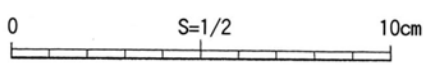




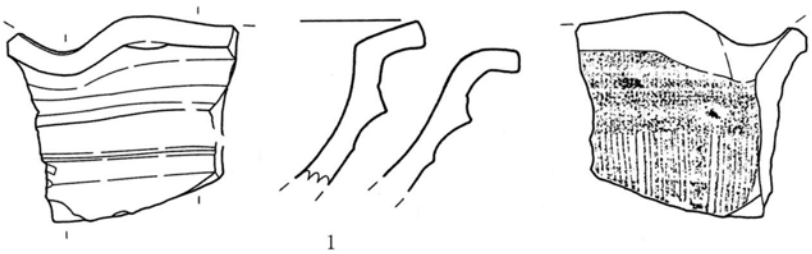
5



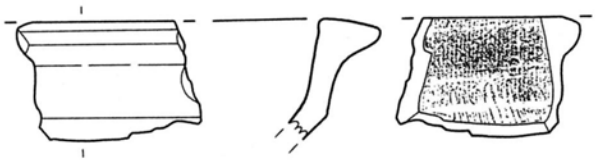
6



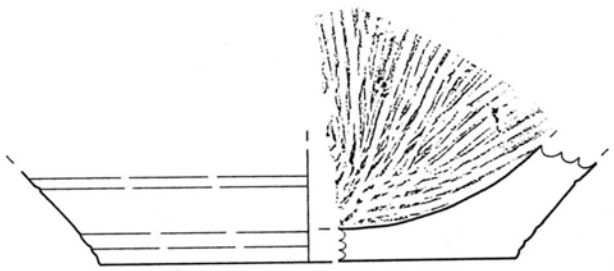

**第88図（図版49）　沖縄産無釉陶器**：瓶(1)・小壷(2)・水鉢(3)・火入れ(4～6)



1

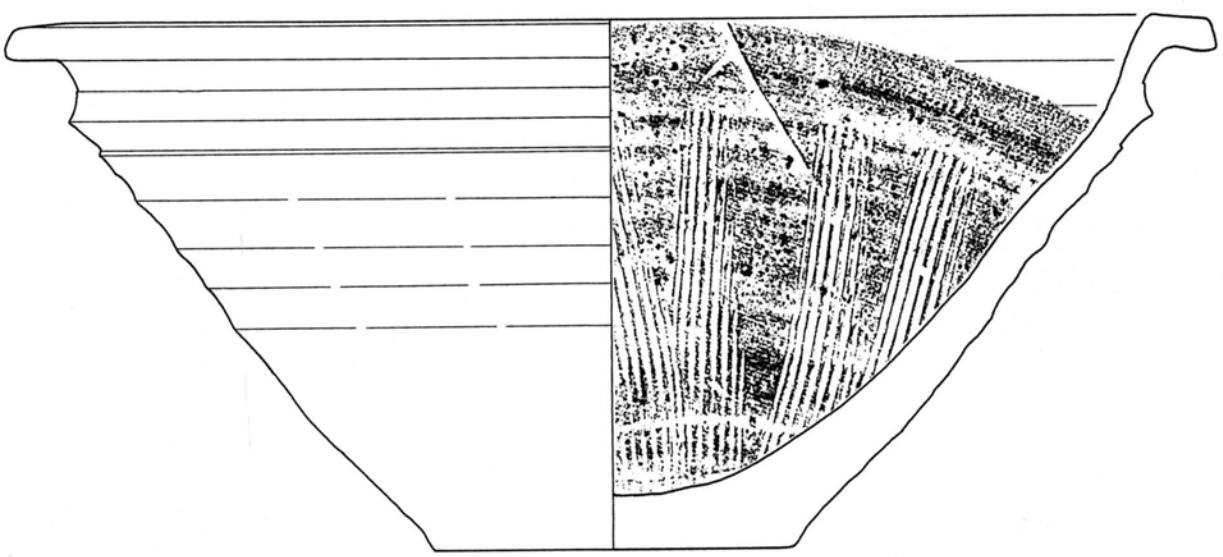


2



3

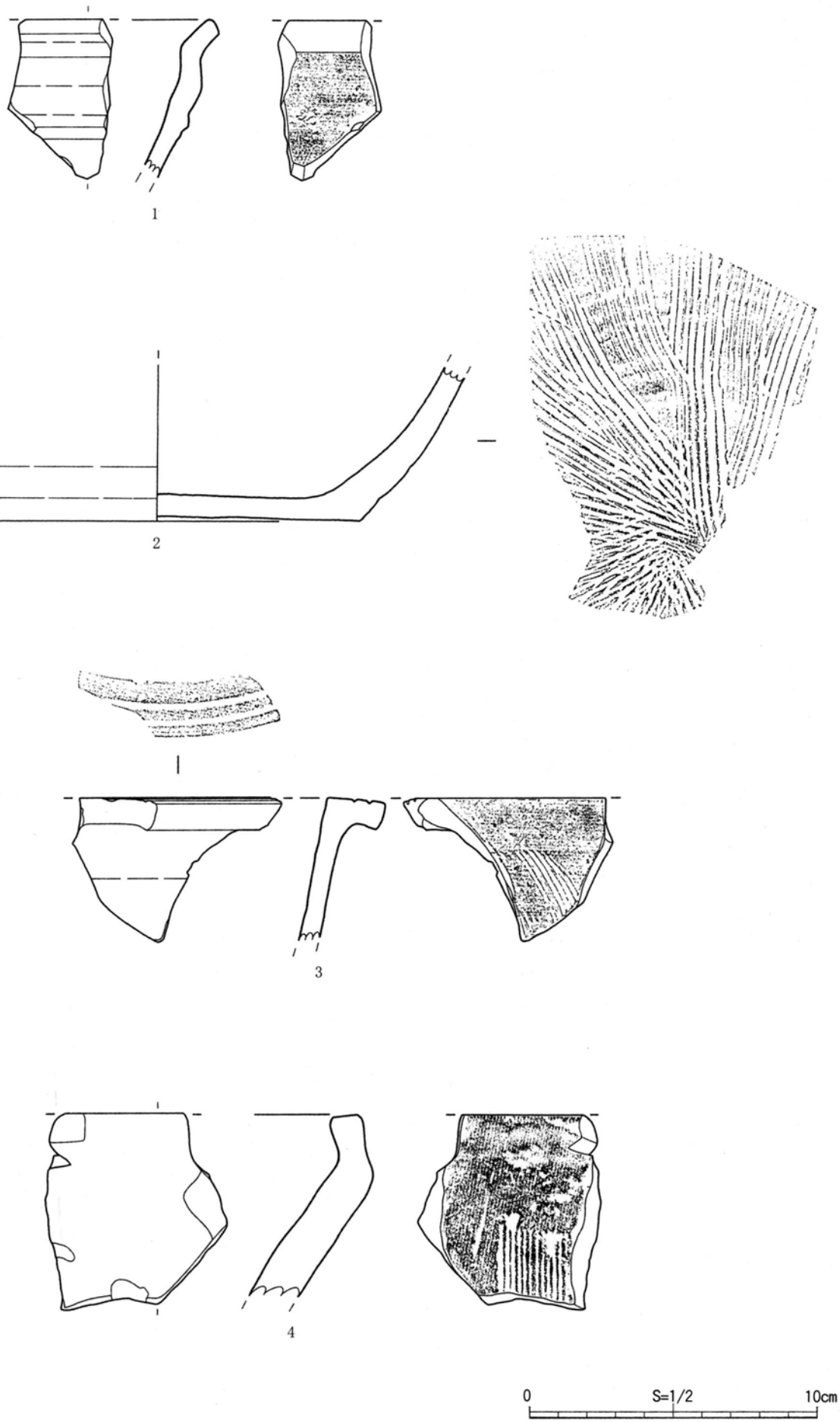




4

0 S=1/2 10cm

**第89図（図版50）　沖縄産無釉陶器：擂鉢**



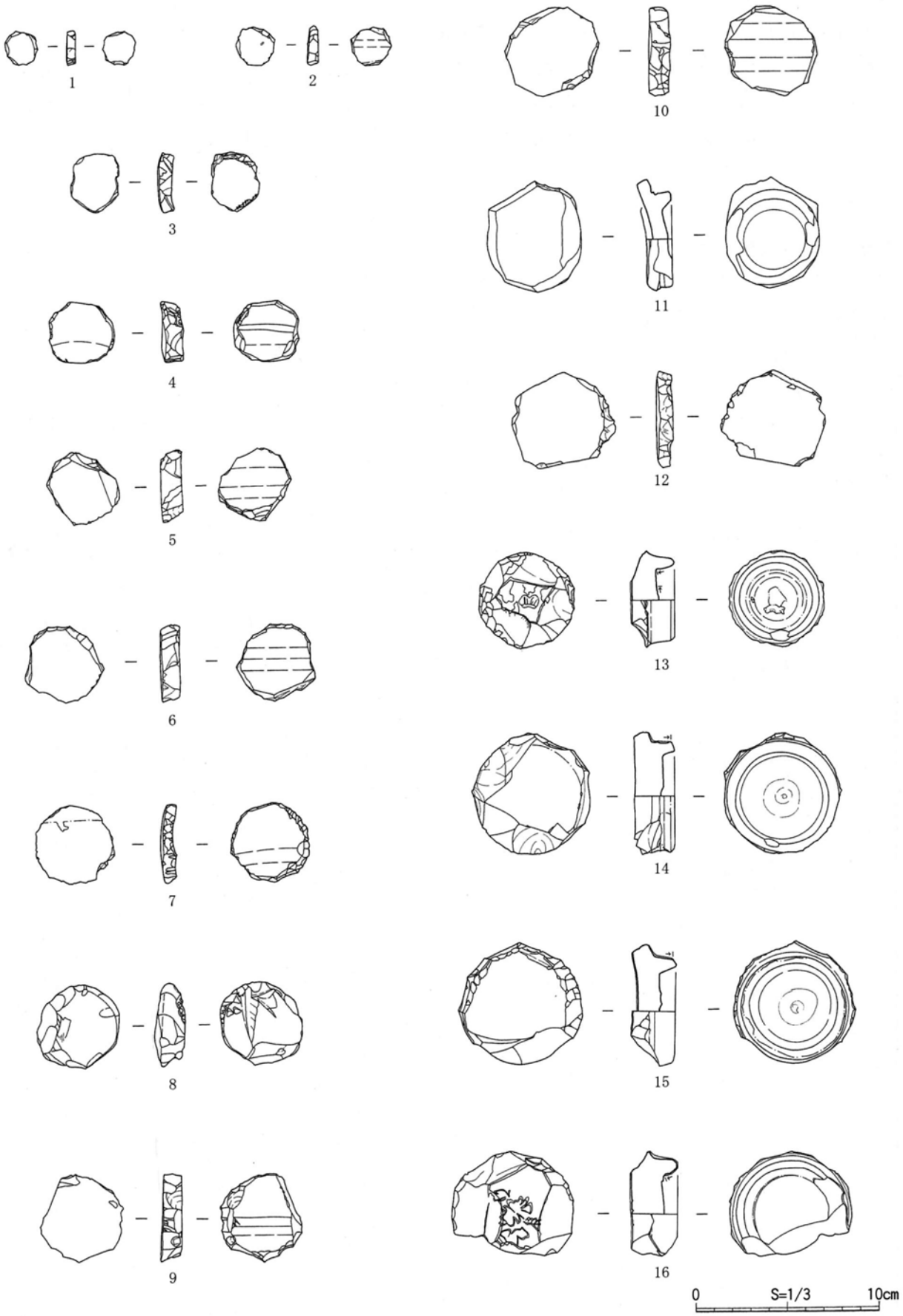

**第90図（図版51）　沖縄産無釉陶器：擂鉢**

## 円盤状製品（第91図　図版52）

Ⅰ地区９点、Ⅱ-A地区５点の合計14点が出土している。素材は青磁、褐釉陶器、瓦、沖縄産陶器が使用されている。円盤状製品への加工は打割調整をもってなされ、使用される部位はほとんどが胴部および底部となっている。大きさは２cm前後のものから７cm弱を測るものまでが見られたが、大きさの主体は４～６cm台のものが最も多かった。

### 第30表　円盤状製品計測一覧

| 挿図番号<br>図版番号 | 番号 | 素　材 | 使用部位 | 法　量(cm)(g) | | | | 出土地点 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 長径 | 短径 | 最大厚 | 重量 | | |
| 第91図<br>図版52 | 1 | 沖縄産施釉 | 胴部 | 1.90 | 1.60 | 0.40 | 2.20 | — | |
| 〃 | 2 | 沖縄産施釉 | 胴部 | 2.20 | 2.00 | 0.50 | 3.17 | ⅡA<br>2E-23<br>3層 | |
| 〃 | 3 | 中国産褐釉 | 壷-胴部 | 3.30 | 2.40 | 0.80 | 10.38 | ⅡA<br>2E-21 | |
| 〃 | 4 | 沖縄産無釉 | 胴部 | 3.70 | 3.30 | 1.00 | 19.29 | Ⅰ<br>う-21<br>2層 | |
| 〃 | 5 | 沖縄産無釉 | 胴部 | 4.00 | 3.30 | 1.20 | 22.90 | ⅡA<br>2E-20<br>3層 | |
| 〃 | 6 | 沖縄産無釉 | 胴部 | 4.30 | 3.70 | 0.90 | 25.54 | ⅡA<br>2E-17<br>3層 | |
| 〃 | 7 | 中国産褐釉 | 壷-胴部 | 4.40 | 4.00 | 0.60 | 16.28 | ⅡA<br>2E-23<br>3層 | |
| 〃 | 8 | 瓦 | 平瓦-胴部 | 4.90 | 4.10 | 1.50 | 35.00 | — | 灰色瓦 |
| 〃 | 9 | 沖縄産無釉 | 胴部 | 4.80 | 4.00 | 1.00 | 29.39 | Ⅰ<br>う・え-22<br>表採 | |
| 〃 | 10 | 沖縄産無釉 | 胴部 | 5.10 | 4.40 | 1.10 | 43.00 | ⅡA<br>表採 | |
| 〃 | 11 | 軟質陶器 | 底部 | 6.20 | 5.20 | 1.60 | 35.50 | Ⅰ<br>え-17<br>5層 | 土鍋の蓋か |
| 〃 | 12 | 沖縄産無釉 | 胴部 | 5.70 | 4.70 | 0.70 | 35.00 | Ⅰ<br>表採 | |
| 〃 | 13 | 青磁 | 碗-底部 | 5.30 | 5.00 | 2.30 | 64.00 | Ⅰ<br>2層 | |
| 〃 | 14 | 青磁 | 底部 | 6.70 | 6.30 | 2.20 | 105.80 | Ⅰ<br>2層 | |
| 〃 | 15 | 青磁 | 底部 | 6.70 | 6.30 | 2.30 | 110.00 | Ⅰ<br>お3-23<br>2層 | |
| 〃 | 16 | 青磁 | 底部 | 6.80 | 5.40 | 2.60 | 93.00 | ⅡA<br>2D-34<br>5層 | |




**第91図（図版52）　円盤状製品**

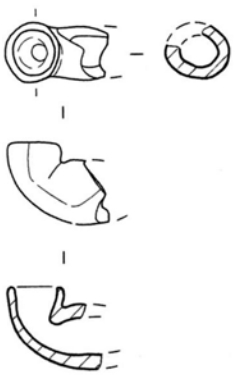
## 煙管（第92図　図版53）

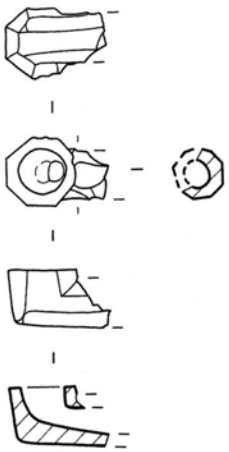
Ⅰ地区10点、Ⅱ-A地区２点、Ⅱ-B地区１点の総計13点が出土している。すべて羅宇を用いて雁首と吸口を接続するタイプのものである。内訳は雁首10点、吸口３点となり、材質別に見ると沖縄産施釉陶器が雁首４点、吸口２点、沖縄産無釉陶器の雁首４点、瓦質の雁首２点、青銅製品が吸口１点である。これらのうち残存状況が良好な資料の中から、代表的なものを図化した。詳細については第31表に記載した。

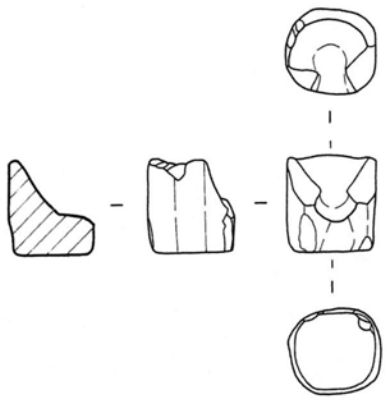
### 第31表　煙管観察一覧

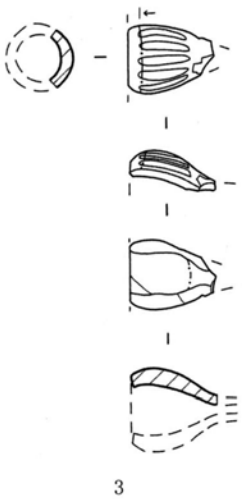
（単位：cm/g）

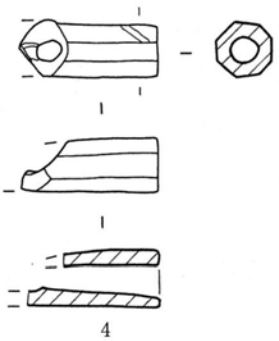
| 挿図番号<br>図版番号 | 番号 | 材質 | 部位 | 形態 | 全長 | 火皿<br>内径<br>外径 | 羅宇接続部<br>内径<br>外径 | 現重量 | 素地 | 出土地点 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第92図<br>図版53 | 1 | 沖縄産<br>施釉陶 | 雁首 | パイプ型 | — | 1.1<br>1.5 | — | 5.72 | 淡黄白色<br>細粒子 | ⅡA<br>F-24<br>2層2 | 内外両面、透明釉施釉。 細かい貫入が、全体に有り。 羅宇接続部分破損。 |
| 〃 | 2 | 沖縄産<br>無釉陶 | 雁首 | パイプ型<br>（八角） | — | 1.2<br>1.8 | — | 5.81 | 茶褐色<br>細粒子 | Ⅰ<br>お-10<br>2層 | 火皿を上にして、窯詰め焼成。 火皿部分に、上から下へ自然釉がかかる。 羅宇接続部分破損。 |
| 〃 | 3 | 沖縄産<br>施釉陶 | 吸口 | 丸型 | — | — | 1.0<br>1.4 | 2.98 | 淡黄白色<br>細粒子 | ⅡA<br>表採 | 線彫文様あり。外面、透明釉施釉　羅宇接続部分は無釉。 内面、吸口部分のみ施釉。細かい貫入有り。 半損している為、正確な数値は計測できない。 |
| 〃 | 4 | 沖縄産<br>施釉陶 | 雁首 | パイプ型<br>（八角） | — | — | 0.9<br>1.4 | 8.55 | 茶褐色<br>細粒子 | Ⅰ | 八面に面取りし、器面撫で調整。羅宇接続部から火皿に向かって孔径が狭まる。 内外面に薄く黒釉施釉。 火皿部分破損。 |
| 〃 | 5 | 沖縄産<br>無釉陶 | 雁首 | パイプ型<br>（?） | — | — | 1.1<br>1.6 | 8.95 | 灰色<br>微粒子 | Ⅰ<br>お-10<br>3a層 | 器面面取り成形し、撫で調整。 直径約3㍉の紐通し用の孔有り。 |
| 〃 | 6 | 沖縄産<br>無釉陶 | 雁首 | パイプ型<br>（八角） | — | — | 1.0<br>1.7 | 7.06 | 茶褐色<br>細粒子 | Ⅰ<br>お-11<br>3層 | ｼｬｰﾌﾟに面取りし羅宇接続部を撫で調整。 羅宇接続部に、石灰質の付着物あり。 接続部から胴部にかけて、内径が狭まる。 火皿部分破損。 |
| 〃 | 7 | 瓦質 | 雁首 | 円柱型 | 2.4 | 1.7<br>2.3 | 0.9 | 13.42 | 灰色<br>細粒子 | Ⅰ<br>お-11k<br>攪乱 | 器面、面取りし滑らかに仕上げる。 素地に黒色の粒子混入。 火皿の縁部を欠損。 |
| 〃 | 8 | 瓦質 | 雁首 | 釣鐘型 | 3.5 | 1.2<br>2.4 | 0.9 | 25.86 | 橙色<br>微粒子 | 不明 | 煙管頭部に凹をつくり、紐通し用の孔をもうける。火皿や吸口の端部も撫で調整し、器面丁寧に成形。 |
| 〃 | 9 | 青銅 | 吸口 | 丸型 | 4.4 | — | 1.1<br>0.9 | 5.82 | — | ⅡA<br>2E-22<br>3a層 | 溶接部分の線が明瞭。吸口の口元部分、切りっぱなしで調整痕無し。 |

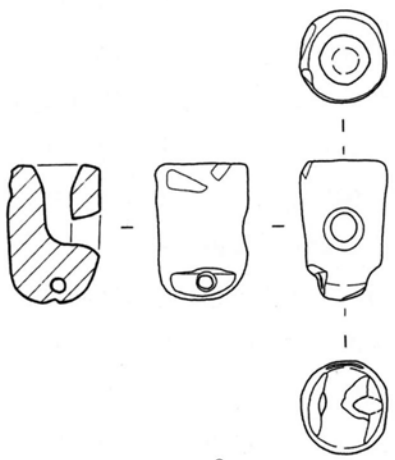


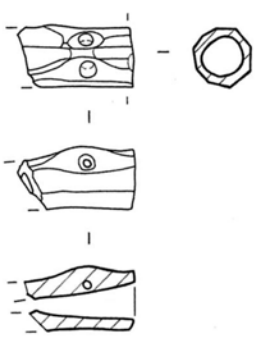



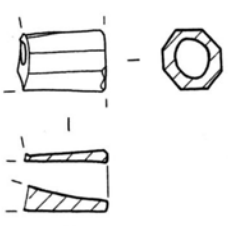



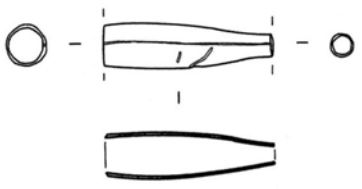



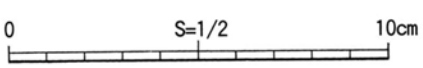



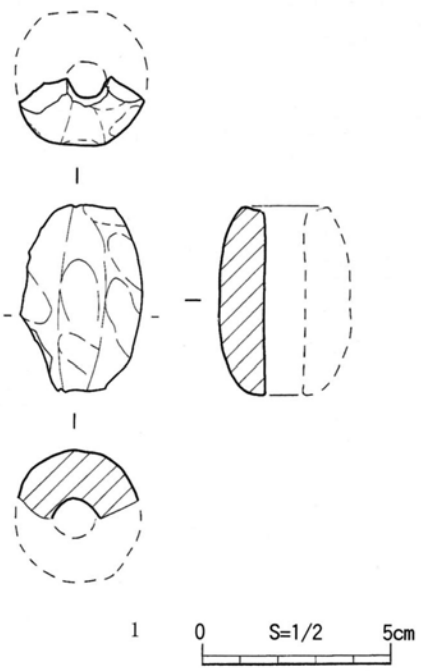

**第92図（図版53）　煙管**

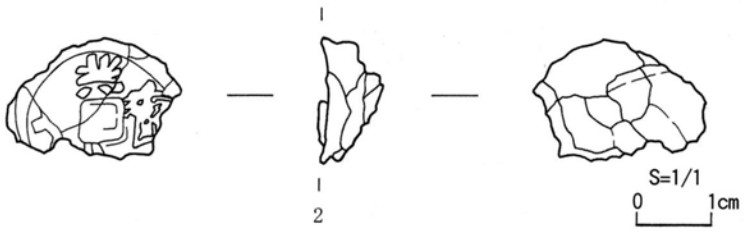
**土製品**（第93図　図版53）

**錘**（第93図１）　Ⅰ地区から１点のみ出土した。最大長4.8cm、最大幅3.1cmを測る楕円形の土錘である。本資料は長軸方向に添って半損しており、その状態で重量約30gを測る。紐を通す孔は直径約１cm程を測り、長軸中央を貫通している。胎土の粒子は細かいもので、色調は内部が黒褐色で表面が灰褐色を呈する。表面は指圧痕や指撫調整が見られる。Ⅰ地区お－13グリッド第３層から出土している。

**洪武通寶土型**（第93図２）　Ⅱ-A地区から１点のみ出土した。資料は片面に銭型がスタンプされた土製品の破片資料である。縦1.5cm、横2.0cm、厚さ約0.8cm、残存重量2.95gを測る。刻面には外周を縁取る外郭および孔郭が確認でき、「洪」・「通」字が読めることから、母型は洪武通寶と考えられる。表面の付着物等については、線文面で僅かに緑色の付着物が観察される。線文面および側面部には灰色の付着物が薄く認められる。胎土はきめの細かな茶褐色土である。これらの特徴から銭鋳型である可能性が考えられるが、残存部が銭面の上半部のみに限られていることや鋳型に特徴的な湯道や関といった付帯物について不明であるため、確証は得られていない。Ⅱ-A地区E-17グリッドの第２層から出土。

**科学分析**　蛍光X線分析法を用いて材質調査をおこなった。線文面、側面の緑色・灰色付着面において銅、次いで鉛が高いピークで観測されている。これによって土型の表面に付着している物質は銅、鉛を主成分とする金属であると考えられる。緑色付着物については「緑青」の可能性が高いことが確認された。対して付着物の見られない裏面では銅、鉛はピークとしてほとんどみえなくなり、多少検出される程度であるという結果を得た。以上の調査は福岡市埋蔵文化財センターのご厚意により装置を使用させていただいた。担当していただいた比佐陽一郎調査員には当日ご指導を受けただけでなく、結果として分析結果もまとめていただくこととなった（附編に収録）。記して感謝申し上げます。




**第93図（図版53）　土製品**：錘(1)・洪武通寶土型(2)

**瓦**（第94図　図版54）

瓦は灰色瓦と赤瓦に大別され、灰色瓦では高麗系瓦と明朝系瓦が出土している。Ⅰ地区264片、Ⅱ-A地区59片、Ⅱ-B地区76片の出土があり、破片総数では399片が出土した。赤瓦はⅠ地区の撹乱層などを中心に5片が得られている。これらはほとんどが小破片の資料であり、図化可能なものは少ない。代表的な資料を第94図に示し、個々の観察は第32表に記した。

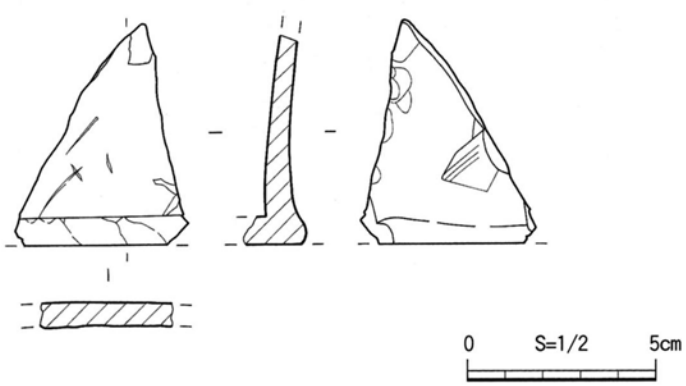
**第32表　瓦計測一覧**

| 挿図番号<br>図版番号 | 番号 | 種　類 | | 法　量(cm) | | | 出土地点 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 残存最長 | 残存幅 | 最大厚 | | |
| 第94図<br>図版54 | 1 | 高麗系瓦 | 平瓦 | 7.6 | 8.5 | 1.5 | ⅡA<br>表採 | |
| 〃 | 2 | 高麗系瓦 | 平瓦 | 7.6 | 12.7 | 2.3 | ⅡA<br>2F-17 | |
| 〃 | 3 | 高麗系瓦 | 平瓦 | 9.8 | 10.7 | 2.1 | Ⅰ<br>え-51<br>5層 | 二次加工？ |
| 〃 | 4 | 高麗系瓦 | 平瓦 | 7.8 | 7.6 | 1.4 | Ⅰ<br>お-6<br>2層 | |
| 〃 | 5 | 高麗系瓦 | 軒平瓦 | 8.9 | 7.7 | 1.8 | Ⅰ<br>え-11<br>3b層 | |
| 〃 | 6 | 明朝系瓦 | 軒丸瓦 | 11.5 | 8.7 | 2.5 | Ⅰ<br>う・え-22～24 | |

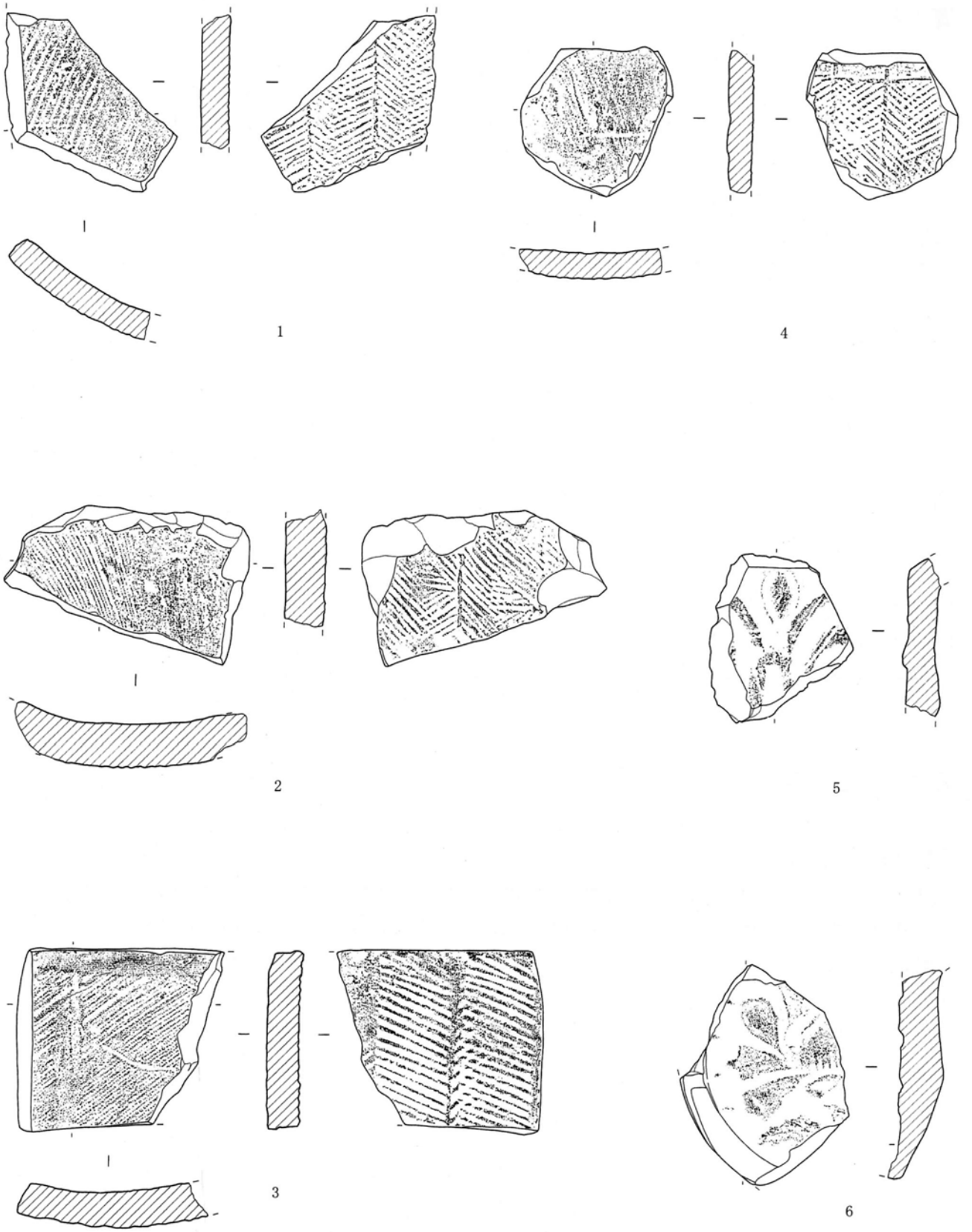
## 第3節　石製品

**硯**（第95図　図版53）

Ⅰ地区で1片、Ⅱ-B地区で1片の総数2片が出土した。そのうち、特徴的なものを第95図に図化した。資料は陸部付近の破片資料で、墨池や硯傍などは欠損している。色調は暗灰褐色を呈する。研磨は表側の全面に及んでいるが、裏面は荒加工のまま残している。Ⅰ地区お－13グリッドの第3層から出土している。




**第95図（図版53）　石製品：硯**




**第94図（図版54）　瓦**：高麗系(1～5)・明朝系(6)

## 第４節　金属製品

### 青銅製品（第96・97図　図版55）

青銅製品は簪・指輪・鋲・釘・緒締鐶・用途不明品が出土している。

第96図１・２・５は細身の簪で頭部を耳掻き状にしたものである。主部の断面は丸く、竿部の断面は六角形である。３は頭部をややスプーン状にしたもので、竿部の中途より細くなり先端を尖らせている。４は竿部のみ得られた資料で、断面は四角形を呈し、先端部は四角錐となる。

第96図７・８はいずれも直径２cm程を測る指輪で、断面は半円形を呈し、７は比較的幅広、８は細身のものである。第97図１は鋲である。頭部はかさ状を呈し、基部は中途より欠落している。欠落部分の上位に数カ所の横位の打痕が観察される。２は頭部を直角に近く折り曲げた折頭の角釘である。

４は割りピン状の製品である。５は飾り金具の一部と見られるが、約1.3cm角に切り揃えられている。

６は緒締鐶である。

### 鍍金青銅製品（第97図　図版55）

２点が出土している。何れも紐金具のものと思われるが、完全な形状を留めるものではなく各部が分離して出土したものである。第97図７は切籠頭の鐶台、８は菊座で２枚が背中合わせに接着した形で出土した。

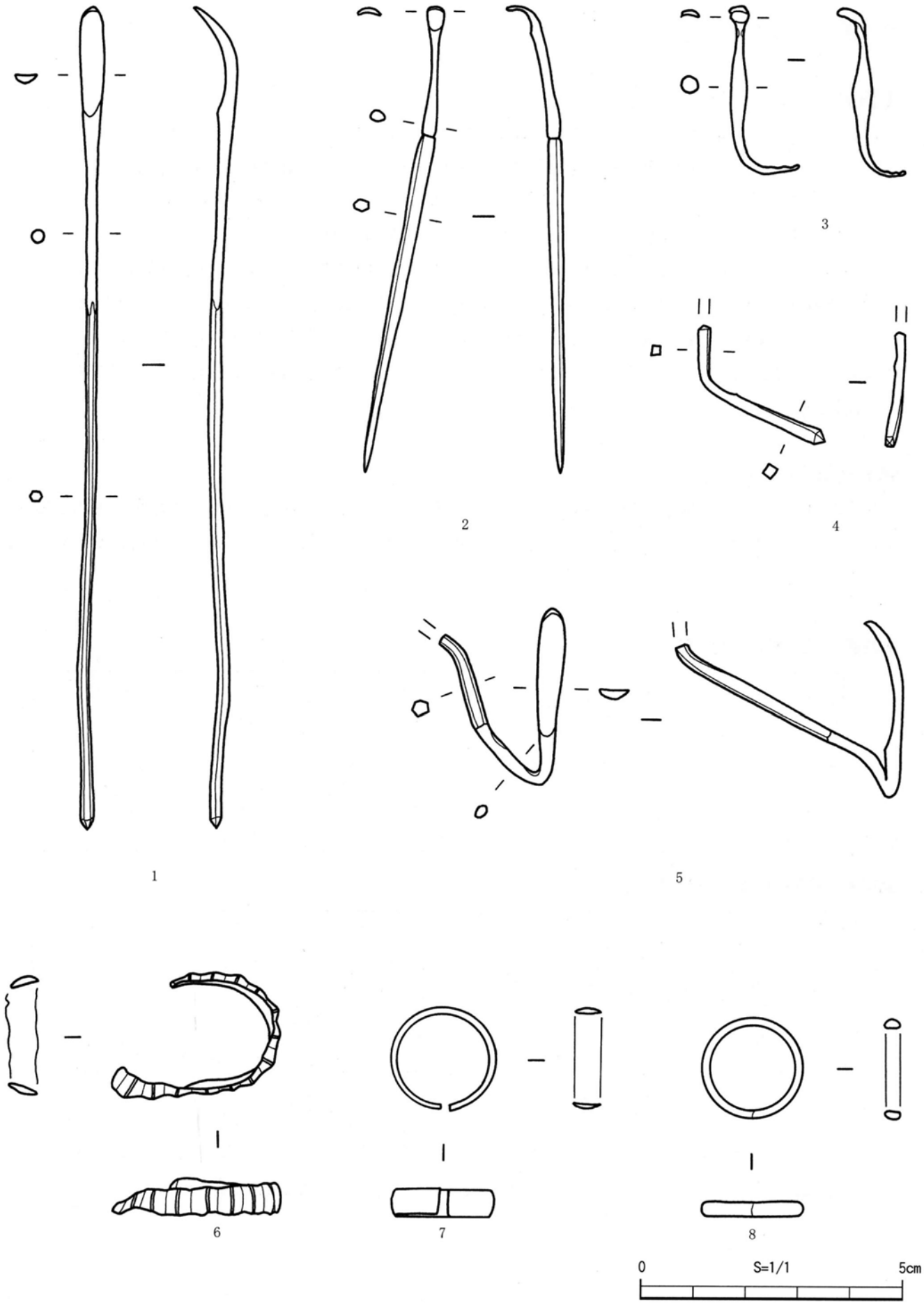
**第33表　青銅製品計測一覧(1)**

（単位：cm/g）

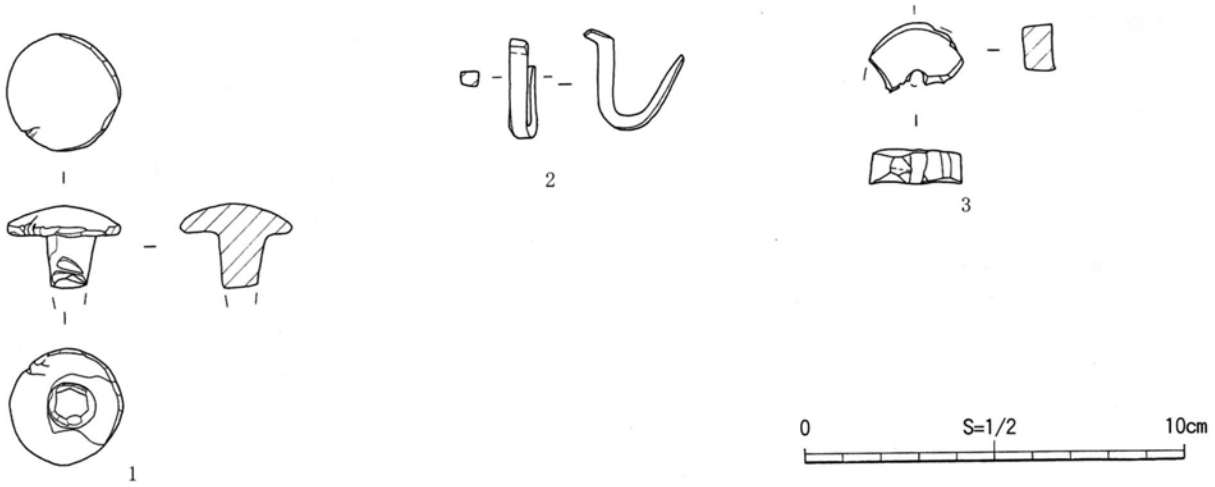
| 挿図番号<br>図版番号 | 番号 | 種類 | 残存状況 | 残存長 | 残存重量 | カブ | 首 | 竿 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 長軸・短軸・深さ | 最大幅・最小幅・長さ | 最大幅・最小幅・長さ | | |
| 第96図<br>図版55 | 1 | 簪 | 完 | 15.60 | 5.10 | 2.16/0.46/－ | 0.31/0.21/3.56 | 0.24/0.21/9.90 | Ⅰ・攪乱 | |
| 〃 | 2 | 〃 | 完 | 9.20 | 2.33 | 0.65/0.34/－ | 0.19/0.17/2.00 | 0.28/0.08/6.55 | Ⅰ・お-7・4層 | |
| 〃 | 3 | 〃 | 完 | 4.45 | 1.28 | 0.41/0.40/－ | － | － | Ⅰ・え-14・15 | |
| 〃 | 4 | 〃 | 破 | 3.60 | 1.22 | － | － | 0.28/0.19/3.60 | ⅡA・2E-21・2層 | |
| 〃 | 5 | 〃 | 破 | 9.43 | 3.66 | 2.43/0.54/－ | －/－/3.10 | － | Ⅰ・お-11<br>3c層地山直上 | |

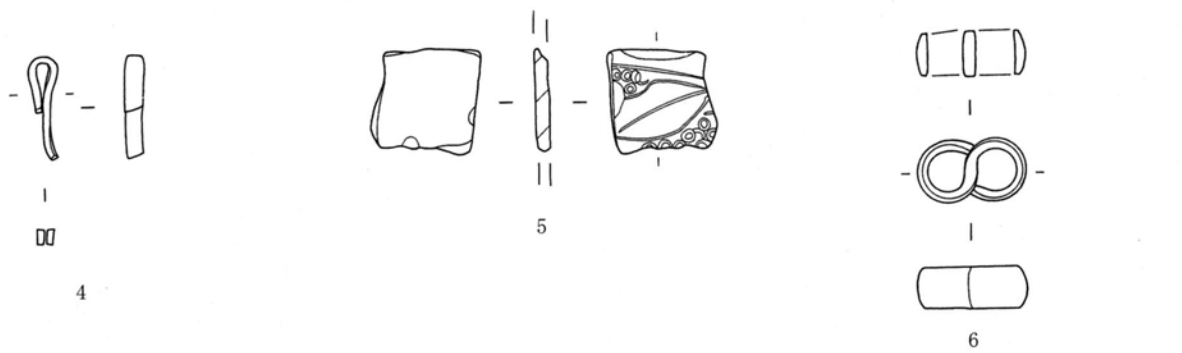
**第34表　青銅製品計測一覧(2)**

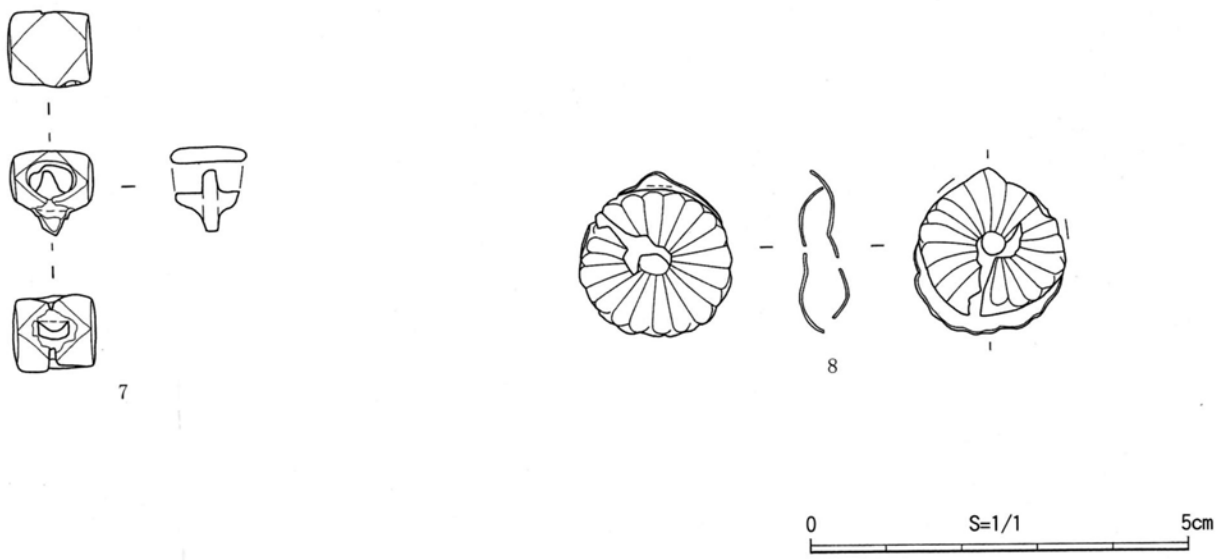
| 挿図番号<br>図版番号 | 番号 | 種類 | 法量(mm)(g) | | | | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | 重量 | | |
| 第96図<br>図版55 | 6 | 指輪 | 直径=20.0 | 前後 | 厚　1.69 | 2.72 | Ⅰ・お-18・2層 | 途中切れている |
| 〃 | 7 | 指輪 | 直径=20.0 | | 8.9 | 2.23 | ⅡA・2D-21・3層 | |
| 〃 | 8 | 指輪 | 直径=20.0 | | 1.27 | 1.42 | ⅡA・表採 | |
| 第97図<br>図版55 | 1 | 鋲 | 21.29 | 30.08 | 12.19<br>かさ　7.34 | 43.00 | Ⅰ・pit424 | |
| 〃 | 2 | 角釘 | 67.00 | 5.33 | 4.00 | 4.87 | Ⅰ・え・お-10・3b層 | 中央付近でU字状に曲がっている |
| 〃 | 3 | 用途不明 | 12.01 | 23.87 | 8.31 | 16.04 | － | わっか状になっている物の1/3程度の残 |
| 〃 | 4 | 用途不明 | 13.32 | 3.59 | 0.76 | 0.18 | ⅡA・2E-24・2層 | |
| 〃 | 5 | 用途不明 | 12.70 | 12.95 | 1.89 | 2.66 | Ⅰ・お-11・3b層 | リサイクル原料？ |
| 〃 | 6 | 緒締鐶 | 7.98 | 13.98 | 1.73 | 1.92 | Ⅰ・え-11・3層 | 締め金具 |
| 〃 | 7 | 切籠頭の鐶台 | 11.17 | 10.98 | 上面　2.71<br>側面　3.31 | 3.66 | Ⅰ・え-15・pit39 | 賽の四角の隅を三角に切り落とした形状 |
| 〃 | 8 | 菊座 | 19.26 | 19.65 | 0.61 | 1.84 | Ⅰ・え-8(南側)・4層 | 2枚重ねになっている |




**第96図（図版55）　青銅製品**：簪(1～5)・指輪(6～8)




**第97図（図版55）**　**青銅製品**：鋲(1)・釘(2)・用途不明(3～5)・緒締鐶(6)
**鍍金青銅製品**：切籠頭の鐶台(7)・菊座(8)

## 銭貨（第98・99図　図版56・57）

破片資料も含め、総計26枚が出土している。その内訳は有文銭16枚、無文銭９枚、近現代銭が１枚である。有文銭のなかで判読可能なものは洪武通寶、永楽通寶、宣徳通寶、寛永通寶、一銭の５種類であった。その他は破損のため主要な文字が判読できなかったものや無文銭などである。

### 第35表　銭貨計測一覧

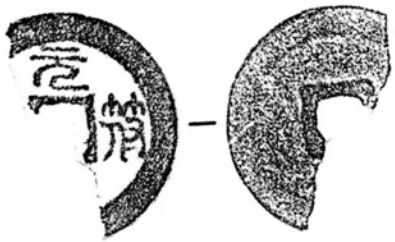
| 挿図番号<br>図版番号 | 番号 | 銭貨名 | 時代 | 初鋳年 | 書体 | 法量 | | | | 背文 | 残存率 | 出土地点 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 外径(mm) | 穿径(mm) | 厚さ(mm) | 重量(g) | | | | |
| 第98図<br>図版56 | 1 | □聖□□ | － | － | － | － | 5.55 | 1.09～1.16 | 0.92 | － | 1/4 | I<br>表土 | |
| 〃 | 2 | □寧元□<br>□□元寶 | － | － | 楷書 | － | － | 1.43～1.63 | 1.10 | － | 1/4 | I<br>表土攪乱 | 2枚重ね |
| 〃 | 3 | 元符□□ | 北宋 | 1098年 | 篆書 | － | － | 1.40～1.43 | 3.67 | － | 1/2 | I<br>え-11D | 元符通寶<br>折二銭 |
| 〃 | 4 | 大□□寶 | － | － | 楷書 | － | － | 1.26～1.06 | 0.98 | － | 1/3 | IIB<br>一括 | |
| 〃 | 5 | 洪武通寶 | － | － | 楷書 | 22.81～22.68 | 6.35～6.35 | 1.33～1.37 | 2.22 | 治 | 完形 | IIA<br>E-17 | 背上に「治」<br>加治木銭 |
| 〃 | 6 | 洪□□寶 | － | － | 楷書 | － | － | 1.60～0.95 | 0.64 | － | 1/4 | IIB<br>E-14<br>3層 | |
| 〃 | 7 | 永楽通寶 | 明 | 1408年 | 楷書 | 24.35～24.54 | 5.69～5.71 | 1.01～1.48 | 2.92 | － | 完形 | I<br>お-13<br>4層 | |
| 〃 | 8 | 永□□寶 | 明 | 1408年 | 楷書 | － | － | 1.25～0.97 | 0.83 | － | 1/4 | IIB<br>E-14<br>3層 | 永楽通寶 |
| 〃 | 9 | 宣徳通寶 | 明 | 1433年 | 楷書 | 25.05～25.07 | 4.75～4.81 | 1.00～1.18 | 3.32 | － | 完形 | I<br>え-5･6 | |
| 〃 | 10 | 寛永通寶 | 江戸 | 1668年 | 楷書 | 24.44～24.57 | 5.70～5.74 | 1.25～1.37 | 3.50 | － | 完形 | I<br>PITNo.314 | |
| 第99図<br>図版57 | 1 | 寛永通寶 | 江戸 | 1668年 | 楷書 | 24.72～24.82 | 6.09～6.16 | 1.14～1.21 | 3.12 | － | 完形 | I<br>え-10<br>3層b | |
| 〃 | 2 | 寛永□寶 | 江戸 | 1668年 | 楷書 | － | 5.23～5.40 | 1.00～1.13 | 1.32 | － | 3/4 | IIA<br>E-25 | |
| 〃 | 3 | □永通□ | － | － | 楷書 | － | 5.14 | 1.04～1.13 | 1.34 | － | 1/2 | IIA<br>F-22<br>2層 | |
| 〃 | 4 | 無文銭 | － | － | － | － | 5.93 | 0.63～0.74 | 1.12 | － | 完形 | I<br>PITNo.314 | |
| 〃 | 5 | 無文銭 | － | － | － | 20.37～20.76 | 6.47～6.81 | 0.77～0.86 | 1.11 | － | ほぼ<br>完形 | I<br>え-5<br>3層 | |
| 〃 | 6 | 無文銭 | － | － | － | 18.79～19.10 | 7.31～7.68 | 0.69～0.70 | 0.80 | － | ほぼ<br>完形 | I<br>え-6<br>4層 | |
| 〃 | 7 | 無文銭 | － | － | － | － | － | 1.17～1.27 | 0.9 | － | 1/2 | I<br>え-7<br>4層 | |
| 〃 | 8 | 無文銭 | － | － | － | － | － | 0.57～0.72 | 0.58 | － | 1/2 | I<br>PITNo.314 | |
| 〃 | 9 | 無文銭 | － | － | － | － | － | 1.24～1.29 | 0.52 | － | 1/2 | I<br>表土攪乱 | |
| 〃 | 10 | 一銭 | 昭和 | 昭和15年鋳造 | 楷書 | 17.50 | － | 1.64～1.65 | 0.89 | － | 完形 | I<br>え-7<br>4層 | |



1



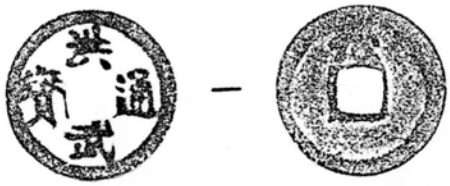
2



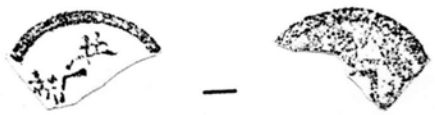
3



4



5



6



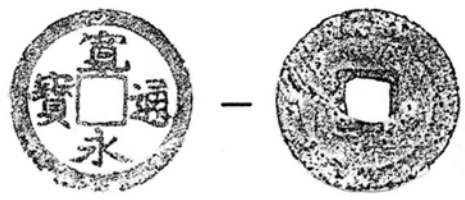
7



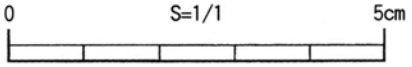
8



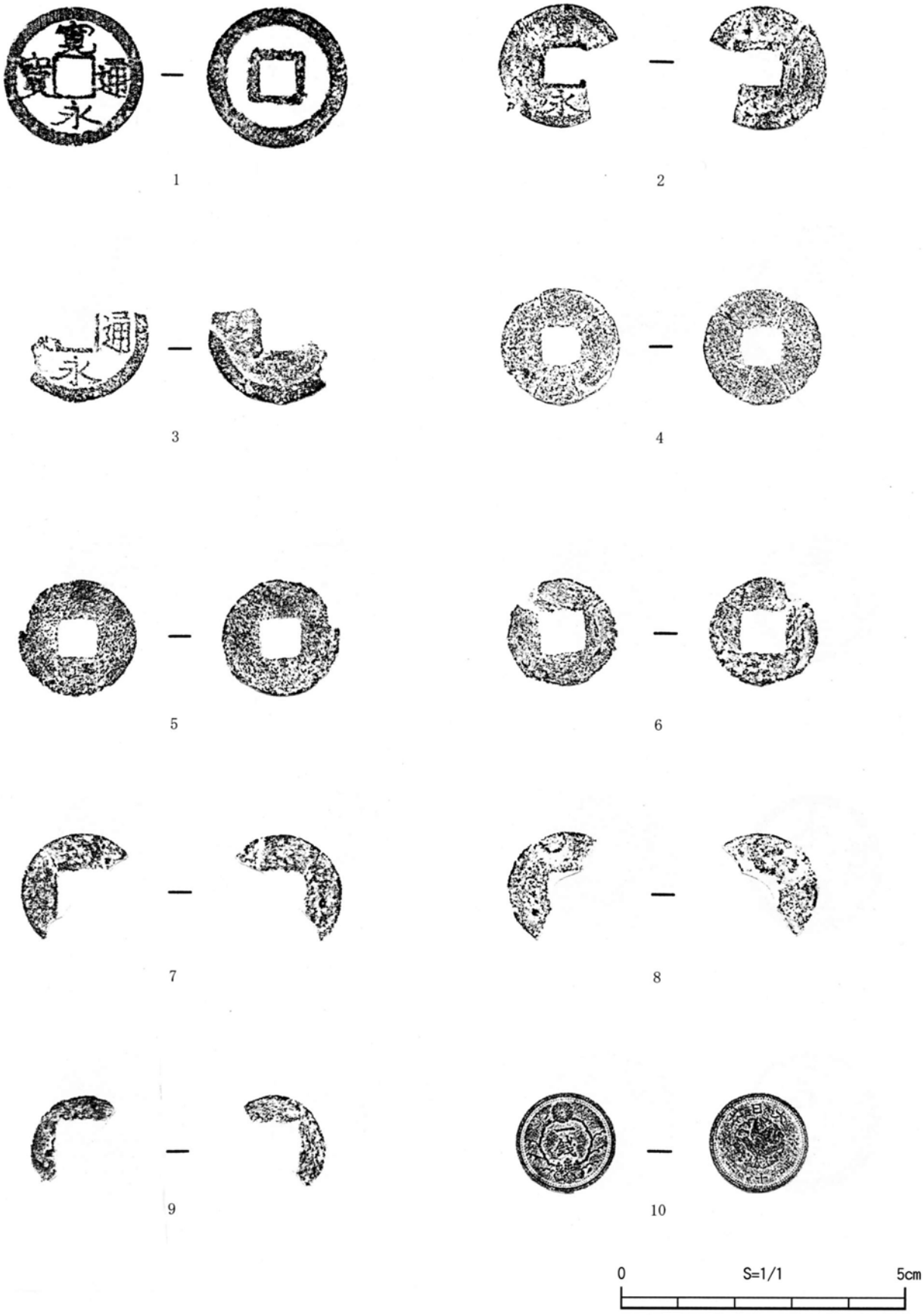
9



10




**第98図（図版56）　銭貨(1)**




**第99図（図版57）　銭貨(2)**

## 第５節　自然遺物

### 獣骨（第36～43表　図版58）

獣骨は、Ⅰ地区1,751片、Ⅱ-A地区44片、Ⅱ-B地区７片の総計1,800片余が出土しており、詳細は第36～43表に示した。解体などに伴うと思われる刃物痕が観察されるものは92片確認されており、そのうち代表的なものを図版58に示した。

なお、同じく自然遺物の範疇に含まれる貝類遺存体は、Ⅰ地区75片、Ⅱ-A地区58片、Ⅱ-B地区４片の総計137片が出土したが、時間の都合上、触れられなかった。今後あらためて報告したい。

**第36表　Ⅰ地区　ウシ出土一覧**

| 部位＼出土地 | | 表採 | | | Ⅱ層 | | | Ⅲ層 | | | Ⅳ層 | | | Ⅴ層 | | | 攪乱 | | | その他 | | | 不明 | | | 合計 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 右 | 左 | 不明 | 右 | 左 | 不明 | 右 | 左 | 不明 | 右 | 左 | 不明 | 右 | 左 | 不明 | 右 | 左 | 不明 | 右 | 左 | 不明 | 右 | 左 | 不明 | 右 | 左 | 不明 | 計 |
| 頭蓋骨 | 前頭骨頬骨突起 | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| | 側頭骨頬骨突起 | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| | 後頭顆 | | | | | | | 2 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | 1 | 5 |
| 上顎骨 | | | | | | | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | 2 |
| 頬骨 | 頬骨側頭突起 | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| | 破片 | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | 2 |
| 下顎骨 | 下顎骨 | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| | 下顎枝 | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| | 筋突起 | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | 1 | | | | | | | | | 1 | 1 | |
| | 関節突起 | | | | | | | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | |
| | 関節 | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 7 |
| 脊柱 | 頚椎 | | | | | | | | | | | | 11 | | | | | | 4 | | | | | | | | | 15 | |
| | 第６頚椎後関節突起 | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| | 関節突起 | | | | | | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | |
| | 胸椎 | | | | | | | | | 12 | | | 6 | | | | | | | | | | | | | | | 18 | |
| | 棘突起 | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| | 腰椎 | | | | | | | | | 3(1) | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 4(1) | |
| | 横突起 | | | | | | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | 43(1) |
| 肋骨 | | | | | | | | | | 11 | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | 14 | 14 |
| 肩甲骨 | 関節窩 | | | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | |
| | 破片 | | | 1 | | | | | 13 | 2 | | 1 | 7 | | | | | | 1 | | | | | | 2 | | 14 | 13 | 29 |
| 上腕骨 | 近位 | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| | 近位端 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | 1 | |
| | 骨幹 | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | (1) | | | | | | | | | 2(1) | |
| | 破片 | 1 | | | | | 2 | (1) | | 4(1) | | | 1 | | | | | | 2 | | | | | | 1 | 2(1) | | 10(1) | 16(3) |
| 橈骨 | 滑車 | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | |
| | 頭窩 | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | |
| | 破片 | | | | | | 1 | 1 | 2 | 15(3) | (1) | | 13(4) | | | | (1) | | 3(1) | | | 1 | | | | 3(2) | 2 | 33(8) | 40(10) |
| 尺骨 | 尺骨頭 | | | | | | | | | 1 | | | (1) | | | | | | | | | | | | | | | 2(1) | |
| | 尺骨体 | | | | | | 2 | | 1 | 1 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | 1 | 4 | |
| | 破片 | | | | | | | | | 2(1) | (1) | | 1 | | | | | | 1 | | | | | | | (1) | | 4(1) | 12(3) |
| 手根骨 | 橈側手根骨 | | | | | | | 1 | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | 1 | 2 | | |
| | 中間手根骨 | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | |
| | 第２第３手根骨 | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | 2 | | |
| | 手根骨の一部 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | 1 | 7 |
| 中手骨 | 近位端 | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | |
| | 中手管 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | 1 | |
| | 頭 | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| | 破片 | | | | | | 6(1) | 1 | | 14(1) | (1) | | 5(1) | | | 1 | | | 2 | | | 8 | | | 1 | 2(1) | | 37(3) | 42(4) |
| 寛骨 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 腸骨 | | | | | (1) | | | | | | | | | | | 4 | | | | | | | | | | (1) | | 4 | 5(1) |
| 大腿骨 | 近位端 | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| | 大腿骨頭 | | | | | | | | | 2(1) | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | 4(1) | |
| | 骨幹 | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | 2 | |
| | 破片 | | | (1) | | | 1 | | | 4 | | | 4(2) | | | | | | 3(1) | | | | | | 3(2) | | | 16(6) | 23(7) |
| 脛骨 | 近位 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | 2 | |
| | 近位端 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | 1 | | | |
| | 骨幹 | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | (1) | | | | | | | | | 2(1) | |
| | 前縁 | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | |
| | 破片 | 3(1) | | | | | 1 | | | 13 | | | 12(2) | | | | | | 2 | | | 1 | | | | 3(1) | | 29(2) | 38(4) |
| 膝蓋骨 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | 1 | 1 |
| 種子骨 | | | | | | | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | 2 |
| 足根骨 | 距骨 | | | | | | | | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | |
| | 踵骨 | | | | | | | | 1 | | | 1 | | | | | | | 2(1) | | | | | | | | 2 | 2(1) | |
| | 足根骨 | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| | 第２第３足根骨 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 8(1) |
| 中足骨 | 骨端 | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | |
| | 骨幹 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2(1) | | | | | | | | | 2(1) | |
| | 破片 | | | | | | 5(1) | | | 7(1) | | | 8(1) | | | 1 | | | 2 | | | | | | | | | 23(3) | 26(4) |
| 指骨 | 基節骨 | | | | | | | | | (1) | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | 2(1) | |
| | 中節骨 | | | | | | | | | | | | 1 | | | 1 | | | | | | | | | | | | 2 | |
| | 左第４指 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | |
| | 指骨 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 | 6(1) |
| 手足根骨 | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | 2 | | | | | | | | | 3 | |
| 中手足骨 | | | | | | | | | | 2 | | | 4 | | | | | | | | | | | | | | | 6 | |
| 部位不明骨 | | | | | | | 1 | | | 2(1) | | | | | | | | | | | | | | | | | | 3(1) | 12(1) |
| 小計 | | 4 | | 3 | 1 | | 24 | 11 | 23 | 115 | 3 | 6 | 86 | | 1 | 7 | 1 | 1 | 33 | 1 | | 11 | | 9 | | 21 | 31 | 288 | 340 |
| 内刃物痕有小計 | | 1 | | 1 | 1 | | 2 | 1 | | 11 | 3 | | 11 | | | | 1 | | 6 | | | | | 2 | | 7 | | 33 | 40 |
| 合計 | | 7 | | | 25 | | | 149 | | | 95 | | | 8 | | | 35 | | | 12 | | | 9 | | | 340 | | | |

凡例　（　）＝うち刃物痕のあるもの

## 第37表　Ⅰ地区　イノシシ出土一覧

| 部位＼出土地 | | 表採 | | | Ⅱ層 | | | Ⅲ層 | | | Ⅳ層 | | | Ⅴ層 | | | 攪乱 | | | その他 | | | 不明 | | | 合計 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 右 | 左 | 不明 | 右 | 左 | 不明 | 右 | 左 | 不明 | 右 | 左 | 不明 | 右 | 左 | 不明 | 右 | 左 | 不明 | 右 | 左 | 不明 | 右 | 左 | 不明 | 右 | 左 | 不明 | 計 |
| 頭蓋骨 | 頭頂骨 | | | | | | | | | | 1 | | | | | 1 | | | | | | | | | | 1 | | 1 | |
| | 前頭骨 | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| | 頭骨 | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | |
| | 後頭顆 | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 5 |
| 上顎骨 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| 下顎骨 | 下顎体 | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| | 下顎枝 | | | | | | | 1 | | 2 | | | 11 | | | | | | 2 | | | | | | | 1 | | 15 | |
| | 下顎骨 | | | | | | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 | 20 |
| 脊柱 | 頚椎 | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | 2 | |
| | 第二頚椎 | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| | 胸椎 | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| | 胸椎椎体 | | | | | | | | | | | | 1 | | | 1 | | | 1 | | | | | | | | | 3 | |
| | 胸椎棘突起 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | 1 | |
| | 腰椎 | | | | | | | | | 5 | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | 6 | |
| | 尾椎 | | | | | | | | | 1 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 2 | |
| | 椎骨の一部 | | | | | | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | 18 |
| 肋骨 | | | | | | | | | | 2 | | | 5 | | | 5 | | | 1 | | | | | | 9 | | | 22 | 22 |
| 肩甲骨 | 頚部 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | 1 | |
| | 関節 | | | | | | | 1 | | 1 | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | 1 | 1 | 1 | |
| | 関節窩 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | |
| | 破片 | | | | | | | | 4(1) | | 2 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | 2 | 4(1) | 2 | 13(1) |
| 上腕骨 | 滑車 | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | |
| | 遠位 | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | 1 | | |
| | 遠位端 | | | | | | | | | | | | | | | 2(1) | | | | | | | | | | | | | 2(1) | |
| | 破片 | | 1 | | | | (1) | | 3(1) | 6(1) | | | 28(2) | | | | | | | | | | | | | | | 4(1) | 35(4) | 43(6) |
| 橈骨 | | | | | | | | | | (1) | 2(1) | | (2) | | | | | | | | | | | | | 2(1) | | (3) | 5(4) |
| 尺骨 | 滑車切痕 | | | | | | | (1) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | (1) | | | |
| | 尺骨体 | | | | | | | | | | | (1) | | | | | | | | | | | | | | | | (1) | | |
| | 尺骨頭 | | | | | | | | | 1 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | |
| | 破片 | | | | 1 | (1) | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 2(1) | | 7(3) |
| 中手骨 | | | | | | | | | | 2(1) | | | 1 | | | 2 | | | 2 | | | | | | | | | 7(1) | 7(1) |
| 寛骨 | 腸骨 | | | | | | | | 1 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | 1 | | |
| | 坐骨 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 4 |
| 寛骨臼 | | | | | | | | 1 | | 3 | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | 1 | | 4 | 5 |
| 大腿骨 | 大腿骨骨幹 | | | | | | | | | 1 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | |
| | 大腿骨滑車 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | |
| | 破片 | | | | | | | | 2 | 1 | | | 1 | | | | | | | | | | 1 | | 1 | 1 | 2 | 3 | 9 |
| 脛骨 | 近位端 | | | | | | | | | | | | 1 | | | | 1 | | | | | | | 1 | | 1 | 1 | 1 | |
| | 骨幹 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | |
| | 骨端 | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | |
| | 遠位端 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | 1 | | |
| | 破片 | | | | | | | 2(1) | | 3 | 3(1) | | 2 | 2(1) | | (1) | | | | | | | | | 1 | 2(1) | | 5 | 7(3) | 20(4) |
| 腓骨 | 下端 | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | |
| | 破片 | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 2 |
| 足根骨 踵骨 | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | 1 | 1 |
| 中足骨 | | | | | | | | | | 5 | | | 3 | | | | | | 1 | | | | | | | | | 9 | 9 |
| 指(趾)骨 | 基節骨 | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| | 中節骨 | | | | | | | | | 1 | | | 1 | | | | | | | | | | | | 1 | | | | 3 | |
| | 末節骨 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | 1 | 5 |
| 手根骨 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | 1 | 1 |
| 中(手足)骨 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| 部位不明骨 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | 1 | 1 |
| 小計 | | | 1 | 1 | 1 | 2 | 3 | 9 | 15 | 46 | 7 | 7 | 60 | | 1 | 15 | 1 | 2 | 12 | | | 1 | 1 | 1 | 13 | 19 | 29 | 151 | 199 |
| 内刃物痕有小計 | | | | | | 1 | 1 | 2 | 2 | 4 | 1 | 1 | 5 | | | 2 | | | | | | | | | | 3 | 4 | 12 | 19 |
| 合計 | | 2 | | | 6 | | | 70 | | | 74 | | | 16 | | | 15 | | | 1 | | | 15 | | | 199 | | | |

凡例　(　)＝うち刃物痕のあるもの

## 第38表　Ⅰ地区　ウマ出土一覧

| 部位＼出土地 | | 表採 | | | Ⅱ層 | | | Ⅲ層 | | | Ⅳ層 | | | Ⅴ層 | | | 攪乱 | | | その他 | | | 合　計 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 右 | 左 | 不明 | 右 | 左 | 不明 | 右 | 左 | 不明 | 右 | 左 | 不明 | 右 | 左 | 不明 | 右 | 左 | 不明 | 右 | 左 | 不明 | 右 | 左 | 不明 | 計 |
| 鼻骨 | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| 上顎骨 | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| 下顎骨 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | 1 | | | 2 | 2 |
| 肋骨 | | | | | | | | | | (1) | | | 6 | | | | | | | | | | | | 7(1) | 7(1) |
| 肩甲骨 | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| 上腕骨 | 遠位端 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | 1 | | | |
| | 破片 | | | | | | | | | | | | (1) | | | | | | | | | | | | (1) | 2(1) |
| 橈骨 | 近位 | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | |
| | 破片 | | | | | | | | (1) | 4(1) | | | | | | | | | | | | 1 | | (1) | 5(1) | 7(2) |
| 尺骨 | 尺骨体 | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| | 破片 | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 2 |
| 手根骨 | 橈側手根骨 | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | |
| | 尺側手根骨 | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | |
| | 第4手根骨 | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | 3 |
| 中手骨 | 内側 | | | | 1 | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | 1 | | 1 | |
| | 外側 | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | |
| | 骨幹部 | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| | 破片 | | | | | | 2(1) | | | 1 | (1) | | 1 | | | | 1 | | | | | | 2(1) | | 4(1) | 10(2) |
| 寛骨 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 寛骨臼 | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| 大腿骨 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 大腿骨頭 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| 脛骨 | | | | | | | | | | (2) | | | 3(2) | | | | | | | | | | | | 5(4) | 5(4) |
| 腓骨 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| 膝蓋骨 | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| 足根骨 | 距骨 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | 1 | | | |
| | 踵骨 | | | | | | | | (1) | | | | | | | | | | | | | | | (1) | | 2(1) |
| 中足骨 | 関節面 | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| | 破片 | | | | | | (1) | | | 1 | | | (1) | | | | | | | | | | | | 3(2) | 4(2) |
| 指(趾)骨 | 基節骨 | | | | | | | | | 1 | | | 2 | | | | | | 1 | | | | | | 4 | |
| | 中節骨 | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| | 末節骨 | | | | | | | | | 2 | | | 1 | | | | | | | | | | | | 3 | 7 |
| 中手足骨 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| 部位不明骨 | | | | | | | 1 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 2 | 2 |
| 小計 | | | | | 1 | | 7 | 5 | 2 | 21 | 2 | 1 | 18 | | | | 1 | | 1 | 1 | | 2 | 10 | 3 | 49 | 62 |
| 内刃物痕有小計 | | | | | | | 2 | | 2 | 4 | 1 | | 4 | | | | | | | | | | 1 | 2 | 10 | 13 |
| 合計 | | 0 | | | 8 | | | 28 | | | 21 | | | 0 | | | 2 | | | 3 | | | 62 | | | |

凡例　(　)＝うち刃物痕のあるもの

## 第39表　Ⅰ地区　その他獣骨出土一覧

| 種別 | 部位＼出土地 | 表採 | Ⅱ層 | Ⅲ層 | Ⅳ層 | Ⅴ層 | 攪乱 | その他 | 不明 | 小　計 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| イヌ | 肋骨 | | | | 1 | | | | | 1 | |
| | 肩甲骨　右 | 1 | | | | | | | | 1 | 2 |
| ブタ | 上腕骨　左 | | | 1 | 1 | | | | | 2 | |
| | 犬歯（オス） | | 2 | | | | | | | 2 | 4 |
| ヤギ | 下顎臼歯 | | | 2 | | | | | | 2 | |
| | 臼歯 | | 1 | | | | | | | 1 | 3 |
| ニワトリ | 上腕骨　左 | | | 1 | | | | | | 1 | |
| | 尺骨 | | | | 2 | | | | | 2 | |
| | 坐骨 | | | | 1 | | | | | 1 | |
| | 脛骨　右 | | | | | | 1 | | | 1 | 5 |
| トリ | 脛骨 | | | 1 | | | | | | 1 | |
| | 不明 | | 1 | 3 | 3 | | | | | 7 | 8 |
| 不明 | | 5 | 58 | 552(12) | 185(2) | 38 | 89(4) | 6 | 39 | 972(18) | 972(18) |
| 合計 | | 6 | 62 | 560(12) | 193(2) | 38 | 90(4) | 6 | 39 | 994(18) | 994(18) |

凡例　(　)＝うち刃物痕のあるもの

## 第40表　Ⅰ地区　幼獣骨出土一覧

| 種別 | 出土地 / 部位 | Ⅲ層 右 | Ⅲ層 左 | Ⅲ層 不明 | Ⅳ層 右 | Ⅳ層 左 | Ⅳ層 不明 | 合計 右 | 合計 左 | 合計 不明 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ウシ | 中手骨 | | | | | | (1) | | | (1) |
| | 大腿骨 | | | 1 | | | | | | 1 |
| | 指骨　末節骨 | | | 1 | | | | | | 1 |
| | 合　計 | | | 2 | | | (1) | | | 3(1) |
| ウマ | 肩甲骨 | | | | | | 1 | | | 1 |
| | 足根骨　踵骨 | | | | | 1 | | | 1 | |
| | 合　計 | | | | | 1 | 1 | | 1 | 1 |
| イノシシ | 寛骨　坐骨 | | | | 1 | | | 1 | | |
| | 足根骨　踵骨 | | | | | 1 | | | 1 | |
| | 指骨　中節骨 | | | | | 1 | | | 1 | |
| | 合　計 | | | | 1 | 2 | | 1 | 2 | |
| ブタ | 上腕骨 | | | (1) | | | | | | (1) |
| | 合　計 | | | (1) | | | | | | (1) |

凡例　(　)＝うち刃物痕のあるもの

## 第41表　Ⅰ地区　歯牙出土一覧

| 種別 | 出土地 / 部位 | 表採 | Ⅱ層 | Ⅲ層 | Ⅳ層 | Ⅴ層 | 攪乱 | その他 | 不明 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ウシ | 上顎歯 | | | | | | | | | |
| | 第1前臼歯　左 | | | | | | | 1 | | 1 |
| | 第1後臼歯 | | | 1 | | | | | | 1 |
| | 第2前臼歯　右 | | | | 1 | | | | | 1 |
| | 後臼歯 | | | | 1 | | | 1 | | 2 |
| | 下顎歯 | | | | | | | | | |
| | 第1前臼歯　右 | | | | | | | 1 | | 1 |
| | 第3後臼歯 | | | 3 | | | | | | 3 |
| | 切歯 | | | | 1（老獣） | | | | | 1 |
| | 臼歯 | 1 | 1 | 13 | 1 | | 4 | | | 20 |
| | 歯 | | 8 | 7 | | 3 | 5 | | 1 | 24 |
| | 乳歯 | | | 14 | | | | | | 14 |
| | 乳歯臼歯 | | 1 | | | | | 3 | | 4 |
| | 合　計 | 1 | 10 | 38 | 3 | 3 | 9 | 6 | 1 | 72 |
| ウマ | 上顎歯 | | 1 | | | | | | | 1 |
| | 上顎歯　右 | | | 1 | | | | | | 1 |
| | 第1歯　左 | | 1 | | | | | | | 1 |
| | 第2切歯　右 | | | | 1 | | | | | 1 |
| | 切歯 | | | 1（大型） | | | | | | 1 |
| | 臼歯 | | | 2 | | | 1 | | | 3 |
| | 切歯 | | | 1 | | | | | | 1 |
| | 歯 | | 5 | 7 | 5 | | | 1 | | 18 |
| | 合　計 | 0 | 7 | 12 | 6 | 0 | 1 | 1 | 0 | 27 |
| イノシシ | 上顎歯 | | | | | | | | | |
| | PM3　右 | | | 1 | | | | | | 1 |
| | PM4　右 | | | 1 | | | | | | 1 |
| | M1　右 | | | 1 | | | | | | 1 |
| | M2　右 | | | 1 | | | | | | 1 |
| | 第1切歯　左 | | | 1 | | | | | | 1 |
| | 切歯 | | | | 2 | | | | | 2 |
| | 下顎歯 | | | | | | | | | |
| | 第1後臼歯（M1） | | | | 1 | | | | | 1 |
| | 第2後臼歯　右 | | | 1 | | | | | | 1 |
| | 第3後臼歯　左 | | | 1 | | | | | | 1 |
| | 第3後臼歯 | | | | | | | | 1 | 1 |
| | 第4小臼歯 | | | 1 | | | | | | 1 |
| | 切歯 | | 1 | 1 | | | | | | 2 |
| | 臼歯 | | | | | 1 | 1 | | | 2 |
| | 前臼歯 | | | 1 | | | | | | 1 |
| | 犬歯　（メス） | | | 2 | | | | | | 2 |
| | 歯 | | | | 8 | | | | | 8 |
| | 不明（M3か） | | | 1 | | | | | | 1 |
| | 合　計 | 0 | 1 | 13 | 11 | 1 | 1 | 0 | 1 | 28 |

## 第42表　Ⅰ地区　種別不明骨

| 部位＼出土地 | 表採 | Ⅱ層 | Ⅲ層 | Ⅳ層 | Ⅴ層 | 攪乱 | その他 | 不明 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 前頭骨 | | | 1 | | | | | | 1 |
| 後頭骨 | | | 1 | | | | | | 1 |
| 上顎骨又は下顎骨 | | | 2 | | | | | | 2 |
| 肩甲骨 | | | | | 1 | | | | 1 |
| 中足骨 | | | 1 | | | | | | 1 |
| 歯 | 1 | | 11 | | 1 | | | 1 | 14 |
| 合　計 | 1 | 0 | 16 | 0 | 2 | 0 | 0 | 1 | 20 |

## 第43表　Ⅱ-A地区　獣骨歯牙出土一覧

| 種別 | 部位＼出土地 | 表採 | Ⅱ層 | Ⅲ層 | Ⅳ層 | Ⅴ層 | 攪乱 | その他 | 不明 | 小　計 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ウシ | 肋骨 | 1 | | | | | | | | 1 | |
| | 右中手骨 | | | | | | | | 5 | 5 | |
| | 中手骨 | | 3(1) | | | | | | | 3（1） | |
| | 左大腿骨 | 1 | | | | | | | | 1 | |
| | 中手足骨 | | | | | | | 1 | | 1 | 11(1) |
| ウマ | 中手骨 | 1 | | | | | | | | 1 | |
| | 指骨（右基節骨） | | | | | | | | 1 | 1 | 2 |
| イノシシ | 頭蓋骨 | | | | | | | 2 | | 2 | |
| | 上顎骨 | | | | | | | 1 | | 1 | |
| | 下顎骨 | | | | | | | | | | |
| | 下顎体 | | | | | | | 1 | | 1 | |
| | 下顎枝（右） | | | | | | | 1 | | 1 | |
| | 下顎枝（左） | | | | | | | 1 | | 1 | |
| | 肋骨 | | | | | | | 1 | | 1 | |
| | 大腿骨 | 1 | | | | | | | | 1 | |
| | 下顎切歯 | | | | | | | 3 | | 3 | |
| | 犬歯（メス） | | | | | | | 1 | | 1 | |
| | 臼歯 | 1 | | | | | | 2 | | 3 | |
| | 第４前臼歯 | | | | | | | 1 | | 1 | |
| | 第１後臼歯 | | | | | | | 1 | | 1 | |
| | 第２後臼歯 | | | | | | | 1 | | 1 | 18 |
| ニワトリ | 脛骨 | 1 | | | | | | | | 1 | 1 |
| 不明 | 頭蓋骨片 | 1 | | | | | 1 | | | 2 | |
| | 右大腿骨(ｲﾉｼｼ,ﾌﾞﾀ) | | | | | | | 1 | | 1 | |
| | 中手足骨 | | | | | | | 2 | | 2 | |
| | 不明 | 2 | | | | | | 5 | | 7 | 12 |
| 合　計 | | 9 | 3(1) | 0 | 0 | 0 | 1 | 25 | 6 | 44(1) | 44(1) |

凡例　（ ）＝うち刃物痕のあるもの

# 第Ⅴ章　まとめ

先述までのとおり、３地区に分けた調査の結果、Ⅰ地区の旧道路下に良好な遺物包含層の堆積があり、他方Ⅱ-A、Ⅱ-B地区では地山直上に僅かな堆積が認められる程度であった。各地区の主体となる時期はⅠ地区がグスク時代～近世の時代幅が認められるのに対して、Ⅱ-A・B地区ではグスク時代に限られることが確認され、両地区では存続期間が異なるものと考えられる。さらに遺構で見るとⅠ地区は総数400基を越える柱穴群が主なものであり、Ⅱ-A・B地区では狭い範囲に展開する浅いピット列遺構や土坑が主体であった。隣接する両地域のこれらの差異について、地形上から窺えるものとしては、Ⅰ・Ⅱ地区が石灰岩盤の露頭部によって画されるという点が挙げられる。遺構の分布傾向からはこの前提に立脚した土地利用がなされたと考えられ、Ⅰ地区については居住地域、Ⅱ-A・B地区については農耕関連の遺構と目される浅いピット列遺構が検出されていることに注目して生産地域といった土地利用上の区分が可能ではないかと考えられる。

次に各時代ごとに概要を述べ、略記ながら今後の指針としたい。

**グスク時代**　Ⅰ地区では西半部に密集する柱穴群を検出しており、その中から掘立柱建物跡２棟を想定している。その他、Ⅱ-A地区のピット列遺構、土坑、Ⅱ-B地区のピット遺構、土坑、溝など当該期の遺構はすべての地区から検出されている。年代的な指標となる遺物について見れば13世紀代に溯るものは皆無に近く、14～16世紀のものが大勢を占めている。それらの内訳は青磁、白磁、青花、褐釉陶器などを主体として、天目、三彩、緑釉、高麗青磁、タイ産の壷、鉄絵、半練などがある。

**近世**　前述のとおりⅡ-A、Ⅱ-B地区では確認されていない。Ⅰ地区では平地造成跡、掘立柱建物跡３棟、礎石建ちの可能性のある建物跡、溝などが検出されており、その分布は遺跡東半部に大きく展開している状況が見られた。これは一部で切土による造成を行い、土地利用を積極的に行いつつも多分に南側と西側に石灰岩地帯が存在するという地形的制約によって生活域は東方向へ拡大するものと考えられ、東端部付近では沖縄産陶器を包含する掘立柱建物跡２棟が想定されている。本期の主体となる遺物は中国産青花や沖縄産陶器、肥前産陶磁器など17～18世紀のものである。遺構から出土する遺物は概ねこの時期のものまでで、本遺跡の終末期にあたる時期と言えそうである。以降は耕地化が進行し、屋取が点在するなど現況に近い景観となり、戦後は今調査の発端となる道路が建設されるという過程を経るものと思われる。

今回の調査では、道路改良事業に伴う発掘調査といった制約上、狭長な範囲のみの成果であり、道路境界付近で検出された遺構の性格については、その多くが十分検討されるに至っていない。本遺跡は更に北東方面へ展開することが確実視されることから、今後、それらの地域の調査を進めることが不可欠である。なお、想定される遺跡のひろがりについては、隣接地域の調査事例を紹介しておきたい。遺跡の北方約60mの地点では平成６年度に埋蔵文化財範囲確認発掘調査が行われており、15世紀以降の遺物を包含する遺物包含層及びピット遺構が検出されている。その範囲は900㎡程が推定され、層厚は最大60cm程である。

当山東原遺跡の全体像は周辺の位置的にも時期的にも近接するこれらの調査の進展に加え、浦添グスクの隣接地域には本遺跡をはじめとして浦添原遺跡、仲間後原遺跡などの各遺跡が点在しており、グスクとの関連と合わせて、今後も検討される課題である。